大正六年九月十四日 第三種郵便物認可・昭和十一年五月二十五日印刷納本・昭和十一年六月一日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

6

第十九輯第六號　昭和十一年六月一日

日本建築協會



弊社製品納入の大阪美術館

瀬川式特許スチールサヅシ
瀬川式特許スチールドアー
朝日式特許スチールシヤター
瀬川式スチールパーチシヨン
瀬川式特殊高級鋼製建具
並ブロンズドアー及メールシユート
其他一般的建築金物類

朝日建材株式會社大阪支店

大阪市東區高麗橋二丁目九番地（高麗橋野村ビル内）
電話北濱(23)㊞4714・4715・5227(3)
本社　東京市麹町區丸ノ内二丁目二番地（丸ノ内ビル内）
電話丸ノ内(23)1141・1142・1143
工場　東京市城東區北砂町三丁目一二番地
電話本所(73)2157・2158・2159
大阪支店出張所　福岡市東長洲八丁目六三番地
電話福岡７２９０番
出張所　名古屋市中區南大津町一丁目九ノ二（共濟ビル内）
電話中2776・2777
奉天市千代田通二五番地
特約店　大連市山縣通二一三　三祐公司

大阪都市計畫防火地區圖を頒布す

今回下記內務省告示に依つて大阪の防火地區が廣範圍に渉つて追加指示されましたに就いて、同防火地區圖を次の通り實費にて頒布しますから御入用の方は至急お申込下さい

大阪都市計畫防火地區圖（二萬分ノ一）1部

●實　費　15錢　（外に送料2錢）

●送金方法　振替　（振替口座大阪39975）

內務省告示

大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件

昭和十年十月二十八日附議　議事第一一九號　第六〇四

內務省告示　第百八十八號

大正十二年七月十三日內務省告示第二百二十七號大阪都市計畫防火地區追加變更ノ件昭和十一年四月四日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十一年四月二十九日ヨリ之ヲ施行ス其ノ關係圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備へ置キ縱覽ニ供ス

昭和十一年四月九日

內務大臣　潮　惠之輔

申込所　社團法人　日本建築協會

建築と社會

第19輯 第6號　昭和11年6月發行

六月號

目　次

廣田內閣と建築・住居・住宅問題……大須賀　巖（1）
大阪防火地區擴張に就き雜感……鳥井　信（7）
漸く躍進せむとする名古屋……井上新二（11）
大阪市立美術館……富士岡重一（14）
現代日本工藝の諸問題……上野伊三郎（18）
水都景觀……元良　勳（22）

●研究及調査報告●

最新塵芥處理工場に關する資料……新名種夫（30）
大阪市內工場通勤者距離表……吉田信武（50）
南海地動研究所現況報告……南海地動研究所（55）
家具標準仕樣書……建築裝飾協會（57）

●建築隨想●

日本折衷主義と我國の建築家……西山卯三（61）

●建築時報●

大阪都市計畫地域追加變更……加藤善吉（65）

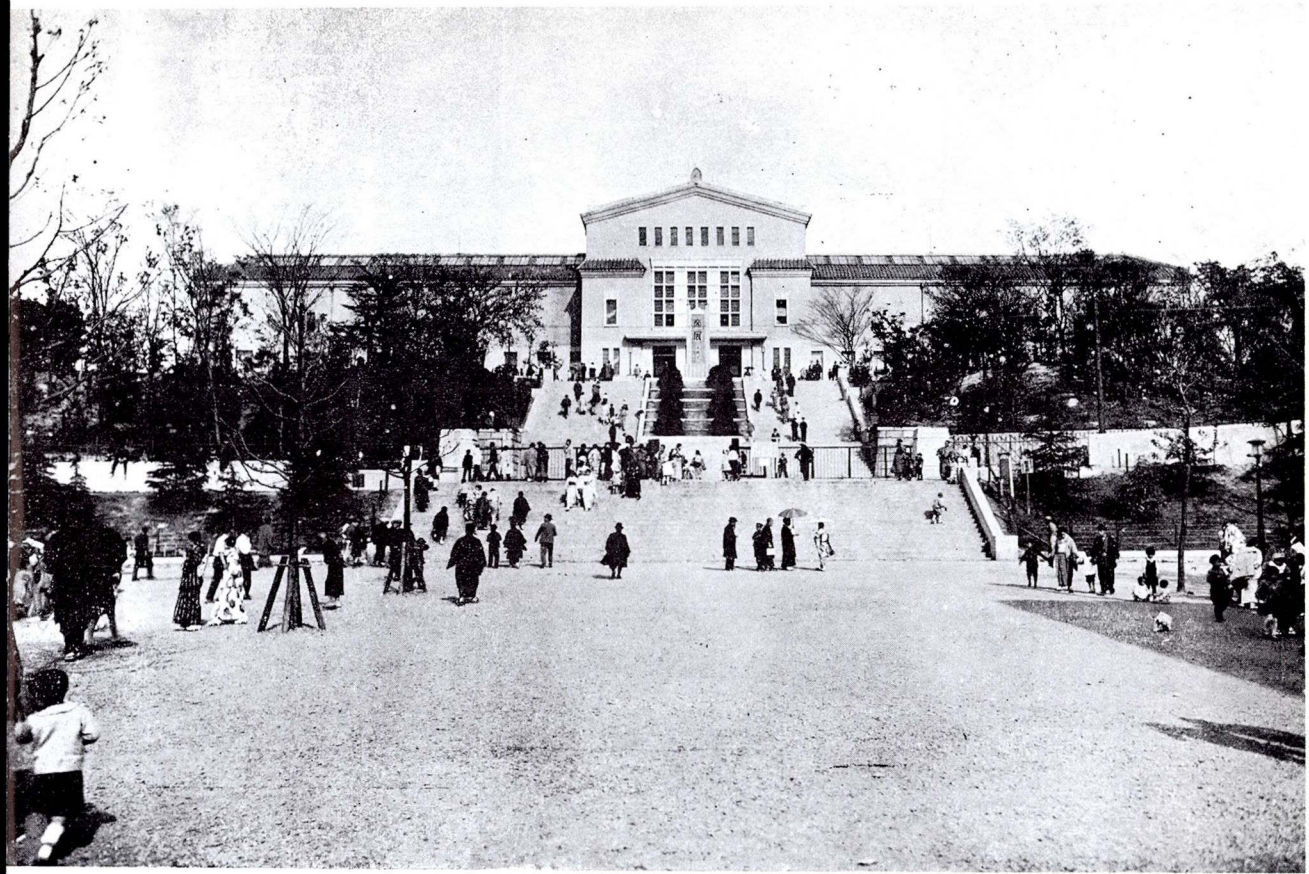
●新建築欄●

海軍兵學校教育參考館
神戶市川池小學校
神戶市志里池小學校
豐中克明第2小學校
教會附屬會館（スイス）
山小屋1等當選案（スイス）
タンネルベルグの青年宿泊所1等當選案
Helenclarkeの住宅（アメリカ）
小住宅平面計畫の1資料
日本生命神戶支店
神戶市大黑小學校
豐中克明第3小學校
Göteborg市音樂堂（スウエーデン）
ヴエネチアの旅客驛競技設計1等案（イタリー）
慰樂休養會館競技設計入選圖案（アメリカ）
ハリウツドの住宅（アメリカ）
可動性住宅としてのトレーター（アメリカ）

●都市計畫欄●

東京市の綠地計畫
ラデアンド・パレー住宅群（アメリカ）
住居群參考資料
公益事業局の廉價住宅計畫（アメリカ）
Radburn住宅群（アメリカ）

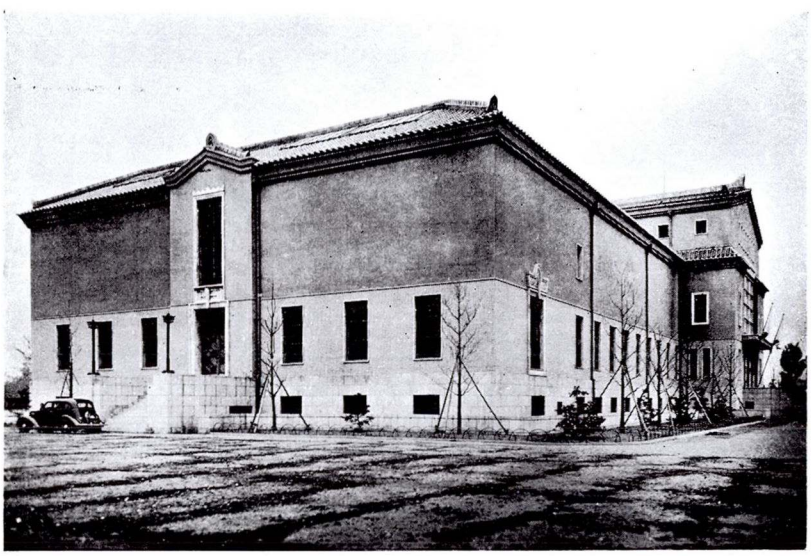
會　報……（73）



正　　面

天王寺公園より

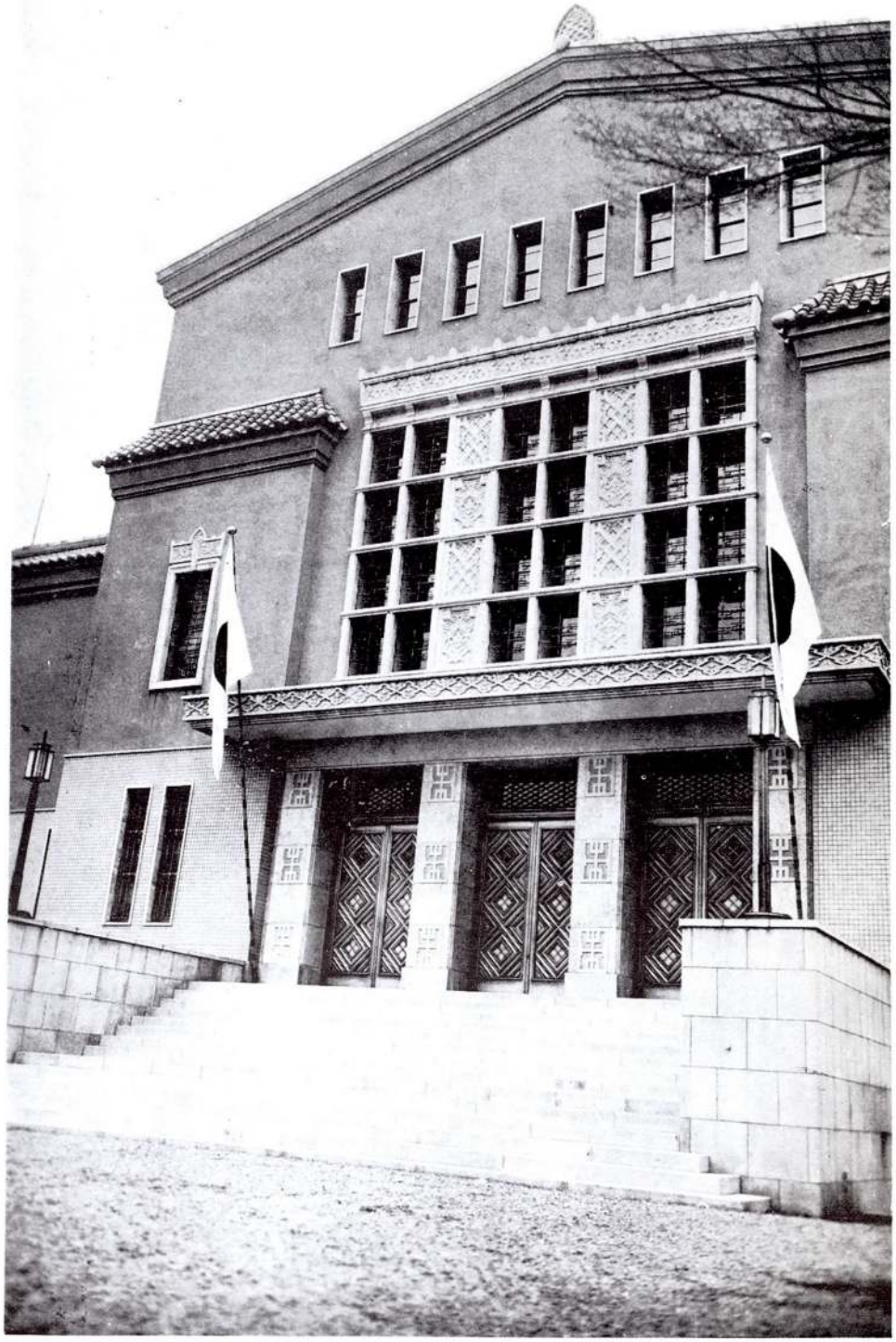
背　　面 ―― 慶澤園より



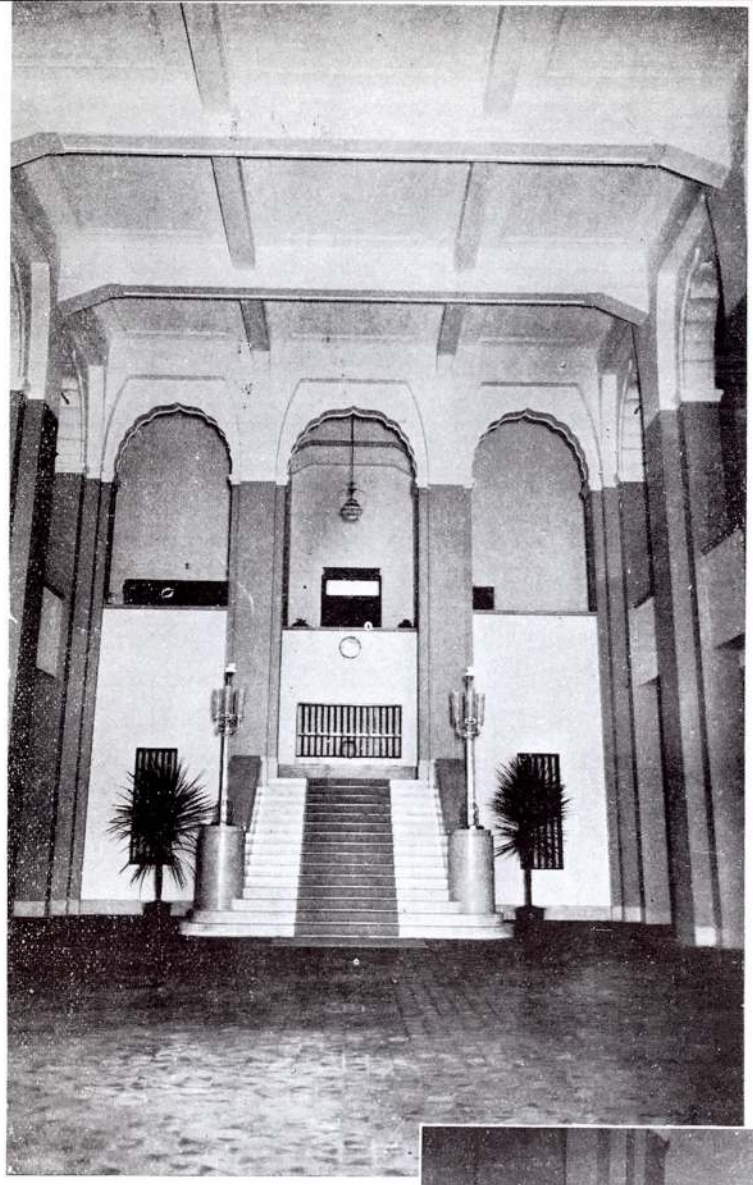
左　側　面

西　北　部

VI 2 “大阪市立美術館”　　富士岡重一氏本誌論文參照



正　面　中　央　部

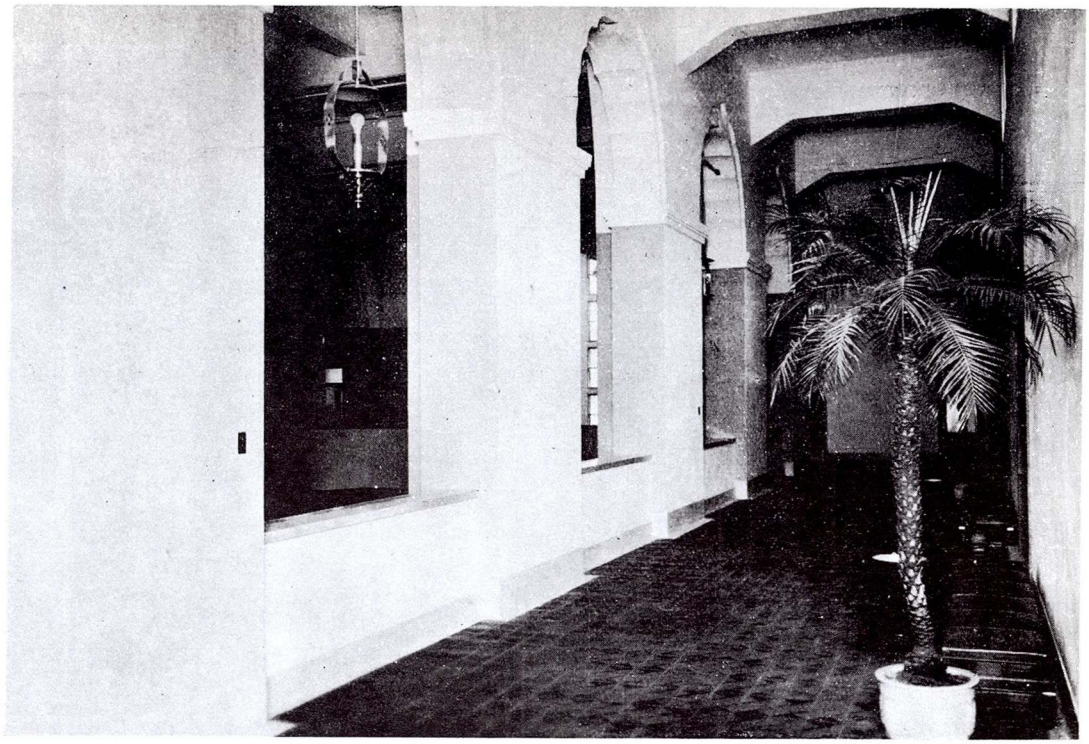


中　央　大　廣　間

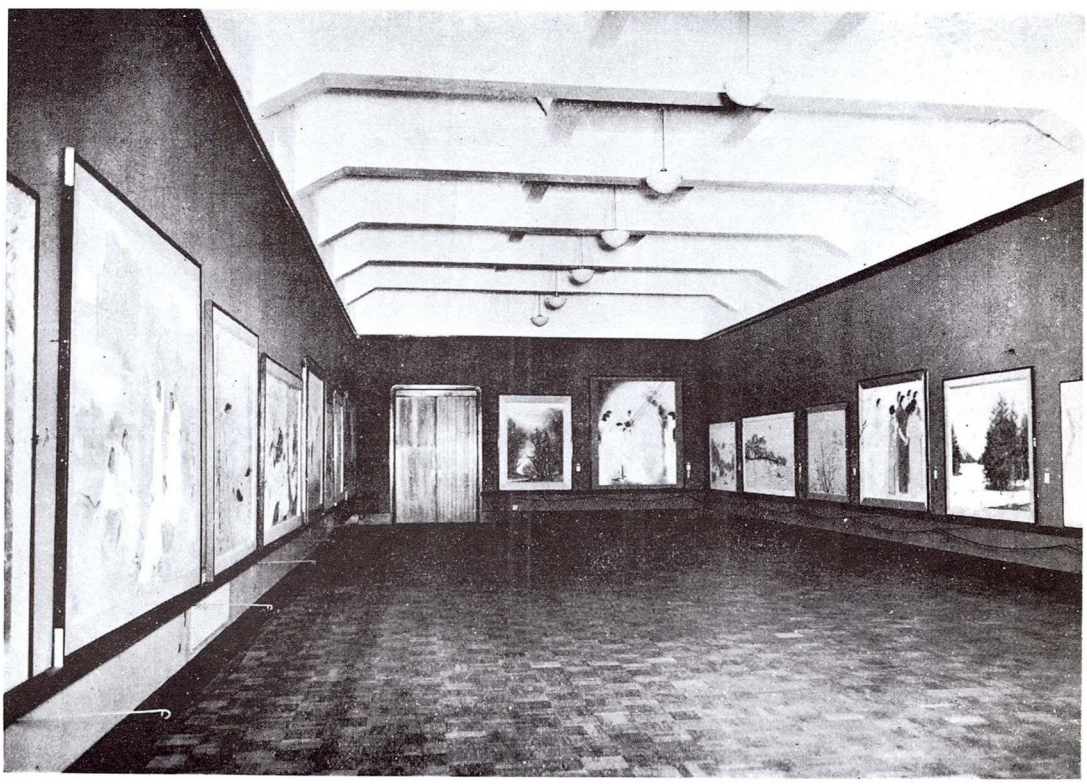


中　央　大　廣　間

正　面　階　段　部



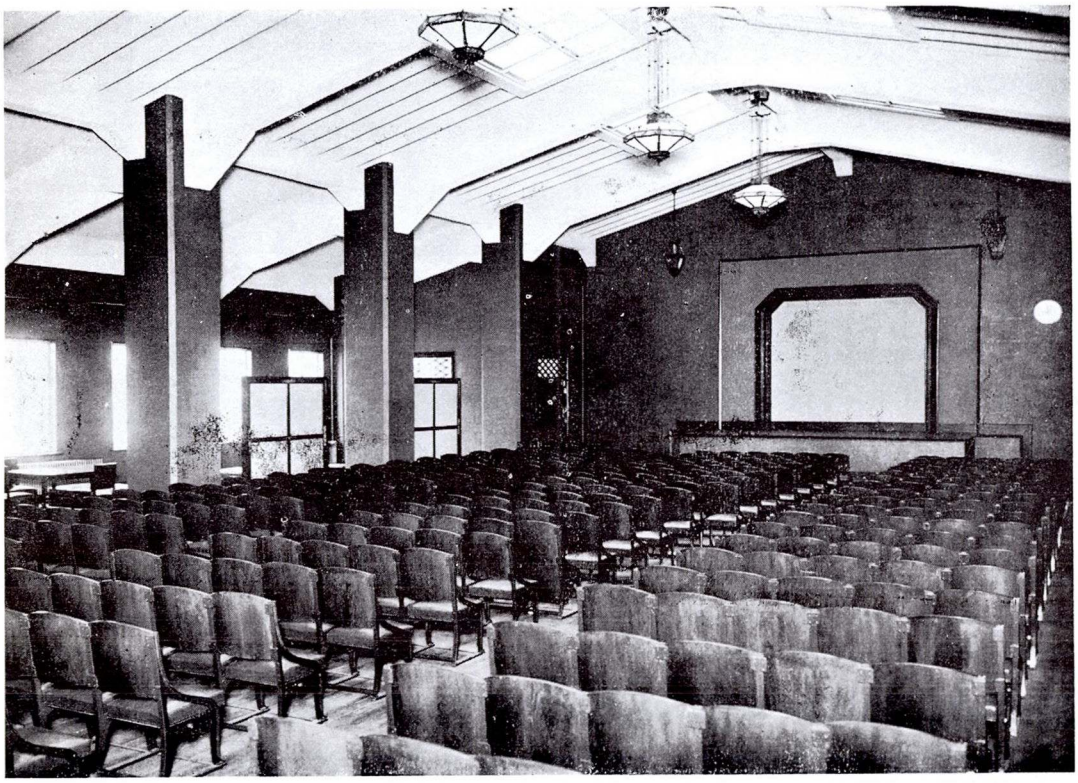
中央大廣間2階廻廊



2階第7陳列室——南方より帝展第1回展覽會

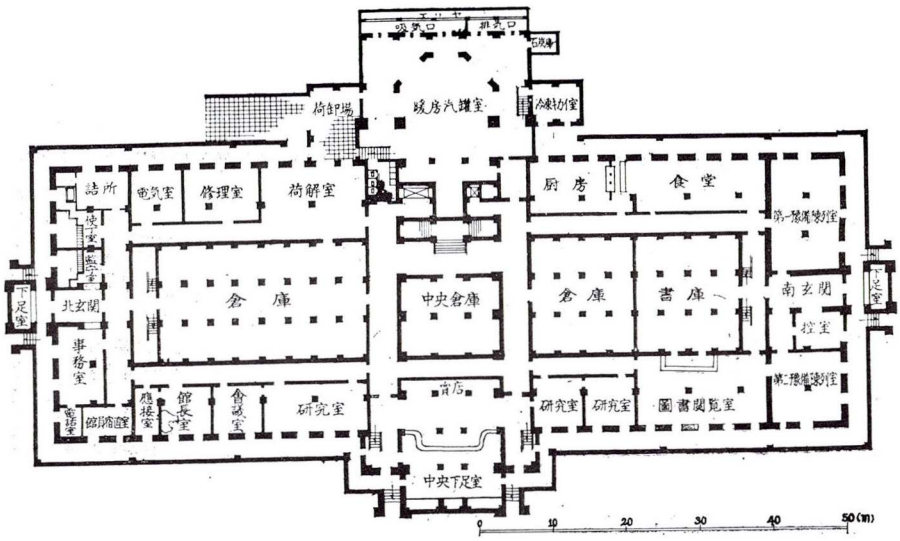


彫　刻　陳　列　室 ── 南方より帝展第1回展覽會陳列品を望む

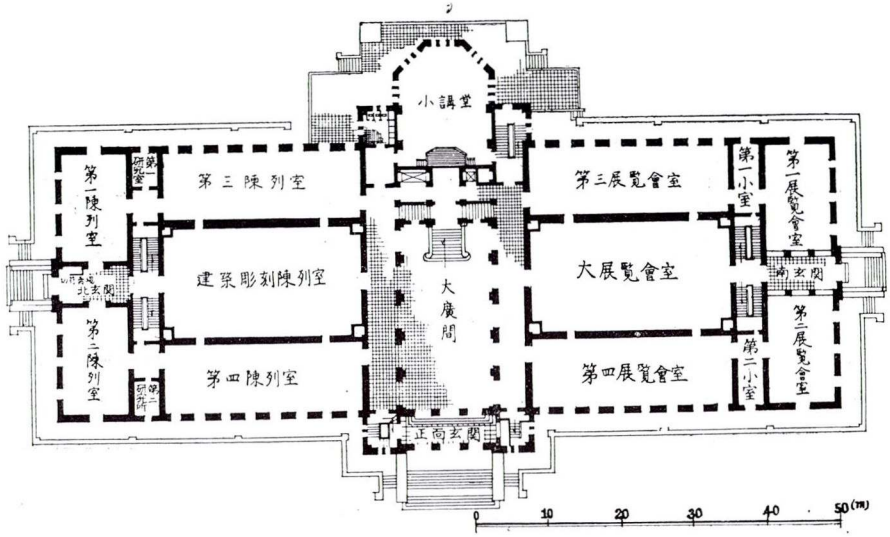


3　階　大　講　堂

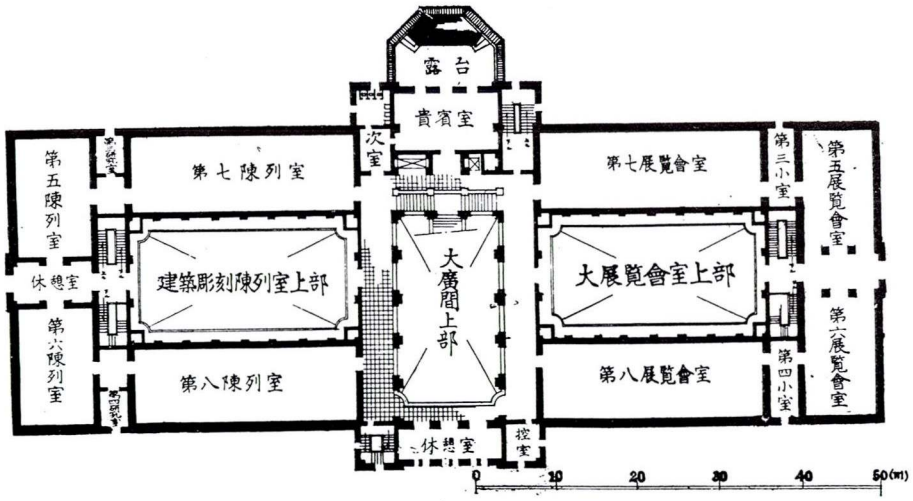
地階平面圖



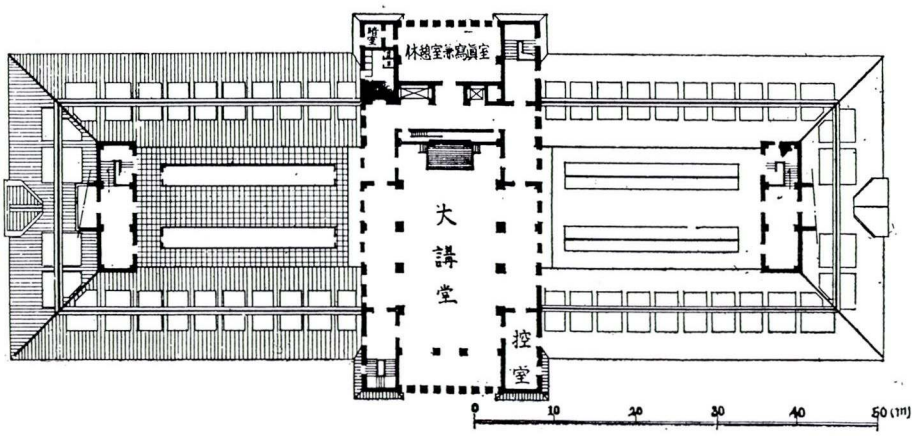
第一階平面圖



第二階平面圖



第三階平面圖



廣田內閣と建築·住居·住宅問題

大須賀巖

4月號の編輯後記に於て、編輯子は記して「この期間に起つた事件を契機として、我國は政治、經濟、教育等のあらゆる部門に渉つて急角度の變轉が豫想せられる」といふて居る。而して、2·26事件後の政治方面の出來事としては、廣田內閣の出現であつた。廣田內閣といふやうなものが、恐らくは、之が國民の人々の中で、1ヶ月前までに、これを想像したものが多數あつたとは思はれぬ。廣田氏が外相に就任された時に後に於て、可なり國民的信望を得て居つたやうであつたが、これが今日斯くも早期に、首相の印綬を帶び、その下に內閣が組織せらるゝとは何人も期待して居らなかつたであらうし、廣田氏とても、思はなかつたであらうと想像される。すなはち、廣田內閣出現といふことは自他共に意外なことであつたが爲めに、廣田內閣の發生理由とその存在理由といふ如き題目のものが、あの時以來、流行新聞、流行雜誌の記事として、相當の賑はひを見せた。しかし、この內閣の出來たことは、それが出來る筋合の過程を經て、所謂行くべきところに行きついたのであり、その由つて來るところと將に來らんとする時間の中間に、幾何の存在（長いか、短いか）であるかは、政治家或は政治評論家の任務とするところであつて、わたくし共はただ、その由つて來るところを孰へ赴くべき趨勢を洞察して、日本國民の生活殊に建築、住宅、住居問題について考へればよい。

長谷川如是閑氏の如き偉大なるヂヤーナリストは廣田內閣の發生理由としての第1として、日本在來の政黨が「政治內容の建設者たるよりはその力のメカニズムの技師になつてしまつた」ので「政治內容の不理解者となり」「單なる多數として不合理的な威力を發揮するに過ぎない」ものとなつたことを示摘して居る。これは政治的に說明したのであるが今日の政治は社會、經濟を遊離して存することが出來ない。政治的のこの說明は社會的にも經濟的にも、またそうした說明が爲されねばならぬ。廣田內閣を發生せしむるに至つたわが國の社會、經濟事情は何であつたか、これを建築の視野から眺むれば、5月號に大倉京大營繕課長の論文にいふ如く、歐米の模倣から自主獨立の國家觀念を確定して、國粹日本が認識せられやうとして、歐米文化に取材した「合理的科學的明朗を基調とする近代的形式」と日本の傳統的形式より取材した「美的感覺の再現を基調とする形式」とが、或は交流し或は對峙して新時代の建築を生み出そうとする努力に呻吟しつゝあるものであるといひ得やう。何にせよ、明治維新といふ大革進は、不世出の聖天子の御稜威の下に、政治的改變が行はれると同時に、社會的變革は、已に政治的改變前に於て實質的に實勢力を示

しつゝあつた支配勢力は、社會機構の上にも表面化して、封建的な支配階級は新時代への實力あるものゝ外は、急轉直下して沒落してしまつた。當時の事情を描寫する「ザン切りもの」芝居の喜悲劇は、その頃のわが日本の光景を如實に物語つたものであつた。またその頃の文學としても、硯友社のある人々はこれを題材として、貧乏華族と色々な階級との結婚問題をテーマに取扱つて、亡び行く舊支配階級への同情と弔鐘が明ら様に實寫されたのである。がいづれの時の社會改革に於てもそうである如くに、苟くも人間同志の事である以上は、一方の勝利者が他方の敗亡者を一人殘らず滅ぼすことが出來るものでない。改革後の社會が安定するには、舊社會の支配者の或者と新社會への支配者として上つて來たものとの妥當がされねばならぬ。舊華族の利口な人々と新興勢力の權力者と資本家との合同は、日本の資本主義的な經濟組織を確立せしめ、歐米文化の急激なる攝取と共に、歐米先進國に見る如き大資本主義の商工業の繁盛とその缺陷とを、社會組織の上に表はすに至つた。日清、日露の二大戰役はこれを躍進せしめた二大劃期であつたといひ得やう。これを日本建築の歩むだあとについて考ふれば、西洋人の手によつて爲された純西洋式建築時代から、日本人の手による模倣的時代へ入つて、更らに歐洲大戰と關東大震災が一大動機として、まじり氣のない日本人獨特の日本建築が反省せらるゝこととなつたことは、それ等の時代の社會的經濟的狀勢と全く歩調を一にして居る。勿論、今日の民族的、國粹的主張が高調せらるゝ直前の或時期に於ては、文化生活、科學主義、デモクラシーから、次で騒々しい赤音までが高唱されたのであるが、この事は建築の上にも明らかに反映された。當時の阪神間の文化住宅地域では、二言目には、「アチラではアチラでは」といはなくては夜も日も明けぬ文化奥様がアメリカ直輸の文化建築と文化にただただ、純粹西洋人らしく生活するを誇りとしたことは、今尚世人の記憶に存するところである。が、何といつても明治維新以來の大勢は、泰西文化の輸入と崇拜から、日本文化の再認識へと歩むで來たことが、滿洲事變以來5・15事變から今回の2・26事變へと民族的國粹的傾向が急角度に高揚されて「目的の爲めには手段を擇ばず」的な脫線をも敢てするに至つた。この時廣田内閣は出現したのである。

廣田内閣の政綱は、他のこれまでの内閣の爲した先例によつて、抽象的なものであつて、國民生活に必然的な建築、住宅、住居問題については何も觸るゝところのものがなかつた。經濟は、國民生活と離るべからざるものであるにも拘らず、馬場藏相はその財政聲明に於て、二度の聲明やり直しまでしたにも拘らず、矢張り金融の外には觸るゝものがなかつた依つて、これ等の大政治家からは直接これを聞くことを得ないのであるが、群盲の象を撫する心持で、一般的な前後の情勢から推すと、わが國の建築、住宅、住居は民族的國粹的の再認識が爲さるべきであらうと思ふ。政治的又は、廣田内閣が恐ろしい短命内閣として終焉することがあつたとしても、而してこれに代はる後繼内閣が出來るとしても、それ等にはお構なしにわが國の建築、住宅、住居はズンズン此方向へ進んでやまぬであらう。滿

洲とわが國との一體の政策が國是として、所謂大陸主義の表象として今後發展するとしても、滿洲の建築、住宅、住居はわが國の建築であらねばならぬことはいふまでもない。南太平洋が同じく、わが國の生命線として、今後に發展することは、永田拓相の說明を待つまでもないことであつて、これまた、わが國の建築、住居、住宅でなければならぬ。

滿洲は、埃及から出た種族が裏海から蒙古へ而して西比利亞から亞米利加大陸へ入つたその大きな流れの一民族の一つであることは、人類學者の略々認むるところであり、埃及から出て南方へ移動した種類のうち、印度洋を東に今日いふ南洋を經て東亞細亞からわが國に入つたものがあるといふ說もまた、人類學者の否定せざるところのものである。すなはち、わが日本の文化は、古代よりこの方大陸からも南太平洋からも大なる影響をうけつゝ育成されたものであり、將來もそうした環境の下にあることは、歷史的事實を離れてもこれを認めざるを得ない地勢に位置するものであつて、日本民族の宿命的なものであるといふべきである。已に維新以來の歩き來つた道が上述の如くであり、最近としても、極端なる西洋文化と國粹主義とが急テンポに高揚され揚棄されたその事が、わが國の將來の見透かしを見せたといふてよからう。

國體明徵といふことが、或る一部の者によつて、議會の修正、國防充實等の政治的要求の標語に過ぎないものである如くに考へさせられ、その影響するところ建築、住居、住宅についても、大倉氏のいはるゝ片輪式偏狹が今日に於ては無いとはいひ難いのであるが、これを明治維新當時について考へて見れば、明白に事情が了解される氣持がする。すなはち、國體明徵が今日の日本國民として唯一人これを否むもの疑ふものがない如くに、當時として、尊皇については水戶の大日本史學派のみが認めたのではない。それが攘夷と結びついて、烏帽子直垂の古典派が時を得顏に濶歩したのであるが、尊皇攘夷は政治的標語であつたのであるからして、討幕の目的が貫徹さるれば、打棄つることの出來ない尊皇はそのまゝにして攘夷はいつしか開化と變化してしまつた。洋式の洋服を着洋館で舞踏するの嫌いな烏帽子直垂連は、擾亂の巷に死ぬるか山間の社殿へ隱れるより外に仕方のなかつたことは、島崎藤村氏の「夜明け前」がこの間の事情を克明に語つて居る。斯の如く、政治的標語は時に順つて變ずるが、國民生活に即する政治內容は定まつた方向へと進んで息まぬのである。今日以後のわが國の建築、住宅、住居は、已にその嚮ふところが定まつたのである。若し疑ひ迷ふものがあれば、エイスキリストはこれ等のものに對つていふであらう「何處へ行かんとする!?」と。

鐵筋コンクリートは、大倉もいふやうに最早外國のものでない。佛蘭西の植木鉢にその硬度が試驗されて、サンフランシスコの震災は耐火耐震の小實驗を爲したとはいへ、わが國は關東大震災及びその他に於て大なる實驗と研究を遂げて、新興日本の建築としてこれを大成して居る。鐵筋コンクリートは世界的であると同時にわが日本の建築でもあるのである。

○

廣田内閣の使命として、統制經濟が課せられてるやうに人はいふ。馬場財政は先づ低金利政策によつて、これを實現化せんとするものであるとも傳へられるのであるが、この事はわが國の建築、住居、住宅の問題と關聯しても重要事でなければならぬ。わが國の維新以來の文物制度が、西洋の文化を急速に取入れることによつて、今や新たなる固有文化を創造せんとしつゝあることは、前節縷述する如くであるが、元來、わが國の取り入れた西洋文化はその根源をフランス革命に有し、從つてフランス革命の自由、平等、博愛の思想は自らに、わが國の文化のうちに受け入れなければならなかつたことはいふまでもない。その結果として、わが國の文化は、從來の封建制度下に培はれた孤獨性、すなはち、己れの家を城廓と見て門を出づれば七人の敵ありと思へといふ如き、私生活としては己れ以外には心を許さぬ非社會性の生活を營みつゝ、他方忠義の爲めには身をも家をも顧みぬ大犧牲大奉仕の無私の生活とか、對蹠的な二生活を一元化した武士の生活としてその内藏するところの隣人を敵と見る生活をその住宅、住居、建築にこれを示し來つた。然るに、維新後の資本主義經濟の發展が、自由をその信條として發達したことは、唯物的に而して自由に、公共の生活に於てすら遠慮なくその私心、私慾は發揮されて、大がゝりに選擧肅正をやらなければならぬ程な、無節制な社會事情と爲つて、生產過剩と富の偏在による融通の梗塞は、國家をして各方面を統制するの餘儀なきに至らしめた。建築、住居、住宅について見るもこれが例外たり得ないことはいふまでもない。第1建築家の業務についてが、その事を痛感させられるものがある。根切蟲の生活のやうな鬪爭的な非社會性は、一つの社會不安或は生活不安さへもこれによつて釀成されて居つたと考へられる。レーモント、アンキン先生の英國建築協會々頭就任の挨拶にいふ「建築家の視野の一劃地以外に出でぬこと」は、わが國でもこれを認め得るではないか。次で、建築、住居、住宅に關しては、さゝやかながらも門を構へ玄關を設けなければ承知出來ぬ生活は、必要以上に、わが國民の實生活の上に見らるゝところである。その他、建築材料にしてが、規格の統一は已にその必要が認められ識者によつて實行されるところである。

今後の建築、住居、住宅方面の赴くところのものとしては、素よりその創造的な各人の自由は、これを尊重すべきであることは勿論であるが、社會的統制より見てそれら合理的であるか否かによつてのみ、これを認むべきであると考へられる。而して、それが社會的に認められゝとして、わが國の建築家の前に置かるゝ問題は、スタハーノフ運動の檢討があるとも考へられる。由來、統制されたる社會の缺陷として擧げらるゝものは、各員の不勉强不熱心といふことである。若し國家がすべての產業を統制したとあれば、統制下の國家の役員及び國民は、働いても働かなくつても同じ事であるから、いづれも勉强するもの熱心なるものが無くなるであらうといふ事が、自由主義の論者によつて指摘された。スタハーノフはロシアの共產制下にあつて、統領スターリンがその制度の誇りとして稱揚する

ところのものであつて、その名の一炭坑々夫が昨年夏從來の記錄の2倍を採掘し通常生產基準6噸を超過すること20倍の能率をあげたことから、60倍の新記錄が作られ、その他の方面に於ても、これに刺戟せられて、隨所飛躍的に能率があがり、所謂スハーノフ運動として全ソヴエート產業の全面に漲つて居ると報じられてるのであるが、これは見樣によつては、統制下にあつてこそかゝる能率をあげ得るといふよりも、統制下のかかる自由主義的な生產力は、畢竟、一面に生產過剩或は一部の失業者を多からしむることと爲らう。米國大統領がその國の生產過剩に對する制限を爲したことを思ふとき、建築事務所の封建的な割據と他を顧みぬ自由職業的な造り方とは、今後に於て省みる必要のあることではないか。語を換へていふならば、わが國の維新以來發達した「身分から契約」の生活原理は、その如何にも鬪爭的な市民生活を改めて、身分的な生活を人間の基本的な第1次の生活と考へ、人間の第1次的基本的生活から遊離した營利的な生活を、建築家も人である以上、排するやうに力むべきではないか。建築、住居、住宅にしても、この社會性に順應すべきであると思ふ。わたくしは、先年本誌上に農民住宅の創造的改良を提唱した。而してその後及び今日に於て、この方面の尊い研究の發表が、斯界の文獻の上にあらはれるもの多くなつたことを喜びとするのであるが、わたくしは、今日の憂ひとして、前內閣の時代に起つた偏農主義が反動として都市文化をネグレクトせんとしたことである。何事によらず、反動といふことは無價値である。例のウエブ夫妻が、その著ソヴエート、コムミニズムに「利潤の撤廢、社會的消費のための生產企畫、社會の平等と普遍主義、新代表制、指導の職能、科學の崇拜」を、彼等の名づくる「新文明」として算へてるのであるが、これに「反動主義」を加へるによつて、彼等は果して褒めてるのか貶してるのか、疑はざるを得ないことと爲る。これも前內閣のしかも、終期に唱へられた「農村と都市の調整」は、廣田內閣に於ても繼承してる如くであるが、要するに目的論的なものであるに過ぎぬであらう。然るにわが國の建築家にとつては、この問題は宿命的なものであつて、現代はわが國建築家の頭と手によつて作らるゝ農村及び都市の設計、造營は、今後の日本國民の生活の上に、幾多の內閣を超越して存在すべきものである。いふまでもなく、建築の如き藝術的なものは、權威と常識と共に常住するものとは限らない。而して政治の如く、貧困なる指導精神を以てしては、容易に動さるゝものでない。國民生活として、事務的な方面を受け持つ都市生活の建築と、安息地帶としての農村建築とが、いづれも偏色されることなく、建築の技師によつて、大小上下の區別を附せられること無く、各々の特異性を發揮して形成さるゝことが、新興日本の姿であるであらう。同時に大都會の建築のみが、建築家の對象とされて、中小都市のそれがネグレクトされることがあつては、これまた、日本の文化を跛行せしむるものである。いづれの方面にしてからが、すべての建築部門に對してこれを尊重し全力を入れることが、わが國民の生活を眞に國粹的に民族的にあらしむる爲めにわが國建築家に負はされたる大責任であるであらう。大都市の場末の一部を切つて持つて

行つたやうな、今日のわが國中小都市の建築現狀ば果して誰れの責任であるであらうか。ジードルングの完成に前途遙かなる郊外地、曾ての物價高の折の市營貸家は、建築がその國民の品位と氣宇とを代表するとすれば、わが國は世界の一等國ではあり得ない樣な氣がする。これ、建築家の罪か、政治家の罪か、恐らくは、建築が他と孤立的に離れ離れに有つて、協力せないことの罪でなからうか。產業の再計畫は同じく、建築の再計畫でもあると思ふ。

次回のオリンピック競技が、わが國に開催せられる可能性について新聞紙は盛んに報ずるのであるが、わが國建築家諸君の手に成る、わが國都市計畫案こそ精華をこの機會に誇るべく、果して用意されてあるか否か、平生文相はこの事について紳書して居るかどうかクロマトグラフイを以て單なる美學者の領域と爲し、建築家も都市計畫家もこれを顧みず或はこれを顧みるとしても、政治家民衆はこれを顧みるものでないと考へる如きは、正に外道の考といふべきである。

本號執筆者紹介

（五十音順）

井上新二	地方技師　建築監督官、愛知縣建築課長
上野伊三郎	群馬縣工藝指導所長
大須賀巖	東京市政調査會囑託
加藤善吉	都市計畫大阪地方委員會
新名種夫	大阪市技師、營繕課設計係長、本協會常務
鳥井信	地方技師　都市計畫大阪地方委員會
西山卯三	京都帝國大學院學生
富士岡重一	大阪市技師　經理部營繕課長
元良勳	大阪市技師　土木部河川橋係
吉田信武	都市計畫大阪地方委員會

6 月 號

大阪防火地區擴張に就き雜感

鳥井信

大阪防火地區は遂に擴張せられた。第一次の指定後實に十四年目である。其長い間我が建築協會は防火地區の擴張並に都市の防火、防空建築物の普及促進運動に邁進し、年中行事として新聞、雜誌、或は講演會により、又當局に是を建議し、以て世論の喚起を促し、殊に三年來都市武裝促進委員會を特設し、實に涙ぐましき運動を繼續したのである、それが効果としては今次の擴張は不充分な誠に物足らぬものであるが、理想に近づく第一階梯として、玆に多年に亘る本協會の努力を犒はねばならぬ。

この都市武裝促進運動は我等建築家の社會指導の重大な使命であり又責務であるから、我々は今回の一部成功に力を得今後一層聲を高らかに其運動に邁進せなければならぬ。筆者は本協會の一員として都市武裝促進運動と云ふ緊急重大なる事業に携はり、又防火地區擴張案の作製と案の通過交涉の任に當つた一員として、當路並にその傍側の人々が防火、防空建築物の普及に對する考察を感得した點を玆に述べて、此種運動の將來の指向方進の參考ともしたいと思ふ。

現時は誠に世論政治であつて、聲なき所政治がないと云つてもよい。世に泣く兒には勝てぬ例への如く緊急切實なる要求こそ耳を傾けしめ、爲政者も亦短日月に効驗の顯はれる救濟の仕事は好んで努力を惜しまないが、如何に緊急切實なりとは云へ數十年後始めてその効驗を發揮するが如き、遠大なる防火地區施設の如きは極めて强力なる世論のなき限り、頬被りで任期中無事通過せんとするは世の常である。然るに世論を喚起すべきものは、今の處都市人にないと云へよう。近き將來に於て都市中心部に或る程度の耐火建築物の充實せば、夫等建築物所有者より附近に存在する木造建築物の災禍による脅威を訴へ、都心部に於ける木造建築物の轉去、防火地區の擴大强化を高唱する或る時機に到來するものと考へらるゝが、現時に於ては市聲を代表すべき市會方面に於ても、防火地區內耐火建築補助金の交附でもない限りは之を高唱するものは殆んどないと云つてよい。然し最近二年間に市會、府會、議會の夫々の議員を通じ、防火地區の擴大强化、同地區內耐火建築物補助金の交附、防火防空建築物の普及促進に關する建議書を作製し、夫々建議したるに何れも三四十名の贊成者を得建議は成立した。此等建議の成立の上は當局者は近き將來之の對策案を樹立し實行にかゝるべき輕き責任を負荷せられるのであるから、市長、知事並に關係大臣に建議するの外、此方面への建議を提出するは相當有効なるが如く感ぜられた。

防火地區に對しては防火地區を指定しても一向耐火建築物が建設せられぬではないか、

放置して置いても耐火建築物を建てる人は建てると云ふ自由主義と云ふか、或は消極的の職務安泰主義の慫くべき論者があることである。成る程、大阪甲種防火地區の實情では、既往十三年間に於て耐火構造建築物數は指定前存在せる百棟を加へ二百八十棟にして地區面積の約三分の一を完成したるに過ぎない、實に遅々たるものであるが建築物が十年十五年にして、容易に建て變はると考へらるべきものでなく、さればと云つて都心部に今後木造建築物を建てゝよいと云ふ議論にはならぬ。防火地區の完成を促進するには地區の指定と別個に耐火建築物補助金の交附により奬勵するより外に策はないのである。此種の說は一顧に價しない愚論に過ぎないが、一方には今猶耐火構造建築物は極めて高價であると先入主的に考へ、又耐火構造建築物を建築せんにも道路擴張により不整形の狹少なる土地が殘存し、更に附近土地の購入交涉も困難な狀態であるから、先づ道路附近地の區劃整理完成の上防火地區指定をなすべしとする說は、一應我々の傾聽するに足る論議と考へる。顧みるに我々は徒らに耐火構造物の奬勵をなすと雖も、耐火構造建築物の安價に建築せられ、更に維持修繕費、保險料、耐久力等を考慮し、木造物建築物に比し反つて經濟的なることを、建築實物に就き數字的說明を加へ、一般人に周知せしむる方法に缺けて居た樣に思ふ。又道路擴張の爲め切り殘こされたる不整形の狹少なる土地は、近頃超過收用し後方の土地所有者に賣るようにしては居るが、何れにしても市內の土地は狹少なる面積に所有權が分割され相當面積の建築敷地を得ることは容易のことではない、故に今後は是等多數の所有權者を糾合して相當規模の共同的耐火構造建物を奬勵するより外にないのである。大阪に於ては一棟の長屋を境壁を以て所有權を分割する建物は往々聞くが、耐火構造建築物を水平的に又各室ことに所有權を異にする方法の建築物を未だ聞かないのである、今後耐火建築物の奬勵にあたりては共同建築物の所有權の限界、並びに計畫案を作製し、一般人に周知せしむるのは大切なる事と思ふ。

本協會又は土木、建築の請負團體よりなす此種運動の陳情、建議を以て、單なる職業上の宣傳と同一視する人々のある事である、成る程、市會、商工會議所、町內會の如き團體より此種の叫びを擧ぐれば一層眞の要求であると考へられるかも知れぬが、國防の事は陸海軍、衞生の事項は醫者が率先して指導するより外はない。だから我々は今後ともかゝる愚論に惑ふことなく一層聲を大にして、防火地區の擴大强化、防火、防空建築物の普及促進運動に邁進し、本協會の社會的使命を全うしなければならぬと思ふ。

今次の防火地區擴張に關しては本誌前號に於て加藤君より取敢へず報導せられてあるが、地區撰定の理由並に既往の防火地區と異なれる數點を述べて見ようと思ふ。

防火地區の指定は圖面標示によれること。

地番指定は往々地番の變更により、又路線名の變更により不便を生ずる故、圖面指定法によつたのである。

乙種防火地區を全部甲種防火地區に變更し、更に乙種防火地區を指定せざりしこと。

乙種防火構造の建築物に就きては經濟上又防火上度々論議せられたが、一面實情を見るに大阪の乙種防火地區内に於て、既往十三年間に建築せられた百棟中四分の一は甲種防火構造の建築物として、向後益々甲種防火構造の建築せられんとする傾向なれば、乙種防火地區を廢止し總て甲種防火地區に指定したのである。

集團的路線式防火地區を採用せること。

路線式甲種防火地區は函館の大火の實蹟に徴し猶ほ完璧を期し難いと考ふるを以て、都市の重要なる地區には、相當幅員を有する集團的の路線式防火地區の採用を試みたのである。大阪に於ては强力なる西風に對し、南北に亘る三條、即ち西横堀線、西横堀川に挟まる地區、廣路、心齋橋筋に挟まるゝ地區、東横堀川、天神橋筋に挟まる地區、河川の幅員と共に一町半乃至三町の幅員の集團的路線式防火地區を以て劃し、都心地船場の大集團と連系を保ちて都心部の防火に完璧を期せんとし、是等を中心として縦横に走る主要幹線の兩側及都市周圍部に走る放射、環狀の高架線下を防火地區に指定して、都市を數區劃に細分し火災の延燒防止に供へんことを期せり。又歡樂地は火災發生度も多く火災保險會社にても危險視する所であるから新世界、道頓堀一帶は集團的防火地區に指定し、松島は周圍に河川を繞らす地帶なれば路線式とし防火に供へたり。

避難場所の考察。

避難場所として都心部に於ては船場、及中ノ島の防火地區完成の曉は相當効果を發揮すべきも、今の處比較的安全地と見るべきは都心部に近き處は、城東練兵場、天王寺公園、中央市場、新淀川附近にて其他郊外の空地より外なく、是等に通ずる放射路線の兩側の防火地區に就きては相當の考慮を拂ひたり。避難に關し尤も攻究を要するは港區である、港區は人口卅三萬餘を擁し、木津川、尻無川、安治川及海に圍まれたる島であつて、河川交通を重要視して尻無川には架橋なく、安治川には源兵衞渡しに隧道を以て西九條に連絡せんとする一道計畫あるのみにて、東方は數橋を以て西區に連絡する地帶なれば、大火に見舞はれた際避難者は九條方面に殺到し渡橋附近の混雜は名狀すべからざるものと考へらるるを以て、木津川西岸には集團又は路線式防火地區に指定し災害に供へたるも、負擔力の乏しき所なれば猶ほ完璧を期し難きを以て、次期の擴張には防火地區建築補助金の交附も考慮し充分の指定をなしたいと思ふ。

高架線下を防火地區に指定したること。

鐵道—東海道線、城東線、電車—阪急、新京阪、阪和等の諸線は高架複線にて相當の幅員を有し、又高さ三四間の所ありて一帶の防火壁をなすを以て、高二間以上の所には防火地區を指定し、高架下を建築物として工作使用するときは、外壁其他を甲種防火構造となさしめ、効果的の防火壁たらしめんとせり。

路線式防火地區は成るべく完成したる路線を撰定したること。

初期防火地區指定當時は都市計畫道路案すら完成せず、完成道路は數線に過ぎざる狀態

にて、將來擴張すべき道路に防火地區を指定するは、道路擴築上不便を生ずべきを慮れ指定を極めて少範圍に止め、今次指定にも同樣なる考慮を加へたるも、猶ほ重要なる幹線上町線其他數線は未完成線に指定したり。

今次の防火地區擴張には、多年に亘る耐火構造建築物の價格低下による一般普及が、重要なる因をなした事は爭はれぬが、本協會の防火地區擴張並に都市の防火、防空建築物の普及促進運動、殊に函館大火、陸軍防空演習の好時機に有効適切なる都市武裝促進運動を起し、社會に呼び掛けた事は擴張案の通過に重大なる影響を齎したのである。此運動を向後一層强調繼續するときは五年以內に更に地區面積を倍加し得べく、將來我が協會の主張たる都市武裝の實現も近きにありと考へらる。

擴張後の6大都市防火地區比較表

都市名	地區ノ種別	面積（ヘクタール）	路線延長（メートル）	施行年月日	都市計畫區域面積	百分比
東京	甲種集團	三八〇、八二	—	大正一四、四、三	ヘクタール 55891.7	1.04
	甲種路線式	一四三、四七	—			
	乙種集團	二〇、四九	—			
	乙種路線式	四〇、六六	—			
	合計	五五五、四四	—			
京都	甲種集團	一三、九一	五、九一八	大正一二、三、一	ヘクタール 32251.82	0.04
	甲種路線式	一、四一〇、七九	六三六			
	乙種集團					
	乙種路線式					
	合計	一五、一一	六、五五四			
大阪	甲種集團	三〇〇、〇〇	六九、五〇〇	大正一三、一〇、一 昭和二、四、二九（追加）	ヘクタール 22764.40	1.83
	甲種路線式	一二六、四〇〇	—			
	乙種集團					
	乙種路線式					
	合計	四一六、〇〇	六九、五〇〇			
	高架下（甲種）	一三、〇〇	一四、三九			
横濱	甲種集團	四五、六二	—	大正一四、九、一	ヘクタール 14130.20	0.44
	甲種路線式	六、八五	—			
	乙種集團					
	乙種路線式					
	合計	六三、四七	—			
神戸	甲種集團	一〇、〇二	一五、三七	大正一三、二、一一 大正一二、一、一四（追加）	ヘクタール 13283.40	0.88
	甲種路線式	一六、八七	—			
	乙種集團					
	乙種路線式	九、三九	七一、五三			
	合計	一一六、〇〇	八七、五〇九			
	高架下（甲種）	一四、二八	七、九三			
名古屋	甲種集團	一六、九三	七、八五四	大正一三、七、一 大正一三、二、一五（追加）	ヘクタール 16109.12	0.17
	甲種路線式	二、六六	—			
	乙種集團					
	乙種路線式		五、三五四			
	合計	一八、六一	一三、二〇八			

漸く躍進せむとする名古屋

井上新二

最近二三年間の名古屋市の躍進振は、實に目醒しいものがある。産業方面に、經濟方面に、其他の總ての方面に素晴しい發展を示してゐる。都市計畫方面にも着々充實せる施設が、爲されつゝありといふことは、心強い限りである。

尤も名古屋は六大都市中、人口の點でも又面積の點でも、東京大阪に次いで、中京として第三位の誇を有してはゐるが、内容的には他の五大都市と比較して遜色がある様に思へる。一口に云へは田舍臭が抜け切らないのである。これは今迄に嘗て大震火災等の天災の洗禮を餘り受けてゐない、いはゞ都市として無刺戟な狀態に、永い間置かれた結果であらうと思はれる。金の鯱を唯一の賣り物にしやうといふ、保守的な城下町の發達したものであるから、東京又は大阪の様にセカセカした日苦しい賑さを望まず、京都風の如何にもオツトリとした落ち着きのある町にし度いと願つてゐるのである。成程室町時代鎌倉時代に建てられた建物が市中に尠からず見受けられる様に、町が舊いだけに落ち着きはある。然しその落ち着きたるや、京都の洗練された落ち着きは見られず、所謂田舍臭く落ち着いてゐる様である。六大都市の一として、その面目を保つには未だ未だ未完成である。

然れどもその未完成なところが又頼もしいのである。他の都市殊に東京大阪の様なところは大體完成された都市である。いはゞ老成した都市である。それに比べて名古屋は未完成であるだけに、青年の意氣に燃えてゐる都市と見ることが出來る。老成東京又は大阪より、青年名古屋の將來の發展は期して見るべきがあるだらうと樂が持てる。物價指數が低い都市程、將來への發展性が多分に約束されると云はれてゐる。都市が發展すればする程物價指數は昇つて行くものであるとのことである。名古屋も急速なるピツチを上げて躍進し、今數年或は十數年ならずして東京大阪と肩を並べ發剌たる中京の地歩を占むる時凡らくは東京大阪と殆んど同様の物價指數を示すものと思はれる。その時こそは所謂老成せる名古屋になるのである。永い間の偸安の夢破られて、今や名古屋は躍進途上のスタートに立つてゐるのである。

名古屋に於ける廣小路は、名古屋驛より東西に町の心臟部を貫通せる目貫の路線である旅行者が名古屋を訪れる時、先づ最初に印象づけられる大道路である。商業的に中心となつてゐるこの道路にして、而も、それに面して兩側に相當未だ空地が見られるのはどうしたものであらうか。これは防火地區の指定を受けてゐる爲で、建築する場合はどうしても耐火構造でなければならない。耐火構造とする爲には二階建位では不經濟である。高層のも

のとせなければ面白くない。そうなると、上層を貸室として配置せなけれならないことになる。處がこの貸室の利用者が現在では案外尠い。從つてそんな建物を建築しても算盤に合はないといふオチになる。而も他地方の投資を挨たなければならないとなると尚更である。地元の商賣人は木造二階建の奥深い店に舊い暖簾を誇つてゐる狀態では、却々防火地區の完成は愚か、耐火構造の建物さへ捗々しく增加して行かないのは當然である。然し極く最近になつて漸く目星しいものが出來る樣になつて來た。大阪朝日新聞支社、名古屋寶塚劇場、三井物産、三井銀行等が堂々たる勇姿を現し、又國際觀光ホテル、三菱商事業工事中である。

廣小路筋も漸くその面目を發揮して來た樣に思はれる。廣小路に次いで着々大都市としての幹線として、厚しからぬ體裁を整へ樣としてゐるものに大津町線がある。その北端に先年市役所が移轉し、その隣に接して縣廳舍が目下工事中であるが、南方熱田の發展と相呼應して、急激なる進歩を示しつゝある。殊に松阪屋附近は廣小路の殷盛を、奪はむとするのではなからうかとさへ思はれる位になつて來た。

明年春には名古屋驛が現在の驛より北方に、移轉することになつてゐる。それに伴つて新驛前より東へ、巾員24間の櫻の町線が開設される（伏見町より先きは18間）。これと同時に新驛前の區劃整理（27萬坪名古屋市長施工）をなし、大都市の玄關として相應しい計畫施設が着々進められてゐる。その時こそは名古屋も舊殻を脫し、モダーン大名古屋としてデビューすることになるのであらう。

金鯱城より熱田神宮造南北に貫通せる本町線は、在來5間の巾員であつたものだが、大體が問屋筋であるためトラックの交通激しく、荷捌きに頗る不便を感じ、先年廣小路より北を巾員8間に擴張し、最近廣小路より南岩井町線迄巾員9間に擴張され、電線はケーブルとなり路上に電柱の影なく、實に清々しい現想的な道路となつた。而も建築物法による建築線によつて、地元の自發的施工によるもので、都市計畫上特筆大書すべき價値かあると思ふ。それに關聯せる盛り場大須の一劃を、從來の錯雜無秩序なる狀態より救ひ、統制ある理想的盛り場とする區劃整理の儀が進められてゐるのは、何よりも結構なことである近く面目一新せる大須となり、盛り場は斯くあるべし、といふ見本を示すことになるだらう。

最近の都市計畫地方委員會で、路線が市部郡部の連絡部に於て不都合な瘤を有し、交通上支障を起してゐる。これに對し知事施行で都市計畫事業として瘤取りをすることになつたこれによつて數年ならずして、市部と郡部との交通運輸關係は圓滑になり、永年の惱が解消することになり、愛知縣の産業を益々進展させることに拍車を加へやう。嘗て內務省都市計畫課長たりし篠原知事の英斷に今更乍ら敬服の外はない。

空前絶後ともいふべき莫大なる工費千數百萬圓を投じ、大なる犧牲を拂つて竣工せし中川運河も數年の間は、一般世間より嘲笑の的となつて眠つてゐたが、近來その沿岸地にボ

ツボツ倉庫及工場が建設される様になり、その終點即名古屋驛南側の舟溜り堀留に先日堂々たる東神倉庫及東陽倉庫が建てられ、將來運河利用者の爲に備へられたことは、愈々運河も實用期に入つたことを物語つてゐる。永年非難されてゐた運河の汚水も木曾川の淨水によつてフラツシユする計畫が立てられてゐるから、近く淨化されることになると思ふ。

市の努力によつて殆んど全市に亘つて、放流下水道が完成し、目下四箇所の處理場で汚水を處理してゐる。斯く完備された施設を有効に利用する爲に、我國最初といはれる、建築物法による汲取便所禁止區域が、この4月1日に指定實施された。その區域は、市の心臟部と目される部分で東は公園線南は岩井町線、西は堀川、北は片端線、これ等に圍まれたる一劃である。これも數年ならずして放流區域全部に亘つて汲取を禁止されることになるであらう。都市に於ける汚水の處理は、保健衞生上最早や議論の餘地はないと思ふ。只如何にして施設を促進させるかといふことを考へれば好いのである。名古屋は地勢上割合に惠れてゐたので、早く實現出來たのは仕合せである。

この外八事山方面其他の風致地區指定に對する計畫等、都市計畫上諸種の研究調査がなされてゐる。恰も眠れる獅子が起きた觀のある名古屋市が遲蒔きながら、急テンポの躍進を始めたやうとする頼もしい姿が、現在の名古屋である。將來が大に期待出來やうと思ふ。それに昨年春築港方面に15萬坪の地を卜して、市主催の汎太平洋博覽會が三百五十萬圓の經費を以て、華々しく開催されることになつてゐる。それ迄に何とか或る程度迄總ての事業の目鼻をつけたいと全市民が努力してゐる。昭和12年春には名古屋も見違えた様になるであらうと樂にして待つてゐる。(完)

大阪市立美術館

冨士岡重一

煙の都を以て象徴されて居る大阪は、經濟の都であり、又生産の都でもあつた。それだけに經濟的に唯物的につき進んで行つたが、一歩飜つて見ると文化的に唯心的に、甚だ空疎なる憾みがあつた、滿たされぬものがあつた、衣食足つて禮節を知ると云ふ言葉がある、衣食が足つて來ると自分らの不作法さが氣付かれて來る、餘りにうるほいのなさ過ぎることに氣附く、われ等が誇こる大大阪にも正にその時機に到つたものと云つてよい、心の餘裕が出來て來たものといへる。

市立美術館は三百萬市民のこの要求に應じて生れて來たものであつた。大阪市民にも美術を鑑賞し愛好し得るだけの餘裕が出來て來たのであると見られるべきである。尤も大阪でも一部金持の間では古くからこの餘裕はあつたし、蒐集家は決して少なくはなかつた。しかしそれは極めて一少部分の好事家に限られたことであつて、美術館と云ふが如き大衆的市民的のものではない。

從つて今次竣成したる美術館は、大衆に開放された美術の殿堂であり、市民審美心の涵養機關でなければならぬのである、その意味に於て他の同類型の美術館と趣を異にした使命を有するべきものと云はなければならない、われはこの美術館をして美的敎養の機關たるの職能を十分に發揮されることを期待すると共に、文化都市としての茲に點晴をなせることを欣ぶものである。

設立の經過

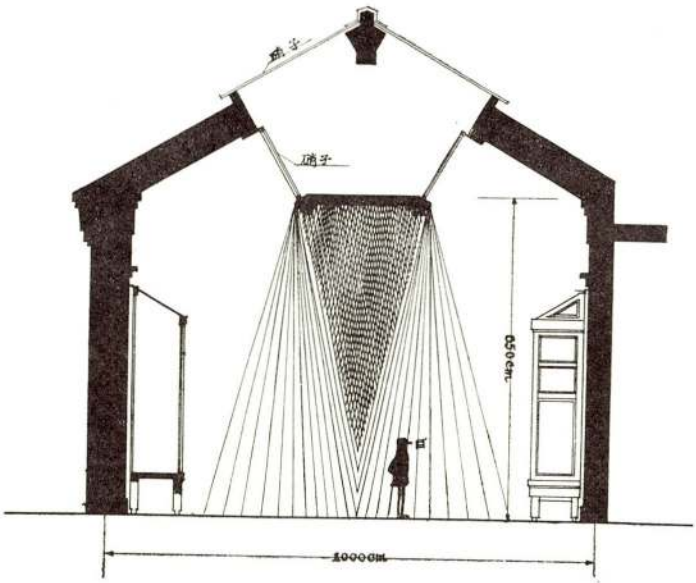
設立の計畫は誠に古いものがある、既に十數年以前大阪市に於ては他市に卒先して美術館の建設を計畫するところがあつた、即ちそれの概要を列記すれば、

大正九年、市會決議——御下賜金參千圓に基金百萬圓を加へて美術館建設を決議す。

大正十年、建設敷地未定にして彼此物色中なりしところ過住友家より美術館建設を條件として天王寺茶臼山の本邸敷地全部を市に寄附申出あり、市は此を受く。

大正十一年、敷地を同所に決定したるところ翌十二年關東大震災は本市の不急事業繰延の止むなきに至らしめ本事業に一頓挫を來したり、然るに

大正十五年、住友家の立退完了したるに依り又建設の機運は再び動き昭和二年十二月基礎工事に着手同五年五月鐵骨鐵筋コンクリート工事を竣へたるが工事は種々の事情に因り一時中絕の止むなきに至つたるが昭和八年再び外裝工事に着工、昭和十一年五月竣工を見



2階陳列室の採光

たのであつた。

本美術館の特色は、美術館に於ての生命とも云ふべき陳列室の採光には所謂トップサイドライトを用ひ、觀覽者の位置を暗くして壁面を明るくなる様に頂光線を採つてある、故に壁側よりの反射が除去されるのも、共に觀覽者からは全く天窓が目に入らずして目の眩しさを無くする効果がある、又このトップライトの内に數多の晝光色ランプを仕込んで夜間照明も出來る様にしたのである、又三階に百五十二坪四百人收容の講堂と、一階に五十九坪百五十人收容の美術講習室のあることも此美術館の特色とも云へ様。地階には圖書館と閱覽室とあり、又完全なる空氣調整設備のある大保管庫をも備へてある、其周圍を廊下で圍み、他室と遮斷し唯一の安全扉を備へてあるのである、

先づ本美術館の概要を說明すれば、

所在地 大阪市天王寺區茶臼山、

工　程 起工　昭和二年十二月廿九日
竣工　昭和十一年五月廿日
（但昭和五年五月十七日ヨリ昭和八年十月十三日マデ工事休止）實際工事日數1360日

敷　地 一萬三千餘坪、ニシテ天王寺公園東部丘陵上ニアリ、前面ニハ大石階段ヲ以テ下方公園ニ連リ、背面ハ舊住友家時代ソノ儘ノ幽翠ナル庭園ヲ控フ。

建築面積 建坪　4033.8平方米（1222坪）
延坪　12716.1平方米（3855.0坪）
內地階　4391.3平方米　　一階　4033.8平方米　　二階3122.0平方米
三階　1088.0平方米　　四階塔屋　91.0平方米
尙他ニ小屋裏廊下320.0平方米

各階階高 地階　4.0米
一階　5.5米（9.7米彫刻室）
二階　6.5米（側館）　7.5米（本館）
三階　5.0米～8.0米

軒　高 本館地上　21.0米（棟マデ24.0米）
側館地上　15.0米

樣　式　日本趣味ヲ基調トセル近代式

構造概要　架構體ハ鐵骨鐵筋コンクリート造ニシテ、建築室、彫刻室ニハ鐵骨小屋組ヲ架ス、基礎ハ地盤面ヨリ深サ3米ニ主體壁體下ヲ布堀ノコンクリート打パイルト、鐵筋コンクリート基礎トス、床版、階段、主要壁體ハ凡テ鐵筋コンクリート造ナリ。

平面概要　總地階ヲ持ツ三階建ニシテ、丘陵上ニ西面シテ聳立ス、地階床ハ地盤面ヨリ1米降リ、周圍ニ幅3米ノドライエリアヲ廻ラシ一階床ハ地上3米ニシテ、正面及兩側面ヨリ石階ヲ以テ玄關ニ連ル、本館ハ各階共中央部、左側部、右側部ノ三部分ニ分チ各部境界ニハ防火壁、防火扉ヲ以テ之ヲ區分ス、左側部ハ主トシテ常設陳列ノ爲メニ、又右側部ハ主トシテ展覽會用ノ爲メニ設備セラル。而シテ中央部ハ直接陳列ニ關係ナキ諸室ヲ以テ占ム。

各室配置　地階　中央部——中央保管倉庫、中央下足室、廣間ト賣店、汽罐室、化粧室便所、冷房機械室、

左側部——地階北玄關、北下足室、事務室、館長室、應接室、會議室、研究室、修理室、荷卸場、荷解場、大倉庫、配電室、電話交換室、監守室、使丁室、館員宿直室、詰所、浴室、

右側部——地階南玄關、南下足室、第一豫備展覽會室、第二豫備展覽會室、二ツノ研究室、圖書閱覽室、圖書庫、一般食堂、厨房、大倉庫、控室、

一階　中央部——正面玄關、切符賣場、大廣間、廊下、獨立ニテ使用ナシ得ル150席ヲ有スル講義室、化粧室、便所、又背後ニテラス及ビ換氣塔アリ、

左側部——北玄關、切符賣場、第一、第二、第三、第四各陳列室、建築、彫刻陳列室、第一第二研究室、

右側部——南玄關、第一、第二、第三、第四各展覽會室、第一、第二小室、

二階　中央部——大廣部上部廻廊、休憩室、控室、貴賓室、次室、化粧室、便所、テレース、

左側部——第五、第六、第七、第八陳列室、休憩室、第三第四研究室、建築彫刻室ノ上部廻廊、

右側部——第五、第六、第七、第八展覽會室、第三、第四小室、大展覽會室上部廻廊、

三階　320人分ノ席ヲ有スル大講堂、控室、寫眞室、附屬暗室、化粧室、便所、採光用小屋裏廊下、

四階　塔屋　昇降機械室、水槽、フアンルーム、

階段　中央大階段、ソノ他主要ナル階段六階段ヲ有ス。

外裝仕上ゲ　地階窓上迄花崗石張リ、一階窓上迄タイル張リ、以上軒蛇腹迄リソイド塗リニシテ窓入口廻リハ琉球產トラバーチン張リニシテ屋根ハ泉州產瓦本瓦葺キ、採光屋根ハスカイライトバー硝子ハヒルキントン網入硝子ヲ使用ス。

內裝仕上ゲ　壁面ハ各陳列室ハ厚板杉板張リノ上ニ染色(綠茶色)上質麻布張リ、展覽會室ハ杉厚板張リ上ニセロテツクス張リ又ハ麻布張リトシ、他ノ室ハ一般ニプラスター又ハプラスター水性塗料仕上トシ特殊室ハペンキコンビネーション又ハ拭キ取リ仕上トス。

天井ハプラスター又ハプラスターノ上水性塗料、或ハプラスター、又ハ白色モルタル吹付ケ等トナス。

床ハ各階陳列室、研究室、貴賓室、館長室、閱覽室、食堂ハオークノフローリングブロック張リトシ各展覽會室、大講堂、講習室等ハ山毛欅床板張リ、正面玄關ハ花崗石張リ、大廣間左右ノ玄關、二階廻廊、厨房、化粧室、便所等ハ各種ノタイル張リ、廊下ハ人造石研出シ、地階廊下ハアスファルトモルタル、トスル。

館內諸設備　陳列室及ビ展覽會室說明

一階ニ於ケル第一、第二、第三、第四陳列室及ビ展覽會室ハ採光方法トシテ側窓ヲ採リ、第五、第六、陳列室及ビ展覽會室、建築彫刻室、大展覽會室ハ頂光窓、二階ノ第七、第八、陳列室及ビ展覽會室ハ頂側窓ヲ採用セリ、尙大展覽會室ヲ除ク各天窓、頂側窓ハ屋上窓ヲ供ヘテ二重窓ヲ爲ス。硝子ハ「サンゴバン」五ミリノスダレ硝子ニシテ此ノ頂側窓ハ、此ノ種陳列館ノ我國

最初ノ採光方式ニシテ、之ニヨリ光線ハ觀覽者ヨリモ畵壁ヲ明ルク照ラス故ニ、硝子ケースニ納レル畵面ノ反射ヲ比較的免レシメ且ツ觀覽者ヨリノ天窓ノ目ニ入ラサルコトニヨリテ目ノ眩輝ヲ防ギ、陳列物觀覽上ニ大ナル効果ヲ納メ得タリ、且ツ小屋裏ハ自由ニ通行ナシ得ル程度ナル爲メニ、此ノ所ニテ天窓ノ掃除、遮光カーテンノ調節、陳列室照明用ノ電灯ノ加減ヲ極メテ容易ニ爲シ得ルノ便アリ、而シテ陳列室ハ凡テ夜間開場ノ設備ヲ有ス、展覽會室ハ右ノ設備ハ目下有セザルモ、他日陳列室同樣ニ仕上ゲルノ用意アリ、

各室ノ面積

第一、第二、第五、第六陳列室 ｝各45坪　第三、第四、第七、第八陳列室 ｝各85坪
第一、第二、第五、第六展覽會室｝　第三、第四、第七、第八展覽會室｝

建築彫刻陳列室、大展覽會室　各127坪　各小室　各9坪

第一豫備展覽會室　45坪　第二豫備展覽會室　30坪

畵壁面ノ延長　陳列室　201.5間　展覽會室　200.0間

尙各陳列室、展覽會室共臨時畵壁仕切ヲ具ウ、又第一、第二、第三、第四研究室ハ場合ニヨリ特別小陳列室トナシ得ル設備ヲ有ス

第一回陳列會　本年五月二日ヨリ五月二十日マデ第一回帝展大阪市陳列會ヲ開催シ陳列室、及ビ展覽會室全部ヲ使用シテ且ツ數ケ所ノ臨時畵壁面ヲ加ヘテ日本畵211點、彫刻19點、美術工藝品203點合計433點ヲ陳列シタリ。

暖房換氣設備　地階汽罐室ニセクショナルボイラー三基トストーカー送氣フアン、排氣フワン、空氣洗滌機、空氣濾過機、加熱機、各種ポムプ、其他諸機械ヲ設備シ、冷房機械室ニハ冷凍機、空氣洗滌機、送排風械、加熱器ソノ他ヲ備ヘ、又四階塔屋ニハ水槽、排風フアンヲ設備シ、ダクト、パイプヲ各室ニ通ジテ其裝置ヲ操作セシム。

溫風暖房設備　各陳列室、展覽會室、及ビ小講堂ニ之レヲ裝置シテ適度ノ暖房ト換氣並ニ溫度調整ヲナサシム、

直接暖房設備　陳列室、展覽會室ノ他ノ各室ハ放熱器ヲ配置セリ。

換氣設備　三階大講堂、地階ノ書庫、厨房、地階便所ニ設備ス。

保管庫濕度調整設備　陳列物品ノ保存ニ萬全ヲ期スル爲メニ地階中央保管庫ハ特ニ換氣及ビ濕度ノ調整ニ意ヲ用ヒ、自動的ニ且ツ經濟的ニ適溫適濕、及ビ適度ノ換氣ヲ與フ可ク設備セリ、周圍壁ハコレヲ低張リトセリ、

給水及ビ消火設備　給水ハ市設ノ水道管ヨリ分岐シ、汽罐室、厨房、浴室、各化粧室、便所及ビ洗面、手洗、シンク水呑器ソノ他ニ送水ス、消火栓ハ各廊下ニ設ケタル消火栓納箱內ニ裝置シ、水道本管ト連絡シ尙ホ途中ニ電動ポンプヲ設備シ、消火栓箱內ノスヰツチト連絡セシメ有事ノ際ハ直チニポンプヲ運轉セシムル樣設備ス、尙ホ建物外部ニサイミーズコンネクションヲ設ケタリ。

衞生設備　各便所ハ凡テ水洗式ニシテ流出セル汚水ハ淨化槽ニ導キ下方下水ニ自然流下セシム。

瓦斯設備　厨房、浴室、使丁室、喫茶室等ニ配管設備セリ。

電氣設備　市電氣局ヨリ供給ヲ受ケ、交流3300ボルト三相三線式ニシテ地階變電室ニ引込ニ、電灯及ビ電熱用トシテ100キロワツト、動力用トシテ150キロワツトヲ設備ス。各階分電盤マデハ三相三線式ソレ以降ハ單相二線式ニ配電ス、二階陳列室ニハ特ニ照明ノ効果ヲ計リ、間接照明器具、及ビ天井裏內ニ特殊裝置ヲナシ晝光電灯ヲ具ヘ、夜間開場ニ備フ、電熱器貴賓室ニ12キロ、館長室、應接室、及ビ事務室ニ1キロヅツヲ設備ス。

昇降機　中央部ニ人員用及ビ貨客兩用ノ昇降機ヲ一臺ヅツ設備ス。

電話、電鈴、電氣時計　電話ハ電話交換室ハ共電式單座席交換機一臺ヲ設備シ館內各室36ケ所ヨリ來ル各線ト、電話交換通話ヲ操作ス、電鈴ハ館長室及ビ事務室其他ヨリ使丁室ニ連繼ス、電氣時計ハ親時計ヲ事務室ニ設置シ、各室ノ三十個餘ノ子時計ヲ操作セシメ且各階ニ時報信號ヲ發セシメ得、

工事費　百三十萬五千餘圓

設計　大阪市役所營繕課

現代日本工藝の諸問題

上野伊三郎

世界的爲替混亂の波に乘つて日本輸出貿易は長足の進展を遂け、工藝品もその一部門として相當の輸出を見る樣になつて朝野の注目を惹き、その一層の關心と優良工藝品製作への努力を見るに到つた事は工藝界の爲めに慶賀に堪へざる處である。

古來日本は優秀なる工藝を有してゐたに係らず近時大資本主義の發展に伴ひ優良なる意匠は直ちに盜用され、技術家藝術家はすべて資本の壓迫を受けて惡趣味の注文に應ぜざるを得ざるの狀態に陷つたこと丶、西洋文明の滔々たる浸入に眩惑されて傳統藝術の精神を失つた事等に依つて所謂"ナッテゐない"狀態を現出するに到つた。

帝展の四部を見るがよい、傳統的なものは古來のもの丶コッピーであり、西洋風のものは西洋のコッピーであり、所謂新派のもの丶、コッピーに非ざるものは藝術的精神なき野次馬的のものに過ぎない。

只入選作丈けあつて技術は傳統的な立派なものを有してゐる事が認められる。

元來日本人は手工に於て世界的優秀な人種の一であり、此點西洋人とは隔段の上位に居る事によつて日本に工藝を起して輸出貿易を盛んならしめようとする事は最も適宜な事であるが、帝展に見られるが如く我國の現狀は意匠の貧困を如實に示してゐる。

藝術は人格の表現である、意匠の貧困は藝術家の藝術的人格の貧困を示してゐるのであり、又需要家側嗜好の貧弱を示すものでもある。

前述の如く他人の作をコッピーする事即盜用する事を恥辱としない樣な卑劣な人格から優秀なる意匠を得る事は不可能事である。

藝術的人格者は世才に長じないのを普通とし、民衆生活に比較的餘裕を有した昔時に於ても立派な藝術家は物質的に不遇の生を送つた人が多かつたのであるが、生活の餘裕甚少い現代に於て優れたる藝術家の生活の困難は益々甚しきものがあつて、天賦の材を抱き乍ら空しく陋巷の裏に果つるの止むなき狀態に到らしめる實甚多いのである。

斯くては國家人物經濟上甚だ不利と云ふ可く、意匠保護法の完備によつて、其生活を安定せしむるは國家緊急の事であつて、獨り文化の爲のみならず本邦輸出を盛んならしむるの源泉である。

現在の輸出品と云へば、外國商館から送られた見本を正確にコッピーして、即ち或場合には僞造してゐるのである、斯の如きは一流文化國として恥づべき行爲ではないのだらうか？

現在は外國爲替が有利な爲めこんな事をしてゐても商賣になるのだらうが、爲替が平常狀態に復した時、日本工藝の强味はなくなつてしまふ。又斯樣な模造、僞造の風習を助長し連續せしめてゐる時は、作家の獨創力を死滅に陷らしめるのみならず、世界文化進展を阻害するの行爲たるの譏を免る能はざるものである。

斯樣の狀態にある日本が、國際的な著作物保護條約に加入する事は一時輸出工業を衰微せしむる事とならうけれども、在來の模倣病を治するの荒療法として、間もなく獨創的意匠勃然として起り日本工藝の本格的興隆は期して待つべきである。

本年ブラッセルには著作物保護條約に關する國際的會議があり、吾國からも會議に出席する事となつてゐるが、我國の回答は恐らく日本の加入を回避するものと考へられる。蓋し、輸出向商工業の一時的衰微を恐るゝの聲甚だ高きものがあるからであるが、この事は日本輸出品の如何に多くが外國品の模造であるかを自ら物語るものである。

現代の日本工藝の意匠の貧困の原因の一つとしては我國工藝教育の缺陷を擧げることが出來る。即工藝に於ても建築に於ても樣式教育を偏重する結果傳統的の形や文模を模倣したり燒直しをする事の器用さを上達させる爲めの教育になり、こういふ練習をさせられた者は何か獨創的な意匠を考案することが出來ない樣な習慣をつけられてしまつて、生涯この自縛から脫せられない事になる。

獨創的な教育を授ける爲には優秀な教育家を要するので、吾國の現狀から見て先づ立派な教育家を養成する必要があると思ふ。

工藝的な學校の入學試驗なんかも、可なり改良すべき點があるのではなからうか、日本と大分變つた方法としてウキーンの高等工藝學校（Kunstgewerbe schule）の例を紹介しよう。

試驗第一日には午前と午後とに舟と家とを設計せよと云ふ題が出る、これによつて、構造的なものに加はる藝術的技能を檢し、第二日には日常親しみある果物や花の如きの寫生をやらせて繪畫的な才能を檢するのである、地理、歷史、數學の如きはすでに中等學校に於て修了してゐるのであるから、それ等に對して試驗を繰返へす必要はないと云ふものである。

日本の學校の如くに、藝術に直接關係のない學科迄試驗して、平均點によつて及落を決定する如きは意味ない事であり、誤つた方法とさへ思はれるのである。ウキーンのこの試驗は然も甚だ嚴選であつて、普通入學志願者——或一人の教授の教室に入る事を志願者に於て志望するのだから入學許可數はその教授が定める事になつてゐる——は一教授に對し200人位あつて入學許可を得る者は3人か4人位の割合であつて、工科大學が高等學校卒業證書さへあれば無試驗で入學が出來るのに比較して、甚だ難しいのである。

入學後の教育方針は日本とは甚だしき相違があつて、模倣嚴禁である、模倣を發見されて警告に從はない時は退校を命ぜられるのである。

ホフマン教授の如きは學生各自の個性を發揮させる教授法の名手であつて、門人は十人

十色の特色を持つて卒業してゆくのである。

これが眞の教育であると思ふ。

京都や奈良の様な處では到る處優秀な藝術品が見られるので、そういふ處に住んで居る人は博物館の内に住居する様なものであるが、その他の地方では優秀なものを見る機會が殆んどないのである。藝術的優良な感覺を養ふには百千萬の講義を聞くよりよいものを見るに限るのであつて、說いて說く能はず、色彩の調和の法則をいくら考へ出しても、それは“批判家”の立場を脫する能はず、創作には大して役に立たないので、佛者の所謂“冷暖自知”でなくてはいけない。

藝術初學者には精々多くの優秀な物を見せて、その美的感覺を養はせるのが最も大切である。これには具眼者の蒐集した工藝品を陳列する博物館をつくることが必要である。

西洋には逆の意味に於て、大衆教育の爲めの“惡趣味博物館”と云ふのがある。

最近工藝指導といふ事が我國に行はれだした事は甚だ時機に適したことであつて、むしろその出現の遲きを憾み度いのである。

工藝指導と云へば、既に大家を以て任ずる工藝家各位に於ては、何を生意氣なと冠をまげる人もあらうが、この意味は當分の處それ等の大家諸先生を指導申上げると云ふ様な“大それた”事ではないのであるから、氣を靜に持つてもらひ度い。

これは主として都會地にあつては、その生產品を向上せしめ、農山村には副業を殖えつけ、又は既存の工藝技術を近代化し、工法を合理化せしめ、都會の需要に適合せしめ、進んでは輸出をも試みようといふのであつて、技術や意匠を指導する仕事なのである。

アルミの鍋や六個十錢のコップの如きできへ、原型のよいのを與へれば、大量生產品がすべてよくなつて國民生活を豊富にすることが出來る。

一個五錢の汽車茶瓶にしたつて、原型一つで旅路を慰めることも出來るといふものである。電熱器や瓦斯ストーヴは、建築がドンドン新らしくなつてゆくのに、いつ迄も西洋唐草のルネツサンス式でなくてならないと云ふ理由はないので、ドシドシ現代的な美しい形にすべきであり、農村方面の仕事にしてからが、千遍一律の竹籠の花活けを出してはすぐに生產過剩になるので、新考案を加へて竹製電氣スタンドや、籐椅子代用品にも進出するといふ事にもなる。

兎に角工藝の指導には、地方的環境を考へてなるべくその地の產出材料を使用し、古來の地方的技術を利用するの方針をとる事が肝要である。

指導の實際問題としては、經濟關係を充分に考慮しないと實蹟を擧げ難いのであつて、指導所でいくらよい案を示して、一つやつてみてはどうだと云ふ工合に業者なり農村なりにすゝめてみた處で、賣れるかどうか解らないものを造つてみようとする者は殆んど絕無である。

普通取引してゐる問屋の番頭さんなるものが甚だ判らないのが多い、立派な大デパート

の仕入掛りでも〝ドーカ〟と思へるのが多いのであるのであるから、業者が手を出し澁るのは尤もなのである。

故に指導機關丈けを設けて展覽會を催す丈けでは効果甚微弱であるから、どうしても直接需要家と直接に接觸し得る販賣機關を併置する事が必要である。これさへあれば、一錢の損もすまいとして守舊的な城廓にたて籠つてゐる問屋や小賣店の厄介にならずに販路を見出し得るのである。

新傾向のものは問屋や小賣店が恐れる程需要のないものでなく、かへつて素人は新らしいものを求めてゐるのであるから、この販賣機關によつて、相當賣れるものである事が證明されれば、一般小賣店も安心して注文もして來るといふ事になるのである。

それで指導所で優秀な藝術家の考案になるもの——地方的條件に適合する様に意匠されてゐる事は無論である——を附屬工房に於て試作し、商品價値ありと認めた時には、之を農山村の副業組合、產業組合に注文して買取り、之を販賣店に出すことゝするが、場合によつては委托販賣とする。

斯くする事に依つて初めて產業に對して實質的働きを及ぼすことが出來るのである。

又從來地方の產業組合の確固たるものゝない場合には、或種の產業が商人の駈け引にかかつてその價格を競爭させられて値段の低下する底を知らざるの狀態に立到らしめられ、折角の仕事も經濟的に何の足しにもならない様な狀態に陷つてゐるものが甚だ多いのであつて、指導にあたる者は產業課なり更生課なりと提携して、無用の低價競爭をさせない爲めに確固たる組合を設けさせて價格を統制せしめ、眞に業者の利益を圖るべきである。

又地方的に產物の特色なくして、多くの同種の產物を出すことは供給過剩に陷り易いので、需給關係をよく考察し、地方的技術と自然的產出材料の點をも考慮して、種類的な生產統制をも行ふ事が必要である。

指導事業が全國に普及する様になれば、全國的統制を行ふ事も必要である事論を俟たない。

現在日本の輸出品は世界各地に汎濫してゐるが、大ていは輸出商の商略によつて、大量の製作をするにも係らず、利する處は到つて小である事を聞くのである。これが外國市場で如何なる形となつて現はれてゐるかの一例を擧げてみると、ロンドンで從來自轉車は十磅が普通の價であつた處、日本製自轉車は一磅で賣られてゐるのである、此場合日本品が五磅六磅であつても、英國品より安いのであるから、それ丈けに賣れば充分賣れてそれ丈け儲けも多いのであるのに、個人的な競爭によつて、こうした馬鹿氣た儲け損をやり、英國の製造業者からは非常に恨まれると云ふ事になつて、關稅障壁は設けられる、それを突破する爲めには益々値を低下せねばならないと云ふ様な事になるのである。

拔け駈の利己を考へる者は相率ゐて谷底へ辷り落ちるのである。

大資本は優秀な統率者の下に千萬の人が働いて利益をあげてゐる事を忘れてはならない。

日本工藝の興隆の爲には優秀な意匠家の指導と、確固たる組織がなくてはならない。

(MAY 1936)

水　都　景　觀

橋 ★ 橋 ★ 橋

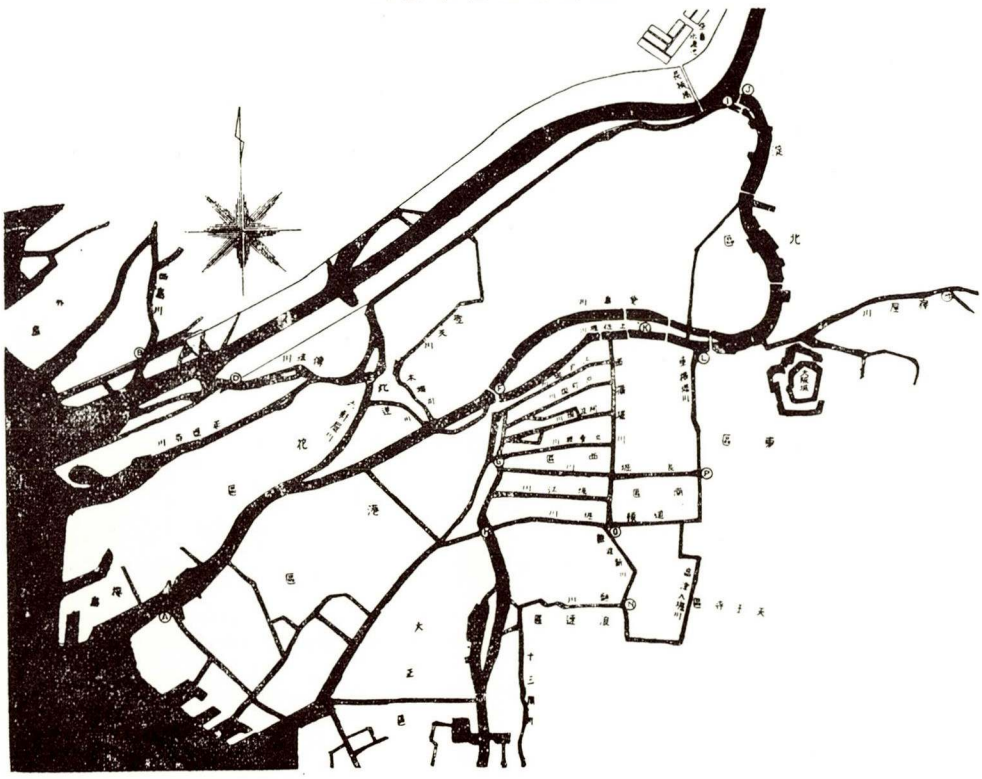
元　良　勳

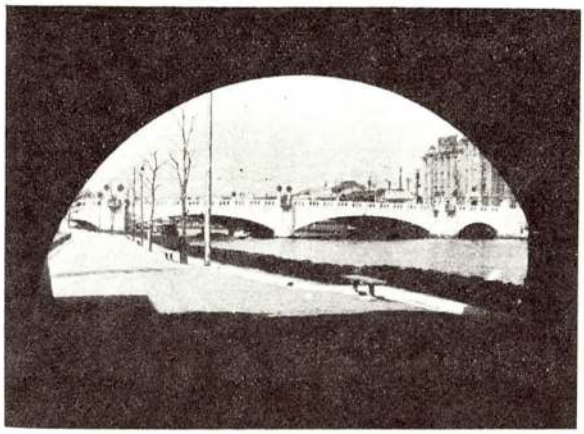
1. 數に現はれた水都の實體

大阪の事を水都と云ふ。都心を貫流する堂島、土佐堀の二河川を始めとして市中心街を縦横に區劃する大小の堀割りは、確かに水の都と呼ぶに相應しい景況を與へてゐるが、しばらく御辛棒を願つて、今此の實體を數字によつて明瞭にお示し致し度いと思ふ。

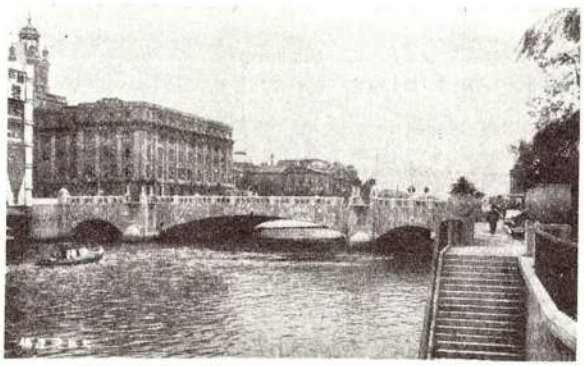
所云ゆる大々阪の總面積に約185平方粁ある。その中河川面積約21平方粁で市面積の約11.3％に當つてゐる。六大都市の中、東京のそれが約5.5％、横濱のが1.8％、他は0點下なのに較べると格段の相違があるのが判る。但し東京の分は隣接町村合併以前のものであるから現在のものは不明であるが、他の都市と比較して斷然抜いてゐる東京の更らに約二

大阪市主要河川圖





大　江　橋



淀　屋　橋

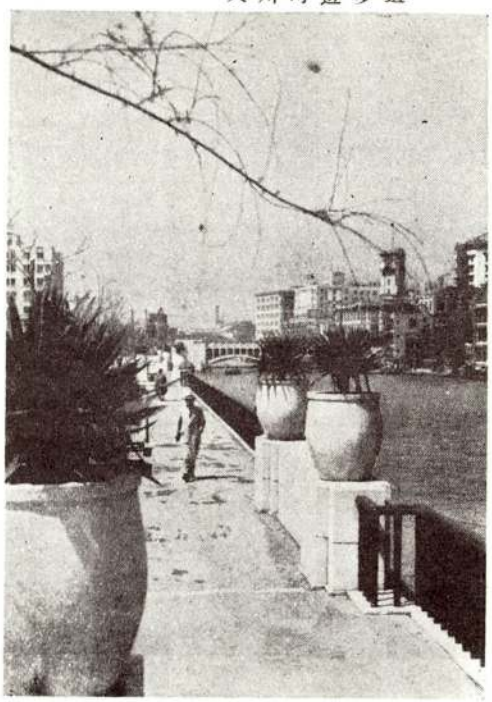
倍の割合を持つてゐるのであるから、水の都と云ふ名も決して不自然でない事がうなづかれる。更らに、大阪の道路總面積の市面積に對する割合が約5、6％、丁度河川面積の半分に當つてゐるわけで、此の點からも水都の實質が明かに證明されてゐる。

河川が多ければ當然の歸結として橋が多くなつて來る。『水の大阪』は即ち『橋の大阪』に通じてゐるわけで、漸く話が筆者の領分へ入つて來たのである。

昭和七年の調査によると大阪市内橋梁數1,419橋、同じく九年末には1,274橋、そうして今年4月末現在のそれは1,221橋。甚だ奇怪な事には年々盛んに橋の工事を爲しつつあるにもかかはらず、逐年橋の數が減つて行く。此の一見矛盾した現象は年々完成されて行く下水道の工事に伴ひ、惡水路が改廢されて行く結果であつて、手取り早く云へば、橋とは名許りのドブ板が年々取り除かれて行くものと考へれば差支へない。將來もう少し減つて1,200橋を切る事になると思ふが、その時の實數は名實共に橋らしいもののみと考へて宜しい事と思ふ。

現在の1,221橋の總延長は23,239米餘り、橋面積合計241,442平方米となつて、一橋平均にすると丁度幅員10米、橋長20米のものとなる。更らに面白い事には、東京の橋

大川町遊歩道



梁總面積が241,477平方米で大阪のと百位まで暗合してゐる上に、その數が631橋で約大阪の半分、即ち一橋當りの平均で云へば大體大阪の橋の倍の面積を持つてゐる事となる。之れは東京には隅田川に架せられた大橋梁が多い爲めに生じて來た結果であらうと思ふ。



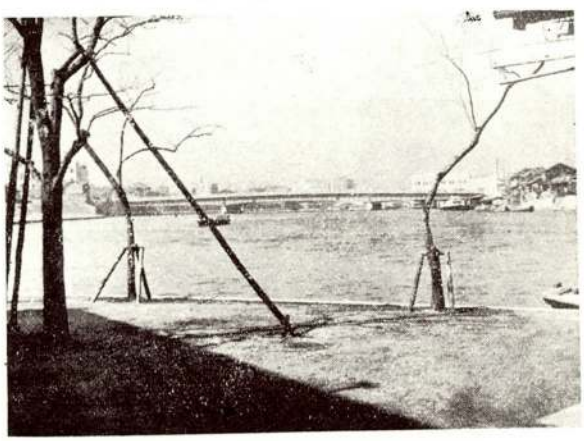
高　麗　橋

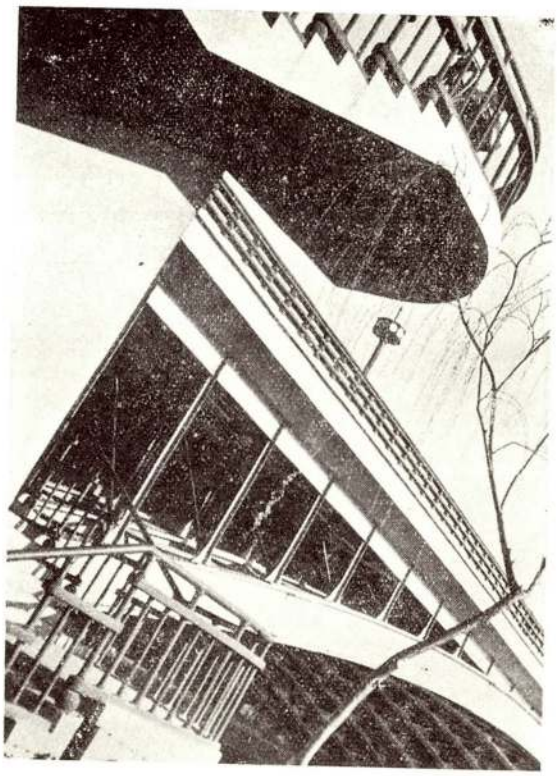
次手にもう少し數字を擧げて置く。1,221橋と云ふと數の多い點で何如にも立派であるが、その内譯は今の所未だ未だ心細いものである。即ち木橋が483橋、約40%を占め、その他石橋186橋、木鐵橋39橋、そうして之等の合計708橋は總數の60%弱に當つてゐる。殘りは鐵橋の353橋、鐵筋コンクリート橋の160橋で、之等の方はマアマアであるが、都市計畫事業として施工せられた眞個うの近代的橋梁は未だ140程に過ぎないのである。しかし現在都市計畫一次事業の殘り及び二次事業として約50橋、その他の費目によるもの約20橋を施工或は設計中であり、且つ又何れ第三次都計事業も發表される事と思はれるから、主要橋梁が改造され、耐震耐火の近代橋となり、且つ水都景觀の花形となつて其の面目を一新する日も遠くない事であらう。

2. 大阪の橋の特色

都市の持つ風格に寄與するものの一つとして橋を考へるならば、大阪の橋にも一つの共通した特色を見出し得る筈であるが、何分橋の様な近代文明の生んだ科學的構造物にあつては、著るしい特點を探し出す事はむつかしいやうである。むしろ橋の形とか意匠とかよりも、大阪の橋の概念として明確に思ひ泛べ得られるものは、其のディメンションの問題であると思ふ。例へば東京の橋として代表せられるものは、隅田川に並んだ十幾つかの大きなものであり、その雄大さと、各々異つた特殊の構造によつて近代的隅田川風景を描き出してゐる

天　滿　橋



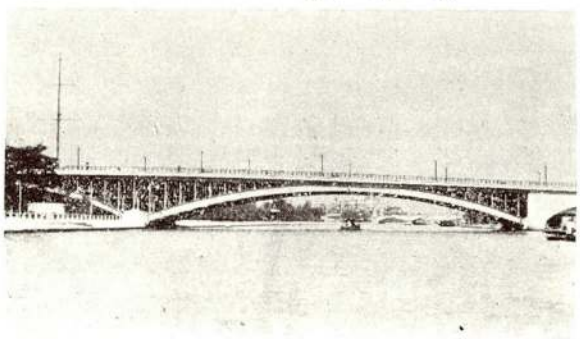


天　神　橋

如く、大阪の橋は、中之島を中心として堂島、土佐堀の兩河川に架せられてゐる多くの橋梁によつて代表されてゐると云つて差し支へないようである。何時も云ふ事であるが、市の中心を貫流する此の二河川は前者が幅員80米位ひ、後者が50米餘りで、周圍の建築群に對し狹からず又廣すぎず丁度適度の川幅を保つてゐる。從つて之れ等に架せられる橋梁も自然雄大さを缺く事は止むを得ぬとしても決してセセコマしいものとはならず、建築風景とよく調和した水都らしい景觀を構成するのである。建築が縱の方向に延びてゐるのに對して、河川と橋梁が橫の方向に延び、兩者の對照は巧まずして都會美を形造つて呉れる。將來河畔の建築群も全部高層のものとなり、橋梁も全部改築せられ、道路並木等が完備せられた曉には、名實共に水都としてはづかしからぬ大阪中心地帶となる事であらう。

構造上特殊な形式を持つてゐる橋も尠くないが、之れは後に書く事として構造から必然的に齎らされる形の洗練と云ふ點に關しては並々ならぬ苦心が拂はれてゐる。一つのゲルバー桁にしても從來慣用されて來た曲線を盲目的踏襲する事をせず、力學上最も合理的な形、そうして見た眼にも延びのびと如何にも力強く感じさすやうにと可成り創作的の意圖が試みられてゐる。一體に土木方面の技術者達は斯う云ふ方面に對して甚だ無關心すぎるやうであるが、幸ひ市の技師の方々が首腦以下皆此の點に興味と熱とを持つてゐられるのは市にとつて、亦筆者個人にとつても甚だ幸福な事である。此の機會に、役所では先輩であり同僚ではあるが此の土木の方々

天　神　橋



に對して、建築技術者の立場から深甚の敬意を表するものである。

勾欄廻りの意匠裝飾は筆者直接の擔當で余りモノを云ふ事も出來ないが、要するに橋自體の姿さへ美しく出來れば夫れ以上餘計な粉飾を施す心要はないと云ふ建て前で一貫してゐる。勿論場所柄と云ふやうな橋で大いに裝飾的手腕を振ふ場合もないではないが、根本方針として蔭の役、芝居で云へば立役に對する女形の役廻りと云つた心持ちでやつてゐる。



栴　檀　木

橋のやうな公共建造物になると形が悪いから渡つてやらない等と云ふ營業建築に作ふやうな苦勞は無い代り、却つて夫れ丈け責任が增す事になるわけで、その意味から一般よりの批評叱正は大いに歡迎する所である。そうして橋が都市美を構成する重要な部分である事を考へる時、建築家の方々からはもつと關心を持つて見て戴かなければならないと思ふ。專門的の忌憚なき批判は吾々を益する事最も大きなものがあるであらう。又吾々としてその結果足らざるを補ふ事が出來るならば本懷之れに過ぎるものはないのである。

3. 水　都　景　觀

いよいよ本題に入つて、水都の景觀を形造る主要な橋に就いてァレコレとお話し申し度いと思ふ。

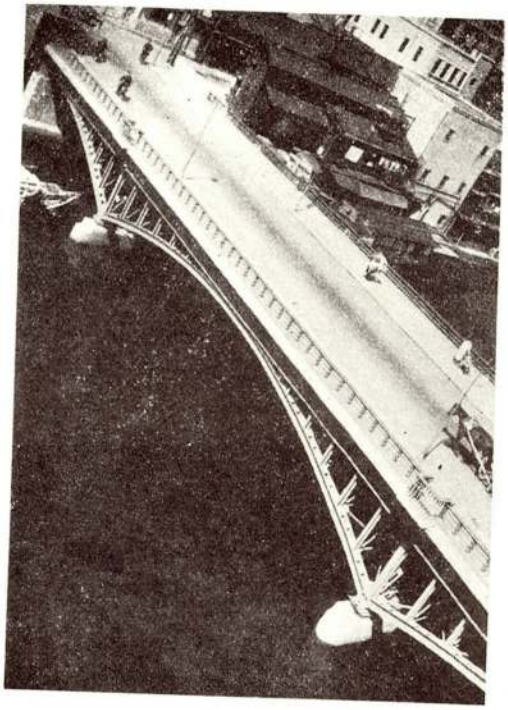
名吳橋。生粋の浪速つ子でも此の橋の名を識つてゐる人は餘り多くない事と思ふ。

櫻　宮　橋



堺筋が惠美須町で將に終らうとする少し手前に、勾欄代りに生籬様の灌木を植え込んだ小さい橋がある。もとより名橋と云ふわけではないが、大阪の都市計畫事業として第一番に誕生した橋であるから物好きの人は記憶して置いて戴き度い。竣工したのが大正13年10月末日、丁度12年程前の事になる。

大江橋。**淀屋橋**。市役所を狹んで南北に架せられてゐる此の姉妹



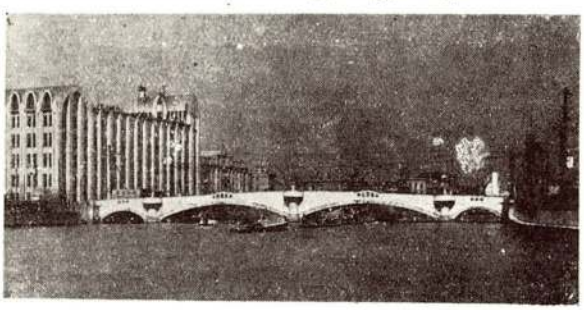
平　野　橋

橋は、大大阪の中心を形造る重要な建造物として、當局としては其の構造に意匠に最も意を注いだものである。憶えてゐられる方もあるであらう。大正13年夏懸賞によつて廣く其の意匠裝飾を募り、其の一等當選圖案を基本として實施設計がなされたのである。當時の案としては橋の兩袂に高い塔を建てるやうになつてゐたが、後遂に此の塔を削つて仕舞つて現在見るが如きものに改められた。各親柱の黒御影に刻み込まれた橋名文字は故關市長の染筆せられたもので、今では得難い遺品として好個の記念物となつたわけである。

大川町河畔遊歩道。淀屋橋、肥後橋間土佐堀川に沿つて設けられた遊歩道は確に水都に一景觀を添へたものとして特筆せられる價値がある。此の遊歩道の中心に聳えたつ住友本社の建築の偉容に尊敬を拂つて、此の邊一帶の意匠設計を西國橋、船町橋をも込めて、當時の住友の工作部長長谷部鋭吉氏にお願ひしたのである。結果として住友の建築を中心として好くまとまつた景觀を造り上げ得たものと自信してゐる。地域こそ廣くはないが恐らく何處に出しても滅多に退けをとるやうな事はない風景であらう。

心齋橋。餘りにも有名な此の橋は實に明治42年末の竣工である。純粋の石造アーチとして恐らく大阪唯一のものであらう。住友に居られた故野口博士の設計で、その洗練された形と詳細はすでに古典的風格を具へ出したが如くに見える。困つた事に都計事業として長堀線が擴張せられる結果此の名橋も北側のアーチを半分程削り取られる事になる。止むを得ぬ事とは云ひながら誠に惜しいものでもあるし、又其の後始末を何うつけたら好いか今から氣に病んでゐる。

田　蓑　橋



四つ橋。「涼しさに四つ橋を四つ渡りけり」來山の此の句は一躍橋名を天下に紹介してしまつた。電車自動車の頻繁な往來や明るい

電燈は昔しのホノ暗い夏の夕涼の情調を味ふべくもなくしてしまつたが、井桁に架せられた四つの橋、橋の袂の柳や句碑は今尚大阪名所として數へるにふさはしいものであらう。面白いのは四つ橋の名を諳らない人はないが、此の四つの橋の名を完全に云へる人も殆んどない事である。四つ橋とは通稱で四つ共夫れぞれ立派に名を持つてゐる。閑な方は憶えておいて損はない。ちよつと晝食時の話題位ひにはなる。長堀線の電車の通つてゐるのが上繋橋(カミツナギバシ)、それに並行してゐるのが下繋橋、南北に架つてゐる中東側のが炭屋橋、西側のが吉野屋橋である。

高麗橋。擬寶珠勾欄の純日本式に意匠した橋で下部の鐵筋コンクリート・アーチと調和しないと云ふ說もあるが、之れは一向差し支へない事と信じてゐる。ただ親柱代りの二重軒になつた燈籠については一言辯解さして戴く。昔しあの橋の袂に櫓があつたので、その梯を何かの形で遺し度いと云ふ希望が一部からあり、その結果があの燈籠となつたわけである。

嘗つては此の橋の袂に大阪の道路原標があつたので有名である。今も尚此處にあると思つてゐる人も多いやうであるが、現在は市役所正面玄關の中心線と御堂筋の中心線との交點、即ち大江橋停留所の軌道に挾まれて市章を浮彫した鐵蓋の下に原點が鎭座してゐる。

天滿橋。昔しのトラスが無くなつて渡るに淋しい氣持ちがする。本市最大のゲルバー桁で恐らく東京の言問橋と較べても餘り遜はぬ位ひに大きい。そうして此の桁の曲線は本市獨特のものとして大いに誇つてゐる所である。通りかかりに一度トツクリとその伸び伸びとした翼を擴げたやうな形に目を止めて戴き度いものである。

天神橋。堂島川、中之島、土佐堀川の三つを一氣に跨いでゐる形は市街橋中での一偉觀であると思ふ。殊に堂島川のスパンの如きは實に62米に及んでゐて、二鉸式の鋼鈑アーチとしては蓋し屈指のものであらう。此の橋は元來鐵筋コンクリートで計畫されてゐたのだがどうも地盤が思はしくないので、中途にして鋼アーチに變更されたのである。強度の問題は別としても、此の方が輕快で結果は甚だ好かつたやうに思ふ。橋上に提灯行列のやうに並んだ照明燈は、之れを下から見上げると天神樣の紋章梅鉢の形になつてゐる。之れは筆者のミソである。

中之島へ降りる階段の踊り場から西へ向つて眺めると、中之島の水と綠とを前景として、北濱から中之島へかけての建築群が一望の下に入つて來る。此の景色を大阪第一と折紙をつけた人があるが、筆者も大賛成である。尚本橋及天滿橋は其の名に由緣の深い天滿宮の寺井社司をわづらはして書いて戴いたものである。

梅檀木橋。此の名は識らない人もある事であらう。中之島公會堂の横手公園地帶と土佐堀川の上に架せられた橋である。構造はゲルバー式鋼鈑桁五徑間、しかし桁下端を一直線に通してゐるので一見單桁のやうに見える。此の橋の如く徑間が多く並んだ場合、常識的に橋脚の上毎に桁成を增すやり方は見た目に煩らはしいので斯樣な方法を採用したのだが、結果は甚だ好かつたと思ふ。輕快簡素、86米の長さを眞一文字に引ききつた所は極めて效

果的である。水害復興の京都の橋等には非常に好く調和する構造ではないかとひそかに考へてゐる。勾欄も下の構造に倣つて簡素にしかも伸びやかにと心掛けて意匠し、大體評判も悪くないやうなので喜んでゐる。今の所河岸の建築が大分ひどいので此の點少々困るが、公園の綠樹帶の中を一直線に走つてゐる此の橋近傍の風景は相當に優秀なものと云ひ得られるであらう。尚親柱の兩脇に柄檀木を圖案化した飾板が嵌め込んである。武田博士の原案によるものでお通りがかりの折には一度氣を付けて戴き度いものである。

櫻宮橋。左岸に櫻宮公園、右岸に泉布觀と造幣局とを控へ、その間を一氣に繫いでゐるあの銀色の大アーチは水都大阪の新景觀として屈指のものである。徑間長實に108米、公道橋としては多分日本で一番長いものであらう。もう一つ此の橋で特筆すべき事は三鉸式のアーチを用ひてゐる點である。此の形式は必ずしも珍らしいものとは云ひ得ない、しかし此のやうな大きなもので且つ下路式(構造が路面上に出てゐる形式)のものは世界にも類例が尠いのだそうである。三鉸式の特徵はその靜定架構なる點で、大阪のやうに地盤の悪い所では危な氣がなくて誠に安心である。

平野橋。ガス・ビルのある平野町を眞直ぐ東へ行くと東橫堀の上に架つてゐるのが此の橋で、今の所餘りその名を識られてゐないが、特筆せらるべき價値のあるものである。高麗橋からは下流に、大手橋からは上流に此の橋の姿を眺める事が出來る。三徑間連續補剛アーチと云ふ之れこそ全く前例のない構造形式を用ひてゐる。手取り早く說明すれば東京の淸洲橋を倒さまにしたものと考へれば大差はない。驚く程華奢にスマートに構成されたその優姿は吾々の最も自慢にしてゐる所である。あの邊は餘り人の行かない所ではあるが、最非一度折を作つても、此の橋だけは見て置いて戴き度い。橋梁係長の堀威夫氏の設計で、極めて特殊な面白い構造を持つてゐる點から、折を得て改めて此の橋だけに就いて委しく書き度いものと思つてゐる。

最新塵芥處理工場に關する資料

新　名　種　夫

目　次

§ 1. 概　說
大阪市に於ける塵芥處理の現狀
木津川の塵芥處理工場
§ 2. シカゴ塵芥處理工場
概　要
塵芥蒐集車の運轉と燒却爐の操作作業統計
§ 3. シンシナチ、クイン市の塵芥處理工場の改良擴張計畫爐改造計畫の概要
爐の改造に對する技術顧問と工事請負
§ 4. シユレヴポート都市塵芥處理工場の設計
概　要
大小處理工場の比較
シユレヴポート塵芥處理工場の將來
爐の構造
補助設備
保證（Guarantee）
最大限と最低限

§ 概　　說

大阪市に於ける塵芥理

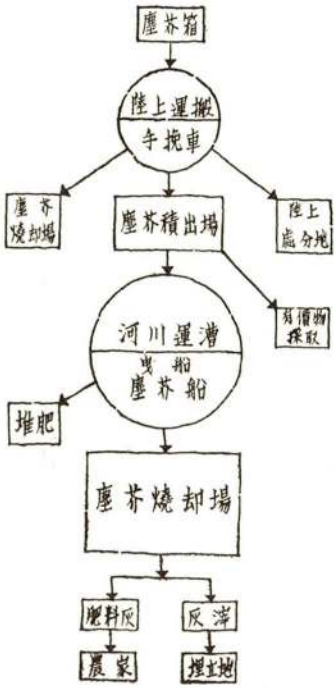
汚物掃除法に基いて、大阪市に於ては現在の全市域に對して塵芥の蒐集を行つて居るのであるが近來大阪市に於ては年々人口戸數壹萬數千戸の增加を示し、昭和10年の國勢調査によれば630,232戸の多きに達して居る。一方これらの各戸より排出する塵芥總量も亦增加戸數に比例して、每年日量約22,500瓲から26,000瓲の增加の傾向を辿りつつある。

市はれ等の塵芥を一定の日取を以つて蒐集し、その大部分は河川を經て燒却場に運搬されて燒却處理されるのであるが、尙殘餘に就ては、堆肥、埋立或は陸上處分の方法で處理を行つて居るのである。

今大阪市の塵芥處理作業に就いて之れを圖解式にて示せば、大體次に示す如き三つの段階によつて之れを行つて居る。即ち蒐集、運搬及燒却と云ふのがそれである。（第1表）

今此處で取扱はんとするのは特に、塵芥の燒却處理に關する問題で、そのなかでも、燒却爐による處理方法の二、三の資料を提供せんとするものである。

大阪市に於ては此の塵芥燒却處理に關しては、明治39年以來の事であるが、現在に於ては、木津川、寢屋川及今宮にそれぞれ處理工場を配置し、此の3處理工場にて1日約1,117,500瓲の塵芥處理能力を有する事になつて居るのである。が然し是等の工場の有する實際の處理總能力は、爐の故障、修繕等の爲め幾分その標準能力より低いのである。現に



第 1 表

これら3處理工場に於ける燒却實績昭和9年中平均日量は標準能力の72%にして、その實量は803,651瓩で全市排出塵芥日量約1,162,500瓩に對し69%に相當するのである。從つて之が殘餘の日量約375,000瓩は依然、堆肥として農家に供給するか或近郊30ヶ所(昭和10年6月現在)の陸上無害地に運搬して埋立に使用するか、又は事故等の爲め已むを得ざる場合のみ、遠く海上に投棄する事等によて辛じて、全排出量の處理を行つて居るのである。乍然元來陸上處理は衞生上又は風致上面白いものではなく且つ、之れが實施上相當の困難が伴ふものである。近時郊外地の急激なる發展に伴ひ新候補地は、益々、拂底を來たし、堆肥の需要なども農耕地の縮少に比例して微々として振はず、更に海中投棄處理も衞生上好ましからざるは勿論であるが又漁業上多くの批難を生ぜしめる爲め、殊に夏季期間中は餘程の事情が存在しない限り之が實行を見合せねばならぬ狀態である。

今大正14年以降の排出量と燒却處理量とを比較して見れば大略次表の如くである。(第2表)

第2表　塵芥燒却處分實績累年比較表

(大阪市保健部清掃課調査)

	排出量	燒却量	%
	kg	kg	
大正14年	246,259,500	48,513,750	20
昭和 1年	285,530,325	52,643,700	18
2年	297,139,200	58,981,575	20
3年	292,498,825	121,756,427	37
4年	355,502,350	237,090,825	67
5年	362,058,750	244,324,800	68
6年	372,167,400	248,349,975	67
7年	381,149,500	242,414,898	64
8年	382,814,100	248,356,301	65
9年	396,052,091	270,295,698	69
10年	411,922,715	306,580,500	74

木津川塵芥處理工場

大正區南恩加島町479番地、木津川沿ひに、敷地約5,000坪の中に自第1號至第6號までの塵芥處理工場、事務所、試驗室、倉庫、灰篩場、浴場、吏員竝從業員の公舍等の建築物があり、その建坪は1,141坪に達して居る。

第1處理工場は大正5年工費52,000圓を以て築造し、自然通風式、燒却は18爐より成り1日(24時間作業)約97,500瓩(約18,000貫)の處理能力を示して居るものであつたが、昭和7、8年の第3次擴張により、6爐を送風式8爐に改造して第6處理工場としたのである。上家は木造平家建、爐は自然通風式背面投入型で、內部は耐火煉瓦を以て造られてゐる。尙此の第1處理工は、操作方法最も舊式なるものに屬して居る。即3馬力の吊揚機(ウインチ)二臺を以て塵芥を船より棧橋上に捲揚げ、「トロッコ」に積込んで各爐に運搬投

入し、自然通風により燒却するのである。灰燼は爐前火床下より掻き出した上篩別して肥料灰を製造して居るのである。

第2處理工場は大正7年の增設にかかるもので、工費200,000圓上家は第1工場と同じく木造平家建にして、爐の裝置は、送風式背面投入4火房連續1基形16爐を有し、能力は1日10時間作業として180,000瓲である。塵芥は5馬力の起重機4臺により棧橋上に吊揚げて爐中に押入れ、10馬力の送風機4基を以て火床下より送風して燒却を促進さす裝置になつてゐる。燒却後の灰滓（クリンカー）は爐の前面灰出口より掻出し埋立地へ搬出される事になつてゐる。

第3の處理工場は第4工場と共に昭和4年中に竣工せるもので、建設工事費は100,000圓建物は鐵骨二階建スレート葺、爐裝置は强壓加熱送風式上部投入4火房連續1基型2基8爐より成り、能力1日120,000瓲を示して居る。塵芥は、上家小屋組梁下の環狀「Iビーム」に懸垂せる捲揚機を用ひて「デツキ」に捲揚げ上部より爐內に塵を投入し、17馬力半の電動送風機を以つて煙道內空氣豫熱裝置を經て、加熱されたる空氣を火床の下部より送つて燒却するのである。

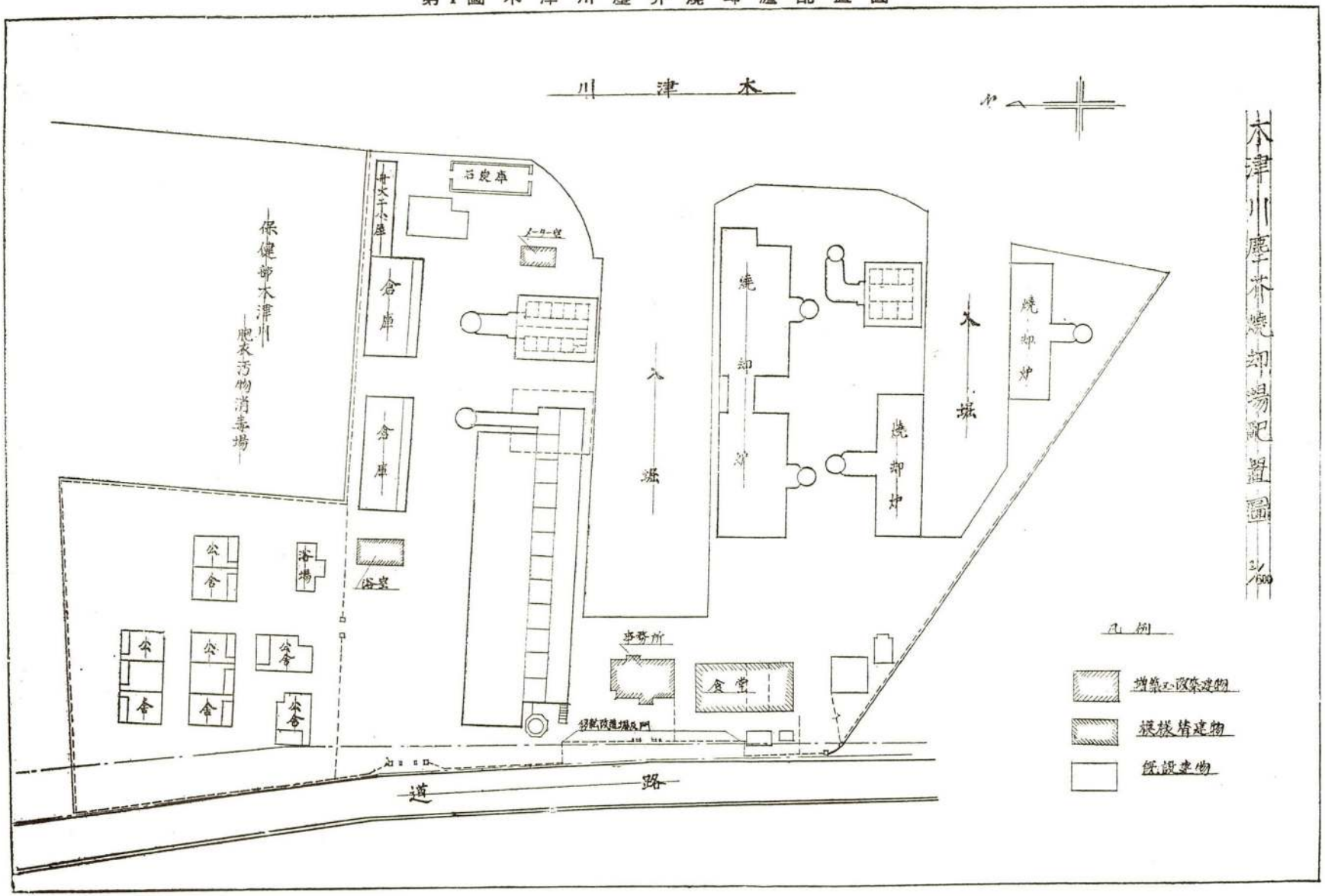
第4處理工場は工費80,000圓を以て建設され、その竣工年月、上家構造、操作方法並燒却能力等殆んど第3處理工場と同樣であるが、唯爐の樣式の獨立4火房1基型なる點及び煙道に空氣豫熱裝置を有しない點だけを異にして居る。

第5及第6處理工場は、共に昭和7、8年度の第3次擴張工事の一部として昭和8年9月起工、同9年6月竣工せるものであるが、之が建設工費は、第5處理工場約55,000圓、第6處理工場約85,000圓——1爐當り10,000圓——となつてゐる。第5號理工場は、曩に大正8年から大正11年度までの化學的處理法調査に當り、實驗用として築造し、その後使用を廢止せる舊式試驗爐を、又第6處理工場は第1處理工場の自然通風式6爐を夫々取り壞してその跡に建設せるもので、いづれも上家は鐵筋コンクリート二階建にして、爐の型式その他は大略第3處理工場と軌を一にしてゐる。但し爐の配列が背合せで且つその中央の煙道內に3ヶ所の防塵裝置（ダストカーワーク）が施されたこと、並捲揚機（ホイスト）懸垂用「Iビーム」が直線狀をなせる事等が主要なる相違點である。爐の數は第5處理工場が3火房1基型2基6爐で能力10時間に90,000瓲、第6處理工場は4火房1基型2基8爐109,000瓲を處理し得る事になつて居。

木津川塵芥處理工場に於ける新舊6箇の處理工場の爐を合して總數58爐ある。此の處理能力は1日實に675,000瓲を算して居る。又從業數を擧げれば監督1名、監視7名と常傭116名であるが、尙この外必要に應じ若干の臨時人夫を使役することとなつて居る。

以上は、大阪の代表的處理工場の概要であるが、前述の如く、大阪市の持つ工場の全機能を擧げて處理しても尙ほ且つ370,000瓲の殘餘がある譯で今後益々處理工場の改善により之れが能率を擧ける事と、他に適當な地を求めて處理工場の增設を行ひ此の處理に關す問題の解決に努力せねばならぬのは勿論であるが、殊に此の殘餘の問題に對し、他に適當な地を求むべき都市計畫的研究と處理能力を增進すべき之れがメカニズムの改良調査研究

第1圖 木津川塵芥焼却爐配置圖



の二方面に別けて考へねばならぬと思ふ、そこで筆者は最近此の問題に觸れた二、三のデーターを紹介し識者の參考に供したいと思ふのであるが、第1に擧げたいと思ふのは、米國に於て最も處理能力の大であると稱されてゐる、シカゴの塵芥處理工場を、第2には都市が塵芥排出量の增加に伴ひ爐の改造に對する要求が起り、そして此の要求に從つて建物（上家）の變更は行はず要領よく內部のメカニズムのみの改良で之れが要求を滿たしたと云ふシンシナチーの處理工場を、そして第3には、建築技術家のみの設計で實施され、且つ相當の成績を擧げて居るイリノイスに於けるシユレヴポートの塵芥處理工場等の例を擧げたいと思ふ

そして特に最後のは、都市工學に建築家が堂々參加し、工學技術の上に相當の貢獻を成し遂げて居る點に筆者の興味を多分に引いたものであつた。

（此の第3の處理工場の建築自體の紹介に就ては〝建築と社會〟12.1935,及〝新建築〟1.1936,がそれぞれ適當に行なつて居る故、意匠設計上の資料としてはその方を參照されたい）

§ 2 シカゴ塵芥處理工場[註1]

概　　要

シカゴの塵芥處理工場の燒却爐は1日600噸の處理能力を有し、恐らく米國合衆國中最大なものの一つであらう。工場の敷地は河川邊りに面し、周圍は工場に圍まれて居り、建物の外觀は快適にして、且つ周圍に、芝生帶があり、通路などは手入が充分行きとどいて居つて一種顯著な環境を形造つて居る。敷地面積265′×300′、建坪172′×125′にして、之れに附屬して、建坪 18′×40′の事務室と作業室とがある。いづれもコンクリートと鐵骨による構造體にして、外裝は、インヂアナライムストンによる煉瓦仕上である。蒐集車より塵芥を積下しする場所（tipping floor）は172′×13′にして、それが貯藏坑（Storage pit）に導かれて居る。其處には塵芥積下しプラットフォームとして5箇所の入口と1箇所の出口がある。索引裝置（tracter unit）は一方の側より這入つて來て他の側へ出る樣な仕組になつて居る。前面にある4箇所の入口はバックして入るトラック用として使用され、貯藏坑の收容力は大略1,200噸の能力を有して居る。

塵芥蒐集車の運轉と燒却爐の操作

トラック並に聯結車（trailer）等が敷地內に這入つて來ると、計量所の前で止る、そしてトラックと積載せる塵芥との量が計られる。次に蒐集車より塵芥を積下しするプラットフォームに進行して行き貯藏坑に塵芥を空けるのである。空けられた塵芥は電氣操作によるクレーンで爐の上に持ち運ばれ底部が開閉出來る裝置になつて居る漏斗狀（ホッパー）の坑（ホールス）（hopper holes）の中にそれが空けられ、一人の作業夫の手で爐の中へ焚べられるのである。各爐每

註1　Leonard P. Turner (Superintendent of Damp and Incineration Bureau of Streets, Chicago Ill.); "The Operation of the Chicago Incinerator", The American City, July, 1934.

に1立方碼のボツバーホールスが4個あり。その各々には爐に導く引き戸が付いあり、それが壓縮空氣又は引張り鎖にて開閉し得る裝置になつて居る。且つ之れが操作は火焚場（firing floor）の火夫によつて行はれるのである。ボツバーホールスの底の引戸か開かれた時、塵芥は爐の中に落ちて行くのである。

其處には上述の如き爐が6個据置してあり、いづれも外觀の大いさは29′×16′位である。各々の爐は3つの間仕切壁と5つのクリンカー壁及135平方呎の火床がある。而して各爐毎に前方に4枚後方に4枚計8枚の扉が付いて居る。燃燒室の空濠（Combution chamber area away）の大さは39′×6′×11′にして、爐の燒却能力は24時間に付き101噸の燒却能力があり、平均燒却量は1時間に4½噸に相當する。

爐は電氣制禦式モーターによつて發生する豫熱送風法による操作で運轉され居るのである。即ち各爐に毎分1,800回の回轉をなす15馬力のモーターが1個宛にあり、外部からの冷氣を豫熱器（Preheater）の中へ吹き込んだ後ち、空氣が煖められ、各爐に送風されるのである。吹込ファンは只に外部からの冷氣を吸込むばかりでなく、煖められた温氣を吹き出す作用もなすのである。平均豫熱温度は3,500度乃至5,000度位に高められ、燃燒室内の燒却温度は大低1,800度乃至2,300度位にして、温度が平均した時でも燒却能力は增加するのである。

燒却爐は4時間毎に掃除され、推積した灰燼や鉱力罐等は爐の下の灰燼堆積室（ash basement）に設けてあるボツバーの中に落ち込む様な裝置になつて居。灰燼は車に積込まれスキップの付いた捲揚機（Skip-hoist）のところまで運搬されると直ちにその捲揚機に巻き揚げられ貯藏用ボツバーの中に空けられるのである。そして其處から聯結車又はトラツク等に再び積み込まれ各方面の塵埃捨場に運搬されるのである。ボツバーの中へ空けられた灰燼は電氣昇壓ポンプ（electric booster pnmp）の制禦による噴霧器（Water spray）を以て濕されるのである。之れは連結車等に灰を積み込む時に生ずる塵埃を防ぐ爲めである。

其處には10馬力のサクシヨンファンが3個据置してあり、それで灰燼堆積室にある灰の塵埃を蒐集器に吸込ませるのである。尙ほ此の外に据置してある50馬力と30馬力の2個のサクシヨンファンは、ボツバーの辷り戸（Sliding hopper door）の操作と煙道の掃除の爲めの送風用として設備されてある。

塵芥が非常に濕氣を含んで居る時でなければ、石炭は極く僅少しか使用しない。

作業統計

此の塵芥燒却爐は1928年から作業を開始し、その時より今日に至るまで市の北半分の塵芥を處理して來たのである。此の區域に於ける不燃燒性の塵芥は塵埃捨場に處理するか又は鐵道運搬によつて他へ運び去るかのいづれかの方法によつて居る。

1928年から1932年を通して此の優秀なる塵芥燒却爐の作業統計は第2表の如くであり、第3表は指示された期間内に燒却爐を操作した使用人員の數と種類とを示す。

第 3 表

晝 間 交 代 （自午前8時至午後4時）	
少年書記 (junior)	2人
工場係長 (Plant foreman)	1人
電機監督係 (electrical mechanic in charge)	1人
電 機 係 (electrical mechanics)	4人
トラック運轉手 (motor truck drivers)	3人
運搬夫助手 (helpers on trailers)	3人
塵芥投入夫（1爐當り2人） (feeding furances; two men to each furnace)	12人
爐の火夫（1爐當り2人） (Stoking furances; two men to each furnace)	12人
塵芥積下し夫 (men on tipping floor)	2人
灰爐堆積室の人夫 (men in ash-basement)	4人
灰爐ホッパー運轉手 (man to operate ash hopper)	1人
給 油 係 (man to do general greasing)	1人
合 計	**46人**
夜 間 交 代 （自午後4時至夜12時）	係員數
少年書記	1人
工場係長	1人
電 機 係	4人
塵芥投入夫 （1爐當り2人）	12人
爐の火夫 （ 〃 ）	12人
灰爐堆積室の人夫	4人
雜 用 夫 (man on miscellaneous assignments)	1人
合 計	**35人**
深 夜 交 代 （自午後12時至午前8時）	係員數
工場係長	1人
電 機 係	4人
塵芥投入夫 （1爐當り2人）	12人
爐の火夫 （ 〃 ）	12人
灰爐堆積室の人夫	4人
雜 用 夫	1人
合 計	**34人**
總 計	**115人**

國際公益事業協會へ提出された書類より

§ シンシナチー・クイン市の塵芥處理工場[註2]改良擴張計畫

爐改造計畫の概要

シンシナチー市に於ては、1935年に100噸の塵芥燒却能力を有して居つた中央塵芥處理

第 2 表

次 年	處理噸數	使用石炭噸數	焼却費	噸當りの經費	殘餘 %	摘 要
1928	46,516	2,389	133,081弗	2·86弗		請負契約による作業
1929 1月～3月	16,217	808	45,842弗	2·826〃	14·8	〃
1929 4月～12月	80,189	722	149,849弗	1·87〃	17·5	市營（日雇人夫）
1930	75,240	470	183,356弗	2·49〃	19·05	〃（〃）
1931	79,713	579	178,421弗	2·24〃	18·75	〃（〃）
1932	83,224	702	162,355弗	1·95〃	17·3	〃（〃）

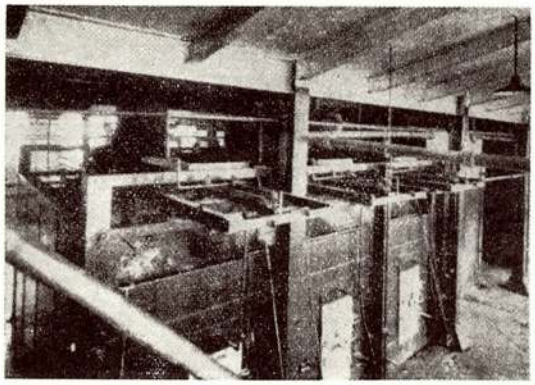
（焼却爐の受入る塵芥量は毎立方碼に付365封度となる）

工場を、在來の處理工場の建物に變更を加へず300噸焼却能力を增加し得る様、內部裝置を增設したのである。中央塵芥處理工場に於て焼却爐を增加する場合の準備は、最初の設計に從つてなされたのであるが、それは300馬力の水管式ボイラー（Water tube boilers）2個でスチームを發生する爲め、焼却爐よりの熱を利用する様に構造されたのであつた。此のスチームは7棟の工場（Wosk house）市の自動車修繕工場、道路管理仕事場及市部の中心部に配置してある全塵芥蒐集部（Waste Collection Division）のガレージに配供されるのである。

處理能力400噸まで增加する場合には、市は主要處理工場の反對側に區別して爐の配置を行つた100噸の處理裝置を2基運轉し得る様にしたのである。3基の處理裝置が最初に据置され、1931年7月1日に運轉が開始されたのであるが、其の頃はまだ塵芥蒐集は請負制度で、且つ厨芥のみの處理は期間滿了になつたので、市がそのサーヴィスを引繼いたのであつた。長い年月日の間市は此の厨芥を除いた他の都市塵芥を蒐集し且つ處理して居つたのであつた。市が此の厨芥の蒐集と處理を引き受ける様になつた時戸主は是等の廢物を紙で包むか、又は紙の上に置くか或は箱の中に入る様に命ぜられたのであつた。夏季の期間住宅地に於ては、一週に2度定まつて塵芥を蒐集する様になつて居り、且つ冬期の間は一週に1度定まつて塵芥を蒐集される様になつて居つたのであるが、下町にあつては、每夜定まつて蒐集される様になつて居つたのである。夏の暑い期間は3基の爐が8時間交代で、冬季の期間は、中央部に設備されてある2基の爐が8時間交代で且つ外側に裝置してある100噸の2基は1基づゝ8時間交代で運轉されて居るのである。夏季期間中の多數の日は創設當時300噸基の爐が50%も超過で、素晴しい處理能力を示し且つ外側に裝置してある100噸基のものは全能力に達した事を示したのである。そして此の能力を超過して居る間直ちに300噸基に對し、變更及增設の爲め敏速なる研究と計畫が進められたのであ

註 2 J. Eugene Root (Director Public Works, Cincinnati, Ohio); "Enlarged Incinerator for Queen City." American City, March, 1936.

る。此の裝置の外部に現はれたる明かなる變更は第2の煙突及クリンカー(石炭殻)又は灰燼ビンの構造とである。入口への斜道は、此の建物の塵芥積下し部へ導かれてあり且つ出口の方の斜道も入口と同様に此處に導かれてある。建物の中央部若くは第2階は塵芥を爐へ投げ込む床(charging floor)であり且つ第一階は火焚口のある床にして、積み下し又は焚付等は此處で工場内の人夫の手によつて行はれる様になつて居り。スチーム發生の爲めのボイラーは煙道近くの建物前部の第一階に、そして燒却爐は建物の後部に据置してある。



第2圖　改造前の1日100噸處理基

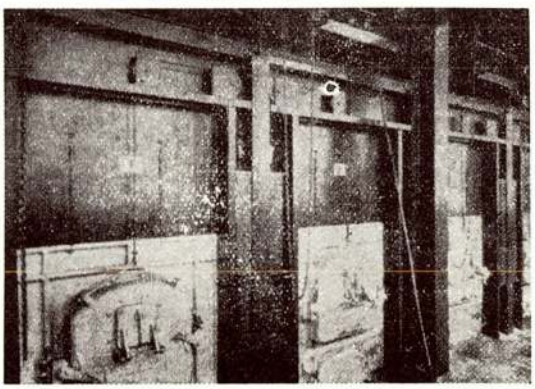
塵芥燒却の爲めに最初に据置されたのは100噸基3個であつた。その内1基は獨立して作業が出來る様に設計及構造されて居り、その他の100噸基2個は200噸基として作業する様に設計し且つ構造されてあつたのであるから此の處理裝置は100噸基、200噸基又は300噸基として運轉し得るのである。斯様に運轉された時、各々の場合、スチームの發生の爲めボイラーは煖房の目的にも設備することが出來るのである。

爐の改造に對する技術顧問と工事請負

此の都市に取つて本質的な問題は、塵芥燒却能率を300噸から400噸まで增加し得るキャパシチー增加問題であつた。此の問題の解決に關して市の援助として、顧問技術者であるFosdick 及 Hilmer の兩氏が關係する事になり、そして次の4つの、實施し得べき計畫案を發表したのである。即ち、

1) 3個の燒却爐を現在のまゝに殘しておき、そして最初に据置した時の如く一般的運轉をなす事、但し煙道の必要なる變更の爲め、煙突の增設に對し特別に獨立して居る100噸基の在來建物の最右端を利用する事及び空氣、水及他の機械設備等を建物の右端の中に納める事を除く。此の計畫に關して顧問技師は132,327·00弗の豫算を計上する事。

第3圖　改造後の新100噸處理基



2) 增設する100噸基を收容するに必要なる大さに從つて建物の右端を增築することにより、家屋に對し空氣、水及他の機械的設備を增設し、且つ煙突の增設及び煙道の必要なる變更による擴張費として151,252·00弗の豫算を計上する事。

3) 現在の100噸基に對し特別な100噸基を增設して、此の處理工場は200噸基2臺として運轉する事が出來且つ200噸基は各々獨立的に煙突に接續さす、そしてスチーム發生

及石炭及灰燼積下し設備等の爲め特別なボイラーを準備する事、現在の建物に對して内部的のものみを變更する事。以上の計畫では125,378·00弗の豫算が計上する事。

4) 單一なる100噸基を移動さす事又は新しいそして更によくまさまりの付いた200噸基として、それを再び据付け、煙道を完全に更生させ、スチームボイラーの一つを位置變へに役立つサヴースと石炭燃料にのみに利用される石炭及灰燼積下し設備の爲め新しいボイラーを增設する事、此の計畫では125,013·00弗の豫算が計上する事。

4季の間、單に役立つて來た100噸基の燒却は旣に掃除せねばならなかつたのであるが、スチーム發生の爲め、更に極まりの好い且つ經濟的な操作をなす爲め、そして在來の建物に對しその構造物の變更を最小限度にする爲め、爐の增設を準備する事が便利であると云ふ見解の下に市は4の提案を採用したのである。然し乍ら、單一100噸基の取外されたる多くの部分品又は附屬物等は設置の都合上200噸基の修繕や又は原の位置に復せしむる場合等に使用出來る樣にしたのである。

中央處理工場に對し改築と增設の爲め設計圖並仕樣書は12ヶ條の條件の下て、入札への細分又は分類が行はれたのである。そして市は1935年3月に、此の入札を受理したのであつた。けれども、此の入札に對する最初の告示がなされた後、米國の產業復興法の下では、是等の工業は、此の工業の如何なる部分でも設計圖並仕樣書の爲め支拂が制止されて運轉が持續されて居つたので(此の場合2·00弗)ボイラー又は石炭焚に就ては、是等の箇條に關して入札が妨げられて居つた事が解つた。

ボイラー並石炭焚工業に從事する人々が此の提案に贊成出來なかつた間に、市は此等二つの條項に關して請負者達からの提案を受理した。即ち12ヶ條の條件の下で、此の工事は次に示す請負者達によつてなされたのである。

1— 新設の燒却爐及煙道; ピツツバークの The Pittsburgh-Das Moines Steel 會社。
2— 輻射的煉瓦煙突; シカゴの Alphone Custodis 煙突會社。
3— 誘導式ドラフトフアン又はボイラー後部の鐵板工事; シンシナチーの Breese Bros (ブリース兄弟商會)
4— 新設水管ボイラー及在來ボイラー第1號の移築; シンシナチー Henry Niemes 塵芥燒却爐會社
5— 新設ボイラー及在來ボイラー第1號の石炭焚; Henry Niemes 燒却爐會社。
6— 新設及第1號移築ボイラーの煉瓦造据置臺; ピツツバークの Rust Engineering 會社。
7— 動力線の配線變更並增設; シンシナチーの Geerin 兄弟商會。
8— 10馬力タービン; シンシナチーの D. W. Sullivan 電氣會社。
9— 石炭積下裝置; オハヨー州コロンブスのコロンブスコムペア會社。
10— プラムビング (Plumbing) 工事; シンシナチーの The Thos. J. Dyer會社。
11— 配管カバー及び絕線器; Johns Manville Sales 會社シンシナチー支店。
12— 建物變更に關する雜工事; シンシナチーの Meyer-Hecht 會社。

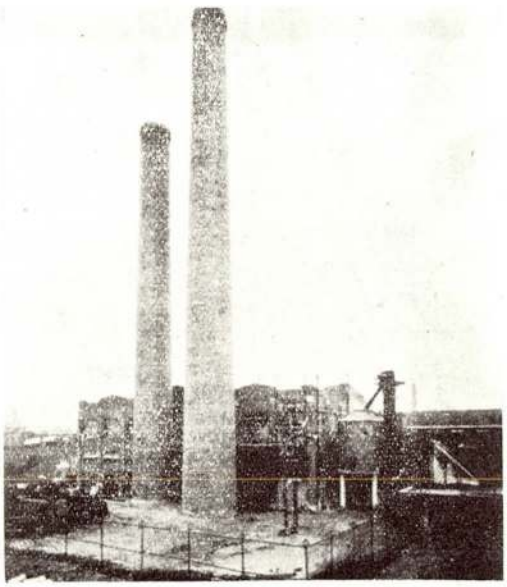
第4號の契約書の工事の內容は、在來の餘熱ボイラー (Waste heat boilers) を他の位置へ移轉させる事或は新設200噸基燒却爐の烟煙を燃燒室から外部へ吐出す煙道へ、接續させる事等より成立して居つた。第1號の契約書は、前にも必要であつた如く、ボ

イラーに如何なる瓦斯でも全然通過させないで使用が可能である様に、在來の豫熱器（preheator）を塗り變へて新しい様にする爲め再び修繕することも含んで居るのである。スペースの利用に就て之れを注意深く應用すれば、單一基としての200噸爐を据置く事は不可能であるにも拘らず尙且つ爐の周圍で故障なく充分なる操作と井戸の如き出入口を爐及火焚室の様々な部分に設け得る事を見出したのである。尙ほ此の1號契約書にはまた、爐自身のあらゆる裝置に就ては勿論、それに必要なる基礎、燃燒室の裝置及燃燒室から在來の舊マンホールの煙道まで、豫熱接續器（preheating connection）も或は又餘熱ボイラー、獨立的に利用し得る豫熱接續器の移築及新設の餘熱ボイラー等も含んで居るのである。全濕氣制禦器（Full d amper control）は様々な機關に必要なるものとして、様々な分量が通過し來る瓦斯の配置に對して注意深く設備されてある。

The Pittsburgh-Des Moines 爐の設備は現氏米國合衆國に於て運轉して居る最大の單純裝置式、高熱塵芥燒却爐であると稱されてゐる。それは、6つの小房より組織されてあり且つ豫熱氣（preheater air）はエアダクトが再整理された後に在來の1豫熱室から供給される様になつてゐるのである。各小房は灰燼ホッパーが前以て築造してある灰燼トンネル中へ空け得る様に操作される個々の獨立した設備となつてゐる。又此の小房には手にて運轉する辷込扉（Gate）が設けてあり且つコンテナー（Contanier）は新設爐の裝置に對して全く故障なく且つ構造物を殆んど變更することなく、在來の建物を適合させたのである。此の建物に關する限り、凡て構造物の變更は、請負の手にまかせてあつたのである。24時間試驗に關しては、此の爐は空から空になるまで、284噸の塵芥を燒却したのである。

4月1日に請負契約が成立し、工事が始められたのであつた。數人の請負者の共同で工事が行はれるので、新しく塗り變へられた處理裝置は、7月の下旬までに使用出來る様になすか、或は夏季の初めの塵芥が增加する時季に間に合ふ様に据置する準備が出來て居つたのである。改築と變更の爲めの總經費は、請負價額を基礎として成立して居り、且つ請負契約後の些少の變更の爲め許されて居る餘分の經費は122,814弗又は技術家の見積では2,200弗であつた。此の特別な計畫に關して、市當局は PWA[註3] の干與を利用しなかつた。

第4圖　400噸燒却處理工場として活動開始した燒却爐に備へた新しい煙突（右側の大なる方）



註3 PWA = Public Works Administration.

塵芥蒐集部の監督官は John R. Manion 氏、燒却爐の操作に關しては Anthony M. Sauer 氏が關係して居つた。改築と變更は、處理工場の維持監督官の John F. Porter 氏の監督の下で行はれたのであつた。

§ 4 シユレヴポート都市塵芥處理工場の備設[註4]

概　　要

小規模の塵芥處理工場に於ては之れまで丘地がその敷地として最も價値のあるものとされて居つたのが、現代の塵芥處理工場の如く普通の地盤面に於ける塵芥受渡箱(ビン)よりクレーンによりそれぞれ運搬し得る様な裝置になつては、此の所謂敷地の高低差と云ふことはさして重要な問題ではなくなつて來た、單に操作と云ふ點から考へても、結局は工場の能率增進と云點に就て處理工場の各建物に關する配置計畫が行はれるものである。處理工場に於ける塵芥の受渡の方法も亦工場の規模及能力にかゝつて來る譯である、"Plant" と云ふ事は完全に "layout" と云ふ事を意味して居るので、その內容はドライヴウエイ、建物、芥塵芥受箱及爐及びクレーン或はバケツ等の事柄まで凡て含まれて居るのである。但しトラベリングクレーンの場合はそれを使用するだけ充分大なる規模を備へた處理工場に於てのみ使用されるのが普通である。

大小處理工場の比較

24時に50噸位の處理能力を有する程度の小規模の塵芥處理工場の理想的配置はトラックが直ちに爐の上部の塵芥積下及投入階第三階への塵芥を推積し得る爲め建物が丘地か又は高い斜面のあるところに建てられるのが普通である。此の如き塵芥處理工場を "direct feed" 式と稱して居る。"Gravity feed" 式と云ふのは蒐集して來た塵芥を爐の上部の貯藏箱 (Storage bin) へ空ける。そこで重力により自然に爐の上部のホツパーの中に落込む様になつて居る仕組のものを云ふのである。"Conveyor feed" 式と云ふのは塵芥がコムベアーの上に空けられ、次にそれが運び上げられ爐の上部のホツパーの上に空けられる裝置のものを云ふのである。

24時間に150噸又はそれ以上の處理能力を有する大處理工場に於んる建物の理想的配置と云ふのは、灰燼積出し階(1階)に大きなコンクリート製の塵芥貯藏箱を備け、そこへ塵芥引上げ用のクレーンが下りて來て塵芥を空ける仕組にすることであると我々は信じてゐる。塵芥の入つて居るバケツはトラベリング、クレーンによつて引揚げられ且つ水平に移動して行き積下し階にてホツパーの中へ空けられるのである。積下階は原則とし爐上のホツパーの爲めに相當の餘地が用意さるべきである。

ロツカー又は化粧室等は此の階下に設けられるのである。

註4　C. E. Olschner; The Design of Municipal Incinerators, The American City, Oct., 1935.

火焚階は、爐の裝置、豫熱、ファン、ダクト等の爲めに最も能率的に活動し得る様な配置計畫をなすべきである。建築面積の經濟と云ふことは爐の周圍に好都合な面積と充分なる廣さを用意することで、それは建築家の創意（工夫力）ある努力にかゝつて居る問題である。確定的に決定してある最低の距離と云ふのが法律命令で定めてあるが、然し利便の程度を增し且燒却爐裝置に近接して更に望ましき仕事をなし得る様なコンヂションを與へ得るとせば法定の距離以上の最低距離を取り得る譯である。

3個乃至4個の燃燒火房（burning-cell）より組立てられて居る大燒却爐の一般に使用されて居る型式の爐は、一方の端又は後部に於ける燃燒室と共に一つの系統（Series）として配列されてあるものである。三つのダクトが此の室から誘導されて居り、大きい方はエキスパンションチエンバーへ導かれ、直ちに煙突へ通ぢて居るのである。小さい方のダクトはエキスパンチエンバーに達する前に豫熱室を通貫すべき燃燒瓦斯のなかを通過して來るのである。燃燒室は塵芥トラップとして作用をなし且つ煙突の近くに配置されてある煙道の擴張された部分でもある。その目的は旋回して燃燒して居る瓦斯中の塵埃を止め瓦斯のみを煙突へ通過さす作用をなす爲である。ダクト及煙道に於ける耐火煉瓦の垂直のグリルは相當に塵埃の通過を防ぐのである。それを定期的に、即ち約1週間毎に此の塵埃又は飛散する灰燼を、ショベルにて掏ひ取り此の目的の爲めに配置してある是等扉を掃除するのである。

本裝置に於ける各々の小房に於ける直接積下ホッパーの下は乾燥爐階（drying hearth floor）とし、且つバーニングゲートは鐵製として設計されてある。バーニングゲートの端は中心に小さい焚口を有す大きなギロチン型クリンカー扉がある。焚口扉を通過して來る塵芥は必要な量だけ燃えて居る火の上に掻き集められるのである。そしてクリンカー扉を通過して來る灰燼は、下部の灰燼ホッパーに對して、ダンピングート（灰燼を空けるゲート）を通過し得る程度に移動されるのである。乾燥爐（drying hearth）の下部は加熱された空氣があり、通氣裝置から濕氣を持つた塵芥を速に水分を驅除すべく加熱された空氣が流通する様になつて居るのである。送風機式及强壓送風式（forced draft）には豫熱室及モートルによるファンを結ふダクトも含むのである。爐の上部に開かれて居る取入れ用のダクトは加熱された空氣を移動し且つ爐室の通風を助成するのである。

シレヴポート塵芥處理工場の將來

シレヴポートの塵芥處理工場の設計者は次の事を信じて居つた即ち、彼等は單なる一建物内では豫め設置し得ない或る重大な特色が結合せる設計圖によつて開發し得る事を信じて居つた。更に改善された燒却爐を設置する爲めに次の望ましき要點が付加へられねばならない、即ち此の裝置に就て前以つて必要なものとしては次の數項目が擧げられる。

1. 1個の代りに2個のピンを使用の事。此の提案は一方のピンが掃除されて居る間、他の1個を使用し得る便宜がある。

2. 灰壜ホッパーを通過して爐より灰爐處理用トラックまでの直接引力式通路孔（Direct gravity passage）を設備する事。此は本質的な費用（Original cost）と作業費とを非常に減じ且つ灰爐の積込を最も單純化するのである。
3. 狹いクレーン梁（Narrow crane bridge）此れは最初の費用と運搬さるべき積荷とを減じ且つ積下を簡單にするのである。
4. 石炭焚室（Stoking room）の爲め窓による直接通風、此は通常見落して居る事柄であるが、必要な事である。
5. 塵芥處理工場に使用するトラックの爲めトラック用車庫として灰爐積下階を使用する事。此の方法は極めて僅かの經費の增加で好都合の操作が出來るのである。
6. 建築費の廉價なる事、—鐵骨構造の代りに鐵筋コンクリートフレーム架構を使用する事である。建物の設計はその必要性に適合する樣純然たる機能的なものである事。

爐の構造

シレヴポート塵芥處理工場の爐壁は絕緣煉瓦（insulatng brick）による構造で、華氏3,200度に耐ゆる13½吋壁の耐火煉瓦が柱體、控及版等の鐵骨架構の中に塡充されてゐる。床材料は耐水煉瓦、耐火煉瓦，灰爐若くは鐵筋コンクリート等である。天井は耐火粘土による平アーチ煉瓦で、表面に絕緣層3吋を有する厚13吋の釣天井である。爐火部底の各火房は灰爐を貯藏し冷却さす爲めのボッパーとして設計されてあり、且つそれは地下、床高の高さで灰爐運搬用トラックより落し込む樣に設計されて居るのである。灰爐運搬に就ての此の方法の單純性は、今日まで行はれて居つたエレヴーターに押込み、そこで約40呎位揚げそしてそれをボッパーの中へ空け、最後にトラックに積み込む裝置のものと比較された時は非常なる差異が明白になる。

鑄鐵若はニツケルクローム鐵製の移動式管が配されてある豫熱器（Preheater）は爐と同樣に壁體及天井に構造されてある。管の中を通過して居る瓦斯は循環して空氣を熱するのである、そして此の熱せられた空氣は燃燒を迅速にせん爲めに塵芥を熱することになるのである。多くの豫熱器（Preheater）は絕緣鐵板壁で構造されて居るのである。此の裝置の比較的優秀な點、最初の經費及實施に關する點等に關しては多少討論の必要かある問題である。濕氣のある厨芥等は乾燥の爲め豫熱を使用する必要があるから爐の温度は、主要燃燒室に對して華氏1,450度以上保たねばならぬ。乾燥して居る廢物又は塵芥に對しては壓縮通風を使用するの必要を認めない。

補助設備

樣々な種類の器械は此の爐を運轉する上に極めて必要なものである。電氣高熱計の記錄器は監督官室に据付、そして爐及豫熱器の温度を指示する樣にしてある。爐の前には直接讀み得る高熱計が爐の温度を火夫に告げ得る樣になつて居る。電燈式信號器はクレーンの運轉手から火夫に對して厨芥の種類とそれを處理する特別爐の種類を通告する樣に構造されてある。烟煙及惡臭は温度が華氏1,200度以下の時に發生するものであるから、完全燃燒の爲めには温度は最低限度以上を保持する事を要求されて居る。

空氣壓縮器及貯水タンクは爐の上部の塵芥用ホッパーの上の塵芥積下し扉（charging gate）及1階の天井にある灰爐ホッパー扉（ashhopper gate）の爲めに設備してあるのである。シレヴポート處理工場の煙突は高150呎あり輻射煉瓦で建築されてあつた。底部に於ける外部輻射煉瓦壁は、17吋の厚さを有し頂上部に於ては7½吋の厚さである。煙突は外部にて14呎5吋の直徑を有して居る。且つ内部は一等品耐火煉瓦で區劃され孔徑内法6呎6吋あり、壁厚は底部に於て13½吋にして頂部に於ては4½吋ある。耐火煉瓦裏地の現はれる部分の周圍には垂直のコルセット及鋼鐵の水平帶は、熱の爲めに内部が膨脹した時耐火煉瓦煙突内部の破壞に對して裝置してあるのである。

鹽の如き光澤煉瓦（Salt-glazed brick）の腰羽目が事務室、ロッカールーム、化粧室及作業所等に使用してある、そして敷石タイル床は小さい室に使用してある。凡ての床、壁體及ビン等は燒却作業終了後毎日、毎日摩り磨き且つ殺菌が施されるのである。

建物及凡ての設備に對する設計と完様書の完成は技術家の手によつて作成された。主要なる燒却爐會社のあらゆる設計圖が比較研究され且つ各會社が同じ基礎の上で競爭が出來る様に設計圖が描かれ仕様書が書かれたのである。設備と材料を記載するのに付け加へて次の保證（Guarantee）又は最大並最小に關しては請負の主要なる條件とを示して居る。

保　證（Guarantee）

必要なる設計標準のもとで請負者入札によるによつて施工が行はれる場合それに對する入札保證の條件は次の如き程度の下で實施されるのである。

1. 運轉中の爐（furnace）の温度は何日でも華氏1,250度を下らざる様繼續的記錄を確保せばならぬ且つ試驗中の平均温度は各燃燒室に於て平均温度華氏1,450度を下るべからず。
2. 爐の試運轉中何日でも豫熱室（Preheater）の空氣温度は華氏400度を下らざる様繼續的記錄を確保すべし。
3. 試驗中煙突より吐出す煙は合衆國地質調査局（U. S. Geolo gical Survey）に依つて提供されたるレイゲルマンの煤烟測定規格（Ringleman's smoke scale）第1號の圖表の標準より暗黑又は稠密の程度を越ゆるべからず。
4. 試驗中如何なる場合でも煙突の頂上口より塵埃を吐すべからず
5. 試驗中如何なる場合でも爐及その附屬設備の作業により惡臭を出すべからず。
6. 各爐から殘餘物は燃燒し得べき組成物の殘らぬ様徹底的に燃燒され乾燥された灰爐となすべし。
7. 此の燒却裝置は補助燃料を加へずして入札請負に於ける契約の割合以上の燃燒率であるべし。
8. 正面若は側面の壁に對して平行に、そして床又は側壁に對しては垂直の斷面を取り、各燃燒室に於ける瓦斯の速度は、試驗中如何なる時でも毎秒15呎の最大限を超過すべからず。
9. 材料及施工に關する凡ての事は工事完成後1年の期間、之れを保證すべし。
10. 煙突建築者は工事完成後1年間瓦斯の熱度、風又は氣候による如何なる破損又は破壞に對しても、凡て煙突の材料、施工及設計の安全なる契約保證に備へ得るべし。

最大限と最低限

1. 燃燒室の大さ（立方呎で現す）は、普通の割合で24時間に付1噸の處理能力を有するものとして

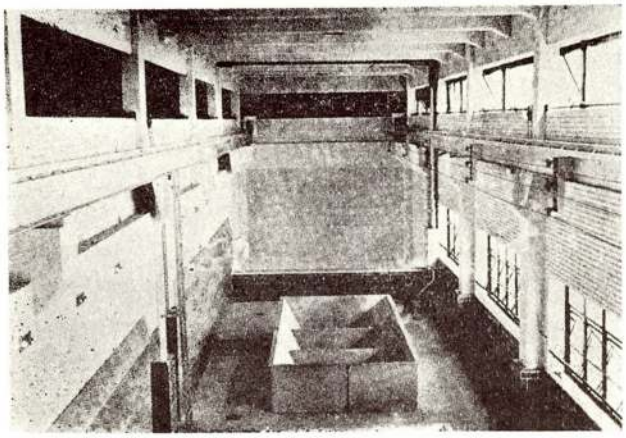
各邊の長15呎を下るべからず。

2. 爐（furnace）の大さは、普通の割合で24時間に付1噸の處理能力を有するものとして各邊の長さ11呎を下るべからず。爐の深さは8呎9吋以上にして且つ幅員は5呎9吋以上たるべし。
3. 壓縮空氣の量は、普通の割合で塵芥を處理するものとして重さ1封度に付き5封度を下るべからず。
4. 豫熱室の面積は普通の場合で24時間に付1噸處理し得るものとして各邊の長7·5呎を下るべからず。
5. 各灰燼ホッパーは火焚室の床高以下に於て72立方呎の收容力を下るべからず。
6. ゲートの有効廣さ（其處に最後の燃燒室が配置してある）は1平方呎毎に50封度以上の割合で、厨芥や廢物を燒却し得る樣に設計すべし。但し乾燥爐若くは埋殺（ウメゴロ）し鐵板を除く。
7. 乾燥爐（drying hearth）は幅24吋を下るべからず。
8. 煙胴の壁と建物外側の如何なる壁體でもその間4呎以上の間隔を保つべし。
9. 二つの爐の集團の間隔は尠くとも6呎以上、そして爐の終端に於て後部建物の壁體の間隔は5呎以上保たすべし。
10. 各爐の正面に於ける火焚スペースは爐の正面と最も近い壁體又は障碍物との間隔が尠くとも14呎を保たすべし。
11. ゲートの塵芥を空ける部分の斷面は18吋×36吋を下るべからず又は同等のものが機械的に操作されるものたるべし。
12. 塵芥受ピンは水量で400立方碼以上の收容力を持つものたるべし。
13. 塵埃を堆積させ若くは、飛散して居る灰燼を處理し又は塵埃及灰燼を爐から運搬する爲めダストポケットを設備すべし。
14. クレーン、地階及清掃に就て同樣な設備は技術者の計畫に從つて之れを行ふべし。
15. 各燃燒室から誘導されて居る主要煙胴或は主要煙胴の集團の縱橫斷面積は27平方呎以上たるべし。
16. 各豫熱室に焰瓦斯（flue gus）を通過させる各々の煙胴若は煙胴の橫斷面積は12平方呎を下るべからず。
17. 兩方の爐から混合した焰瓦斯を通過さすところの如何なる主要焰道でもその橫斷面積は50平方呎を下るべからず。
18. 各豫熱室から焰の瓦斯を通過させる各焰道又は焰道の集團は12平方呎を下るべからず。

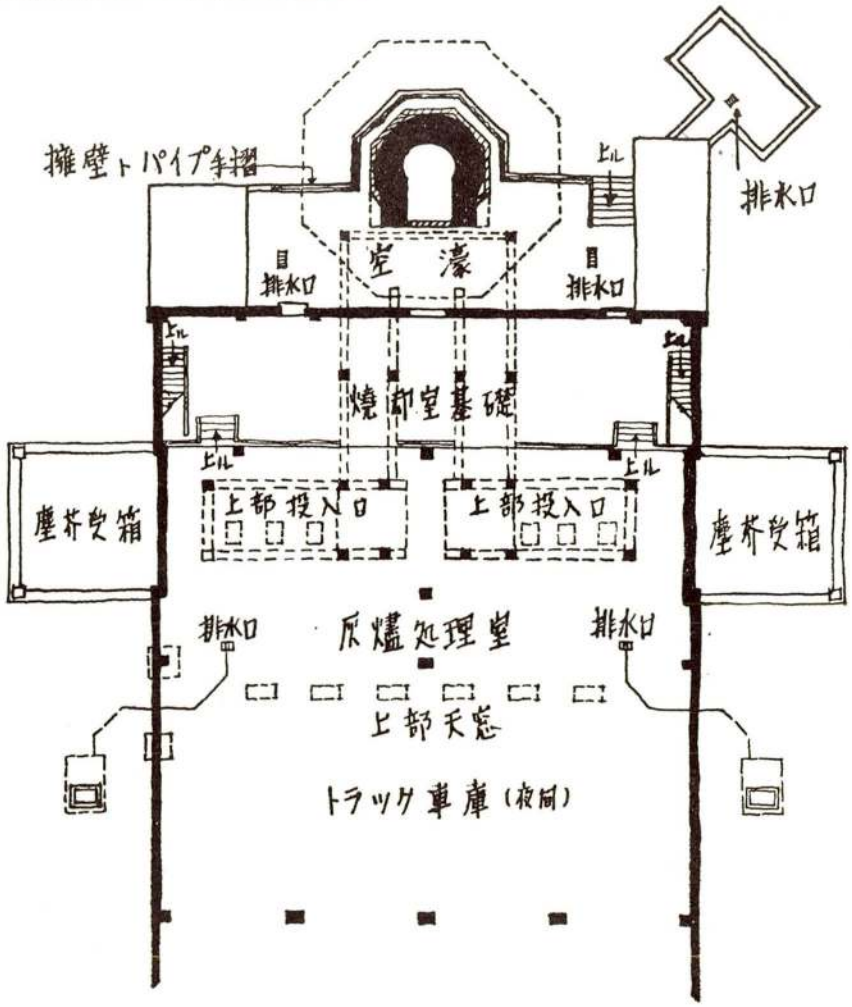
シレヴポートの塵芥處理工場はダールステキサスの A. J. Rife 及 H. E. Burns 氏に依つて建築されたのであつた。爐の設計は H. E. Burns 氏によるものであるが、爐の能力と塵芥處理工場の設計の主なる人々は下に擧げた技術家の諸氏による、仕樣書に負ふところが多いのである。

建物と設備に對する設計には Jones, Roessle, olschner 及 Wiener 等の諸氏が參加して居る。

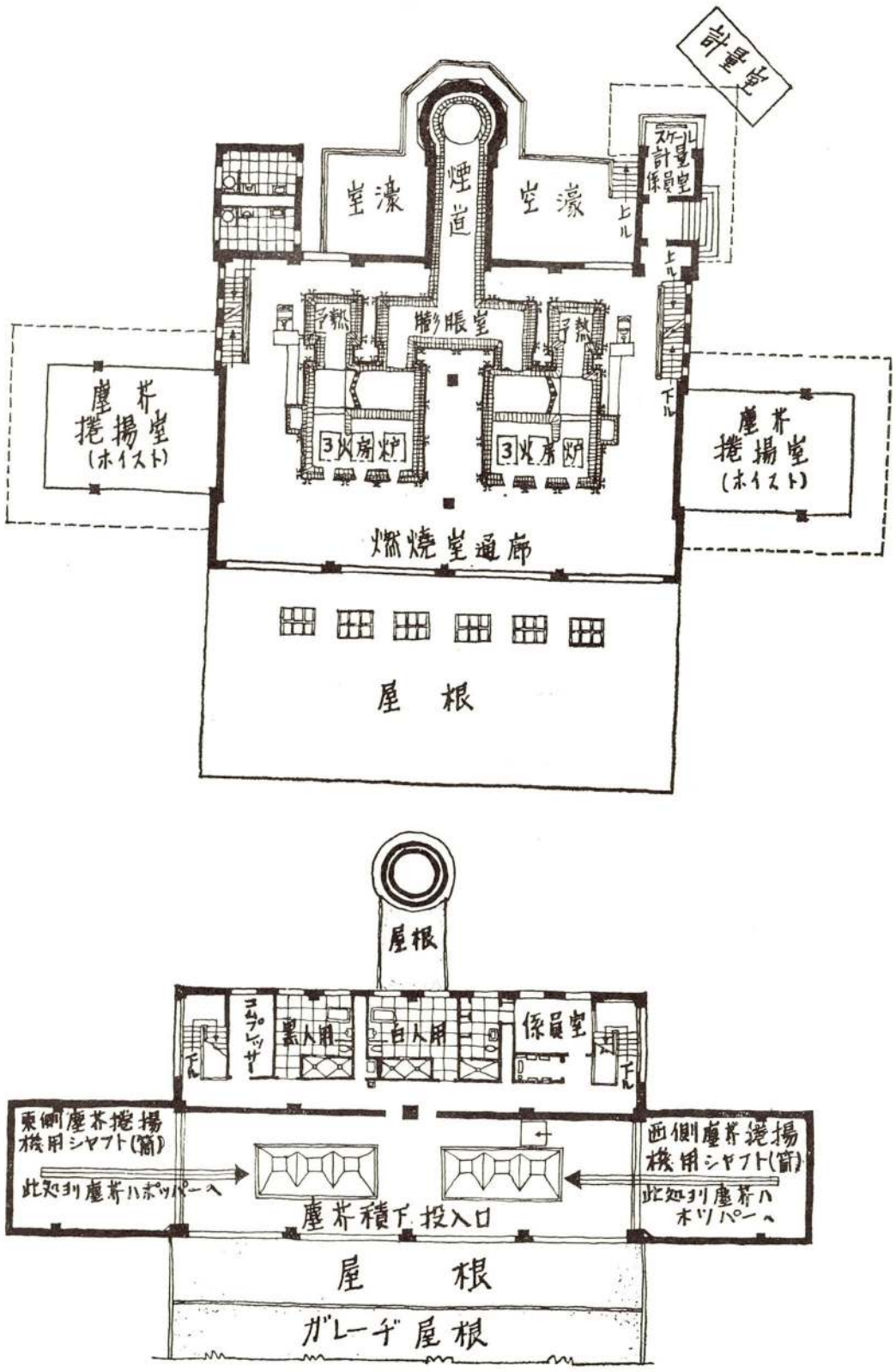
工場建設の總經費は、鋪裝、ガレージ及技術家への報酬等を含めて180,000弗であつた。尙ほ此の計畫は公益事業部（P.W.A）の一部分であつた。



第5圖　シレヴポート塵芥處理工場の塵芥積下し並投下階に於けるホッパークレーンレールを示す。



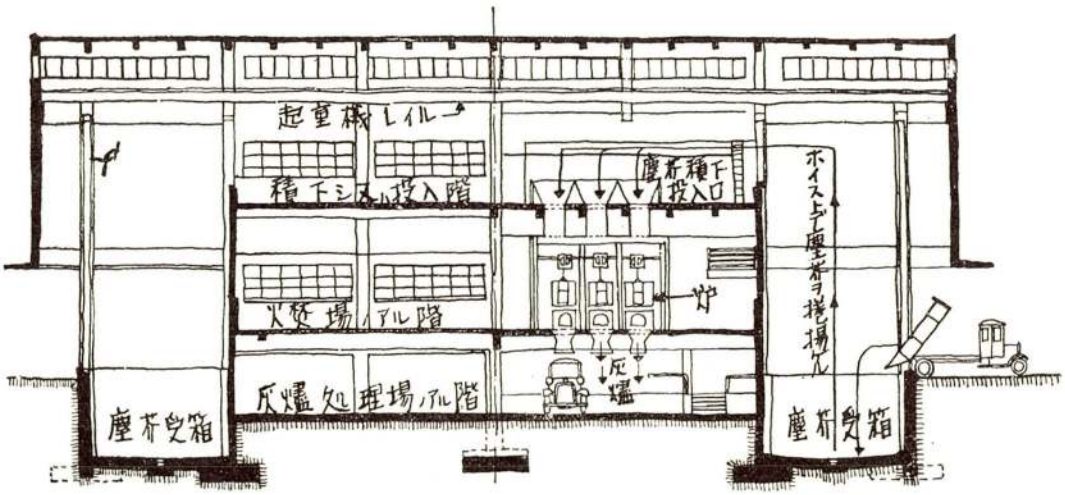
1階灰燼処理室平面図


計量室
煙道
濠
濠
スケール計量室係員
上ル
上ル
上ル
下ル
撮影眼鏡室
3火炉
3火炉
塵芥捲揚室(ホイスト)
塵芥捲揚室(ホイスト)
燃焼室通廊
屋根
屋根
ユムプレッサー
黒人用
白人用
係員室
上ル
下ル
東側塵芥捲揚機用シャフト(筒)
此処ヨリ塵芥ハポッパーへ
塵芥積下投入口
西側塵芥捲揚機用シャフト(筒)
此処ヨリ塵芥ハホッパーへ
屋根
ガレーヂ屋根

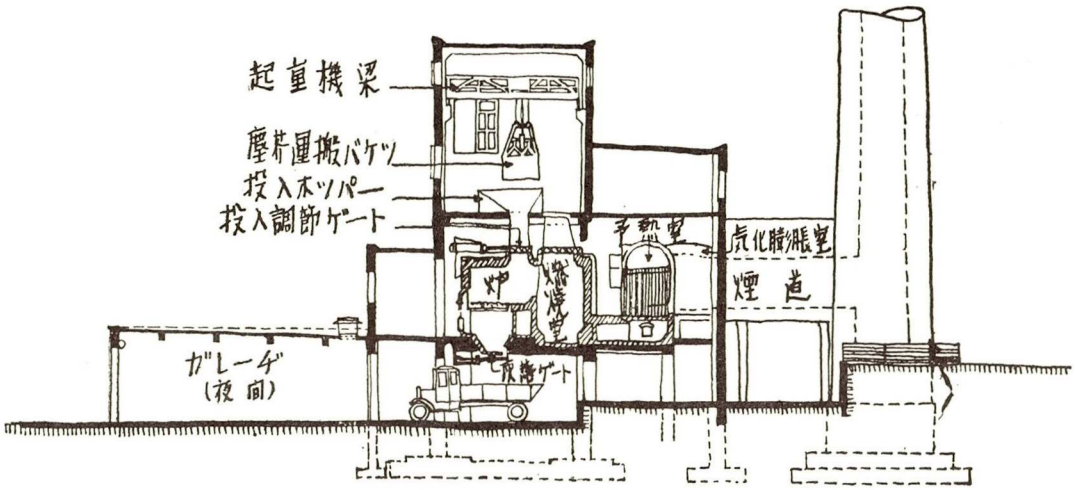
3階 塵芥投入室平面図


3階又は塵芥投下投入階
2階又は灰燼重階
塵芥受箱
1階又は灰燼処理階

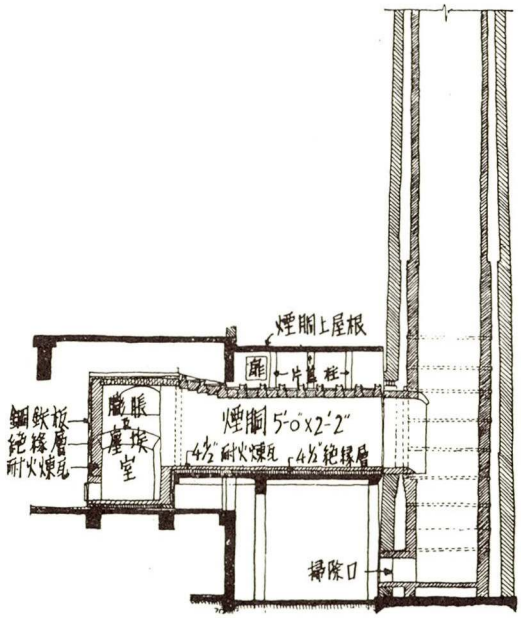
西側立面図


起重機レイル
積下シュート投入階
塵芥投下口
ホイスト塵芥ヲ捲揚ル
炉
灰燼
灰燼処理場ノアル階
塵芥受箱
塵芥受箱

縦断図



横断図



エキスパンションチャンバー及煙突断面

大阪市内工場通勤者距離調査

工場調査表Ⅰ

地域	所轄警察署	
		殿

記入注意事項	調査年月	※昭和　年　月

1. 「※」印ノ項ニハ記入セザルコト
2. 數字ハ總ヲ算用數字ヲ用フルコト
3. 一團ノ「寄宿舍」及「社宅」夫夫一箇所以上ヲ有スル工場ニアリテハ此ノ書式ニ依リ別ニ下欄ニ追加記入ノコト
4. 「始業時刻」及「終業時刻」ニハ二部制ヲ採用セル工場ニアリテハ此ノ書式ニ依ヲ別ニ上欄ニ記入ノコト
5. 工場ヨリノ距離二十以内ノ「居住地」ハ「區　町　丁目」又ハ「郡 町村 字」ニ夫以外ノ「居住地」ハ「區」又ハ「郡 町村 」ニ分カチテ夫夫ノ數ヲ記入ノコト
6. 「寄宿舍」又ハ「社宅」ヨリノ通勤者ハ之ヲ徒歩通勤者ト見做サザルコト
7. 「徒歩通勤者」以外ノ通勤者ハ徒歩ヲ併用スル場合ト雖モ之ヲ徒歩通勤者トシテ算入セザルコト
8. 「片道所要時間」及「一人一箇月運賃」ハ住居ヨリ工場迄ニ要スル概數ヲ記入ノコト
9. 欄外「頁」ニハ「工場調査表Ⅱ」ノミノ頁數ヲ記入ノコト

都市計畫上ノ工場主ノ希望	

註　記入注意事項「※」記入不要とあるは都市計畫大阪地方委員會に於ては曩に之等記事項を調査したるによる。

番號	※			工場法ノ適否	※			工場種別			
工場名											
所有者名											
位置	區　　町　　丁目　　地										
事業ノ種類	※										
原料	※										
敷地面積	現	※	坪	大正十四年現在	※	坪	地價				
建築面積	在	※	坪		※	坪					
職工數	男	※		女	※		計	※			
原動機馬力數	電氣	※		瓦斯	※		石炭	※	石油	※	
		※			※			※		※	
煙突	高	※		口徑	※		構造	※	燃費料消量	※	
		※			※			※		※	
煤煙防止裝置	有無			個數			裝置ノ大要				
用水	公共上水道ノ有無			地下水質ノ良否							
	井戸ノ個數			鑿穿井戸ノ有無			鑿穿井戸ノ個數				
排水	附近ニ公共下水道ノ有無			自家用汚水淨化裝置ノ有無							
道路	主要出入口ニ面スル道路ノ幅員							尺			
寄宿舍	位置	區郡　町村　字　丁目					工場トノ距離		町		
	收容人數	男			女			計			
社宅	位置	區郡　町村　字　丁目					工場トノ距離		町		
	戸數				家族總人數						
定休日											
始業時刻	自　月　日至　月　日						午　時　分				
	自　月　日至　月　日						午　時　分				
終業時刻	自　月　日至　月　日						午　時　分				
	自　月　日至　月　日						午　時　分				
運輸方法	種類	最近一箇年ノ總數量	工場出入口ニ於ケル運輸機關								
			自動車		荷車		汽車		船舶		其ノ他
	原料	約　　廻	約	%	約	%	約	%	約	%	約 %
	生產品	約　　廻	約	%	約	%	約	%	約	%	約 %

工場調査表 II

居住地			職工數			
	工場ヨリノ距離	位置	男	女	小人	計
	約　町	區　町　丁目 郡　村　字				
	約　町	區　町　丁目 郡　村　字				
	約　町	區　町　丁目 郡　村　字				
	約　町	區　町　丁目 郡　村　字				
	約　町	區　町　丁目 郡　村　字				

輓近、都市內の工場と其の勤勞者の居住地との凡ゆる關係は、都市計畫上最も興味あり且最も肝要なる問題として取り扱はれてゐるが、本資料はこの見地より昨年末都市計畫大阪地方委員會にて實地調査し最近完成せられたるものの紹介である。其の精細なる報告は他日の稿に讓ることとする。本稿は其の結論である。

尙本資料は曩に都市計畫大阪地方委員會に於てなされたる、「大阪市に於ける勤勞者住宅の分布調査」（大阪市に於ける官公衙、銀行、會社、新聞社、商店、百貨店、ビルディング、車庫の代表側なるもの72を選びて調査せるもの）の續篇とも見らるべきものなるを以て、該調査をも併せ見らんことを希望して已まない。（「建築學研究」77號揭載）

本表に於て明なる如く、工業勞働者の大部分は工場の附近に居住するを一般とする。この事實は、一面交通上寔に好都合であるが、他面これ等の住居が工場から發生する煤煙、有毒瓦斯、臭氣、騷音其の他衞生上、保安上の危險に曝されること多く、斯くては都市計畫の根本觀念に離反する。從つて、住居を工場の風上に置き而も其の間に適當なる綠地を配して徒步通勤に便ならしむるの勞を取るか、或は、工場數、收容人員數、出勤時刻等を特に考慮せる安價なる交通機關の施設が肝要であらう。　（吉田信武）

1 調査の目的

工場に勤務せる職工、事務員其の他に就き、居住地の工場よりの距離竝に利用乘物（徒步、自轉車、電車汽車乘合自動車別）の如何（工場調査表Ⅱ）を調査せんとするのが其の主要目的であるが、尙この他、寄宿舍、社宅、定休日、始業終業時刻及び貨物の運輸方法、（工場調査表Ⅰ）をも併せ知らんとせるものである。

2 調査の範圍

大阪市內に於ける使用職工數100以上の全工場に就いて調査せんとするも、種々の都合上、其の中、染織工場47、機械工場44、化學工場59、特別工場35、飮食品工場7、雜工場22、合計214に限定したものである。

3 調査の期間及び方法

昭和10年4月乃至10月

工場名													頁	
事務員其他ノ數			計	徒歩通勤者		自轉車通勤者		電車・汽車乘合自動車通勤者			其ノ他人數			
男	女	計		人數	片道所要時間	人數	片道所要時間	人數	片道所要時間	1人1箇月運賃				

先づ圖の如き工場調査表ⅠⅡを大阪府警察部より各警察署を經て各工場に配布し、各項に適當なる事項を記入せしめたものであるが、特に大阪府警察部建築課の助力に具ひし點甚大である。

4 調査の結果

比較研究を易からしめんため、曩に大正15年同じく都市計畫大阪地方委員會に於いてなしたるもの併記しておいたが、就中通勤者距離に於てゝ回は前回に比し、10町乃至20町のものが稍增加し、又汽車電車等の利用者が增加してゐることは興味あることと思はれる。

第1表　大阪市內工場(使用職工100以上、214工場)通勤者距離表—昭和10年調査

距離	職工			事務員其の他		計	百分比
	男	女	小人	男	女		
5町以下	15,993	28,262	751	2,323	406	47,735	53.36
10町以下	6,468	3,134	303	781	97	10,783	12.05
20町以下	7,462	2,466	288	1,084	105	11,405	12.75
1里以下	5,334	1,313	162	932	102	7,843	8.77
2里以下	4,707	810	114	980	115	6,726	7.52
3里以下	2,033	137	31	468	35	2,704	3.01
3里1町以上	1,535	39	21	656	18	2,269	2.54
計	43,518	36,165	1,670	7,224	878	89,465	100.00
百分比	48.65	40.42	1.87	8.08	0.98	100.00	

第2表　大阪市内工場（使用職工100以上、170工場）

通勤者距離表——大正15年調査

距離	職工			事務員其の他		計	百分比
	男	女	小人	成年	少年		
5町以下	16,163	25,170	2,420	2,657	170	46,850	56.81
10町以下	6,593	3,148	358	625	48	10,771	13.14
20町以下	6,486	1,781	326	802	92	9,487	11.57
1里以下	5,629	961	163	935	42	7,730	9.41
2里以下	3,260	332	67	689	32	4,380	5.34
3里以下	1,124	44	10	476	8	1,662	2.03
3里1町以上	626	18	9	718	9	1,380	1.68
計	39,881	31,453	3,358	6,902	401	81,990	100.00
百分比	48.64	38.36	4.09	8.42	0.49	100.00	

第3表　大阪市内工場（使用職工數100以上）通勤者乘物別距離表

距離	昭和10年			大正15年			
	徒歩	電車・汽車乘合自動車	自轉車	寄宿	徒歩	汽車電車	其の他
5町以下	12,801	104	326	27,357	19,132	47	44
10町以下	6,924	115	495	8	10,499	185	79
20町以下	4,723	1,753	1,564	102	7,774	1,315	296
1里以下	1,205	2,837	1,713	317	2,047	4,421	945
2里以下	115	3,335	816	17	163	4,018	182
3里以下	30	1,538	238		9	1,623	30
3里1町以上	74	1,603	130		1	1,374	5
計	25,872	11,288	5,282	27,801	39,625	12,983	1,581
百分比	61	27	12	34	48	16	2

第4表　大阪市内工場(使用職工數100以上、214工場)

通勤者乘物別所要時間表——昭和10年調査

	歩　　徒		汽車・電車乘合自動車		自　轉　車	
	實　數	百分比	實　數	百分比	實　數	百分比
5分以下	7,207	23.93	13	0.09	370	6.18
10分以下	8,984	30.60	256	1.86	924	15.44
15分以下	4,533	15.44	544	3.96	1,237	20.67
20分以下	3,624	12.34	987	7.18	1,193	19.94
25分以下	1,409	4.80	838	6.09	529	8.84
30分以下	1,625	5.53	2,181	15.85	848	14.17
40分以下	1,388	4.73	2,791	20.29	463	7.74
5分以下	587	2.00	2,222	16.15	222	3.71
1時間以下	126	0.43	2,327	16.91	123	2.06
1.5時間以下	9	0.03	1,405	10.21	53	0.89
2時間以下	27	0.09	169	1.23	2	0.03
2時間1分以上	24	0.08	25	0.18	20	0.33

南海地動研究所現況報告

(昭和10年1月より同年12月に至る)

南海地動研究所は近畿及び南海道地方に於て將來大地震若くは地震津浪が發生する様な場合、其の前徴たる諸現象を觀測するのを其の目的として設立されたもので次は最近の事業報告であります。

南海地動研究所事業報告

(一)不斷觀測の結果

和歌山地方に發生する地震に就ては前に詳報してありますが、該地方の地震活動は漸次に衰退の趨勢を辿り乍ら、終熄の狀態には容易に近づかない狀勢を示してゐます。

地動觀測所に於ける地盤傾斜の觀測に關する件は只今研究の緒に就いただけでありまして別段に報告すべき程のこともありませぬ。

中村東北帝大教授の紀伊半島に於ける磁力實測の結果、地殼變動の前徴に類似する現象

が觀察されたといふので問題となつてゐますが、吾々も此際不斷觀測の結果を纏めて見る必要を感じ串本竝に室戸兩檢潮所に於ける實際の結果を整理して研究して見ましたが、昭和九年末に至る範圍に於ては半島傾動が依然として南下りに同じ步調を以て進行して居り別段な異常を呈してゐないことが分りました。之に關して、大阪每日新聞（昭和10年4月5日）は串本檢潮所檢査結果として昭和9年度に於ては平均海水位が異常に低下した事實を指摘し、半島傾動が方向轉換を始めたのではないかとの疑問を發したのでありますが、當所の調査によれば此の水面低下は週期性のものであつて日向細島の檢潮記錄も全く同樣の變化を示せることにより、之れが地盤傾動の方向轉換を意味しないことが、明白になりました。

（二）臨時觀測の結果

昭和9年度に於ては大阪市土木部に依賴して、大阪市街地に水準點を增設の上、全般の再測を實施することになつてゐました。之によりて先づ舊水準標の示す陸地變形が分つたのでありますが、それは參考書類第一に論じた通りであります。即ち第1圖點線の圍む大阪北部の三角地帶は著しき沈下を繼續してゐますが、右の中、水準點235·2、236、237、231、231·1、10695を含む區域（下に記す丙區域）と10696、10697を含む區域（下に記す乙區域）とは相異なれる運動をなしつつあることが分ります。市土木部に於ては昨10年9月乃至12月市內95個の水準點につき再測を施行したのでありますが、之に由て問題の地域變形の全貌が始めて明白となりました。即ち此地域は次の通り3個の小地域に細分して、各自の運動をなしつつあるのであります。各自の運動は略ほ平面的であつて次に記すは其の平面の1年間に於ける傾動竝に傾斜軸の沈下であります。

（甲）三角地帶の北部……南88°東から北88°西の方へ4·3秒傾き軸線は6·0糎沈下。

（乙）三角地帶の中西部……北24°東から南24°西の方へ0·87秒傾き軸線は5·1糎沈下。

（丙）三角地帶の南部……南30°東から北30°西の方へ2·7秒傾き軸線は4·1糎沈下。

特に今回の測量結果によりて丙區域の東部境界が一層明瞭に推定せられ、それが斷層型に起りつつあることが分つたのは特筆すべき價値のあるものと思ひます

（三）將來の施設

中村敎授の研究は磁力伏角の臨時實測の結果に據りましたので、詳細な模樣が不明に屬し遺憾な點があります。當所にては其の不斷觀測を實行して、大地變の前徵となるべき何物をも見落さない樣にしたく、先づ田邊地動觀測所に於て、其の施設をする豫定であります。

紀井、室戸兩半島の傾動を一層確實に觀測する爲、田邊地動觀測所にある平均潮位自記裝置と同樣のものを數ケ所に增設したく其の準備をしてゐます。

（以上2件に就ては昭和10年度に於ける大阪・東京朝日新聞社寄附金を以て其の費用に充てることに致してゐます。）

家　具　標　準　仕　様　書

従來家具の製作に當つて、設計者又は施主の側に於て仕様書を作成する場合は極めて少く、大抵は、設計圖と大略の材料の指示とに依つて、製作者の信用ある工作に信頼するのが通例であり、たまに仕様書を添附するものがあつても、價格と適應せざるものや一部分の施工程度のみを不均衡に嚴格にするに過ぎないもの等が非常に多かつた。

家具裝飾協會の作成になる「家具標準仕様書」はこの點我々設計者に取つて大に參考になるものがあるから茲に揭載することとする。原案は昨年夏頃に作られたものであるが今回發表のものは各方面の專門家、設計者等の意見を徴してそれを修正したものである。

家具標準仕様書

A　クラス家具仕様書

木　材　ノ　部

此ノ級ノ家具ニ使用スル木材ハ内地產又ハ外國產ノ高級材ノ心去リ、無節、無疵、木理色合均等ナル優良材ニシテ見本通リソモノヲ使用スルモノトシ、何レモ天然乾燥ニヨリ含水率25％内外ニナシ更ニ人工乾燥法ニヨリ攝氏43度(華氏約110度)ヨリ攝氏71度(華氏約160度)ヲ以テ乾燥且殺菌シ、含水率平均内地需要品ニ在リテハ８％乃至13％鮮滿其ノ他濕度低キ方面ノ需要品ニ在リテハ５％乃至８％乾燥セシメ、尙５日間以上室内ニ於テ外氣ニ觸レシメタルモノトス。

特製ベニヤ用ノ藝材ハ割レ、腐レ、節、目切レ等無キ良質ノ朴、檜、杉、ホワイトパイン等ヲ構造ニ適合スル寸法ニ製挽シ、人工乾燥法ニヨリ含水率ニマデ乾燥シタルモノタルベシ。

ベニヤ上張化粧薄板ハソードベニヤ、スライスドベニヤ、ロータリーカットベニヤノ３種ノ中指定ノ優良材ヲ用ヒ、何レモ人工乾燥法ニヨリ品質ヲ損セザル樣表面鏃延ベヲナシ、含水率５％程度ニ乾燥スルモノトス。

羽目板ノ如キ薄キ特殊ベニヤ板ハ優良薄板３枚合セ以上ノベニヤ板ヲ藝材トシテ指定通リノ厚サヲ有スル合板トナシ、人工乾燥法ニヨリ含水率８％以下ニ乾燥シテ使用スベシ。

ベニヤ構造ノ部

天板、側板、羽目板等ノ幅廣面ハ總テ次ノ方法ニヨル優秀ベニヤ式ヲ採用シ前述ノベニヤ藝材及指定ノ上張薄板ヲ使用スルモノトス。各材ノ木理ハ交互直角ニ使用シ、化粧上張板ハ材力ノ平衡ヲ保タシムル爲兩面共同質材ヲ使用シ、膠着乾燥後ニ材質ノ内外部ニ力ノ不均衡ニ因ル狂ヒノ生ゼザル樣入念ニ施工スルモノトス。

膠着劑ハ耐水、耐熱性强大ニシテ膠着力完全均一ヲ保チ濕氣ニ遇フモ汚點ヲ生ジ又ハ蟲害ヲ受ケ或ハ變質セザルモノヲ用ヒ、其ノ粘稠度、均一度等膠狀ニ最モ注意シ、肌離レ、空虚等ヲ存セザル樣グルースプレッダーヲ用ヒ、平均ニ充分塗布シ、毎平方糎ニ付７瓩(毎平方吋ニ付百封度)以上ノ壓力ヲ加ヘ、然ル後クランプヲ掛ケ膠着劑ノ充分ナル硬化ヲ俟チクランプヲ除去シ含水率８％以下ニ乾燥セシムルモノトス。

ベニヤ幅廣面ノ仕上ハ極メテ入念ニ鉋掛ケヲナシサンダーヲ以テムラ無キ樣最上ニ仕上グルモノトス。

家　具　構　造　ノ　部

1 指物類　各面止メ、胴付キ、小穴枘等ハ現寸圖ノ指示ニ從ヒ入念ニ施工スルモノニシテ、枘ノ長サハ木厚ノ3分ノ2以上トシ、組立ニ際シテハ一應假組ノ上目違ヒ其ノ他ニ付充分注意シ、完全ニ

ナシタル後枘穴、枘等ニ膠着剤ヲ充分ニ塗布シテ固メ込ムモノトス。

各板類ノ接合ハ本實矧ギトシ、堅木ノ楔ヲ20糎—25糎(78寸)間隔ニ割當テ堀込ムカ又ハ9粍(3分)ボールトヲ以テ締付クルモノトシ、尚各局部取付ノ要所ニハ必要ナル補強材ヲ使用シ一層堅牢ニ取付クルモノトス。羽目板ハ特ニ組立前ニ指定ノ色合ヲ以テ小穴入レシロ部ヲ塗裝シタル上組立ツベシ。抽出ノ前板、側板ノ組合セハ鳩尾差トシ、向板ハ箱組差トナシ材料ノ指定ナキ限リ内部ハ桐材ヲ使用ス。

抽出側板ノ底部ニハスベリ良キ硬質材ヲ矧ギ付ケ底板ハ揚ゲ底トナシ、各抽出ノスレ桟ハ磨滅ニ耐エ得ルスベリ良キ硬質材又ハ特殊金物ヲ使用シ、各抽出ノ中間ニハ仕切板ヲ入レ底部ハ下張リヲナシ入念ニ仕上ゲルモノトス。

2 椅子類 材料ハ見エ隠レ材ト雖モ蟲害又ハ割レ、腐レ等無キ檜、櫻、朴、桂等ヲ選ビ、各仕口ハ全部枘差トシ、其長サ木厚ノ3分ノ2以上入レ込ミ膠着剤ヲ以テ充分堅固ニ組立テタル上、木螺子又ハ竹ノ込栓ニテ完全ニ枘ヲ固メ、各要所ニハ充分ニ補強材ヲ取付ケ、尚必要アル時ハ補強金物ヲ使用シ入念ニ施工スルモノトス。

塗　裝　ノ　部

塗裝ハ木地ヲ充分ニ檢査シタル後仕上ゲ、完全ナル木地ニ充分研磨ヲナシ見本通リノオイルステ.イン着色ヲ施シ1晝夜間放置、乾燥セシメ、然ル後精製ラックニスニテ色止メヲナシタル上ウツドフイラーヲ以テ完全ニ目止メヲ施シ、更ニ1晝夜間放置、乾燥セシメペイントスプレーニヨリシーラー1回塗リペーパー掛ケノ後クリヤーラッカー3回塗リヲ施シ、毎回毎ニ水ペーパー當ヲナシ2晝夜間以上乾燥シタル上、最後ニラッカーポリッシュニテ最上級ノ磨キ上ゲヲナシ、耐熱、耐酸、耐濕タラシムルモノトス。

椅　子　張　ノ　部

敷、脊及ビ肘等ノスプリングハ各椅子ノ形狀、大キサニヨリ番級及ビ使用個數ヲ異ニスルモ品質ハ最高級綱線銅鍍金ノスプリングヲ使用シ、スプリングノ間隔ヲ4.5糎(1寸5分)以内トナシ、力裂ハ6糎(2吋半)以上ノ高級品ヲ使用シ充分ニ引張リ折返シトシ特製烏釘ニテ堅固ニ釘止メヲナシ、良質ノワイヤー又ハ螺引玉糸ニテスプリングヲ縦横筋違ニ結束シ、9巻以上ノスプリングハ中吊ヲナシ340瓦(12オンス)以上ノ上等麻布ニテ被ヒ束土手ヲ造リ2重差トス。

詰物ハ極上等馬毛ヲ充塡シ詰物ノ移動セザル様完全ニ糸止メヲナシ、雲斎又ハキヤラコヲ以テ下張ヲナシ、良質布團綿ヲ敷キ指定ノ上張材ニ體裁良ク圖面通リノ張仕上ゲヲナスモノトス。
底張ハ體裁良キ布ニテ張上ゲベシ。

其ノ他ノ材料ノ部

上張材、クッション詰物、金物、ガラス、大理石等ハ見本ニヨリ指定サルベキモノトス。

B　クラス家具仕様書

木　材　ノ　部

此ノ級ノ家具ニ使用スル木材ハ何レモ心去リ無節、無疵、木理、色合略々均等ナル良材ニシテ、見本通リノモノヲ天然乾燥ニテ含水率25%内外ニナシ、更ニ人工乾燥法ニヨリ攝氏43度(華氏約110度)ヨリ攝氏71度(華氏約160度)ヲ以テ乾燥且殺菌シ、含水率平均8%乃至15%トナシタルモノトス。

特製ベニヤ用ノ蔬材ハ割レ、腐レ、節無キ良質ノ米松、檜、杉、エゾマツ材等ヲ構造ニ適合スル寸法ニ製挽シ、人工乾燥法ニヨリ前記ノ含水率ニマデ乾燥シタルモノヲ使用スベシ。

ベニヤ上張化粧薄板ハ、ソードベニヤ、スライスドベニヤ、ロータリーカットベニヤノ3種ノ中指定ノ良材ヲ用ヒ品質ヲ損セザル様表面鬱延ベヲナシ、含水率5%以下ニ乾燥スルモノトス。

羽目板ノ如キ薄キ特殊ベニヤ板ハ3枚合セ以上ノベニヤ板ヲ蔬材トシテ指定通リノ厚サヲ有スル合板トナシ、含水率10%以下ニ乾燥スルヲ要ス。

ベニヤ構造ノ部

天板、側板、羽目板等ノ幅廣面ハ總テ次ノ方法ニヨルベニヤ式トシ、前述ノベニヤ藎材及ビ指定ノ薄板ヲ使用スルモノトス。各材ノ木理ハ交互直角ニ使用シ、化粧上張板ハ材力ノ平衡ヲ保タシムル爲兩面共同質材ヲ使用シ、膠着乾燥後ニ材質ノ內外部ニ力ノ不均衡ニ因ル狂ヒノ生ゼザル樣入念施工スルモノトス。

膠着劑ハ耐水、耐熱性強大ニシテ膠着力完全均一ヲ保チ、濕氣ニ遇フモ汚點ヲ生ジ又ハ蟲害ヲ受ケ或ハ變質セザルモノヲ用ヒ、グルースプレツダーニテ平均ニ塗布シ、膠着ノ際ハ何レモ毎平方糎ニ付7瓲(毎平方吋ニ付百封度)以上ノ壓力ヲ加ヘ、然ル後クランプヲ掛ケ膠着劑ノ充分ナル硬化ノ後クランプヲ除去シ更ニ一層乾燥セシムルモノトス。

ベニヤ幅廣面ノ仕上ゲハ入念ニ鉋掛ケヲナシサンダーヲ以テムラナキ樣仕上ゲベシ。

家具構造ノ部

1 指物類 各面止メ、胴付、小穴枘等ハ現寸圖ニ從ヒ入念ニ施工スルモノニシテ、枘ノ長サハ木厚ノ3分ノ2以上トシ、組立ニハ膠着劑ヲ枘、枘穴ニ充分塗布シ完全ニ固メ込ムモノトス。

各板類ハ雇實剏ヤトシ、20糎—25糎(78寸)間隔ニ楔ヲ堀込ムカ又ハ本實剏トナシ、各局部取付ノ要所ニハ適當ナル補強材ヲ使用シ堅牢ニ取付クベシ。抽出ノ前板ト側板ノ組合セハ鳩尾差トシ向板ハ箱組差、底板ハ揚ゲ底トナシ、各抽出ノ中間ニハ仕切板ヲ入レ底部ハ下張板ヲ張上グルモノトシ抽出ノスレ桟ハ磨滅ニ耐エ得ルスベリ良キ硬質材又ハ特殊金物ヲ使用ス。

2 椅子類 材料ハ見エ隱レ材ト雖モ蟲害又ハ割レ、腐レ等ナキ檜、櫻、朴、桂等ヲ選ビ、各仕口ハ枘差トシ、其長サ木厚ノ3分ノ2以上入レ込ミ膠着劑ヲ以テ堅固ニ組立テタル上、木螺子又ハ込栓ニテ完全ニ枘ヲ固メ込ミ、各要所ニハ適當ナル補強材ヲ取付ケ入念ニ施工スルモノトス。

塗裝ノ部

塗裝ハ木地ヲ充分ニ檢査シタル後ペーパーヲ以テ良ク研磨シ、見本通リウオーターステイン着色ヲ施シ、完全ナル目止ヲナシ、乾燥ヲ充分ニシ、精製ラツクニスニテ3回以上刷毛塗ヲ施シ毎回乾燥ノ上ペーパー當テヲナシタル後、タンポニテ塗面平滑トナシ木目充分止マルマデ入念ニ拭キ込ミ仕上ゲスルモノトス。

甲板類ハ木地研キ、着色、目止メヲ完全ニナシタル後、1晝夜間放置乾燥セシメペイントスプレーニヨリシーラー1回塗リペーパー掛ケノ上クリヤーラツカー3回塗リヲ施シ、毎回ペーパーヲ當テ最後ニラツカーポリツシユニテ完全ナル仕上ヲナスベシ。

椅子張ノ部

敷、脊及ビ肘等ノスプリングハ各椅子ノ形狀、大キサニヨリ番級及ビ使用個數ヲ異ニスルモ、品質ハ國產高級鋼線銅鍍金ノスプリングヲ使用シ、力製ハ幅6糎(2吋半)以上ノ上等品ヲ用ヒ、充分ニ引張リ、折返シ、平頭鋲ニテ堅固ニ鋲止メトナシ、良質ノ蠟引玉糸ニテスプリングヲ縱橫筋違ニ結束シ、上等麻布ニテ覆ヒ縫士手ヲ造リ2重差トス。

詰物ハ上等フアイバーヲ充塡シ、上層ニ馬毛ヲ敷キ詰物ノ移動セザル樣完全ニ糸止メヲナシ、金巾ヲ以テ下張シ、布團綿ヲ敷キ指定ノ上張材ニテ體裁良ク圖面通リ張上ゲヲナスモノトス。

底張ハ體裁良キ綿布ニテ張上ゲベシ。

其ノ他ノ材料ノ部

上張材、クツション詰物、金物、ガラス、大理石等ハ見本ニヨリ指定サルベキモノトス。

C クラス家具仕樣書

木材ノ部

此ノ級ノ家具ニ使用スル木材ハ木理色合概シテ均等ナル心去リ天然又ハ人工ノ乾燥ヲ施シタル良質材ヲ用ヒ、反張、收縮ノ生ゼザル樣注意スルモノトス。羽目板等ノベニヤ幅廣面ニハ3枚合セノ良質ベニヤ板ヲ使用スベシ。

家具構造ノ部

1 指物類　各面止メ、胴付、小穴枘等ノ仕口ハ現寸ニ從ヒ入念ニ施工シ、枘ノ長サ木厚ノ3分ノ2以上トシ、膠着劑ヲ以テ堅固ニ固メ込ムモノトス。各板類ハムク板ヲ矧合ハセ20糎—25糎(78寸)間隔ニ楔ヲ割當テ締付クルモノトシ、各局部ニハ必要ニ應ジ適當ナル補強材ヲ使用ス。抽出ノ前板、側板、向板共各釘付ケトシ、同種材ノ木栓ヲ膠着劑ニテ完全ニ埋メ込ミ、入念ニ仕上ゲルモノニシテ抽出ハ揚ゲ底トス。

2 椅子類　材料ハ蟲害、割レ、腐レ等無キ檜、櫻、朴、桂等ヲ選ビ、各仕口ハ枘差トシ其長サ木厚ノ3分ノ2以上入レ込ミ膠着劑ヲ以テ堅固ニ組立テ、各要所ニハ適當ナル補強材ヲ取付ケ入念ニ施工スルモノトス。

塗　裝　ノ　部

塗裝ハ木地ヲ檢査ノ上ペーパーヲ以テ研磨シ、然ル後下地塗ヲナシ乾燥ノ上見本通リノ着色ヲ施シ砥ノ粉目止メヲ擦リ込ミ、更ニ乾燥ヲナシ、精製ラツクニスニテ3回刷毛塗ヲ施シ、毎回乾燥ノ後ペーパー當テヲナシタル上、タンポニテ塗面ノ平滑ニナル迄拭キ込ミ仕上ゲルモノトス。甲板類ハ右工程ニ更ニラツカーヲタンポニテ木目ノ止マルマデ入念ニ拭キ込ミポリツシユニテ完全ニ仕上ゲベシ。

椅　子　張　ノ　部

敷、脊及肘等ノスプリングハ各椅子ノ形狀、大キサニヨリ番級及ビ使用箇數ヲ異ニスルモ上等國產品ヲ使用スベク、力製ハ幅5糎(2吋)以上ノモノヲ用ヒ充分ニ引張リ折返シ平頭鋲ニテ堅固ニ鋲止メトナシ、蠟引玉糸ニテスプリングヲ縱橫筋違ニ結束シ、麻布ニテ覆ヒ、縫上手2重差トナシ、詰物ハフアイバー、パンブー、藁等ヲ充塡シ詰物ノ移動セザル樣完全ニ糸止ヲナシ、粗布ヲ以テ下張シ布團綿ヲ敷キ指定ノ上張材ニテ體裁ヨク圖面通リ張上ゲルモノトス。底張ハ體裁良キ綿布ニテ張上ゲベシ。

其ノ他ノ材料ノ部

上張材、クツシヨン詰物、金物、ガラス、大理石等ハ見本ニヨリ指定サルベキモノトス。

建築隨想

日本折衷主義と我國の建築家

西山卯三

1.

本誌1月號に　私は深い興味を感じました、夫は外でもありません。ブルーノ・タウト氏の雜誌と同名「建築と社會」と云ふ論文についてです。現在、これ程鮮やかに、しかも剴切に我建築界を論じ來り論じ去る權威者を私達は殆んど發見する事が出來ませんでした。氏はまことに直截に、我國の建築家は「吉原女郎である！」と斷言されます。之に對しては何の抗辯もありません。只併し少しく納得出來かねる事もあるのです。

氏の論文は、「日本の新聞紙上で建築は如何なる重要さを有してゐるであらうか」と云ふ設問から出發します。之は此論題について、外國人としてはまことに尤もな事であります。だが畢竟、「外國人」の設問でしかありません。と云ふのは、氏は、徹頭徹尾問題を氏が今まで生活して來られた外國の零圍氣から提出されてゐる事です。夫ばかりではありません。氏にとつては、外國の壹度、狀態こそが唯一の正しい根據であり公理となつてゐるのです。之はニッポン見物の異國人には全く正しい見方です、だがその見方は、結局は眞に本質に觸れる客觀的なものを持つてゐるとは云へないでせう

こゝで、私達が、又、「日本」の立場から問題を提起したとすれば、夫は水掛論にすぎません。返答に焦る前に、私はもう少し客觀的に物を見るやうまづ努めたいと考へます。

2.

暫く現場と圖面から離れ、鉛筆と折尺を置いて考へませう。建築と社會との關係を見る前に、私達は最も基本的な問題：建築生產についてそして特に建築生產の內に建築家が占める位置について考へてみたいと思ひます。現在、私達が一般產業に從事してゐる人をみますと、勞働者が諸の商品を生產する一方に、之等に對して資本を供給し、賃銀を支拂ふ資本家があり、その資本家に使用されて働いてゐる所の、產業の技術的指導に任ずる技術者があります。ところが生產される商品なり生產物なりが造型的な意匠をもつ場合、技術者の中にも、一般技術者と、特に造型的な部分に働くやはり企業家に使はれてゐる特殊な技術者、云はば意匠家と云ふものが出來て來ます。實際は、はつきり二つに分れてゐなかつても、質的に、こう區別して考へる事が出來ますし、その方が便利でせう。

さて、建築家は云はば此一般產業に於ける技術者乃至意匠家の仕事を、建築生產の內で擔つてゐるものであります。ところが建築家は、企業家・資本家の使用人であるかと見るに、一部の人は請負人に使はれてゐますが、そうでない獨立した地位にあるものが普通とせられ、こう云ふ人を一般に建築家と云ふべきだとも考へられてゐます從つて、此技術者は、外の產業の技術者とは大部樣子がちがつてゐます。何故こんなに異つて來るのでせうか。

夫は他でもありません。建築生產が他の產業と異つてゐる爲に外ならないのです。

第一に・建築生產は現代の技術では、特定の土地、建築豫定地に結びついた現場作業を主要部分としてゐます。此特殊性は建築生產を始めから土地と結びつける結果建築を註文・從つて請負・に依て生產し、現在の產業が大部分そのおかげで現在の樣に隆盛となつた商品生產が殆んど行はれてゐ

ない事です。(他の土地との結び付きは、建築の消費にも關係し、地代等の問題を起し建築の時間的賣買・貸家・貸室による商品化をも特殊なものにしてゐますが、之は考へないで置きませう)。第二に、建築産業は現代では、他の工業一般、軍需工業や化學工業などに較べて、一流の産業ではありません。最近、建築産業への注意喚起が喧しく叫ばれ、日本の國富の2割以上が建築であるなどと云はれますが、これ程のものが今まで全く注意されなかつたと云ふ事は、却つて建築生産の輕い地位を證明してゐるやうなものです。殊に最近注意喚起の主要な原因が、建築統計が財界のバロメーターとなると云ふ點で他の方面に「利用」されるために問題となつてゐるに於ておやです斯る狀態は現在の工學技術が充分行ひ得る建築生産の技術的進歩をも行はせず、その結果何時までも低度な技術の現場作業が建築生産を支配してゐます。

斯様な建築生産の特殊性が、商品生産では企業家の使用人となるべき技術家を、建築家と云ふ特殊なものとし、彼等は生産企業家から獨立する一方、却つて諸企業の營繕强度のやうに消費企業家の使用人にさへもなつてゐるのです。

だが之は建築を永劫に支配する運命ではありません。一般産業の發展にも强い障害となつてゐる土地との絆が、技術的に、あるひは他の方法で解かれる時に、建築家は上に述べたやうな一般技術家と同様な組織の内に發展進歩すべき運命にあります。なぜなれば現代社會の一般生産樣式は、こう云ふ構成を最適としてゐるからです、否、既に此の變化は現實には行はれてゐるのです。ただ上述のやうな原因が猶强く作用してゐるために、その進行が中途で止つてゐるのです。そして、此處に私達は近代的産業の發展に種々の出發と歩調とをとつた各國の建築家、技術家層の質的な差異を見出すのです。そして更に夫ばかりではありません、此場合、進行が停頓してゐるために何某の國の「建築家」の地位が最も眞實の建築家の地位を示してゐると云ふ事も出來ないのです。

「建築家」の祖國は決して歐洲ではありません。

3.

では日本の建築家は此の各々質的に異つて、發展の中途に停滯してゐるものの内でどんな性質を持つてゐるものでせうか、之は日本に建築家と云ふものが生れるやうになつた明治以來の歷史的な經過を考へなくてはなりません。

建築家層の發展の最も古典的な形態を示す西歐では、最初は、建築家が建築生産に從事する勞働者、石工や大工から藝術家として分離し、遂に王候貴紳にも交はるやうになつた15・6世紀の事と思はれますが、夫以來除々にその性質を變化して來たのであります、尤も夫が近代的な意味の建築家になつたのは19世紀或は20世紀・否、先にも述べたやうに未だ正しい意味での近代的な建築家は生れてゐないのかも知れないのです。とに角、當初獨立した藝術家として生れ、生長した建築家が、其の成長と共に、第一に彼等の從事する仕事の對象の種類の變化と分化、複雜化に於いて、第二に彼等の仕事に對して要求せられる條件の特殊化と複雜化に從つて、次第次第に藝術家でありながらも、自己の仕事の内容を段々と易えて來たのでした。此過程は、建築藝術の18世紀以來の發達史に表はれてゐます。古典主義・浪漫主義の次々の復活についで、折衷主義が之等の總決算として表はれてゐます。此折衷主義は、各國で、また生長らへてゐるとも、も早や衰微したとも云はれてゐますが、本當の意味で近代建築は折衷主義以上のものも生み出してゐないと考へられます。何故なれば、私達がそこに向つ

て進みつゝある建築生産の商品生産社會での最も發達した段階に於きまして、即ち、前に述べましたやうな建築藝術が意匠家・技術家等の分業に依て生み出される完全な近代的生産の體制に於きましても。此處に生み出される藝術は實は折衷主義（様式撰擇主義）藝術であるからであります。

もつとも、建築史をみますと、此折衷主義も19世紀後半に於いて衰へて行つたかのやうにみられます、だが夫は、所謂折衷主義、即ち「古き」折衷主義が衰へたと云ふ事であります。現代社會の建築藝術は基本的には折衷主義を越へ得ないものです。そして此の古きものと新しきものとの更代は、實は前にも云つたやうな、新らしい、建築の分野と新らしい建築家への要求が建築家の藝術的制作の體制にあたへた影響でありまして、此結果建築家は更に技師らしく、（即技術家らしく）なり、却つて本當の意味の折衷主義に一歩前進したのだと考へます。もつとも、西歐の之等新建築家には、技術に近づく一方、新らしい、一見神秘的な美學構成主義の美學と云ふものが持ちこまれてゐます。だが之は、近代建築の眞實の行く手（機能的な事、合理的な事）を指示するものではなくて、長い間の建築家の藝術家的な社會に於ける地位、その藝術家的な創作方法の歴史等にわざわひされて背肩込んだ古い時代のぬけ骸だと解すべきでせう。

ところが我が國ではどうでせうか。

まづ我國の建築家と云ふものは古き時代の大工の棟梁等が時代の進歩と共に自ら新時代の建築家に生れ更つたのではなく、歐米先進國の諸制度文物の輸入と共に、ソックリ歐米で完成された、制度として持込まれたものでした。然も、當時の先進國は簡單に云へば折衷主義の時代でした。從つて我國に輸入されたものも、そうしたものであつたのです。

偖て、ところが、こうして輸入された制度が生む建築家―あるひは造家學科出身の建築學修了諸大先輩はどうしたでせうか。現實の社會が、そして建築生産が、建築家を一般的に必要とするまでにまだ生長してゐない時にこうして生れた建築家は、先づ彼等を養成した政府の使用人、官吏や技師教授等になつたのでした。ここに日本の建築家の歴史の最初の、そして決定的な出發點があります。

以來日本の建築家は多くは官吏、技師、技術者でありました。これは日本の建築家が最も藝術家的な性質を以て送り出された大正中期に於ても依然變更されませんでした。西歐風の獨立した建築家―建築事務所が生れたのは日露戰爭以後ですし、その數も、更にその質も全く西歐と較べものになりません。ことに大震災以後量的に充實した建築教育のおかげで、更に建築家が年々多量に生み出される事になりましたが、これも殆んど技師、技術者の建築設計使用人タウト氏の所謂「圖工」として實社會に收容されたのでした。

建築學會統計委員會の發表によりますと、昭和10年末現在、我國の建築科出身技術者中官公廳に勤務するもの及教育に關係するもの、大學出身41.5%、專門學校出身 42.0 %、と云の驚くべき數字に達してゐる一方、自營のものは、各々12.4%、6.7%と云ふ貧弱なしかもその內には建學家ならざる工務店主も含まれてゐる事を思へば我國の特殊性は略々うなづかれるでせう

之は何を意味してゐるのでせうか。即夫は、日本の建築家の地位が最初から獨立的藝術家としてではなく、（使用主が消費企業であつたと云へ）、使用人、技術者として略完成されてゐたと云ふ事です。然も彼等の習得したものは、近代社會の生產體制に合致した折衷主義でした。

從つて、日本の建築、即折衷主義程、世界中に何の動搖もなく新しい、技術や材料施設其他の進歩を次々に取入れた建築藝術はなかつたのです。何故なれば之等に反抗

し、又之等の採用に抵抗となつた過去の藝術と云ふ重荷（或は傳統）が殆んどなかつたのですから。日本では建築は藝術として遂にみとめられなかつたと考へられます。

建築藝術、非藝術論の對戰と云ふ風な興味深いものが大正初期にありました。ところが西歐の此の動搖と、夫が生んだ新らしい構成主義は、我國には新興建築として當時の若い人々によつて輸入されたのです。構成主義は西歐では特に深刻な藝術上の斗爭であり、近代技術が藝術の中に築いた大きな成果でありました。だが日本ではそんな深刻な苦悶はある意味で必要ではなかつたのです。此結果遂にその本質を見抜く事が出來なかつた當時の我國の新興建築家達は、結局夫を豆腐を切つた様な外觀にもつて行かねばなりませんでした。

多くの新建築への衝動は展覽會やその他の紙上藝術としては華々しく映亂れたのでしたが、現實の建築となると、今までの様式建築と何等かわる事なく、却つて奇矯な形態と構造上の無理が破端にまで進んだ例もありました。そして、今では之等新出建築も遂に日本折衷主義の形態上のヴァリアントとして既に改組されてしまつてゐるのです。

4.

以上の様に私達は日本折衷主義の特殊性を考へたいと思ひます。

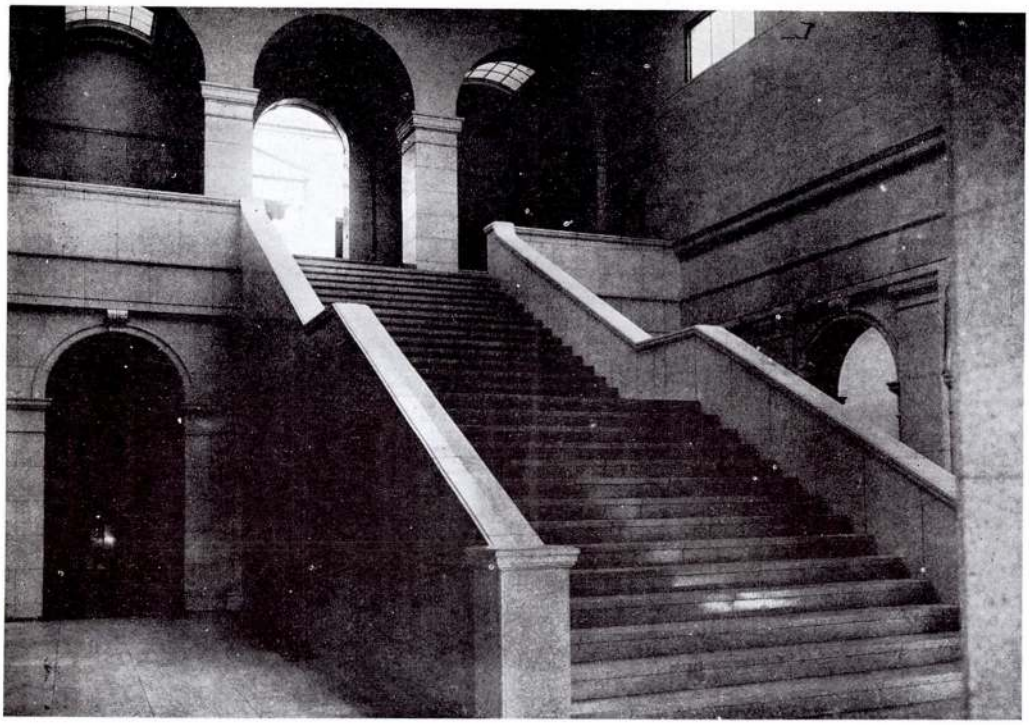
從つて、西歐の建築家の質を唯一の據るべき公理として之より立論する事は「殆んど了解し難い」（タウト）事であると同時にまことに上ツ走りな議論だと感じされるのであります。

私達は、こうした點について深く考へここを出發點として更に深く建築について、建築學について、問題を進めたいと思ひます。　（1935.3.15.夜）

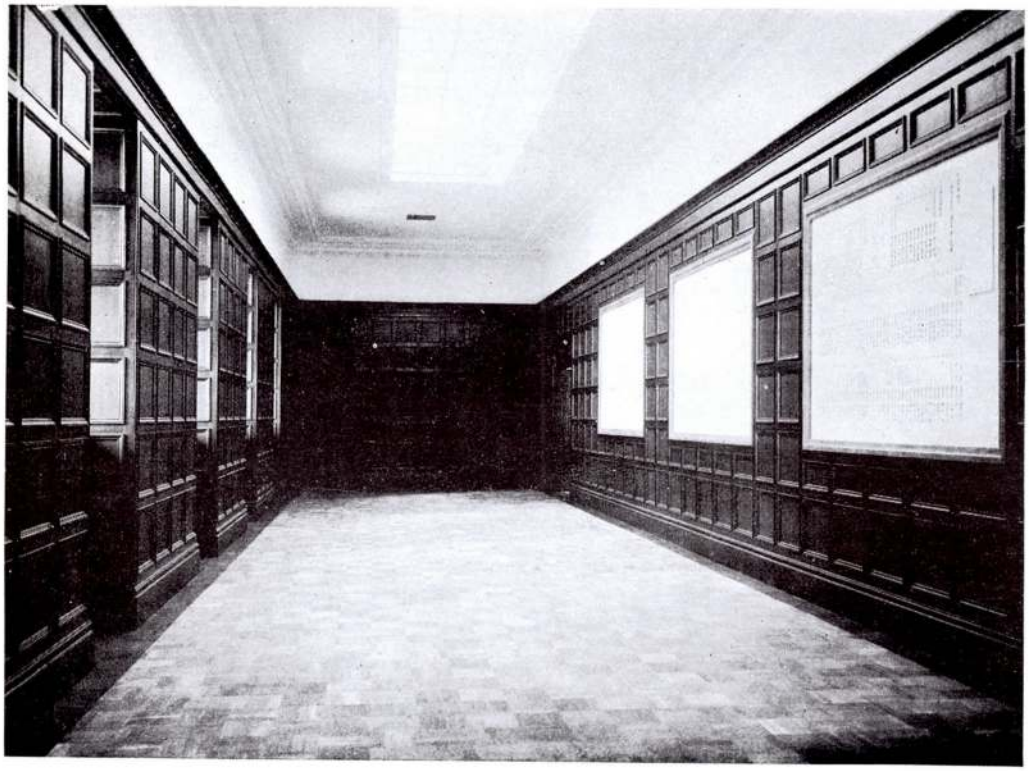


正　　面

"海軍兵學校教育參考館"　設計・山下壽郎建築事務所・施工・大倉土木株式會社

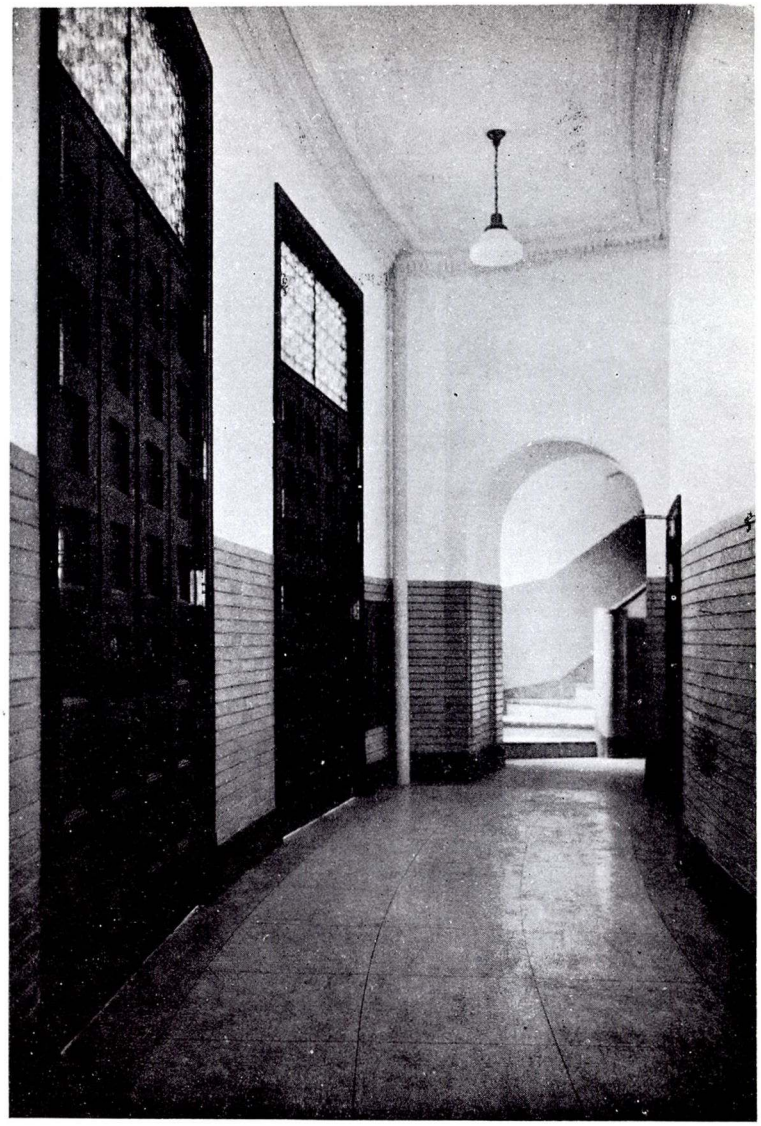


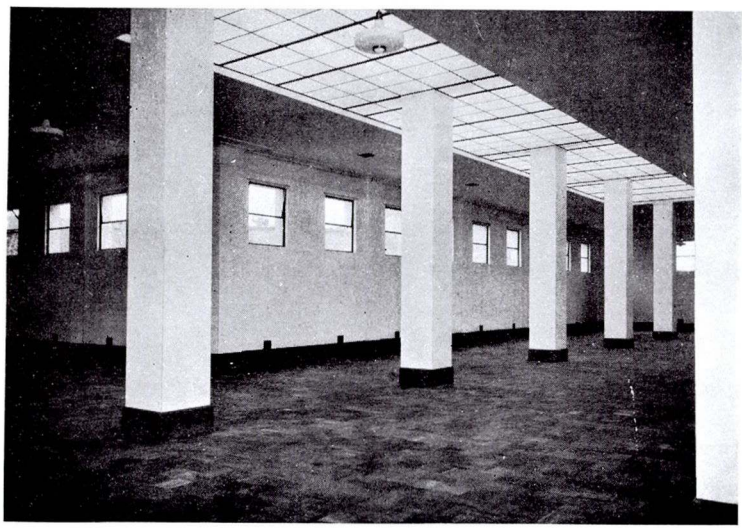
中　央　廣　間



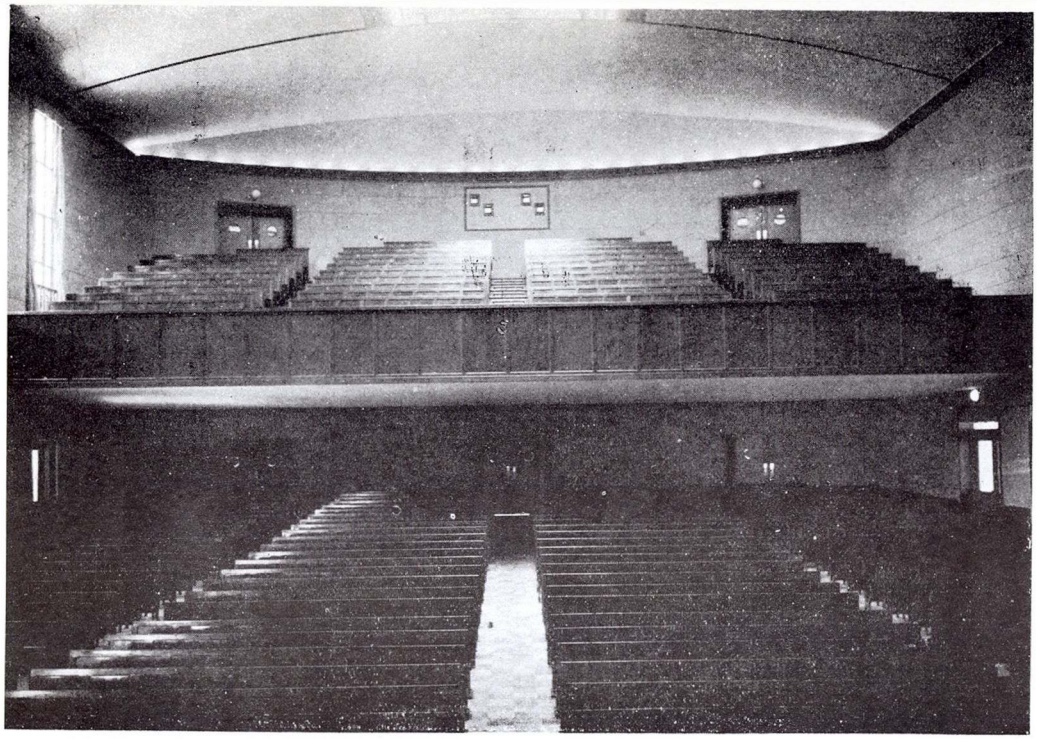
特　別　室

講堂背面廊下

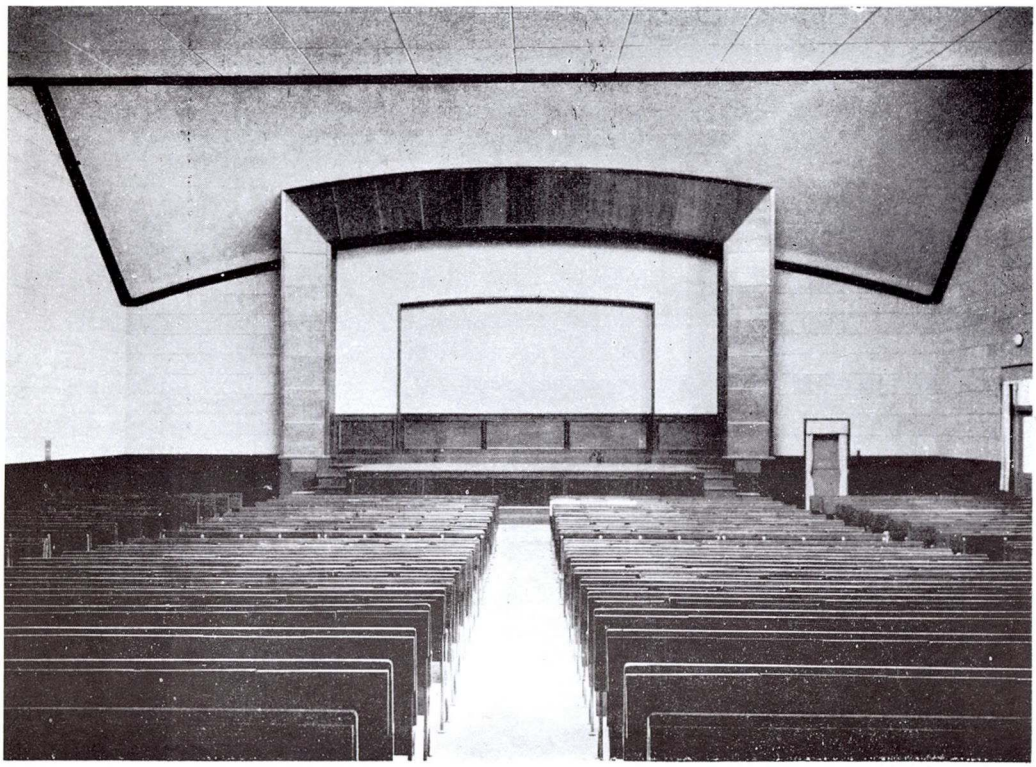




陳列室

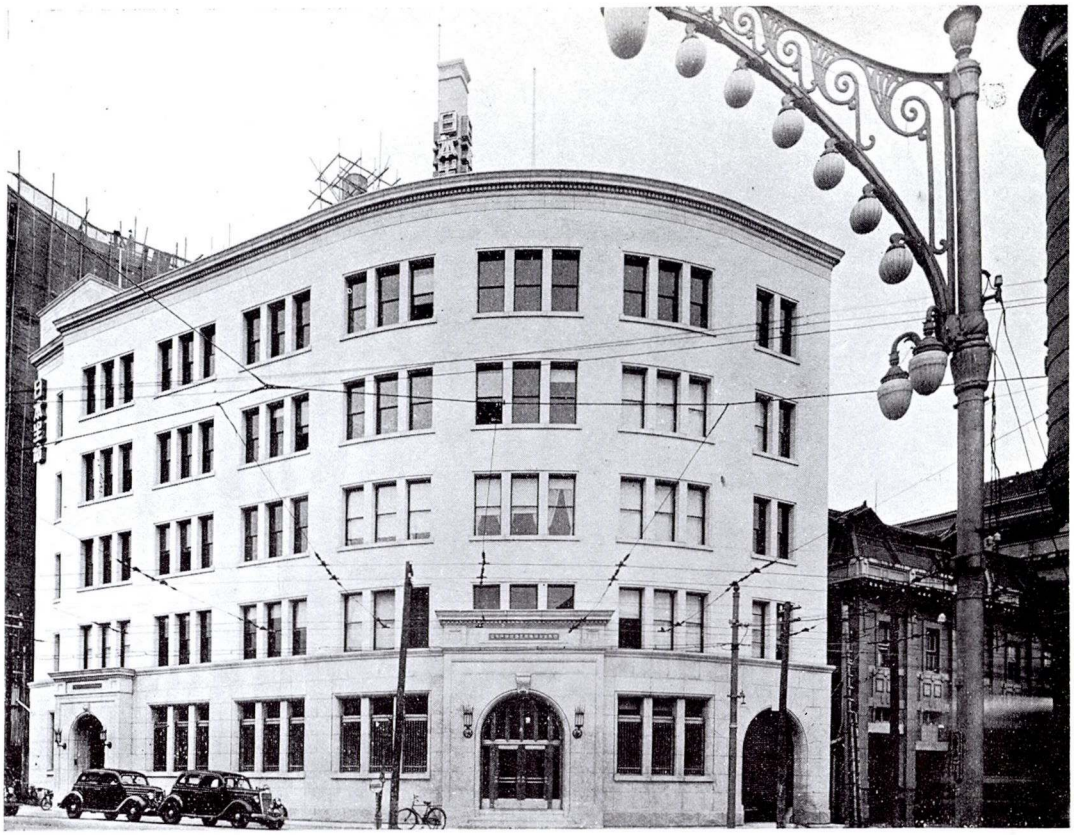


講　堂　棧　敷　側



講　堂　演　壇　側

VI 4 “海軍兵學校教育參考館” 設計・山下壽郎建築事務所・施工・大倉土木株式會社



正　面　外　觀



營　業　室　客　溜

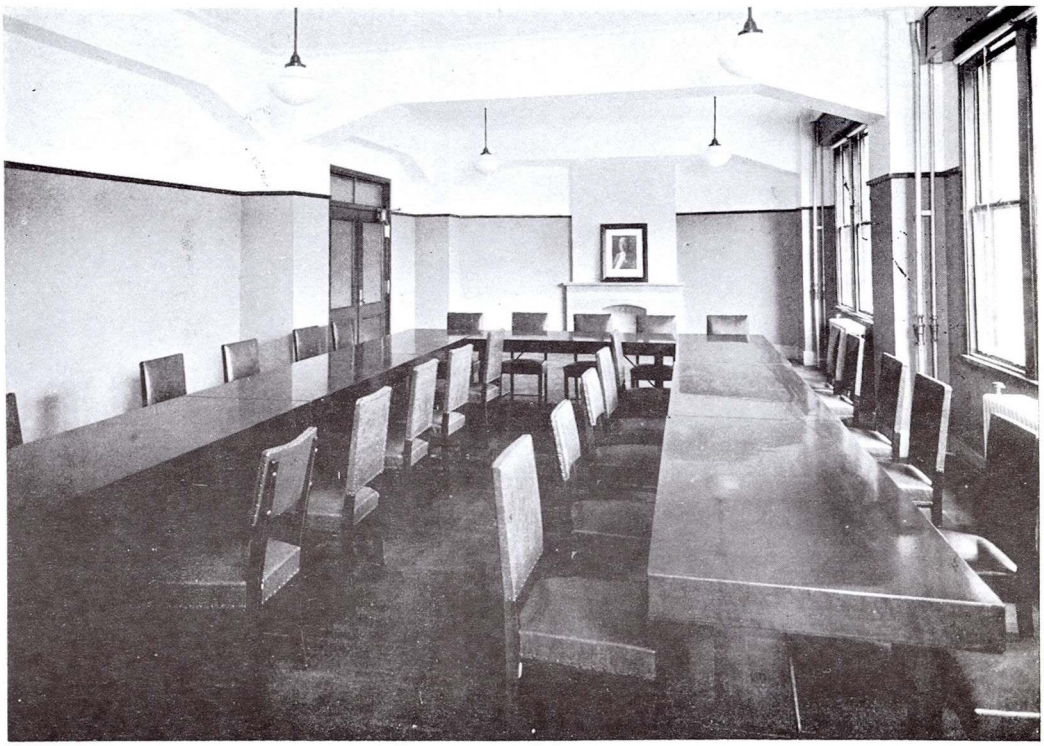
“日本生命神戸支店”　設計・東畑謙三建築事務所・施工・大林組　



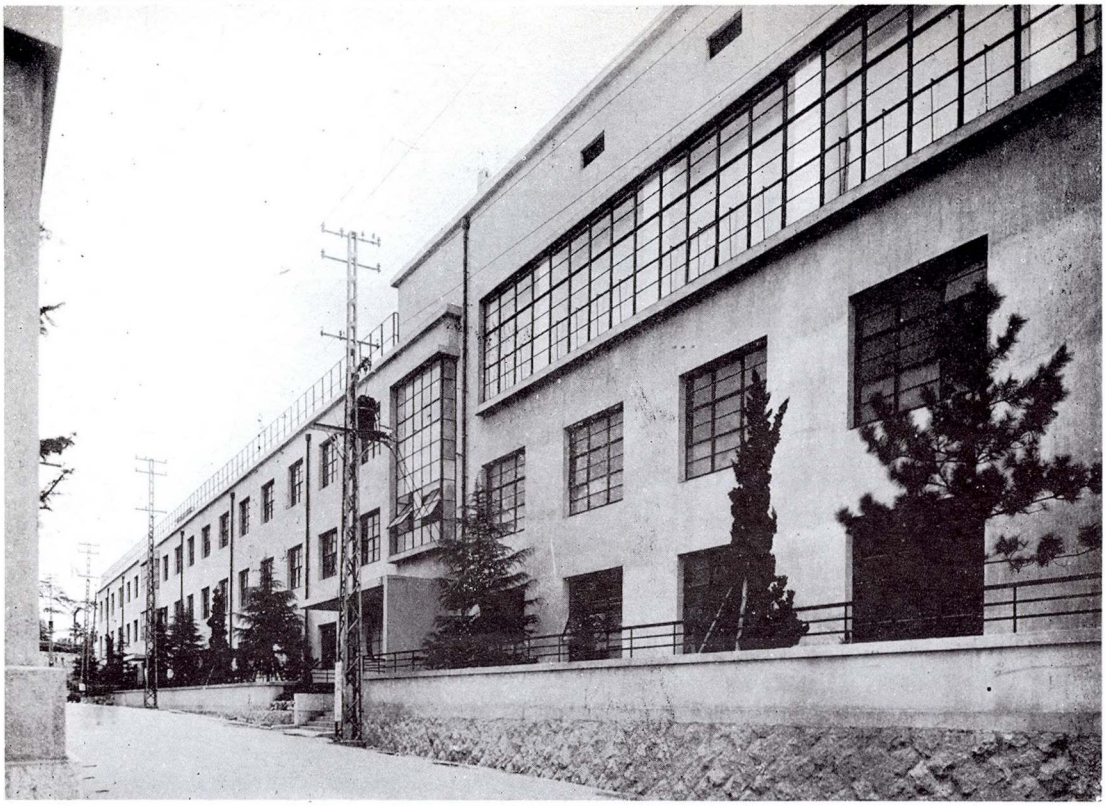
玄　　關



貴　賓　室



會　議　室



正　面　外　觀



校　庭　側　外　觀

VI 8 “神　戸　市　川　池　小　學　校”　設計・神戸市營繕課・施工・清水組

正面外觀



校庭側外觀



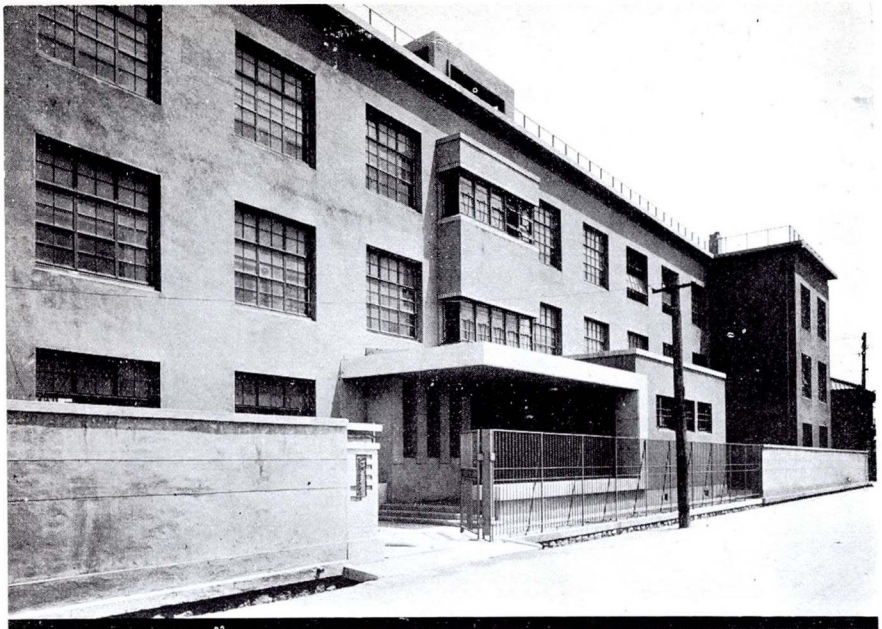
講堂內部



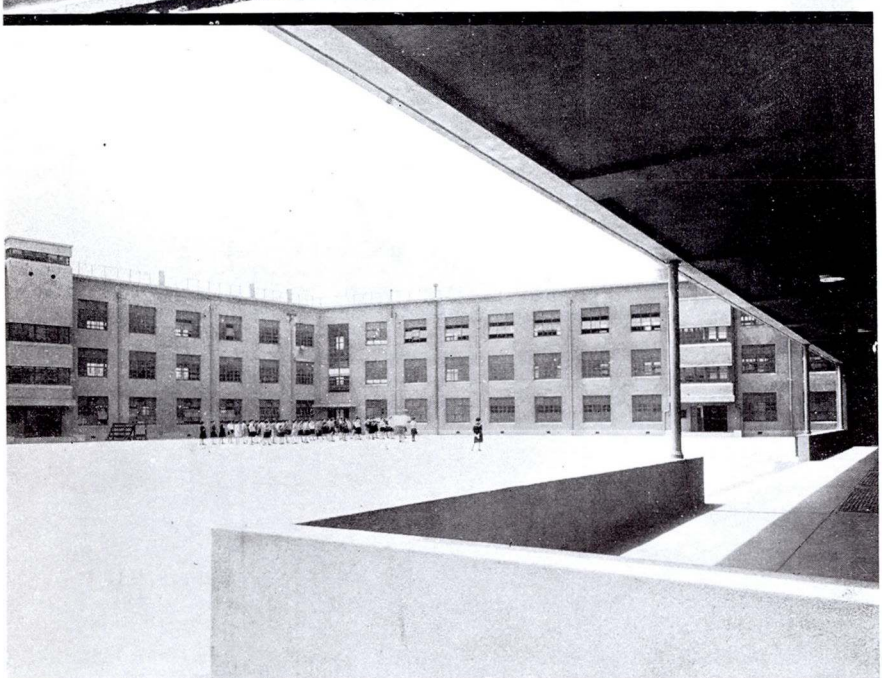
神戸市大黒小學校

設計・神戸市營繕課

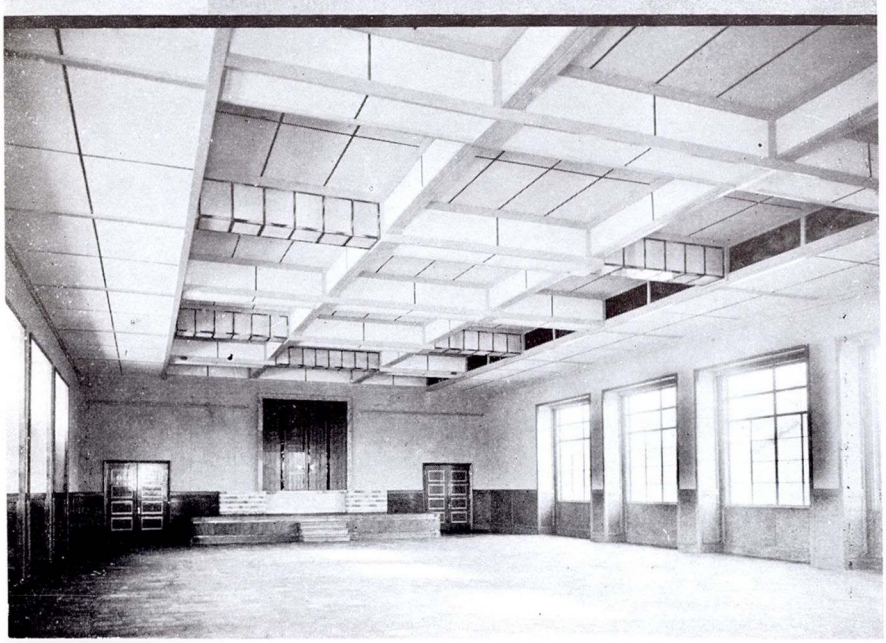
施工・中島組



正面外觀



校庭側外觀



講堂內部

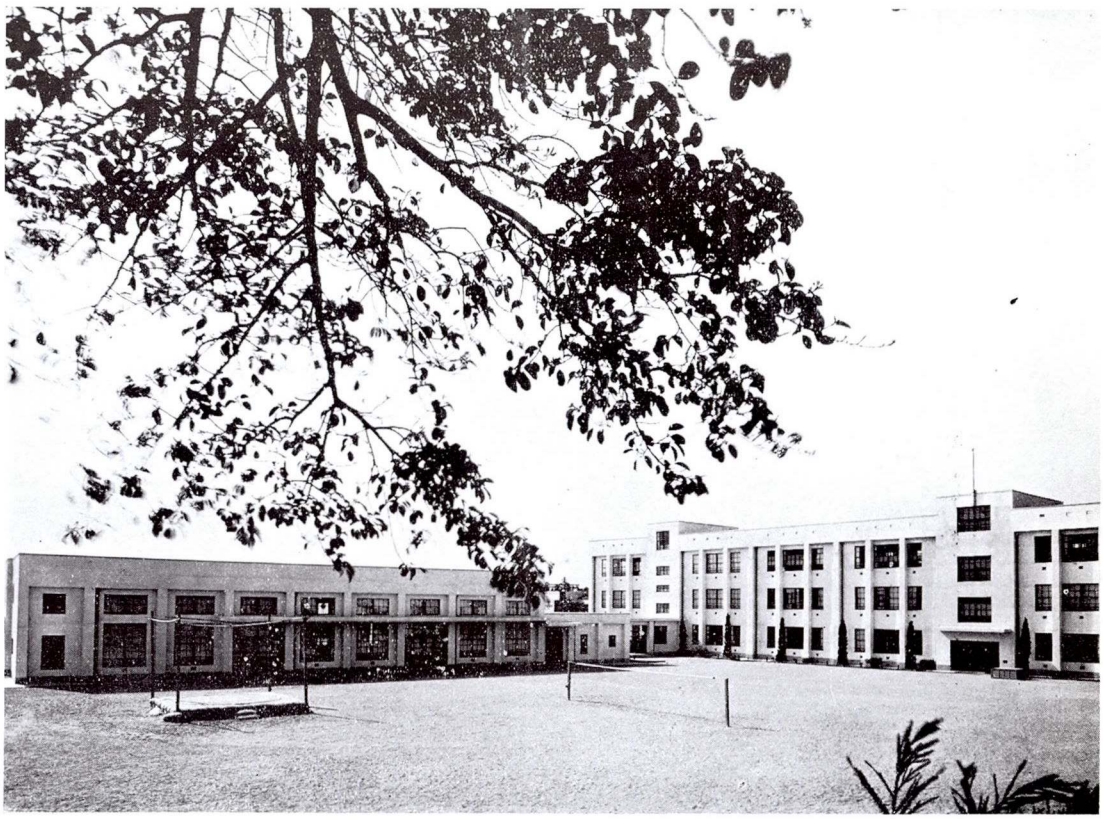
神戸市志里池小學校

施工・畑工務店

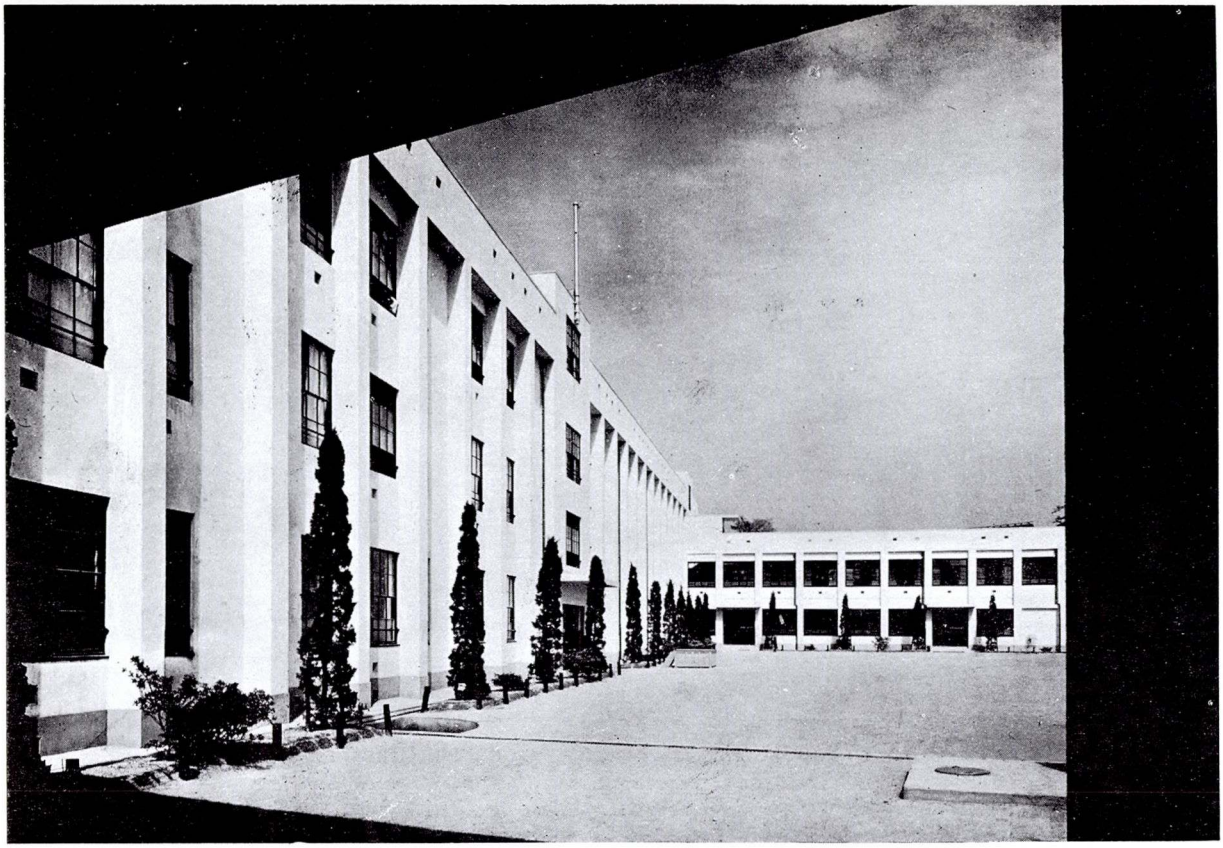
設計・神戸市營繕課



正　面　外　觀



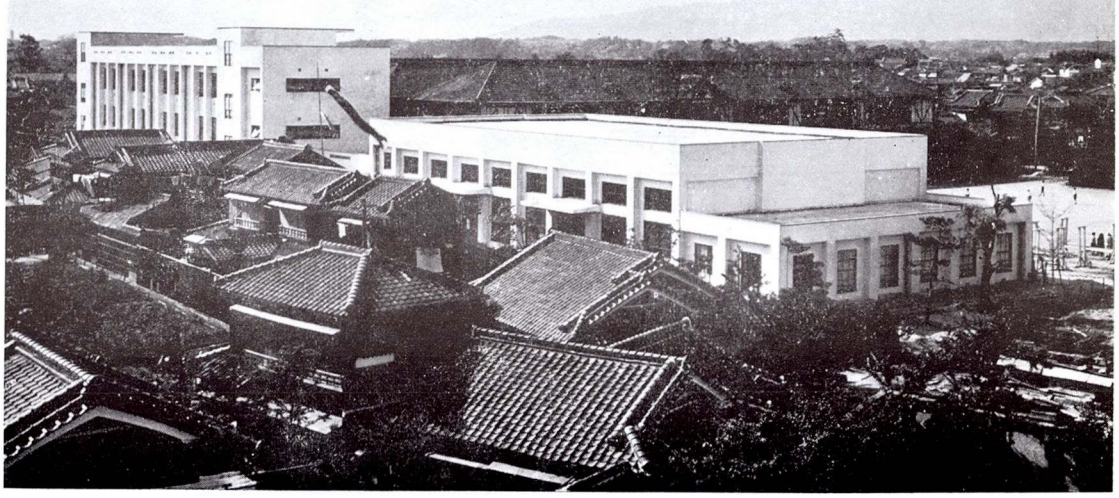
校　庭　側　外　觀



校　庭　側　外　觀

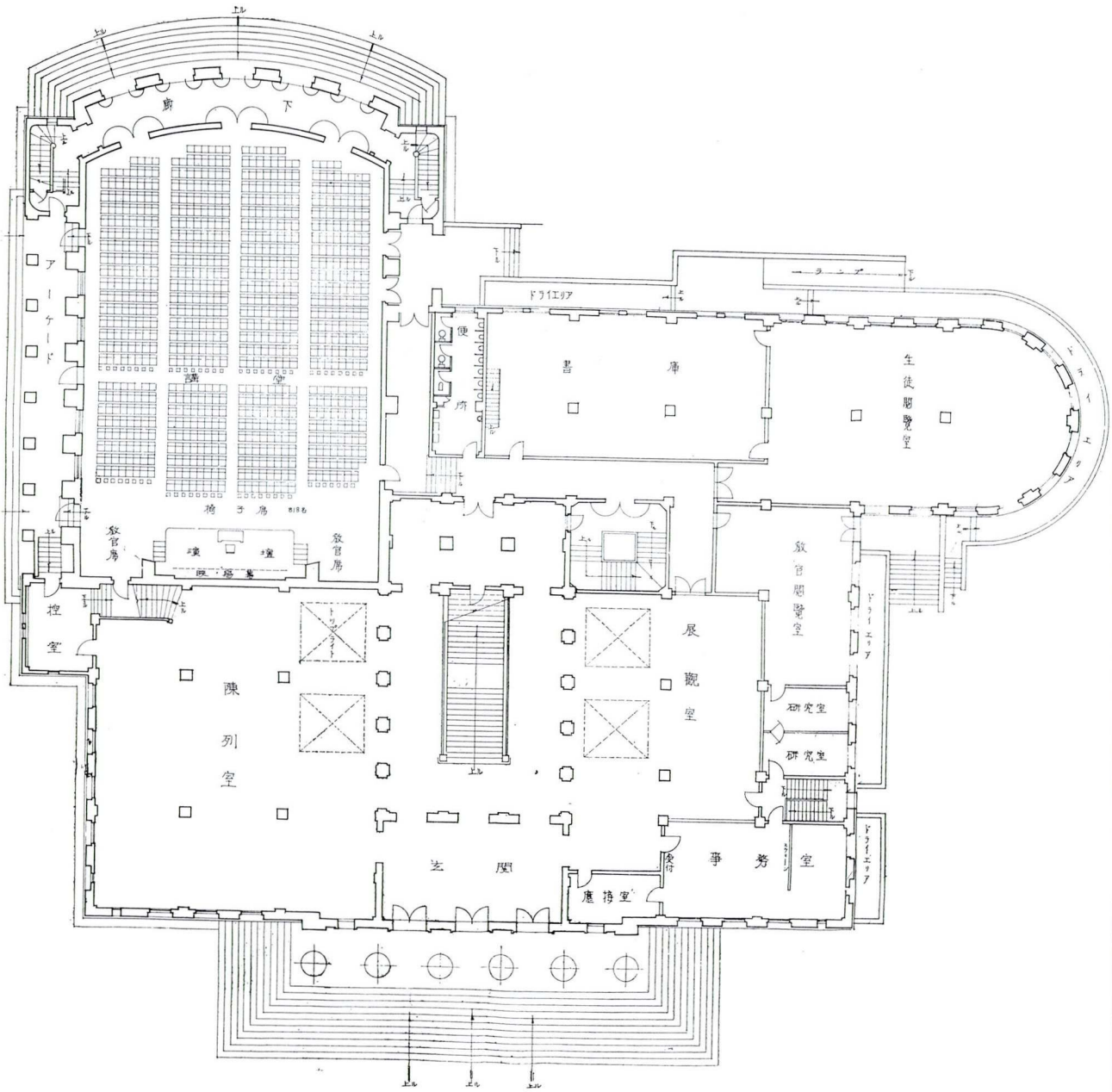


講　　堂　　內　　部



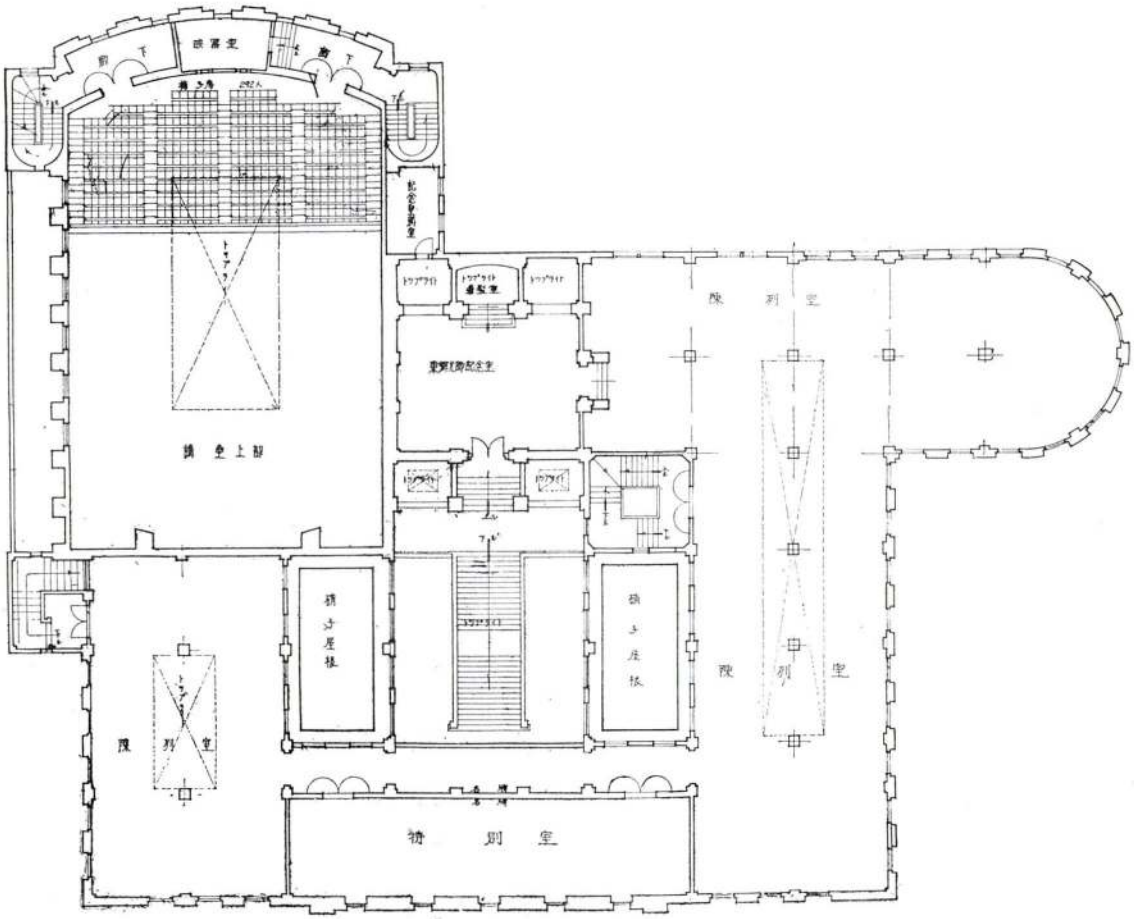
外　　觀

“豐中克明第3小學校”（上）
“豐中克明第2小學校”（下）　設計・波江悌夫建築事務所・施工・牧野組・中井組



1 階 平 面 圖

IV 14 “海軍兵學校教育參考館” 設計・山下壽郎建築事務所・施工・大倉土木株式會社



2 階 平 面 圖

海軍兵學校教育參考館工事概要

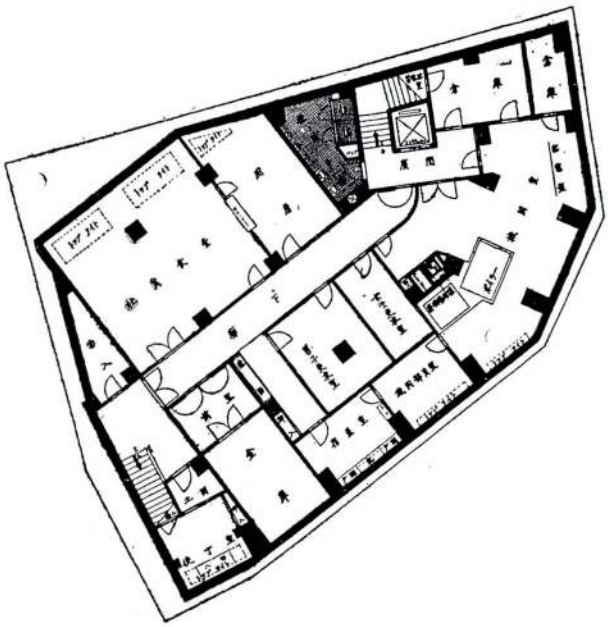
施 主 海軍兵學校教育參考館
設 計 山下壽郎建築事務所
施工者 大倉土木株式會社
着 手 昭和10年2月11日
竣 工 同11年3月18日
概 要

鐵筋コンクリート造2階建地階塔屋付き

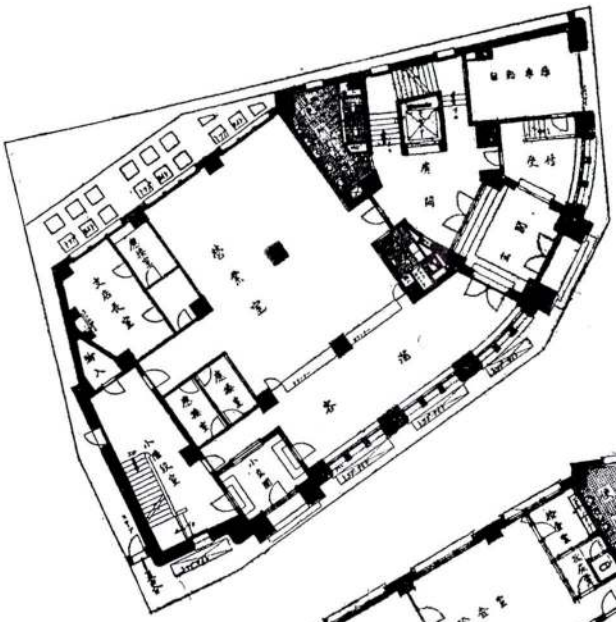
	坪
總延坪	1,358.98
內譯 地階	182.011
1階	671.035
中2階	21.048
2階	456.929
中3階	18.135
塔屋	9.828
合 計	1358.98

基礎構造
硬質地層の上に砂利敷又は岩盤上に直接鐵筋コンクリート造繋梁付獨立基礎とす
壁體構造
柱、壁、鐵筋コンクリート造講堂部鐵骨鐵筋コンクリート造とす
床 構 造
鐵筋コンクリート造とし地階床は割栗石張りの上に鐵筋コンクリート造とし腰部と共に防水モルタル塗とす
屋根構造
鐵骨コンクリート造、講堂、中央階段窓、陳列窓共に硝子屋根防水層施工
外部仕上
軒、蛇腹、腰廻り擬石貼り窓及胴廻り、タイル貼り、玄關廻り北木産、花崗石、建物周圍其の他敷石倉掛島産、花崗石
內部仕上
玄關、中央廣間廻り壁、テラゾー、ブロック貼り、講堂、壁「コルク」東鄕元帥記念室、胴及び腰廻り硫球トラバーチン貼り
衞生設備
各便所共水洗式とし淨化槽付き給排水共設備一式付き、消火設備も之に附屬す
照明設備
陳列室、講堂、間接照明とす
煖冷房換氣設備
蒸氣煖房裝置工事、機械的排氣裝置
建物の用途
東鄕元帥紀念教育參考館にして建物中央部に元帥遺髮室を設け遺德を偲び館內陳列室に海軍關係の參考物を陳列し、海軍教育の中心とし、又一般に觀覽を許し、海軍智識、普及に資しつゝあり、又館內講演場は1100の椅子席を設け海軍關係講演に使用す。

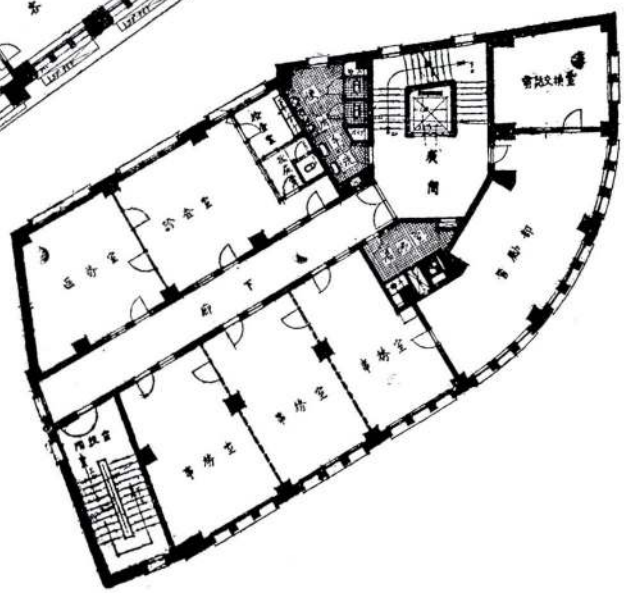
地階平面圖

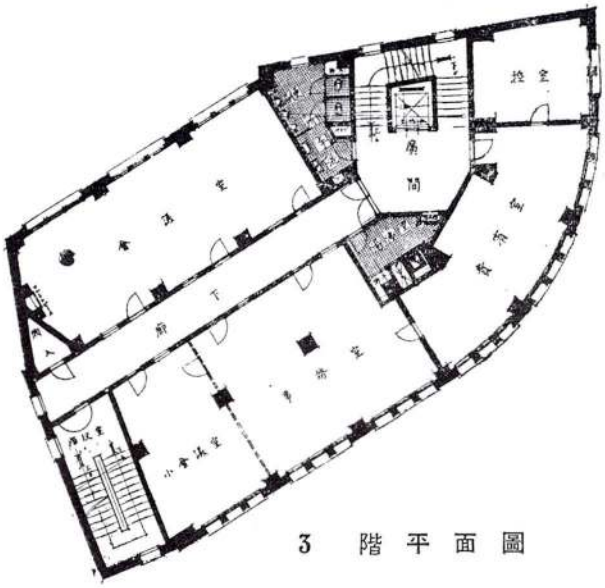


1階平面圖

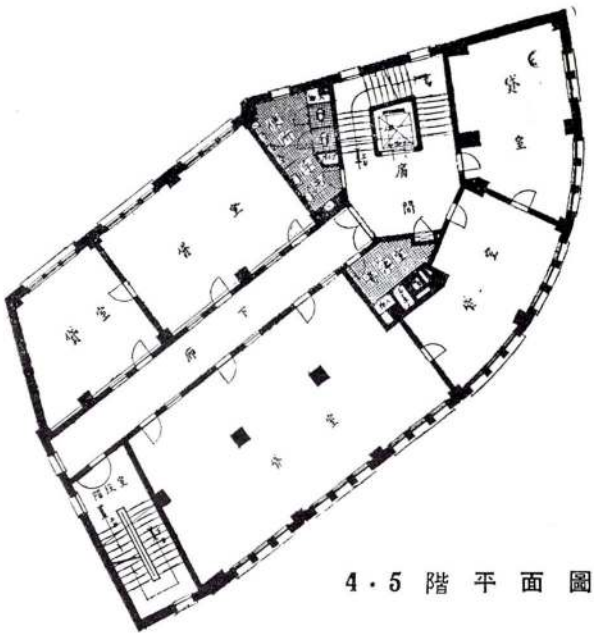


2階平面圖





3 階 平 面 圖



4・5 階 平 面 圖

新築工事概要

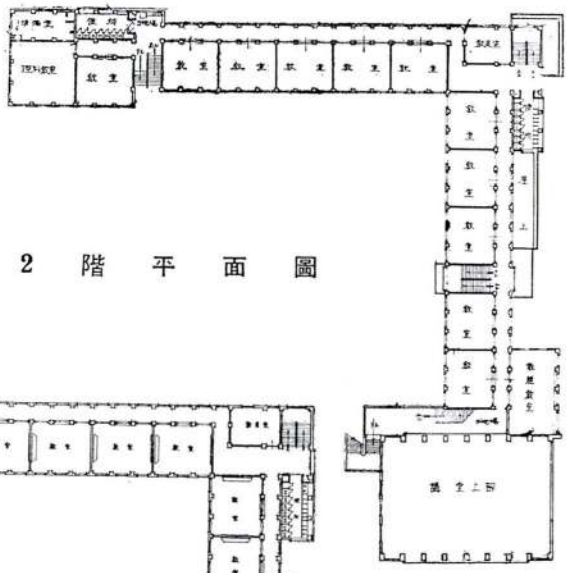
位　置　神戸市神戸區西町42番ノ1
起　工　昭和10年2月
竣　工　同　11年4月
敷　地　170坪4合2勺
建物面積
　建　坪　126坪7合8勺
　延　坪　797坪9合6勺
階數及高さ
　階　數　地下1階、地上5階建、屋上に塔屋を設く
　軒　高　23米19
　階　高　一般階　3米50
　　1　階　4米00
建物用途
日本生命神戸支店は地階より3階迄を使用し、4階及5階は貸事務室とす
各室配置
　地階（151坪5合6勺）
汽罐室、電氣室、蓄電池室、重油槽室、機關部員詰所、男子更衣室、女子更衣室、宿直室、金庫室、使丁室、食堂、厨房、便所、物置、大小階段室、エレベーター室
1 階（126坪7合8勺）
營業室、應接室、支店長室、同附屬應接室、客溜、大小玄關、廣間、受附、湯沸場、物置、自動車庫
2 階（125坪4合1勺）
支店督勵部室、事務室、電話交換室、診査室、醫務室、檢査室
3 階（125坪4合1勺）
支店會議室、事務室、貴賓室、控室、
4.5階（125坪4合1勺）
貸　室
塔屋（18坪7合6勺）
エレベーター機械室、フアン室
樣　式　近世ルネツサンス式
構　造　鐵筋コンクリート造
　外　裝
壁面
軒蛇腹及　腰花崗岩（北木産）其他タイル貼り
各塔屋　花崗岩貼り1部人造石洗出し仕上
出入口、窓其他
玄關ドアー及1階窓面格子等は「ブロンズ」製品とし、窓は上げ下げ「スチールサツシユ」にして玄關及東南部窓には「スチールシヤツター」を設備す
内部仕上
　地下室
床は各室共「モザイツクタイル」を貼り壁及天井は「プラスター」にて仕上げ、腰は「モルタル」又は「タイル」貼りとす
1 階
玄關及客溜の壁は大理石貼りにして床は「トラバーチン」とし、營業室其他は床を「フロアリングブロツク」にて貼り、腰は「テラゾー」塗り仕上とす、天井及壁は「プラスター」塗の上を「ペンキ」にて粗面に仕上げ、間仕切スクリーンは「チーク」材を用ゆ
2.3.4.5階
事務室床は「フロアリングブロツク」を貼り壁及天井は「プラスター」仕上とし腰は「カンバス」貼りの上を「ペンキ」塗とす
各室出入口及窓は「スチールドアー及スチールサツシユ」を使用す
廊下床は「テラゾー」眞鍮目地入とし其他事務室同樣に仕上げ便所は床及腰共「タイル」貼りとし間仕切りは「大理石」を使用し木部及鐵の個所は「ペンキ」仕上とす

設備工事概要

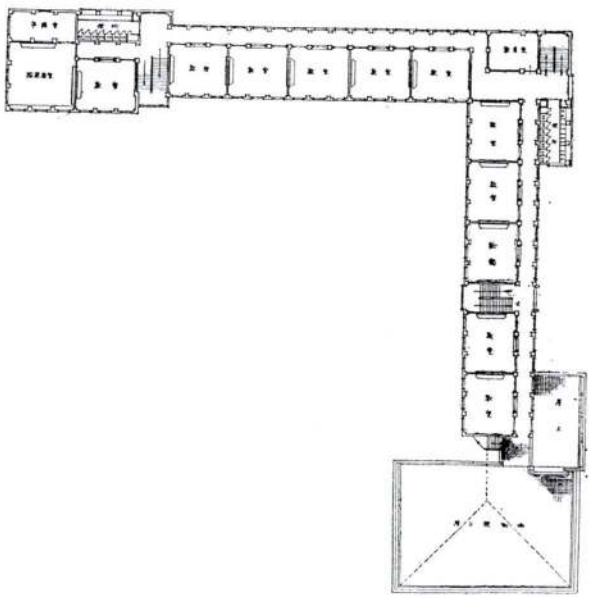
電氣設備
各室及廊下に電燈、電鈴、電氣時計、非常ベル等の設備あり、主として地階電氣室及蓄電池室にて操作し、電話は2階西南隅に交換室を設け自動交換にも替へ得る樣に設備す、屋上には特に「ネオンライト」を取付けたり
消火設備
各階廣間に消火栓を設備し尚表側道路にも「サイアミーズコネクション」を設け市消防「ポンプ」に給水を可能ならしむ
上水給水及排水設備
市上水道を使用し「ポンプ」を以て屋上貯水槽に揚水の上各所に給水す
給排水共配管は「パイプスペース」内に掩蔽す
衞生器具及淨化設備等
洗面器、便器等何れも白色高級陶器を使用す
汚水は地下淨化槽内に導き「ポンプ」を以て屋外に排水す
煖房換氣裝置
煖房は各室に「ラジエーター」を設置し蒸氣煖房とす「ボイラー」には「レイ」式自動重油燃燒器を裝置す各所の排氣は屋上の換氣用「フアン」により外部に排出せしむ
昇降機設備
定員12人乘エレベーター1基を設備す
其他の設備
塵芥燒却爐を地下室に設置し乾燥塵芥1日300貫を燒却し得べし



1 階 平 面 圖

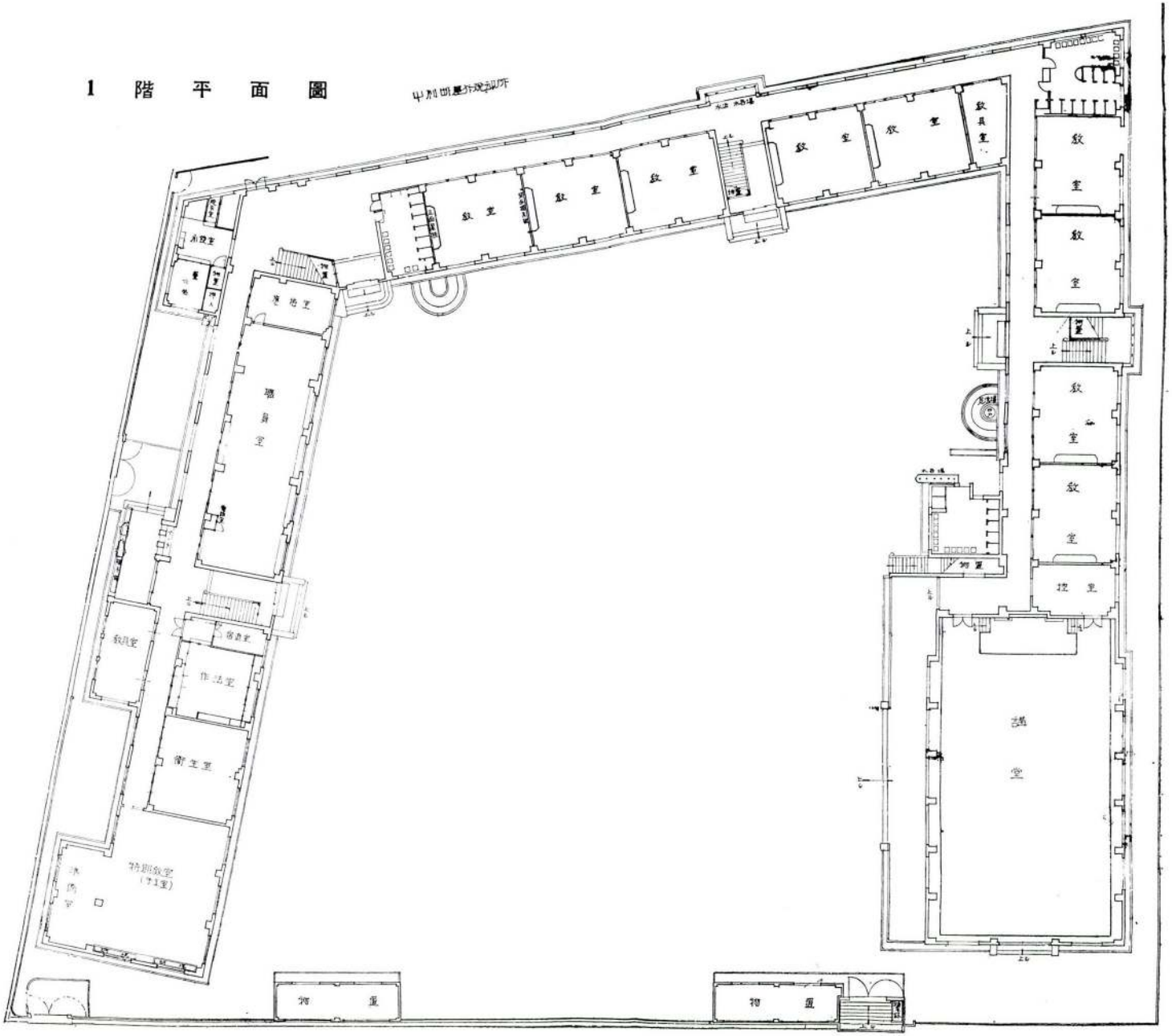


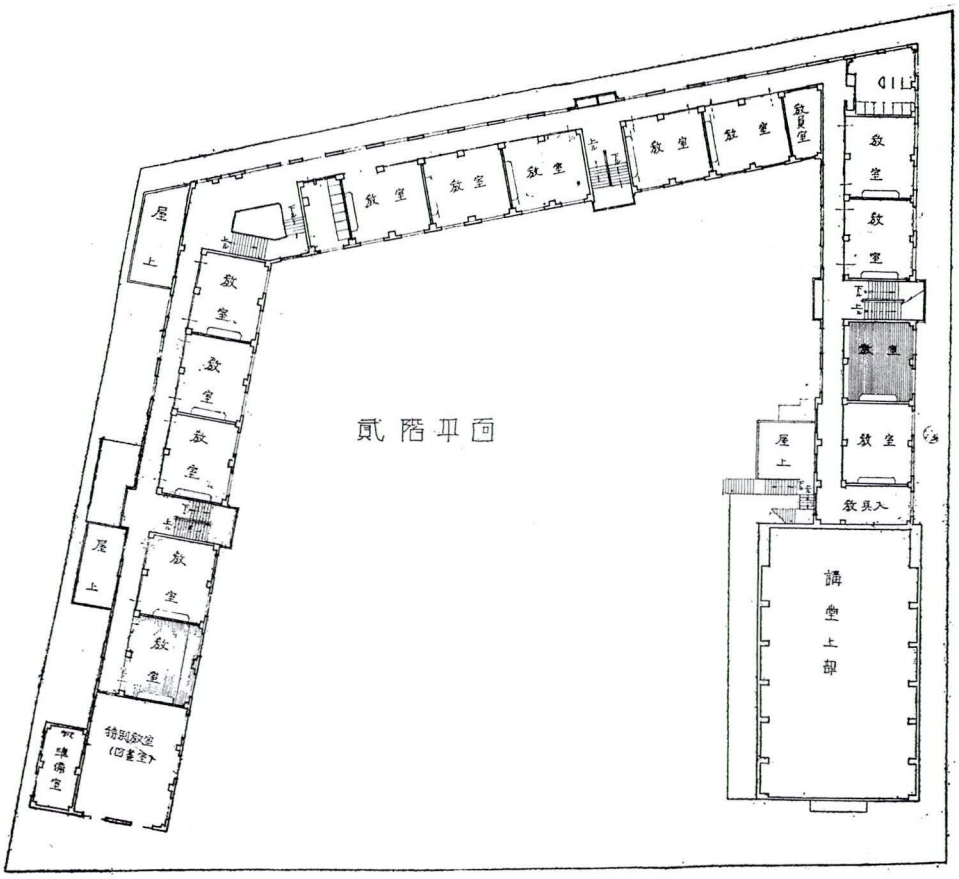
2 階 平 面 圖

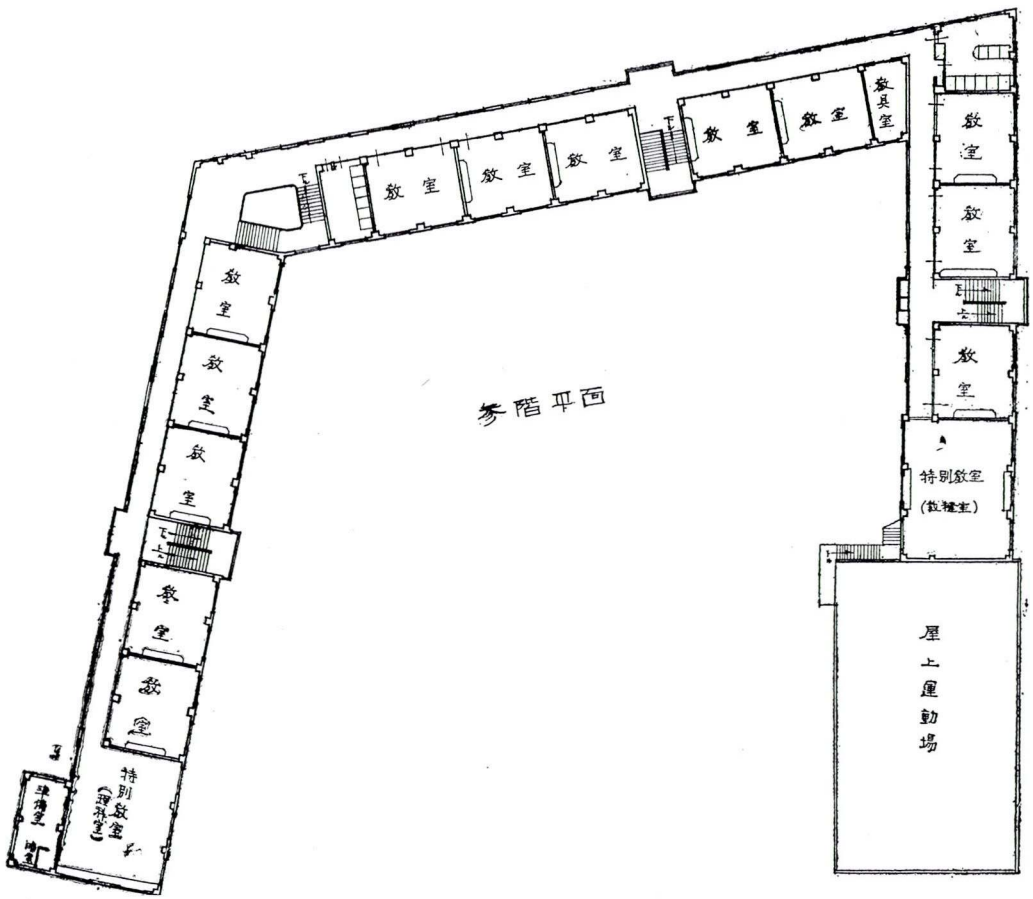


3 階 平 面 圖

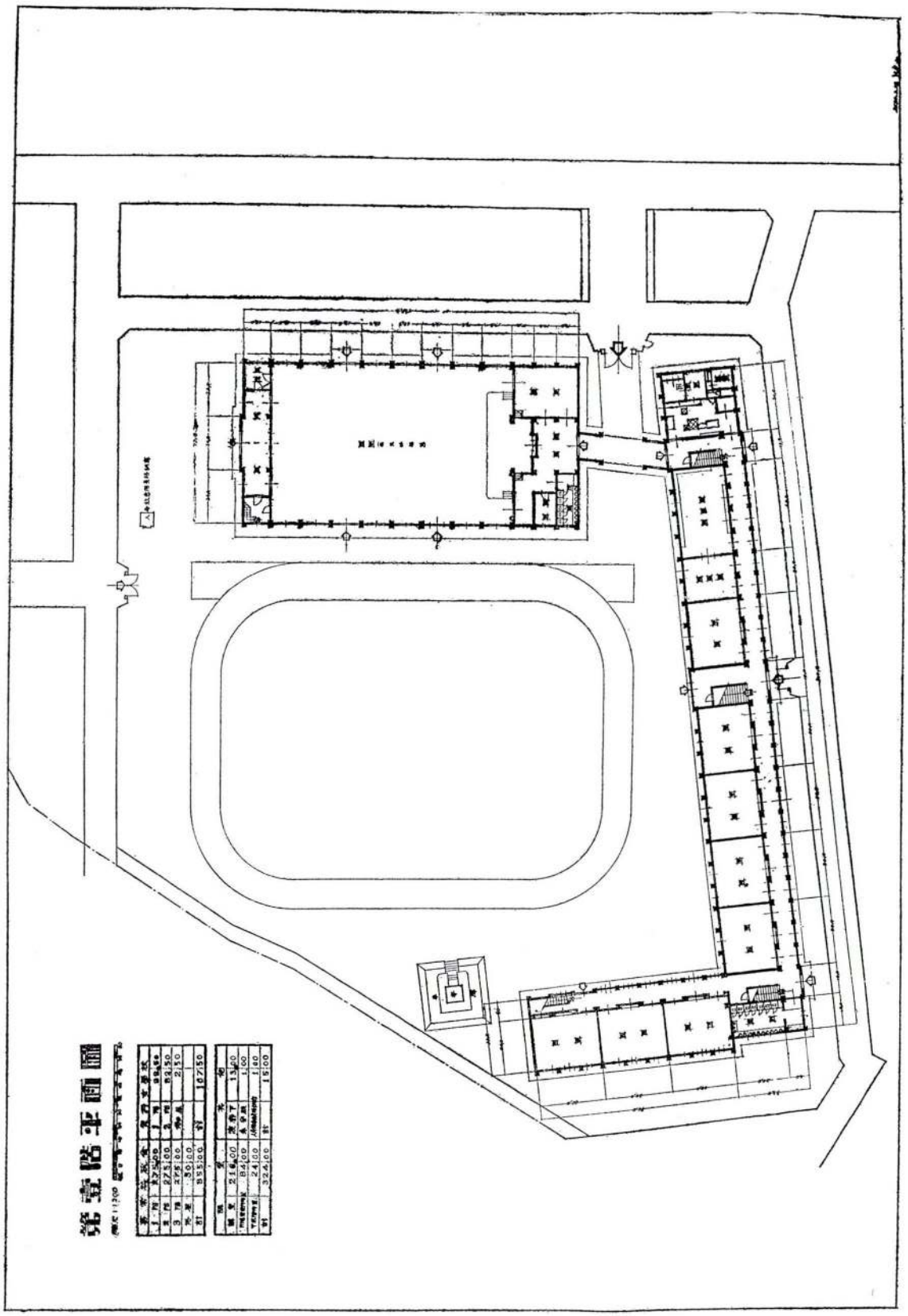
1 階 平 面 圖


教室
教室
教室
教室
教室
教具室
教室
教室
教室
教室
教

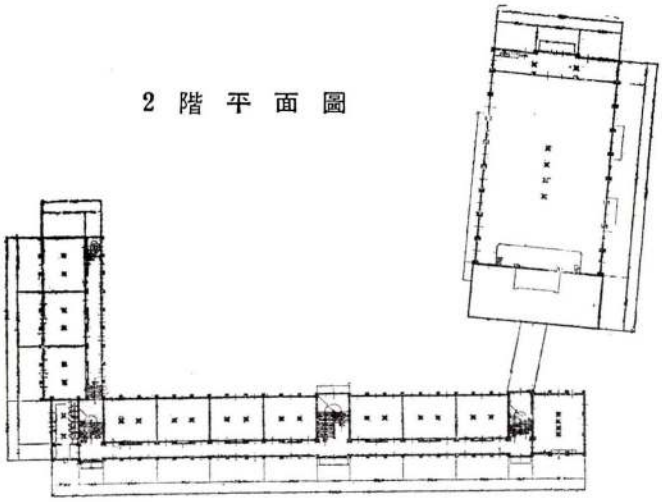




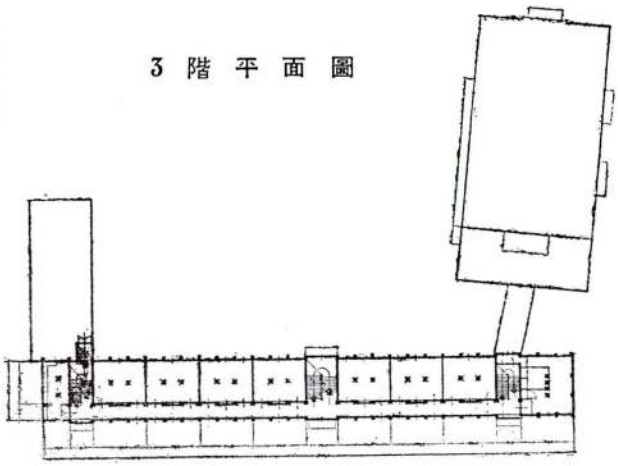
VI 20 “神戸市志里池小學校” 設計・神戸市營繕課・施工・畑工務店


配置平面圖

2 階 平 面 圖



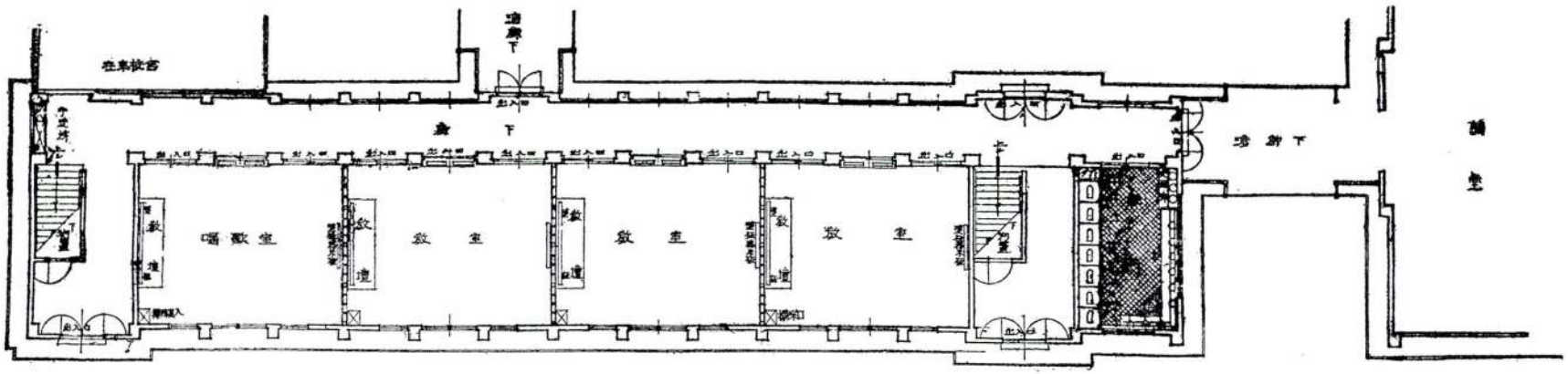
3 階 平 面 圖



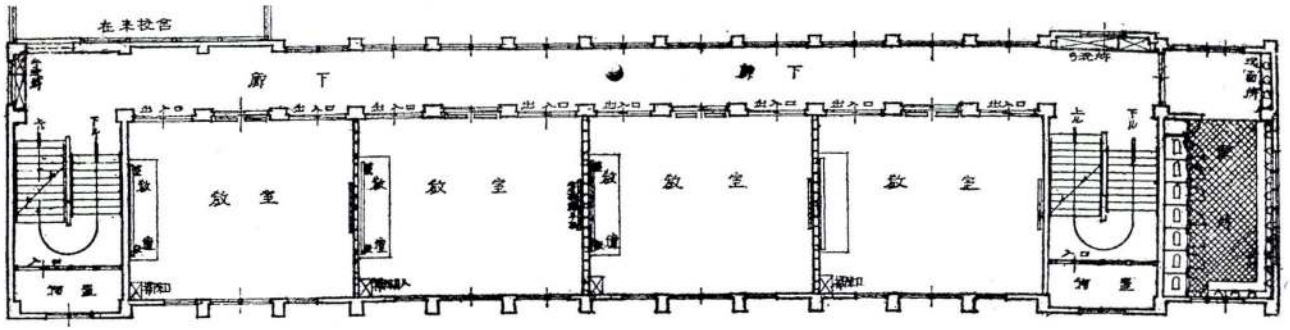
（イ） 所 在 地　豐中町大字新免字池ノ下888番地ノ1
（ロ） 建築様式　近代式
（ハ） 建築物
校舎　鐵筋混凝土造　陸屋根　3階建1棟（校舎及便所）
梁間　5間半、　桁行　50間
建坪　275坪
延坪　855坪
内　譯
1階　275坪　普通教室 6
職員室 2　小使室 1
2階　275坪　普通教室 8
特別教室 1
3階　275坪　普通教室 8
特別教室 1
塔屋　30坪（3ヶ所分）
軒高地盤線より軒パラペット天端迄　41尺5寸
塔屋高屋根床版上端水下線より塔屋軒頂部迄　9尺
講堂　鐵骨鐵筋混凝土造　陸屋根　平家建　1部中2階　1棟（講堂、控へ室、便所、物置）
梁間　12間、桁行　25間
建坪　300坪
延坪　324坪
内　譯
講　堂　216坪
附屬室及便所、物置　84坪
中2階物置　24坪
軒高地盤線より軒パラペット天端迄　26尺2寸
連絡渡廊下（講堂及校舎連絡）鐵筋混凝土造　陸屋根　平家建
梁間　12尺
桁行　39尺（中央にて）
建坪　13坪
軒高地盤線より軒先迄　13尺
軒出桁受より軒先迄　2尺

構 造 概 要

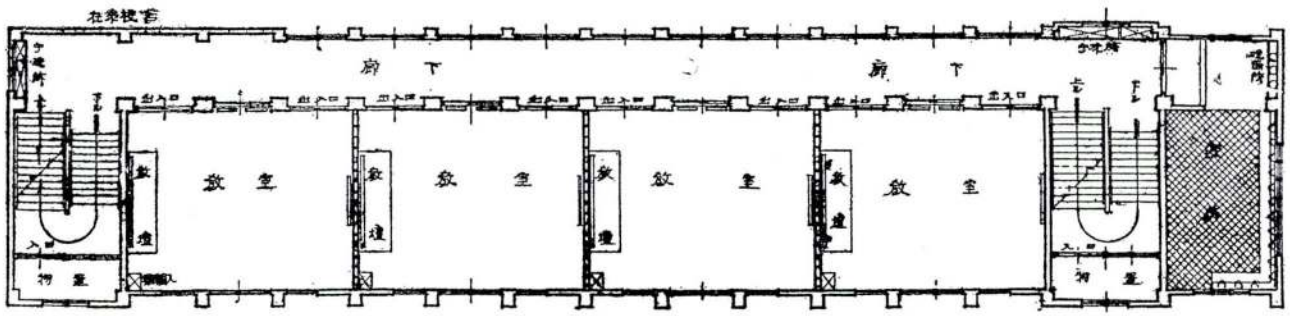
基礎及主體
割栗石地形にして鐵筋コンクリート造
外部仕上
皮セメント色入モルタル吹付仕上（色合指示通り）パラペット上端及前面は人造石洗出し塗仕上パラペット内面セメントモルタル塗にして室廻りはスチールサツシユ使用外面と入口扉スチールドアーを使用しサツシユ並ドアー及其他の鐵部は總て色ペンキ塗り仕上
内部仕上
廊下廻りは腰壁高圖面の通りペンキ塗壁プラスター塗り天井白色又は指示の色合プラスター吹き付け粗面塗り階段室廻りも右同上
各教室、理科教室、裁縫教室及職員室等、の腰廻り木造羽目板張りにしてオイルステインワニス或はワニス塗り壁並に天井はプラスター吹き付け塗職員室壁及天井共教室同上校長室腰羽目は框組羽目にて壁天井共右同
講堂内部腰羽目框組羽目板張りワニス塗及上壁及天井パネルはテツクス張りの上水性ペンキ塗天井化粧大梁は色プラスター吹き付塗各便所腰壁白色タイル張り壁及天井共プラスター塗木鐵部はペンキ塗り
床仕上
1階廊下及講堂附屬物置はターピヤーモルタル塗り教室講堂踊場其他共木造拭板張り階段は木造プロック張り便所床人造石研出し又はタイル敷（混用）階下階段下物置及湯沸場共モルタル塗仕上、但し2,3階便所は防水層を施し本頂仕上
屋上鋪裝
床版にて水勾配を附し防水層を施し保護層としてターピヤーコンクリート打仕上
其他庇等は防水層塗りにて仕上
樋　軒廻り防水層及保護層溝塗りにして軒樋を造り落口には鉛板にて龍の口を作製使用なし建樋は銅板製足元は瓦斯管を使用なすものとす
校舎木造鐵筋混凝土造陸屋根2階建1棟
梁間　5間半
桁行　15間
建坪　82坪5合
延坪　165坪
渡廊下
鐵骨鐵筋混凝土陸屋根防水層塗り屋根裏天井プラスター塗廊下床鋪裝は前記の通りターピヤーモルタル塗とし大體構造其他校舎に準ず
附帶工事
運動場鋪裝其他工事　一式
門　塀　工　事　一式
排　水　工　事　一式
給水及衛生工事　一式
汚水淨化槽設備工事　一式
電　氣　工　事　一式
校倉型奉安殿鐵筋混凝土造屋根銅板葺
建坪　1坪　壁眞々6尺4方
軒高地盤線より軒先迄11尺5寸、高15尺、軒出2尺1寸5分
人命救急用具格納庫鐵筋混凝土造平家建1棟
建坪　1坪　壁眞々6尺4方
軒面新地盤線より軒パラペット天端迄10尺



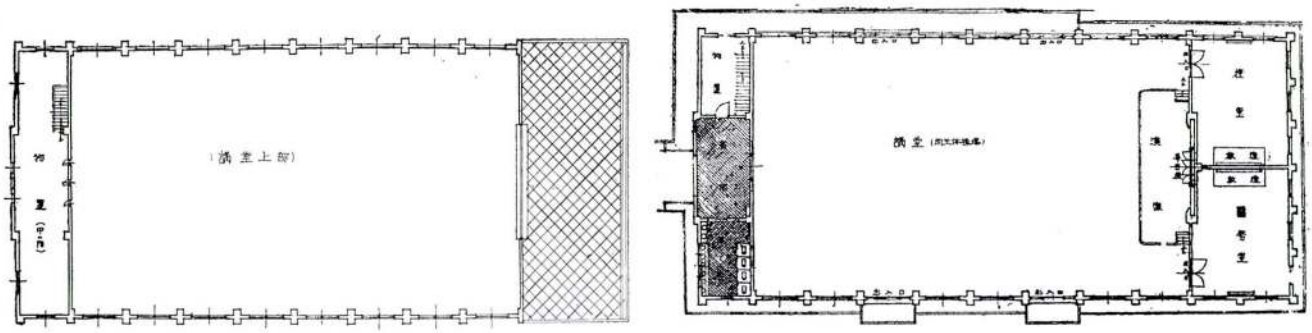
東西断面



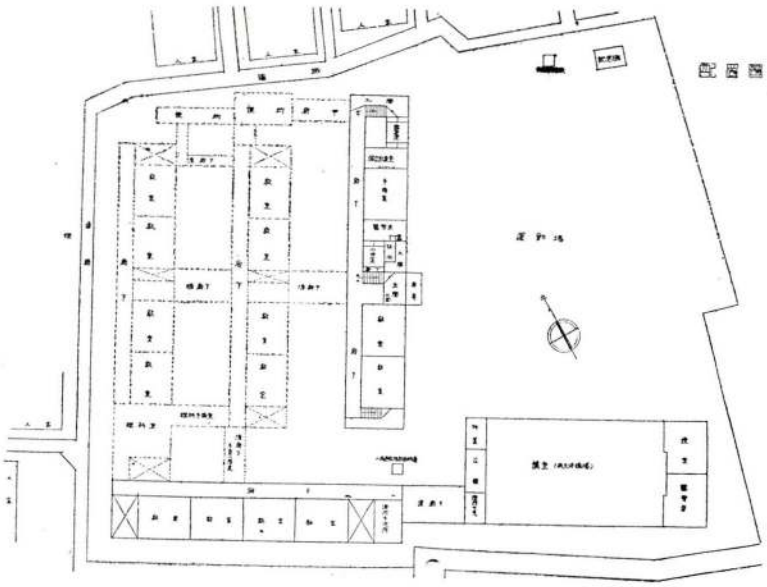
南北断面



参照断面



講堂平面圖



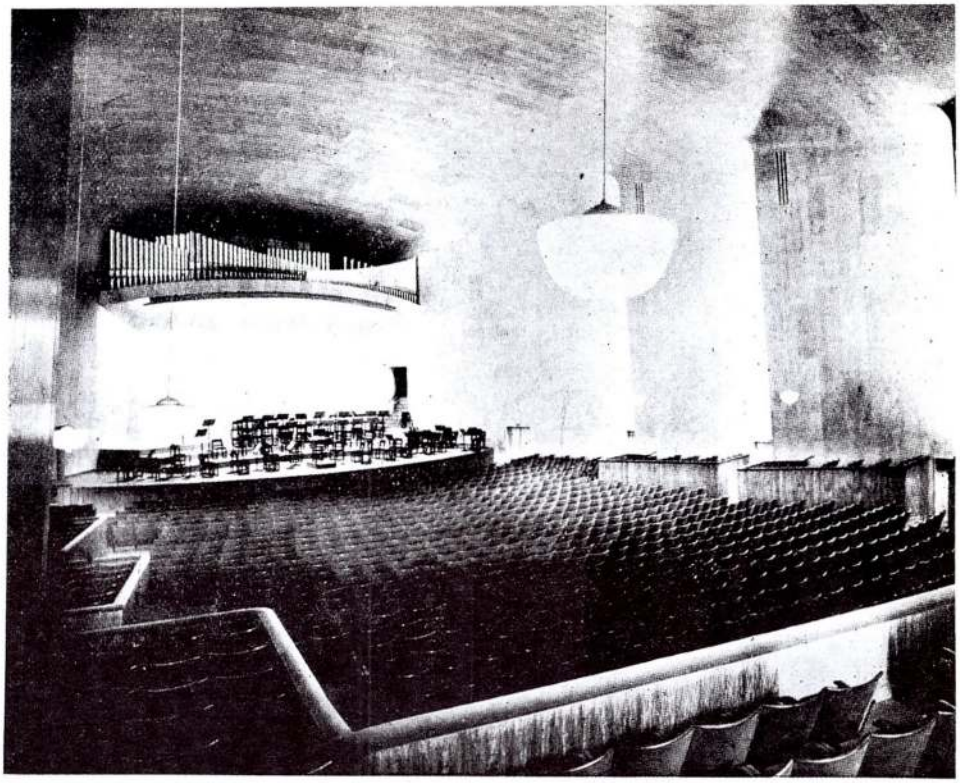
配置圖

（イ） 所在地　豊中町大字櫻塚乾14番地
（ロ） 建築様式　近代式
（ハ） 建築物
校舎　鐵筋混凝土造陸屋根　3階建　1棟
（校舎及便所）
梁間　5間半、桁行　27間半
建坪　151坪2合5勺
延坪　473坪7合5勺
内譯
1階　151坪2合5勺　普通教室 4
2階　151坪2合5勺　同
3階　151坪2合5勺　同
塔屋　20坪（2ヶ所分）
軒高地盤線より軒パラペット天端迄
41尺8寸
塔屋高、屋根床版上端水下線より塔屋軒頂部迄　9尺
講堂　鐵骨鐵筋混凝土造　陸屋根平家建　1部中2階　1棟、講堂、控へ室、便所、物置
梁間　10間、桁行　23間
建坪　230坪
延坪　250坪
内譯
講堂　170坪
控へ室、便所、物置　60坪
中2階物置　20坪
但シ庇ノ建築面積ハ算入セル
軒高地盤線より軒パラペット天端迄
26尺2寸
附屬室、軒高地盤線より軒パラペット天端迄　14尺8寸

構造概要

基礎及主體
割栗石地形にして鐵筋コンクリート造
外部仕上
白セメント色入モルタル吹付仕上（色合指示通り）パラペット上端及前面は人造石洗出し塗仕上パラペット内面セメントモルタル塗にして室廻りはスチールサツシュ使用外面と入口扉スチールドアーを使用しサツシュ並ドアー及其他の鐵部は總て色ペンキ塗り仕上
内部仕上
廊下廻りは腰壁高圓面の通りペンキ塗壁プラスター塗り天井白色又は指示の色合プラスター吹き付け粗面塗り階段室廻りも右同上
各教室、理科教室、裁縫教室及職員室等、の腰廻り木造羽目板張りにしてオイルステインワニス或はワニス塗り壁並に天井はプラスター吹き付け塗職員室壁及天井共教室同上校長室腰羽目は框組羽目にて壁天井共右同
講堂内部腰羽目框組羽目板張りワニス塗及上壁及天井パネルはテツクス張りの上水性ペンキ塗天井化粧大梁は色プラスター吹き付塗各便所腰壁白色タイル張り壁及天井共プラスター塗木鐵部はペンキ塗り
床仕上
1階廊下及講堂附屬物置はターピヤーモルタル塗り教室講堂踊場其他共木造拭板張り階段は木造プロツク張り便所床人造石研出し又はタイル敷（混用）
階下階段下物置及湯沸場共モルタル塗仕上
但し2,3階便所は防水層を施し本頂仕上
屋上鋪裝
床版にて水勾配を附し防水層を施し保護層としてターピヤーコンクリート打仕上其他庇等は防水層塗りにて仕上
樋　軒廻り防水層及保護層溝塗りにして軒樋を造り落口には鉛板にて龍の口を作製使用なし建樋は銅板製足元は瓦斯管を使用なすものとす
渡廊下
鐵骨鐵筋混凝土陸屋根防水層塗り屋根裏天井プラスター塗廊下床鋪裝は前記の通りターピヤーモルタル塗とし大體構造其他校舎に準ず
附帶工事
運動場鋪裝其他工事　一式
門塀工事　一式
排水工事　一式
給水及衛生工事　一式
汚水淨化槽設備工事　一式
電氣工事　一式
校倉型奉安殿　鐵筋混凝土造屋根銅板葺　建坪　1坪　壁眞々6尺4方
軒高地盤線より軒先迄11尺5寸、高15尺、軒出2尺1寸5分
人命救急用具格納庫　鐵筋混凝土造平家建　1棟
建坪　1坪　壁眞々6尺4方
軒高新地盤線より軒パラペット天端迄
10尺

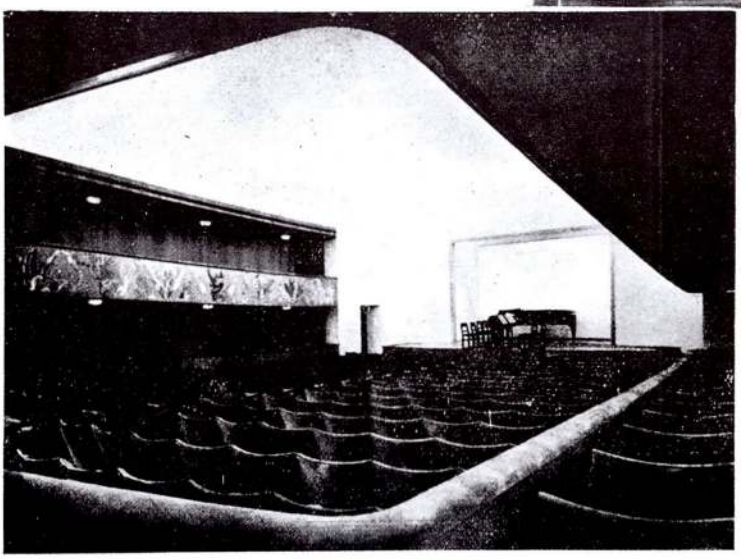
VI 24 “豊中克明第2小學校”　設計・波江悌夫建築事務所・施工・牧野組・中井組



大演奏場

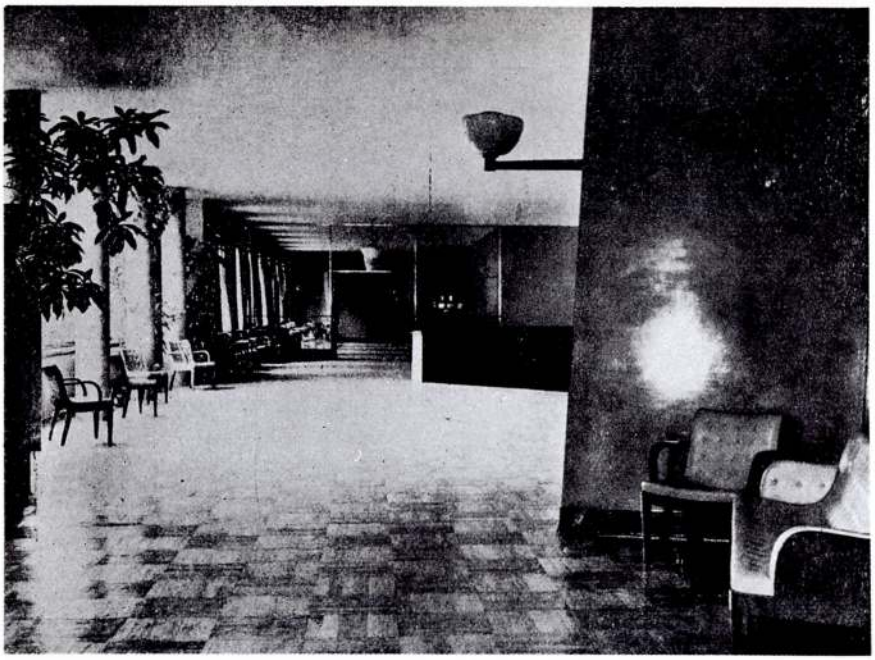


廣　間



小演奏場

（スウエーデン）Göteborg 市音樂堂



遊　歩　場

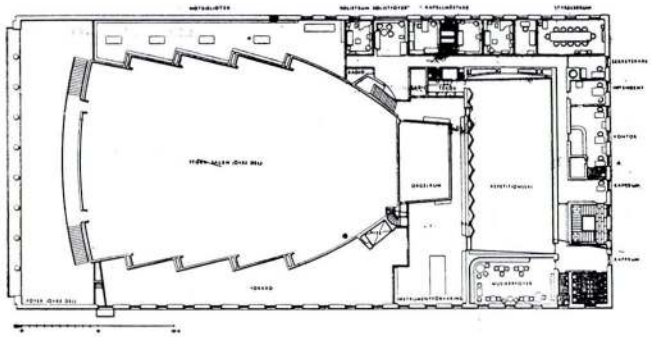
この音樂堂は大小２室の演奏場を有し、大演奏場は聽衆1300人を收容、その舞臺は Orchestra 人員65、又は合唱人員 180 の演奏を可能とするもので寫眞に示す如く普通の音樂堂とは可成に樣子が變つて居て、プセニアム、アーチに當る部分にはpipe organが設けられて居る。

平面、斷面圖に示す如く、音響學上より形態並材料的設計がなされて居て、後方の壁は斜めになつて居て、音を中央部に反射させ、角度の異なつた兩側の壁は反射によりて音を均等に室內に分散させる。壁の仕上材料は木材板で、この板には背面に適當に木棒を打ち各板の固有振動周期を變へ、どの音に對しても一樣に共鳴に依り音量を增大させて居る。更にこの演奏場は空氣調節の設備が整ひ、1人1時間 22—25m³の快適空氣が供給されるものである。

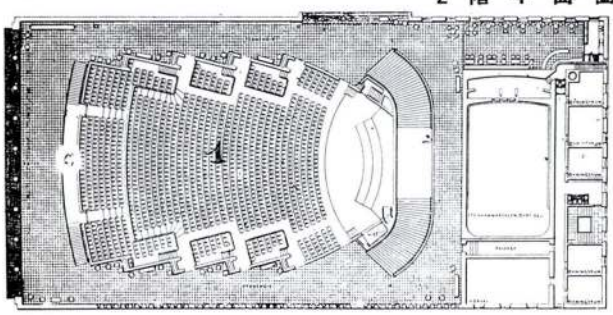
尙小演奏場は收容人員 450で主として室內樂演奏のためのものである。

(Moderne Banfor men, April, 1936)

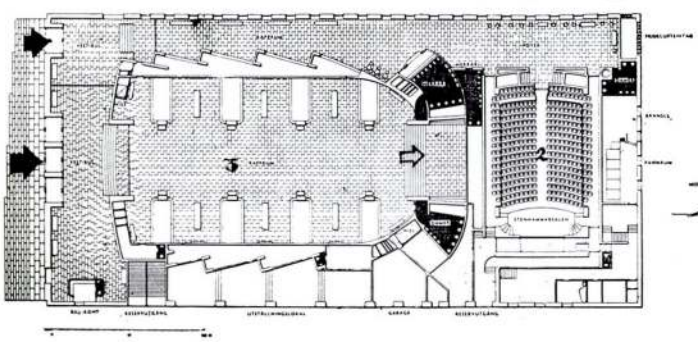
3 階 平 面 圖



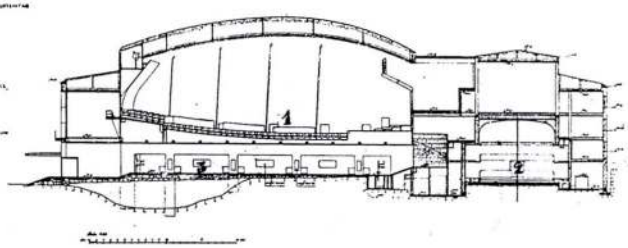
2 階 平 面 圖

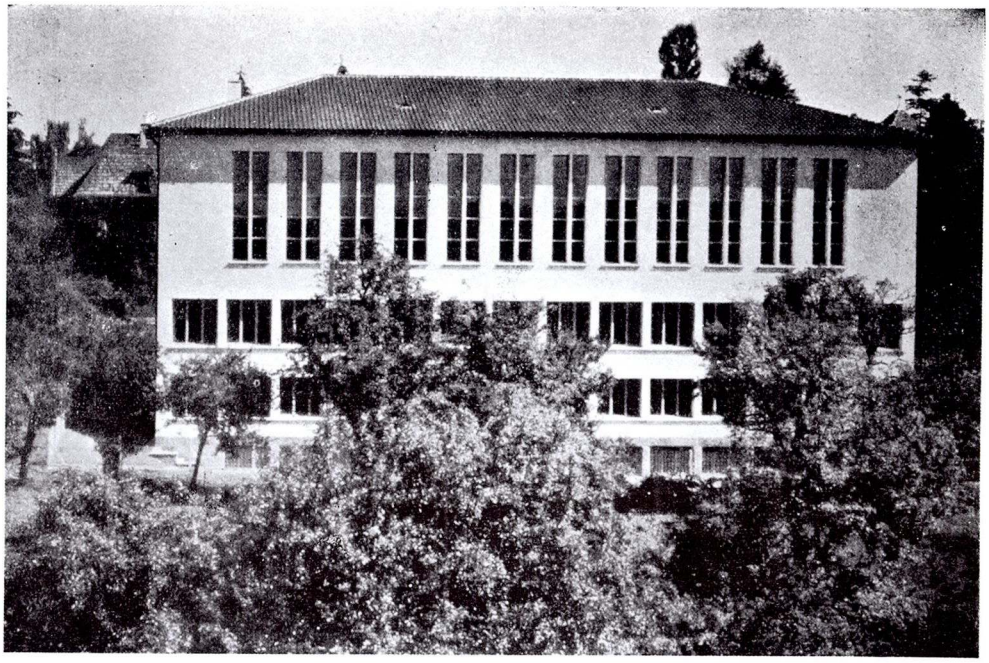


1 階 平 面 圖

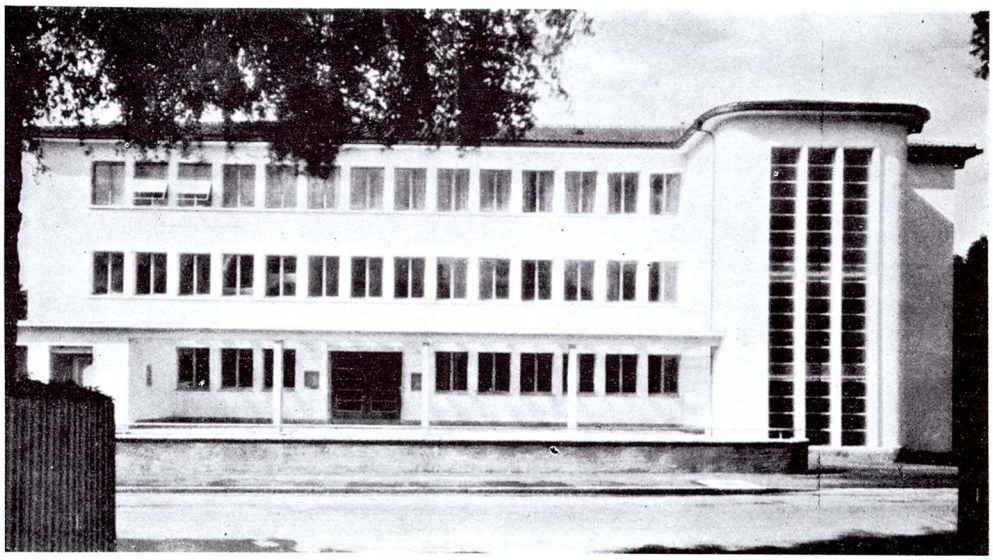


縱 斷 面 圖



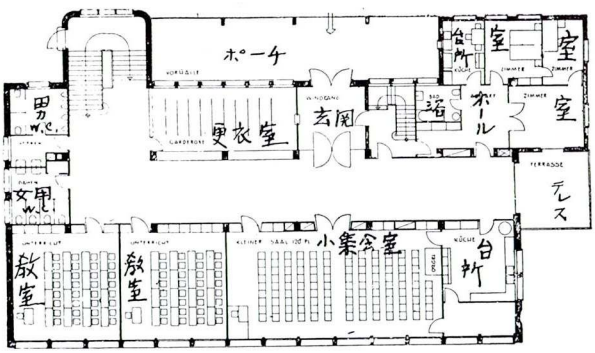


外　　觀



外　　觀

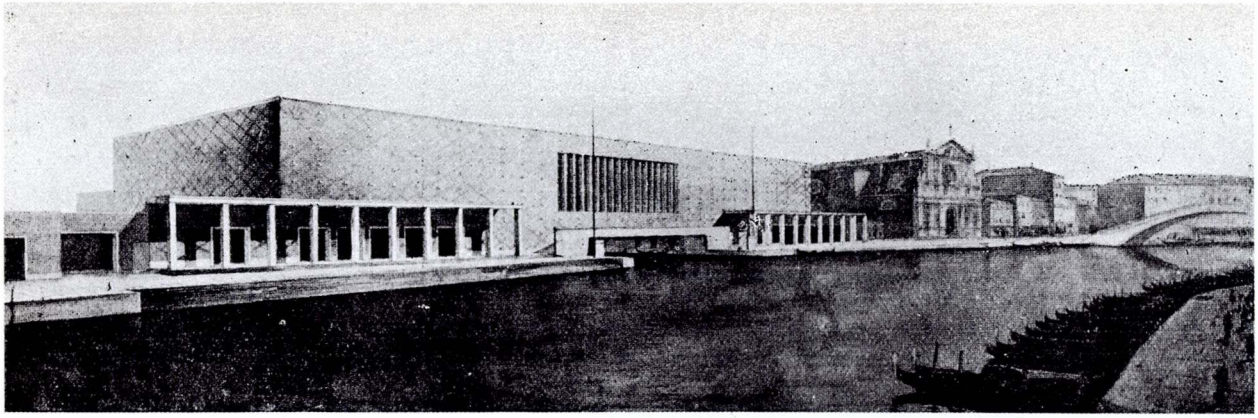
1 階 平 面 圖



スイスのベルンにある、教化、娯樂、スポーツ等の會館で、地下室共4階になつて居る。こゝに掲げるのは1階のプランであるが、最上階は運動室となりギャラリーが附屬してある。

建築家 Dubach und Gloor 設計

(Das Werk,Apr. 1936)



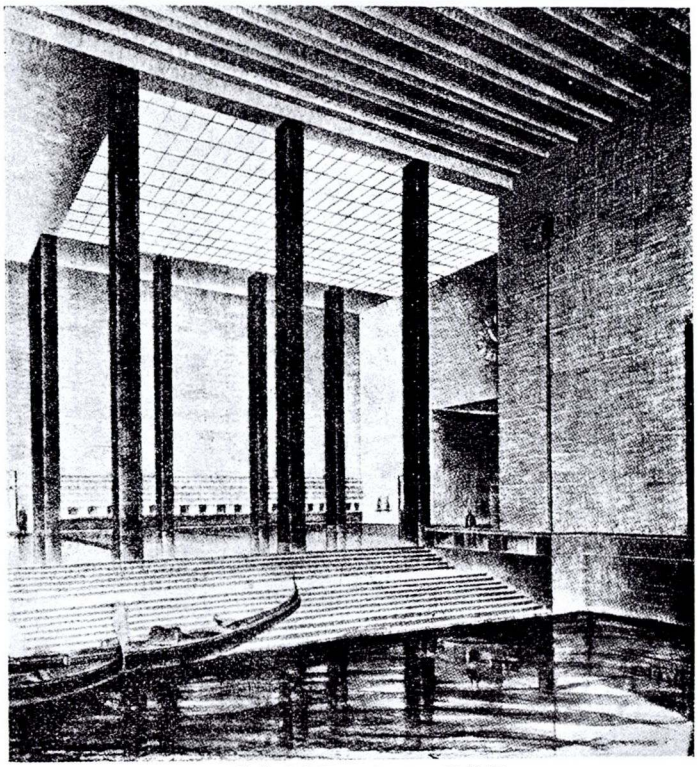
大運河の對岸より見たる姿圖

Mussolini は10數年來全國的に自動車道路網を、主要都市ミラノ、フイレンチエには巨大なる停車場を建設す。

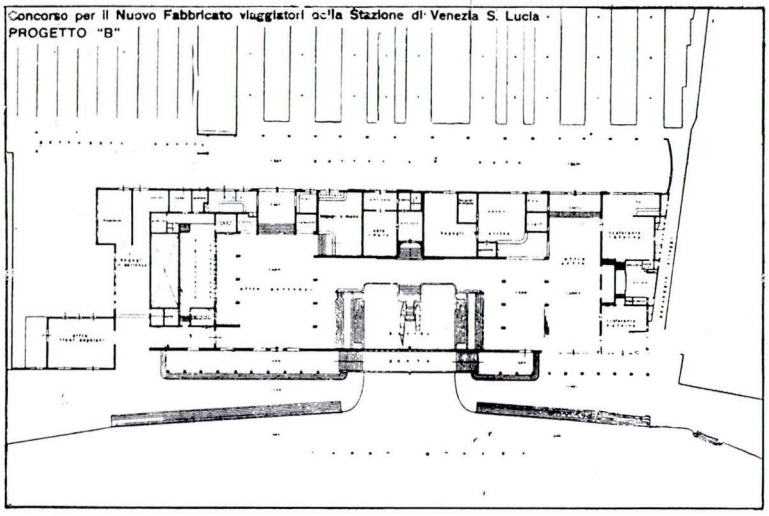
Venezia は數年前歐洲屈指の大自動車庫を設置し、今や現在の旅客驛サンタルチアの改築のために40の競技設計應募案を得た。

Virgilio Vallst 案が1等と審査された。本設計は所謂"水の都"の停車場としての極めて特殊な條件を巧に解決した。即平面圖に見る如く乘車口（向つて右）と降車口との間に當市の交通の最幹線なる大運河(カナールグランデ)を取り入れて旅客待合場に直接小蒸氣船やゴンドラの發着場を設く。又委圖に見る4半目模様の付いたボリユームのある壁面はヴエネチア、ゴチックの代表的傑作なるパラツツオドウカーレ(統領官)にヒントを得たものゝ如く多分に國粹的地方色を取り入れた點にフアッシヨ建築の面目躍如たるものあり。

(L'Architettura Italiana, Feb. 1936)



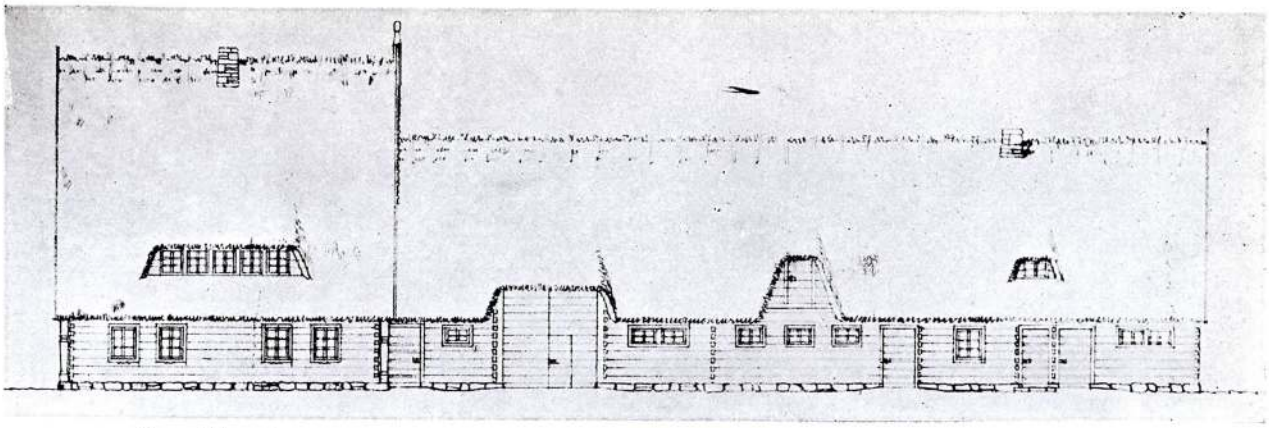
旅客待合場のゴンドラ發着場



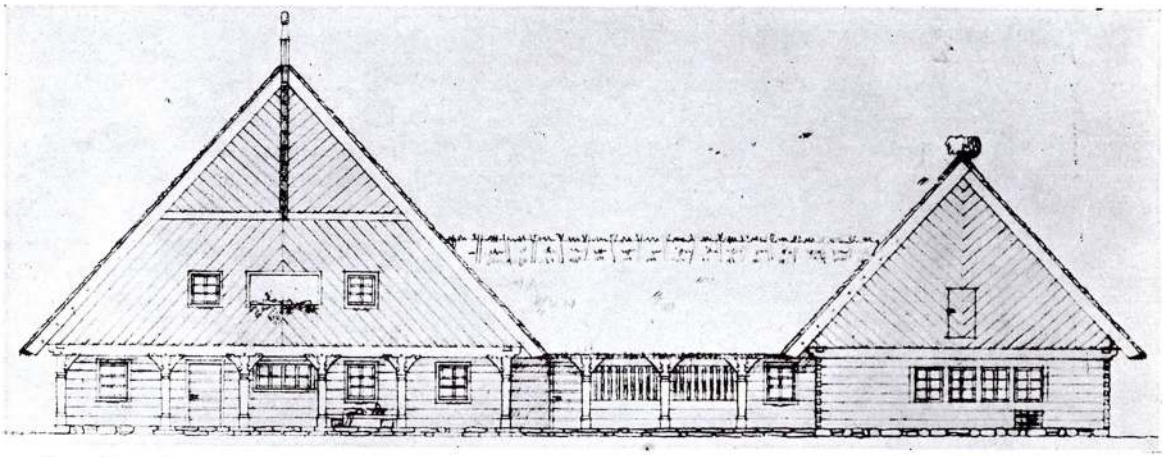
平　面　圖

VI 28　（イタリー）ヴエネチアの旅客驛競技設計1等案

建築家 Virgilio Vallst



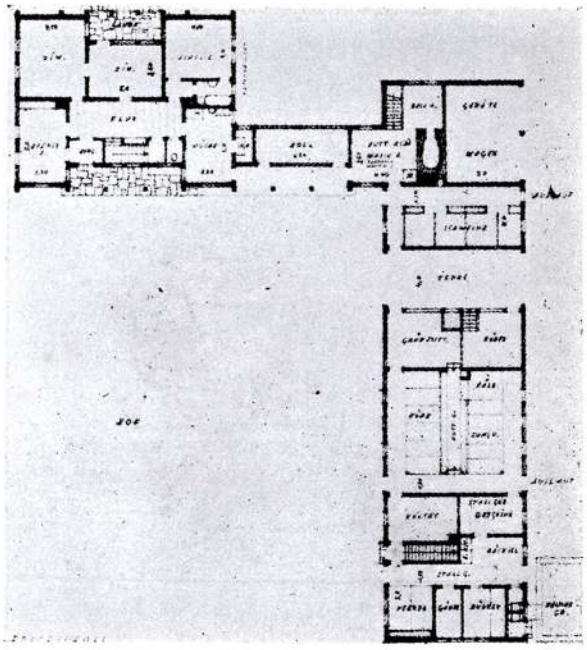
外　觀　1



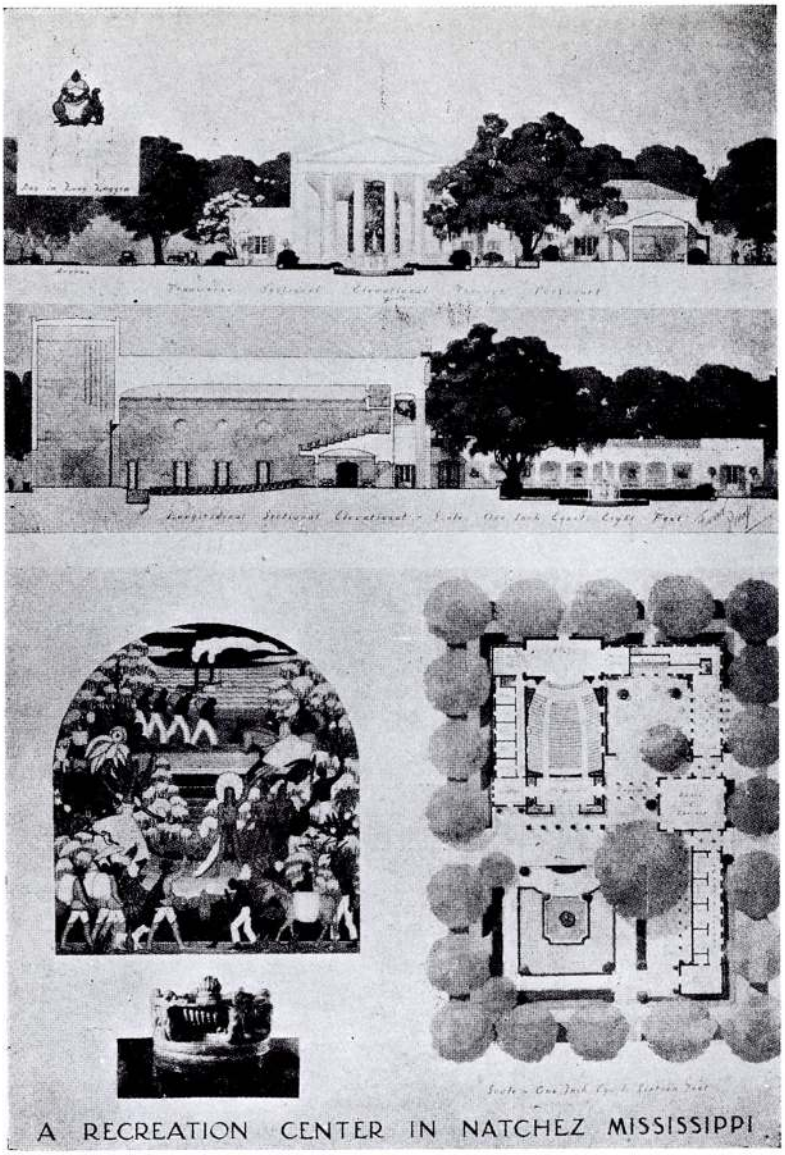
外　觀　2

山林關係の木造建物にはこの種の獨逸的なものが多い。次の營林署長官舍も同じ。

(Das Baumeister, Apr. 1936)



1 階 平 面 圖



慰樂休養會館の競技設計が發表になつたのは、1935年10月18日にして、締切は1936年1月17日であつた。

競技設計の題目は〃12,000人程度の都市への都市慰樂休養會館〃("A Community Recreation Center for a Town of about 12,000 people")と云ふのであつた。これはローマのアメリカ美術學校(The American Academy of Rome)に於けるアルメニー協會の主催にかゝるものである。

壹等入選は賞金300弗を獲得したコーネル大學内建築大學の3人よりなるチームで、それは建築科の B. J. Rabe, 美術科の A. Briggs 及造園科の R. S Kitchen 等の諸氏の制作にかゝるものであつた。

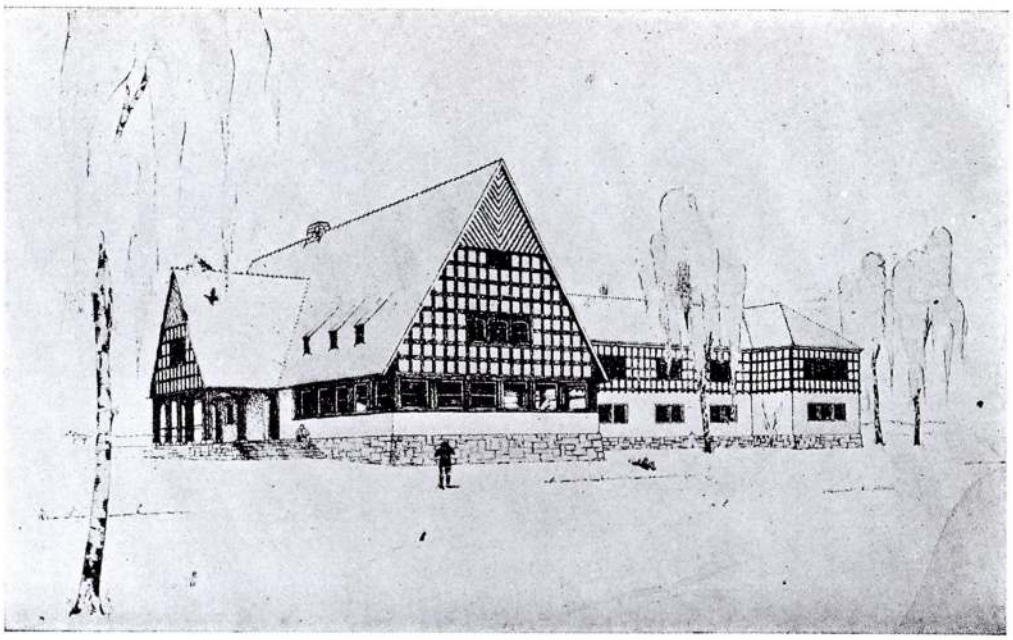
貳等入選は、賞金150弗を獲得したペンシルベニア大學及ペンシルベニア美術學校の4人のメムバーより成るチームであつた。

參等入選は、賞金75弗獲得したエール美術學校の3人のメムバーよりなるチームであつた。

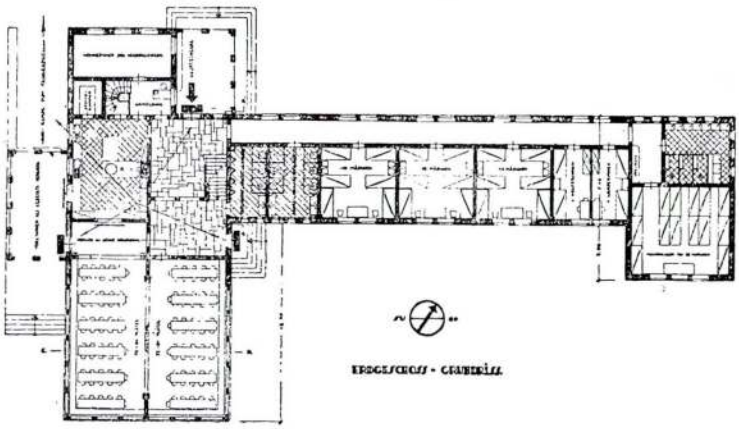
尙ほ入賞メダルが幾つかの學校へ授與された。各設計圖は、それぞれ審判に於ける批評記錄を附して各應募者へ送附された。

考究された事項

人口10,000乃至12,000を有する米國の諸都市に於ける公衆精神の訓練を受けた(Public sprited)市民は、あらゆる問題に關して彼等社會の利益を享有すべく藝術及慰樂休養機關の開發及助成に關する一つの試案として此の會館の建設を決定したのである。敷地收得に關しては、駐車場としての稅金や利子等の不拂によつて市有に歸した土地利用を條件とした。勞働力の供給に關しては、失業救濟事業局より之れを行はしめる事。會館建築敷地として適當なる土地が賦與されるならば、市民は、建築家、畵家、彫刻家及造園家等の參加に備へる準備をなし且つ建築費等の支拂を引き受ける事の贊成を條件として居つた。此の建物は鄕土的の演劇の上演、音樂の演奏、ダンス及繪畵展覽會等の催しを奬勵するのが、目的である故、出來得る限り廣範圍に於て一般の興味を引き且つ安値な集會場となる事が希望されて居るのである。選定された敷地は幹線道路から少し移動して居る一區廓の土地で廣さ 300′×200′を有す。周圍は小規模なる小賣商店と第2階級程度の住宅が雜然と建ち並ぶ地域に面して居る。(American City, April, 1936)



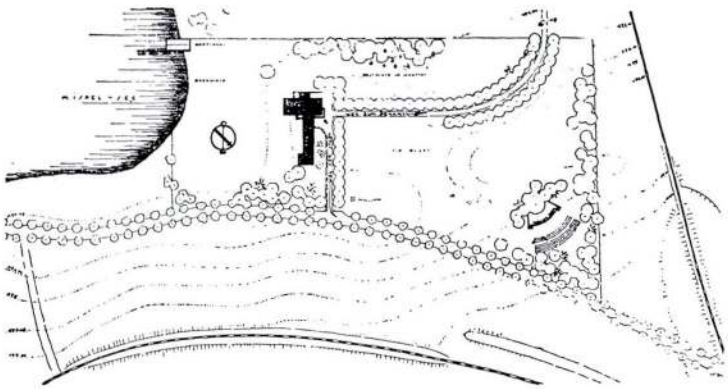
配　景　圖



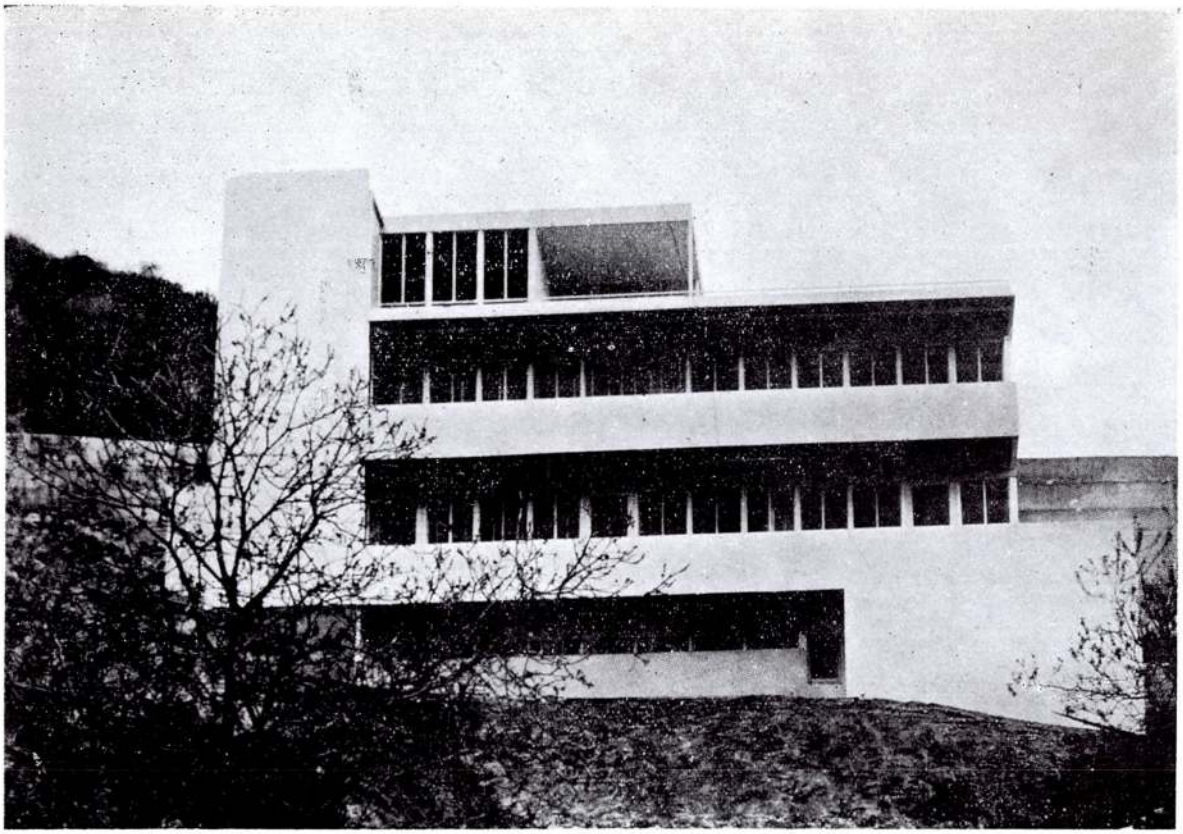
1　階　平　面　圖

この種の建物には、獨逸的なものが愛好される傾向がある。

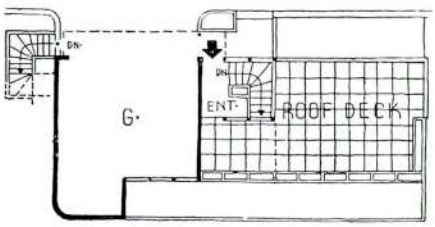
(Das Baumeister, Apr. 1916)



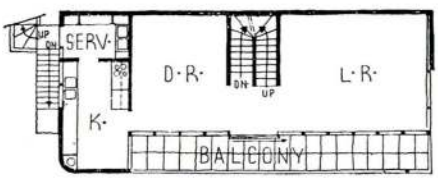
配　置　圖



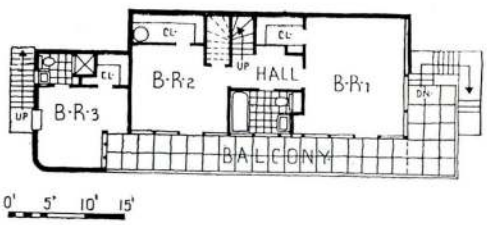
外　　觀



3 階 平 面 圖



2 階 平 面 圖



1 階 平 面 圖

夫婦及成人した娘、それに突然の訪問客を泊め得るだけの設備を持つて居る。

平面は2階に取られた廣い居間と食堂と程よき大さの炊事場とを中心とし、1階には寢室3個所、その中のバス附寢室の1つは露臺から直接入る樣になつて居り來客專用である。

最下階は主として倉庫、それに丘を見渡すテラスと、夏の水浴の爲の埋込みの水槽とがある。

基礎は鐵筋コンクリート造、最下階床は3吋厚のセメントスラブに防水を施す。

壁はノイトラー流の鐵骨のスタンダード・フォームを骨とする極めて輕快な構造である。

工費5,000弗、20,195立方呎、1立方呎當り約25セントである。

(Architectural Forum, April, 1936)



外　觀

女中を使つて居ない獨身婦人の住宅。客室1室あり。

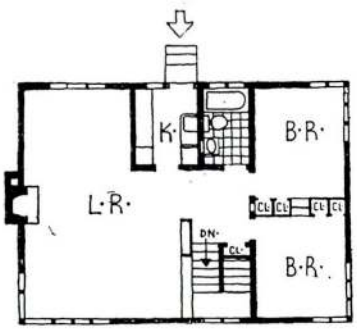
角に窓を取つて採光と換氣とを充分ならしめ、且湖の眺望を窓にして居る。

アメリカの古い家具が節附の松の羽目板とよく調和して居る。

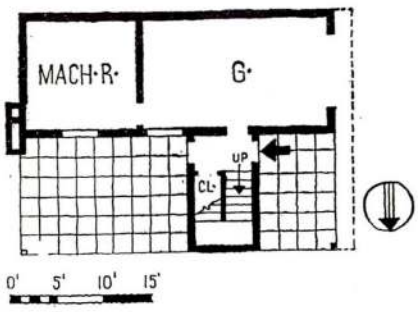
外壁は木造羽目板張。

工費4,900弗。

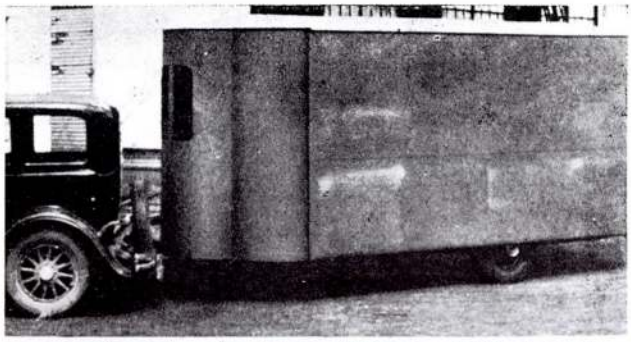
(Architectural Forum, April, 1936)

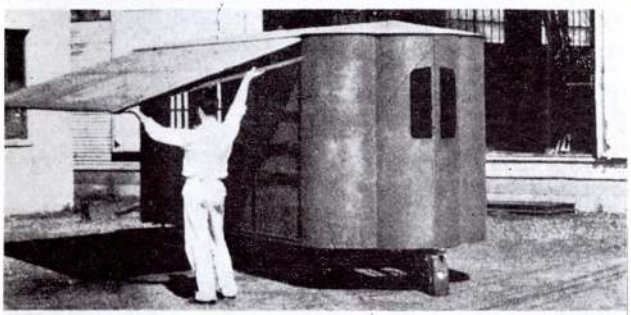


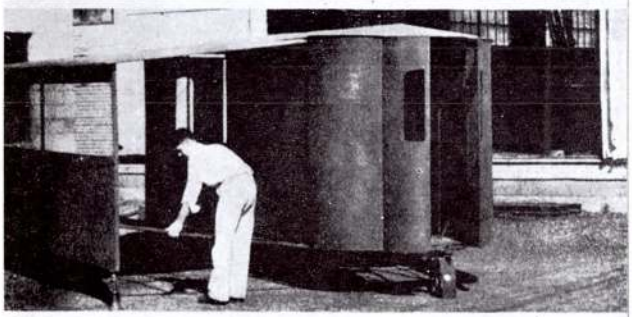
2階平面圖

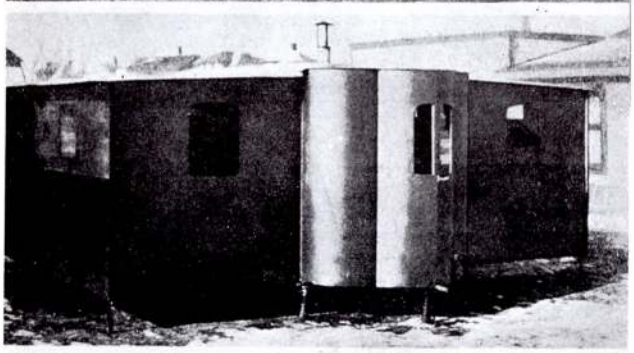


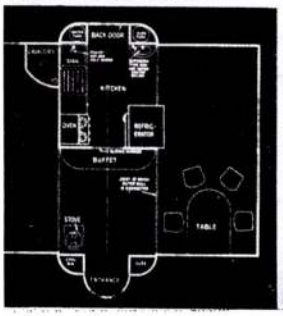
1階平面圖

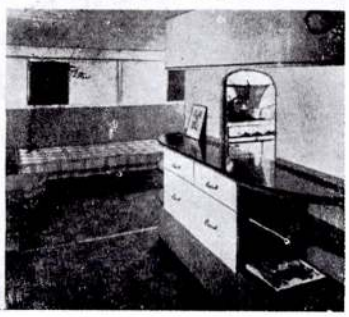












この型のモービル・ハウスは、此の5月から米貨1200弗—1500弗に市販されてゐるもので、この種の必須條件である可動出來る住ひと云ふ點では外國映畵等で馴染みの所謂トレーラーには變りはないが、この設計では住宅としての用途を第一義的に、時には意の趣くままに附屬車として牽引してもゆけると云ふ處か興味ある點である。自動車に牽引されてゐる道中では、家具とか總ゆる設備、衣食住必需品が滿載されてゐるので、映畵に現れるトレーラーの樣にこの中で樂めないが、目的地に着けば16呎×6.5 呎の此の車體は速寫ケースから飛出す寫眞機の各部の樣に20呎×14呎に展開され、半時間の內に寢室が2室それに居間・支關完備した厨房に分たれる。

構造 重量1.2 噸・鋼製管狀材の架構に、外壁は輕合金鈑螺子止め、內部はベニア板貼付、窓は自動車窓式のガラス板引戶と蟲除スクリーン取付、厨房と支關とを貫く縱斷面に架構が骨組されてゐて、この兩翼に寫眞にみゆる蝶番釣の折疊み壁と屋根が仕舞込まれてゐる。

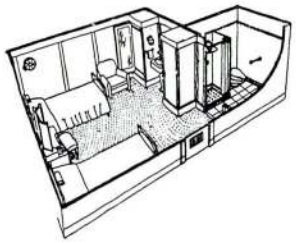
設備 電氣冷藏庫・瓦斯料理器・給水槽・自動給湯裝置・便所・配膳室・食卓・各種の棚・椅子6脚・寢臺 4臺・石炭用ストーブ等、電氣設備としては110Voltと停車した場合は自動車の特設發電機から供給される12Voltの2系統に配線されてゐる。

トレーラー市

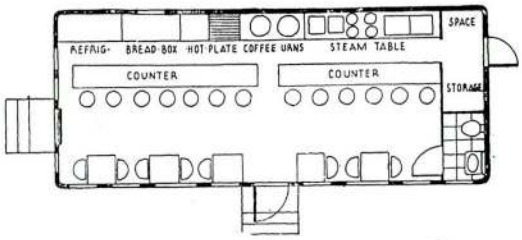
この設計者はトレーナーの將來の動向に就いて述べて猶〃旅行・キヤンプ等この使用が普遍してくると、自然と旅行ルートが成立して、隨所にトレーラー市が、トレーラー愛好家の手で半永久的に建設される事になることは豫期出來る。現に昨年フロリダのあるトレーラー市は1000臺を突破したことから推して今シーズンは1500臺を超過する事は疑へない〃と。

單にロマンチズムの工業化と云ふことなしに、日本でも可動性住宅の1型態として十分時代の寵兒たり得る資格があると思へる。

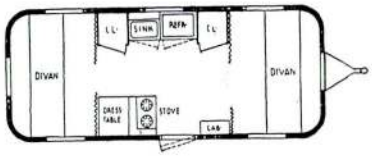
(Architectural Record, May 1936より)



1

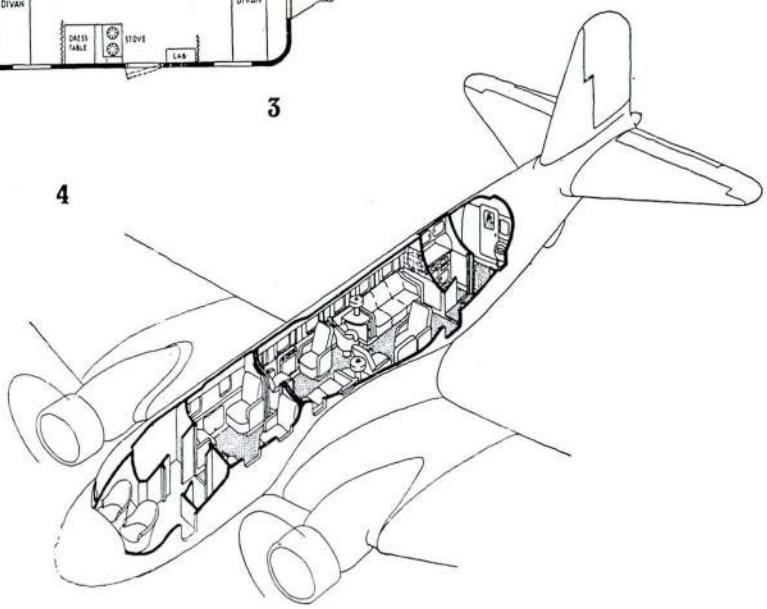


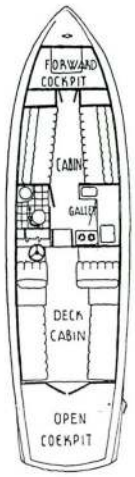
2



3

4





5

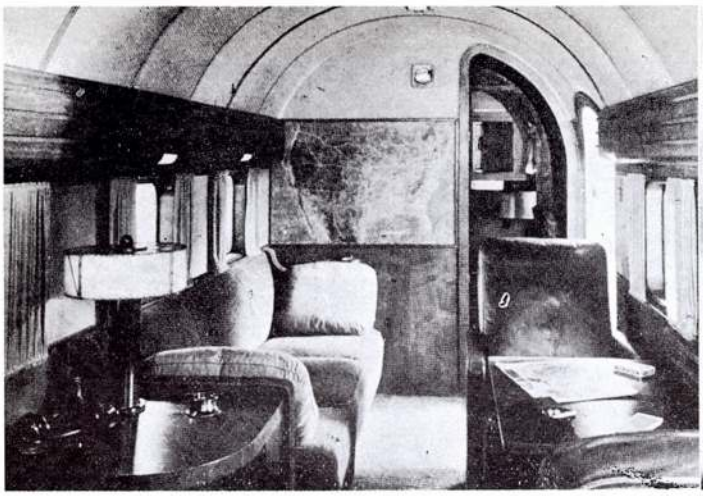
スペイスを如何に上手に利用するかといふことは建築の平面計畫、殊に小住宅の設計に當つて最も必要な事柄であるが、こゝに揭げられた、船室やモーター・ボート、飛行機の客室やトレイター、又は路傍で簡單な食事を採らせる食堂車等の間取は、最小限度住宅の設計に於て、スペイスの壓縮に大いに參考になる。

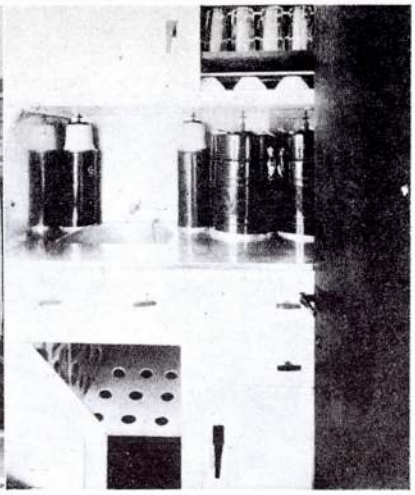
勿論小住宅の厨房にモーター・ボートの炊事室をその儘使用すれば主婦の不滿を買ふこと必定であるが、それ等の室の配置、家具の排列等を研究することに依つて、スペイスの取扱方に就いて啓發せられる點が多い。

但し、能率的なプラン常に必ずしも最小のものとは限らない。又スペイスをコムパクトに利用すればする程工費の單價は高くなる。從つて、小住宅の設計にこゝに揭げられた例を參考にする場合、この點を充分念頭に置くことが必要である。

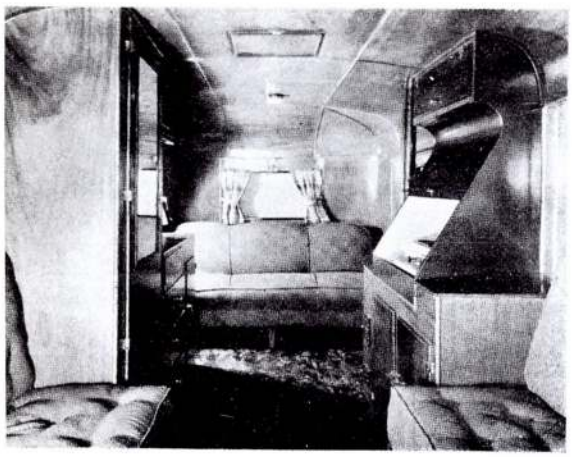
1. 1等船室

3等船室が寢室の廣さとして最小限度ではあるが、圖に示した如き1等船室でも僅に11呎角の面積の中に押入2個所、化粧室、手洗場各1個所、大人用寢臺2個と1個乃至2個の椅子とが用意せられて居る。

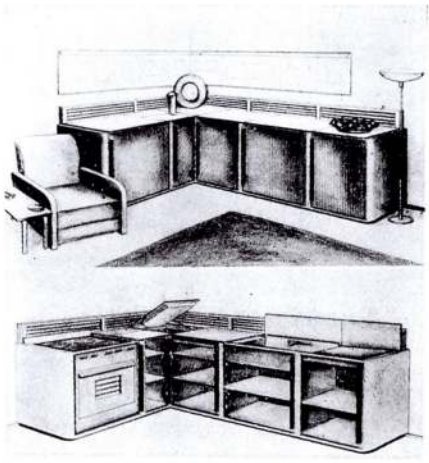




4



3



6

2. 食 堂 車

巾4呎に車の長さだけの奥行を持つた部分に1時に20人餘りの人數を收容し、殘餘の部分に調理場を設けてそれだけの人數に食事を供給する仕組になつて居るが、これも亦最も能率よき配置の1例である。

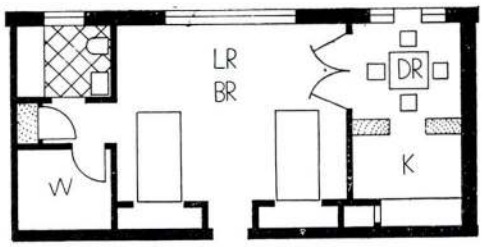
普通の小住宅の臺所は、これを參考にすることに依つて幾分その大さを減少し得るであらう。

3. **トレイター**

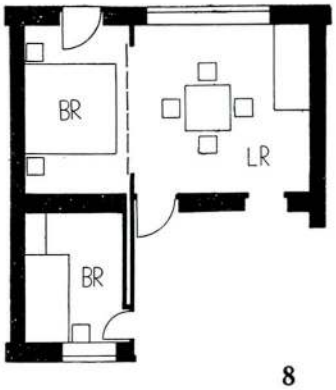
これは全く、基礎の代りに車の附いた移動し得る小住宅である。長さ18呎の車體の中に4人の人々の眠る場所と押入と調理設備とを備へて居る。但し寢室の部分は晝は食堂及居間に利用せられ、調理場は最小限度に切詰められて居る。

4. 飛 行 機

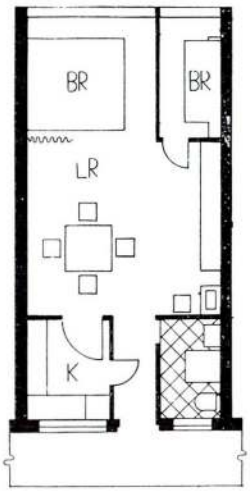
ヘンリー・ドレイファウス設計のダグラス機の內部で最も興味のある部分はその炊事室である。尙その他の部分に就いても、スペイスの縮小はこれ以上は不可能と言ふ點まで行つて居る。側壁に取附けられたテーブルは机ともなるし食卓ともなる。椅子は夜間寢臺に變る。同じスペイスを場合に應じて異つた目的に用ふるといふことは、小住宅の面積節減の爲に非常に必要な



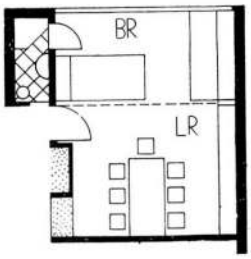
7



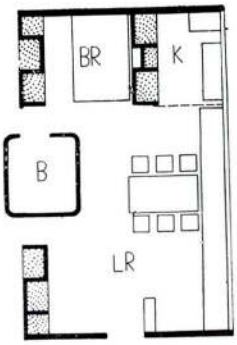
8



9



10



11

こさである。

5. モーター・ボート

モーター・ボートに至つては前述の諸例よりも一層住宅に近い。それを周航の期間中その中で生活が出來る樣に、居間、寢室、竝に食事に關する設備が備つて居る。

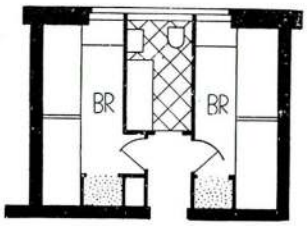
圖は長さ38呎のモーター・ボートであるが、8 人が生活出來る設備がある。炊事場は約16平方呎の廣さで、調理臺、流し、ストーブ、冷藏庫、抽出、棚等が取附けられて居る。

6. 調 理 室

圖示の單位は Jacques Fernand Levy の設計であるが、使用しない場合は居間の家具の一部分に見える樣に作られて居る。それはストーブ、流し、冷藏庫、屑捨場、物入等よりなり、木その他の蓋をすれば居間の家具となる。上部に設けられたガラリは換氣の目的である。

以上の如き幾つかの例を參考にして、アパートメントの1戶分又はホテルの1室を上手に配置すると次の如きものが得られる。

7. アパートメントの1戶。居間兼寢室。寢臺は晝は壁の中に仕込まれ、夜は居間の中に下される樣になつて居る。食堂と臺所とは1室で、唯低い戶棚で區切られて居る。

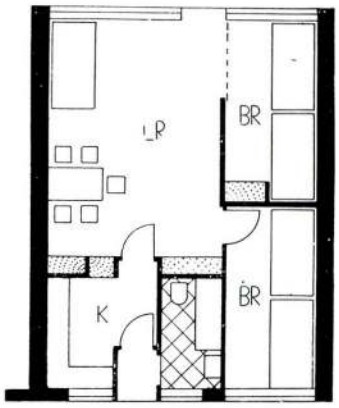


12

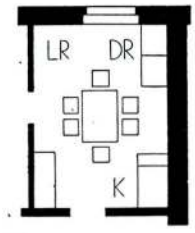


13





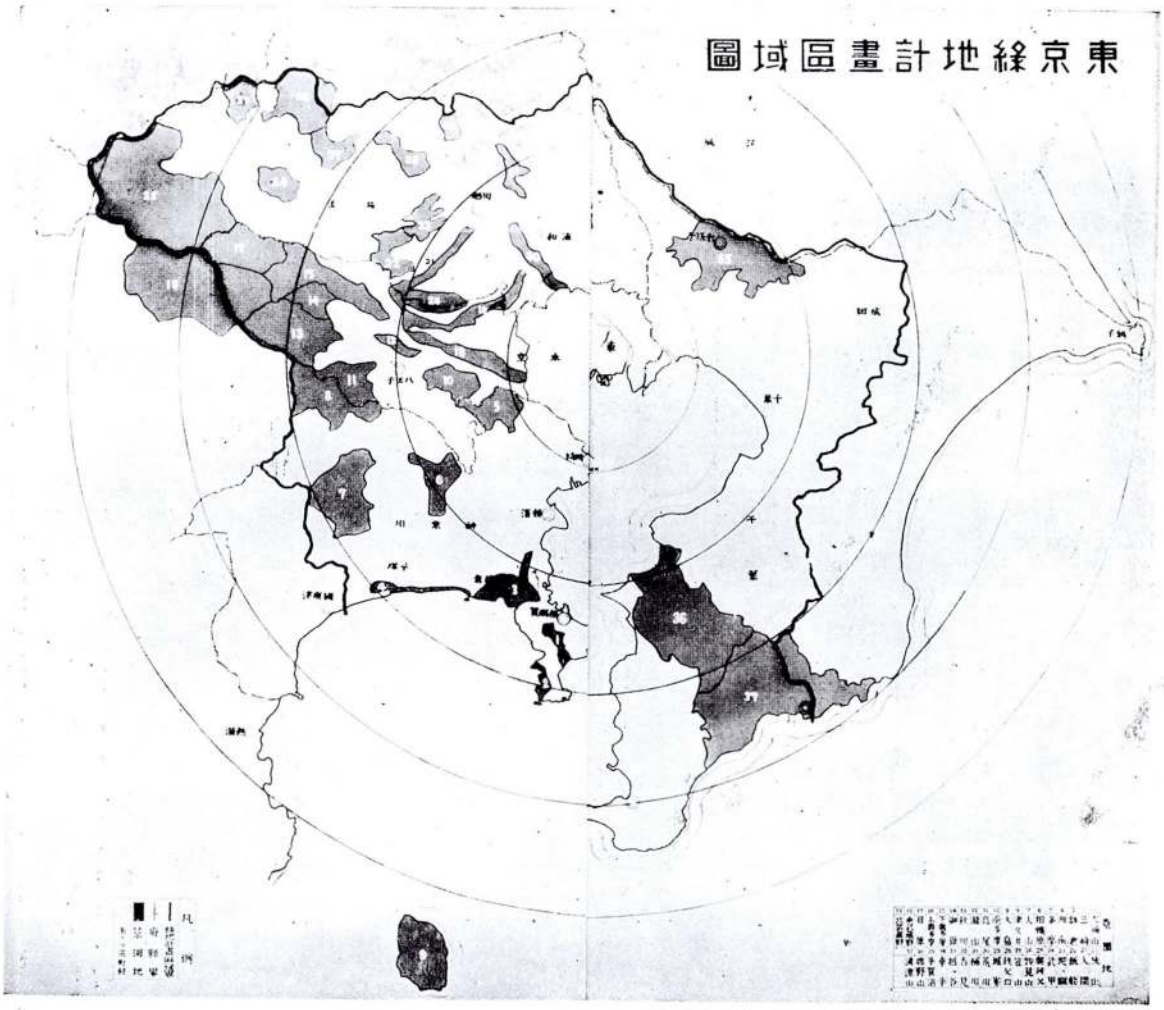
14



15

8. スライデング・パーテイシヨンの利用。晝は居間と寢室との間を隔離し、夜はパーテイシヨンを解放して寢室を廣く見せる。
9. 上のスライデング・パーテイシヨンの代りに折疊み式間仕切を用ひた場合。
10. 同樣の配置にフオルデイング・ベツトを用ひた場合
11. 3室のアパートメント。食事の際には臺所の引戸を寢室の方へ押しやつて寢室を閉鎖して臺所を開く。その他の時には臺所を閉ざすと寢室は居間のアルコーブの樣になる。
12. 最小限度の寢室その1。4つの寢臺、2つの押入、そして1つの浴室が極めて狹い場所の中に取られて居る。
13. 最小限度の寢室その2。ホテルの隣接せる寢室の1例。
14. 寢臺2臺を縱に竝べ面積ラセイアした歐羅巴風の寢室と、最小限度の臺所及浴室。
15. 1室に居間、食堂及臺所を兼ねた例。こうした實例は過々小住宅に見出されるが、室の形が適當であることを必要とする。間仕切の省略が非常に室面積の節約に役立つと言ふ實例。

(Architectural Form, April, 1936)



人口の都合集中は市中人口の過密と、人口の都市郊外への膨脹となり、市内の綠地も田園綠地も商工業用地又は住宅地として無統制に侵蝕せられ、加ふるに煤煙、塵埃等に依る空氣の汚染あり、都市生活は益々不自然不健康となる現狀である。

都市環境の改善、就中綠地問題が高唱せられるに至つたのは當然である。

この要求に應ずる都市環境の統制改善事業の第1回報告が、今回東京市監査局都市計畫課から出版せられた。題して「東京市と綠地計畫」と言ふパンフレットである。

次にその内容の梗概を掲げる。

1. 東京綠地計畫區域

東京驛を中心として半徑約50粁の地域。一省線山の手線主要驛を基點として、片道賃金1圓、1時間行程程度を以て東京市民一般の慰樂範圍として居る。

東京府 府下1圓但大島以外の諸島を除く。

神奈川縣 橫濱市、川崎市、橫須賀市、平塚市、橘樹郡、都筑郡、久良岐郡、三浦郡、鎌倉郡、中郡、愛甲郡、高座郡、津久井郡。

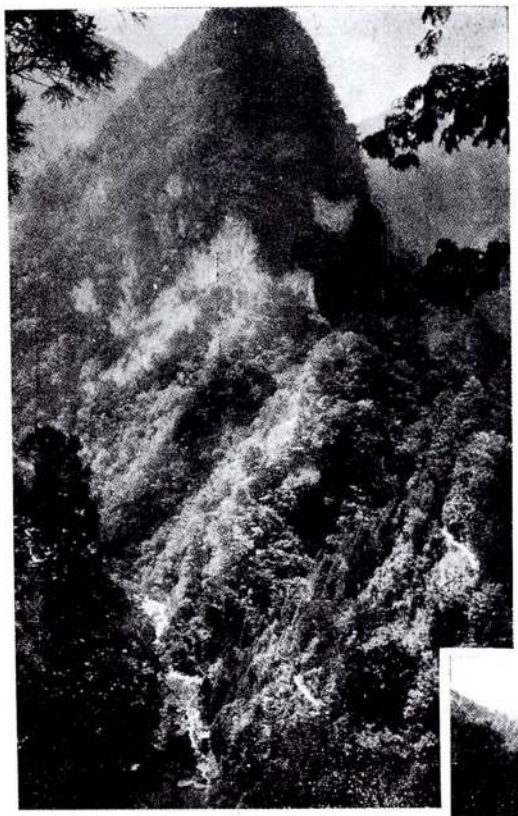
埼玉縣 浦和市、川越市、川口市、北足立郡、北葛飾郡、南埼玉郡、入間郡、比企郡、秩父郡。

千葉縣 千葉市、市川市、東葛飾郡、千葉郡、印旛郡、君津郡、市原郡、安房郡。

以上の面積約962.05ヘクタール（約624平方里）尙この圈外ではあるが、山紫水明の地として特に東京府大島、千葉縣安房郡、埼玉縣秩父郡をも包含せしめて居る。

2. 綠地の分類

東京市では「綠地」を次の如く定義し次の如く分類して居る。
「綠地とは其の本來の目的が空地にして宅地商工業用地及頻繁なる交通用地の如く建蔽せられざる永續的のものを謂ふ。」



日原景園地

A 普通綠地

1 公　園 公衆慰樂ノ目的ヲ以テ國又ハ公共團體ノ經營スル園地ヲ謂フ

イ 大公園 都市居住者全般ノ慰樂ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

(1) **普通公園**
遊戲、運動、觀賞又ハ敎化ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

(2) **運動公園**
主トシテ運動ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

(3) **自然公園**
主トシテ自然ノ風光ニ浴スルノ用ニ供スルモノヲ謂フ

ロ 小公園

(1) **近隣公園**
老若一般ノ慰樂ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

(2) **兒童公園**

(1) **少年公園**
主トシテ十四・五歲以下ノ兒童ノ慰樂ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

(2) **幼年公園**
主トシテ十一・二歲以下ノ兒童ノ慰樂ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

(3) **幼兒公園**
主トシテ學齡前ノ幼兒ノ慰樂ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

(3) **街　園**
主トシテ修景、觀賞又ハ休養等ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

公園ニ準ズルモノ

行樂道路
市民ノ散步、遠足、登山、乘馬、ドライブ等ニ適スル道路及慰樂系統上必要ナル道路ヲ謂フ但シ航路ヲ含ム

(イ) 慰樂道路
主トシテ慰樂ノ用ニ供スルモノヲ謂フ



上奥多摩景園地

(ロ) 聯絡道路
主トシテ慰樂系統聯絡ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

2 墓　苑

イ 第一種 修景全キトノト認ムル墓苑ヲ謂フ

ロ 第二種 史蹟墓地、特殊納骨堂ノ在ル苑地其ノ他ノ特殊墓地ヲ謂フ

ハ 第三種 第一種・第二種以外ノ墓地ニシテ認定シタルモノヲ謂フ

3 公開綠地
營利ヲ目的トセズ公衆ノ用ニ供シ得ル綠地ニシテ公園又ハ墓苑ニ非ザルモノヲ謂フ

イ 第一種

(1) 神社境內地及附屬苑地

(2) 寺院佛堂境內地及其ノ附屬苑地

ロ 第二種

(1) 自然公物ニシテ綠地トシテ認定シタルモノ
例　山岳、原野、水流、湖沼、海濱等

(2) 直接公衆ノ用ニ供スル國又ハ公共團體ノ施設ニシテ綠地トシテ認定シタルモノ
例　道路、廣場、河川、運河等

(3) 常時又ハ臨時ニ公開セラルヽ國又ハ公共團體ノ施設ニシテ前號以外ノ綠地トシテ認定シタルモノ
例　水源林地、帝大植物園、學校附屬苑地等

ハ 第三種
國又ハ公共團體ニ非サル者ノ經營ニ係ル苑地ヲ謂フ

(1) **共同園**　法人又ハ組合ノ經營ニ係ルモノヲ謂フ

(2) **私　園**　個人ノ經營ニ係ルモノヲ謂フ

4 共用綠地
特定人ノ用途ニ供セラルヽ綠地ヲ謂フ

イ 學校園　學校附屬ノ苑地ヲ謂フ

(1) 一定ノ面積ヲ有スルモノ



狭山景園地

(2) 前號以外ノモノ

ロ **團體園** 倶樂部又ハ會社等ノ經營ニ係ルモノニシテ綠地トシテ認定シタルモノヲ謂フ

共用綠地ニ準ズルモノ

分區園

イ **第一種** 公共團體其ノ他ノ公法人ノ經營ニ係ルモノヲ謂フ

ロ **第二種** 私人ノ經營ニ係ルモノヲ謂フ

5 遊園地

營利ノ目的ヲ以テ公衆慰樂ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

B 生產綠地

1 普通農業地區

イ **第一種** 主トシテ園圃又ハ畑トシテ使用スル區域ヲ謂フ

ロ **第二種** 主トシテ田トシテ使用スル區域ヲ謂フ

2 林業地區

主トシテ林業ヲ經營スル區域ヲ謂フ

3 牧野地區

主トシテ放牧、採草ノ爲ニ使用スル區域ヲ謂フ

4 漁業地區

主トシテ漁業ノ爲ニ使用スル區域ヲ謂フ

C 綠地ニ準ズルモノ

1 庭園 公私專用ノ庭園ヲ謂フ

イ **第一種** 獨立的大庭園ヲ謂フ

ロ **第二種** 小庭園ノ集合區域ヲ謂フ

2 保存地

法律命令ニ依リ自然狀態ノ保存セラルヽ土地ヲ謂フ

イ **第一種** 主トシテ保勝ノ爲自然狀態ノ保存セラルヽ土地ヲ謂フ

(1) 天然保護區域

(2) (1) 以外ノ史蹟名勝天然記念物ノ指定地又ハ假指定地

(3) 史蹟名勝天然記念物ノ保存ニ關シ主務大臣ノ定メタル地域

(4) 風致林

(5) 風致地區

(6) 其ノ他

ロ **第二種** 主トシテ產業ノ爲自然狀態ノ保存セラルヽ土地ヲ謂フ

(1) 魚附林

(2) 其ノ他

ハ **第三種** 主トシテ保安其ノ他ノ爲自然狀態ノ保存セラルヽ土地ヲ謂フ

(1) 保安林（風致林及魚附林ヲ除ク）

(2) 開墾制限又ハ禁止地

(3) 砂防指定地

(4) 河川法ニ依ル權利制限地

(5) 要塞地帶及軍港要港ノ境域

(6) 其ノ他

3. 東京市綠地計畫調查委員會

東京市に於いては、綠地計畫實施の第1步として、數年來企畫の根幹となるべき調査資料の蒐集と豫備計畫案の作成とを行ひつゝあつたが、大略その完成を見たので昭和10年5月31日東京市綠地計畫調查委員會規程が發令せられ、同年11月28日には會長、副會長、委員、幹事、書記等の任命を見、同年12月の第1回委員會に於て、先づ第1號議案として次の景園地設定に關する議案が議決せられた。

名稱	區域	地積
上奥多摩景園地	西多摩郡小河内村ノ全部、氷川村ノ1部、山梨縣北都留郡丹波山村ノ全部、小管村ノ1部、同山梨郡神金村ノ1部	27,400ヘクタール
日原景園地	西多摩郡氷川村ノ1部	8,580
狭山景園地	西多摩郡箱根ヶ崎村、石畑村、殿谷村、福生村ノ各1部、北多摩郡村山村、大和村東村山村ノ各1部	1,550
計		37,530

尙同日、第1號議案に依る景園地内の歩道に關して第2號議案が提出議決せられた。それに依つて、日原、上奥多摩、狭山の各景園地内の遊歩道31路線延長416粁が決定せられ、その幅員が3米以上と規定せられた。

尙同案中の狭山景園地が、東京綠地計畫埼玉豫備計畫協議會に於て決定せられた山口景園地と、計畫上不可分の關係にある故を以て、同景園地内遊歩道の計畫に對して、6路線幅員3米以上延長17粁數の附帶希望議案が第2號議案の附帶狀項として決定せられて居る。

更に同日第3號議案として東京市域内の遊歩道以外行樂道路として、

聯絡道路　幅員6米以上、15路線、延長129粁

慰樂道路中歩車兼用道路　幅員6米以上、2路線、延長27粁を議決々定して居る。

4. 其　　他

その他、このパンフレットには東京を中心とする關係府縣の豫備計畫案として、東京府下をはじめ、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣に於ける景園地、行樂道路、聯絡道路、慰樂道路等に關する決議案を掲げ、最後に綠地計畫の根本となるべき各種の調査研究資料、例へば次の如きものが掲載されて居る。

都市の必要とする綠地面積の標準

各國首都の綠地面積表

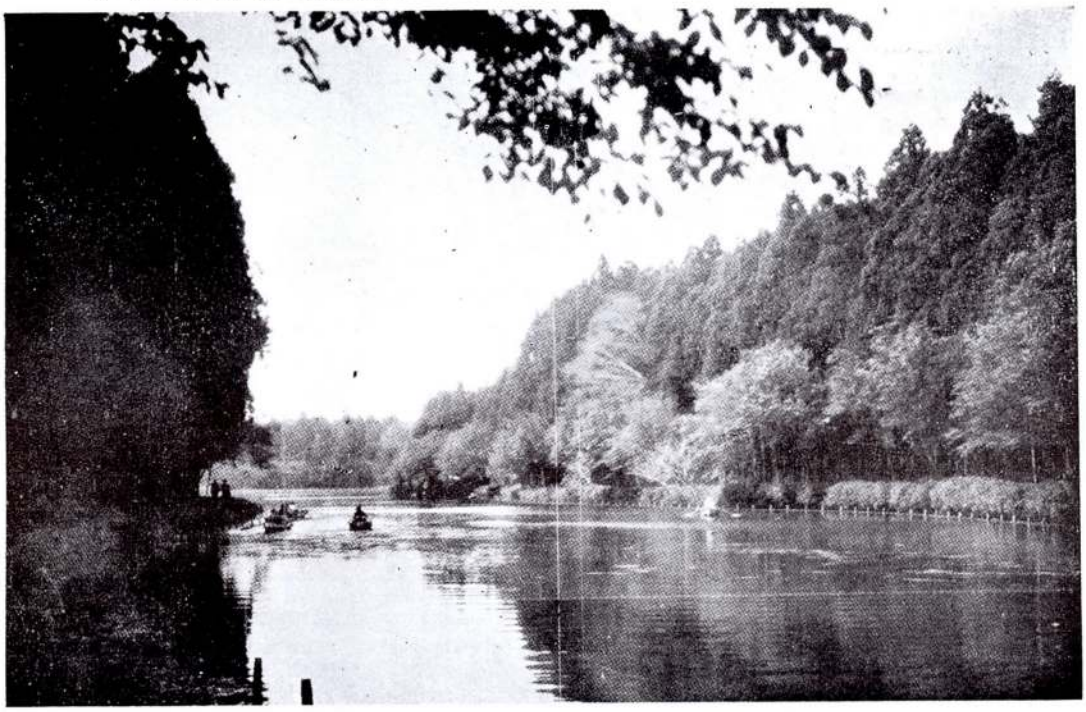
日・英・米・獨に於ける都市公園面積比較表

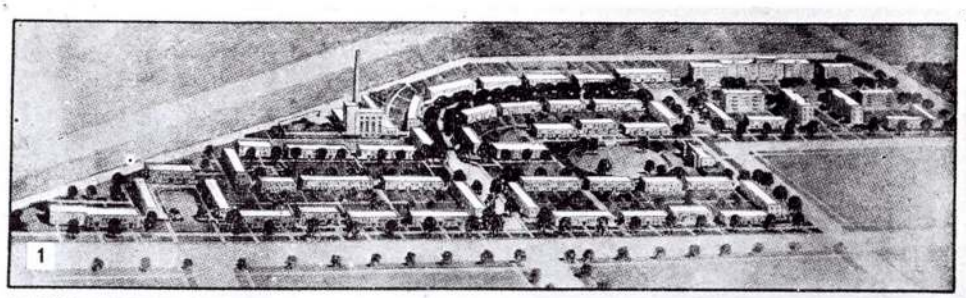
東京市所要綠地面積表（區別）

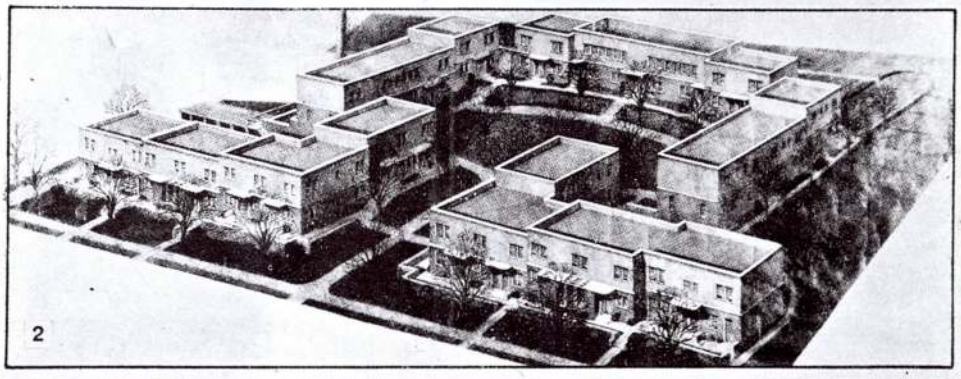
東京市内綠地分類別現有量一覽表等

（「東京市と綠地計畫」より）

井の頭公園（自然公園）




1


2

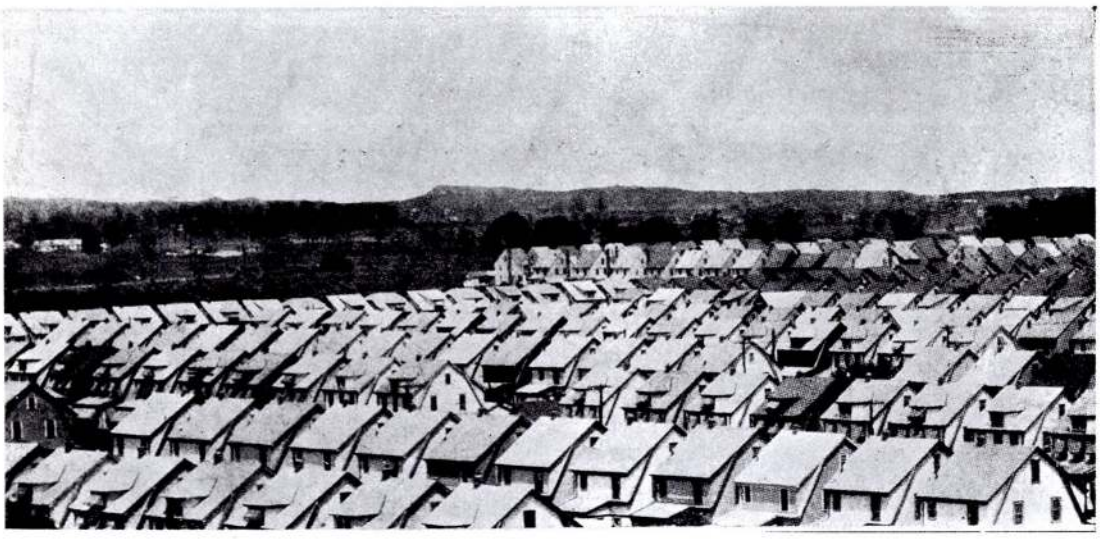

3

此處に紹介する3の廉價住宅計畫案は、公益事業局住宅部の財政的援助の下になるもので、その規範的計畫圖案が建築家によつて製圖されたものである。

第1例、豫算3,250,000弗を擁するシカゴの Trumbull Park 住宅地計畫案である。此の計畫は446家族の爲めに2階のガールプ住宅と割部屋住宅及3階乃至4階のアパートメントを設備するものである。

第2例、Wayne, Pa. に於ける公益事業局による不衞生地區改善への住宅計畫案である。

第3例、シンシナチーの所謂"Basin"に於て、豫算6,500,000弗で事業が開始された公益事業局による不衞生地區の改善計畫で、此の計畫案はこれまでの PWA による計畫案の最大なものゝ内1つである。即ち市に於ける最惡のスラム16ブロックを改造し、1,279の薄給家族への最新式の住宅地區を造成する計畫である。(American City, April, 1933)

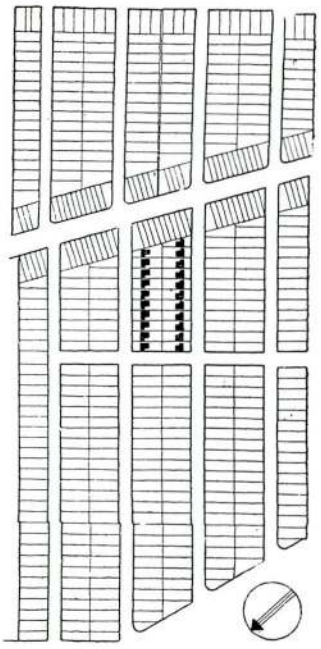


1929年、7990弗の正札付で Radiant Valley の住宅が始めて世に宣傳せられ、未曾有の大衆が大都市から1時間の行程で自動車をドライブして集つた。賣出人はラワンデル製の浴室・ロマンチツクで靜かな朝饗室等を薔薇の幻想に誇を感じつゝこれを指示した。バンガロー風な5室よりなるこれ等の住宅はこの地の前途の方向と指導とを示す目的で建てられたもので、開拓者は20ヶ月に1000戸を賣り拂ひ、その後は一切關係しなかつた。

Radiant Valley の眞價値は一見して評價し得ない。先づ其處に暫く住居しなければわからない。或日、四角張つた浮縞綿布のカーテンを開けば、どの家も同一の建築線に總ての家が接してゐることがわかり、或夜、隣人が1週間に2度位はコンド、ビーフとキヤベツを料理してゐることが自然にわかり、而も彼等の話聲は殆ど戸外に洩れないことに氣が付くであらうが、容易に氣の付かない見落もある。Radiant Valley より程遠からぬ所に、學校、商店、映畵館等の存在を見付けても、誰もこの近くに大都市にある樣な遊蕩場等のある焦點を與へやうとしないこと、即ちこれである。

この家屋の賣價は7990弗であるが、即金800弗、月賦57弗の便法もある。其の內容は、7190弗に對する年6分の利子35.95弗、8000に對する火災保險料1.05弗、抵當低下支拂金20弗となつてゐるが、更に年々199弗の諸稅金を支拂はねばならぬ故、この廣告文面の57弗に實際上73.58弗となるわけである。而して尙この他に街路、公共施設及び街路照明に對する受益者負擔金として500弗を收めねばならぬ。

（The Architectural Forum, April. 1936 より）



Radburn 住宅群

New Jersey 州の Radburn は個人的營利事業としての住宅地經營に比して、公共施設としてのそれが如何に現代住宅群計畫に有利なるかを威示せる一見本である。この地は New York 市の Manhattan から約1時間の行路、27粁の距離に位し1300エーカーを占めてゐるが、現在317戸の家屋によつて占められてゐる面積はその中 150エーカーに過ぎない。1928年先づ7400弗の單價で賣り出されたものであるが、現在一般の6室家屋の定價は8900弗となつてゐる。即金 1335弗、月賦 64.45 弗其の他一切不要と云ふのが此處の特徴である。

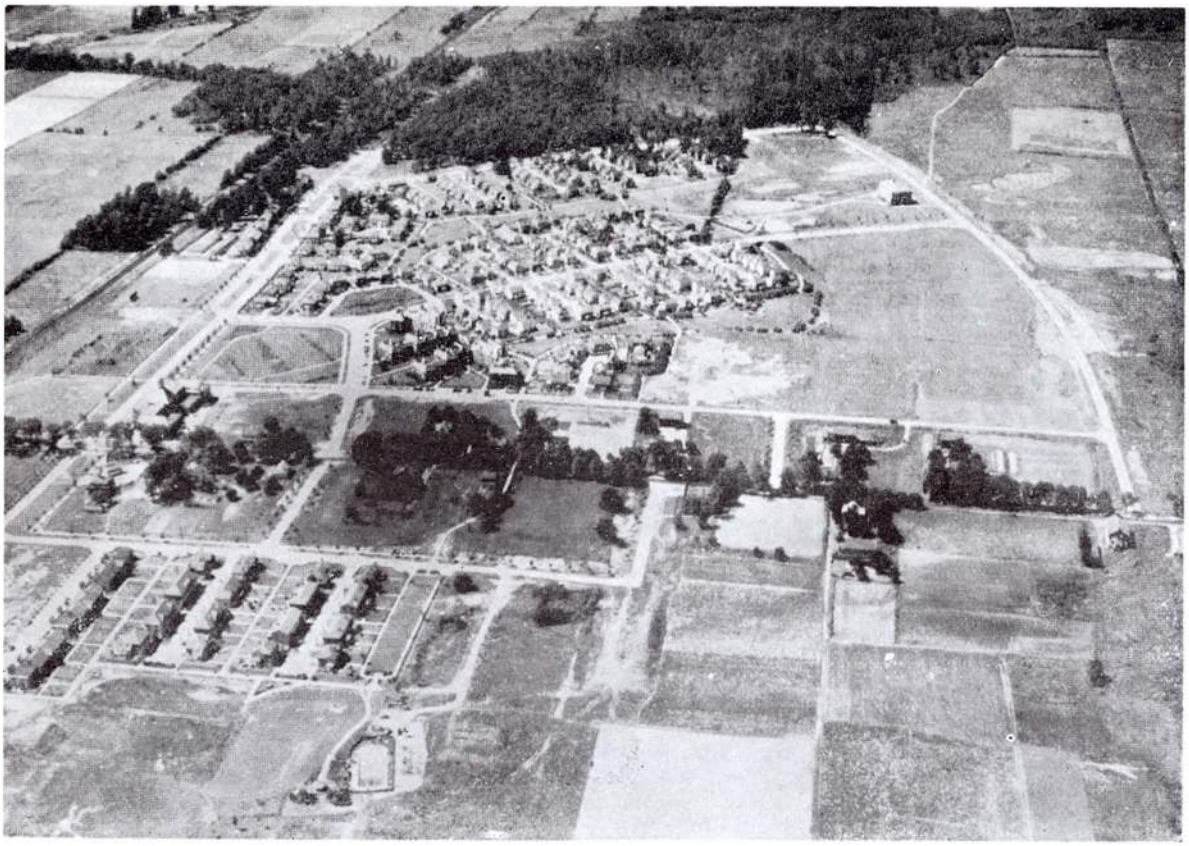
Radburn は都市住宅協會（City Housing Corporation）の手で計畫されたもので、特筆すべき事項は、現代自動車交通時代の要求に巧に合致し、例へば子供が小學校に通學する際にも自動車道路下の隧道を利用せしめ、併せて騒音を極度に遮減せしめんとせる點である。大通に取り圍まれフロックは可成大であるが、中に袋路（cul-de-sac）があり戸毎に設けられたガレーヂに連絡し、所々に小公園がある。又普通この様な場合全敷地の35乃至40パーセントを街路に用ひられてゐるが、この町ではそれが僅に20パーセントであり、家屋は必ずしも全部が同樣の樣式でないが、大量生産法に從ひ可成の利を收めてゐる。

（The Architectural Forum, April 1936 及 Lohmann: The Principles of City Planningより）

尙、輓近、斯かる住居問題は世界各地に於て愼重に考慮せられるに至り、稍々模範的と見られる住宅群の出現も漸次其の數を增加し來つた。茲に其の數例を簡單に紹介しておき度いと思ふ。

1. ヘレラウ　位置ドレスデンの地方。1908年創設。面積 215 ヘクタール。最大收容數 10,000乃至15,000人。目下人口2,100家屋數460。
2. ブルンビーユ　位置バーミハムの北西6粁。1879年創設。現在1,700戸。
3. ボート、サンライト　位置リバプール附近。1888年創設。面積222ヘクタール。





4. アースウイツク　位置ヨークの附近。1904年創設。面積49ヘクタール。人口3,000。家屋數700。

5. レッチワース　位置ロンドンより57粁。1903年創立。面積1,823ヘクタール。最大收容人口35,000。近き將來に住宅3,349戸、商店157戸、工場36戸、仕事場62戸、人口13,500となる見込。

6. ウエルキン　位置ロンドトより30粁。1920年創立。面積965ヘクタール。最大收容人口40,000。1926年の建築物1,675戸、中、商工業用78戸、人口5,020。

7. サニサイド　位置マンハツタンより15分。1924年創設。現在1,000家族。

8. マリモント　位置シンシナチの東方15粁。1923年創設。面積170ヘクタール。收容人口9,000。

又、我國大阪府に於ても最近の都市計畫事業としての小阪町營住宅を始め相當以前より電鐵會社、土地會社其の他の會社の手によつてなれる郊外の一團地の住宅經營尠くない。其の質に就いては尚大いに改良すべき點尠くない經營地も相當存在するが、其の主なものを記號によつて表示すれば次の如し。詳細なる全發表は他日の稿に讓る。

大阪府下主要住宅經營地一覽表

	創設年月	面積(坪)	現在戸數	現在人口
A	大正 3,5	50,000	695	5,450
B	昭和 5.	90,000	464	2,305
C	大正15.	150,000	450	1,200
D	大正13.	49,000	400	2,000
E	大正13.	60,000	390	1,350
F	明治44.10	34,816	335	1,650
G	昭和 9.8	27,317	266	1,315
H	昭和 5.	40,000	230	1,000
I	明治42.3	27,000	220	1,100
J	大正13.	19,420	220	1,320
K	昭和 6.1	71,300	200	1,000

大阪都市計畫地域追加變更

（昭和11年6月10日より施行）

加 藤 善 吉

はしがき

數年來鋭意調査を續けて來た重要案件たる大阪都市計畫地域も、今回の追加變更となつて其の成果を得た。これで愈大阪都市計畫地域も確立せられたことは實に喜びに堪えない今この追加變更に就て記述するに當つて先づ地域に於ける從來の經過變遷を述べてから今回の件に及びたいと思ふ。

1・地 域 制

地域制は現代都市計畫中最も重要な施設の一であつて、都市的諸施設は總て之れに順應して行はれるのである。從つて都市の保安經濟等に及ぼす影響は尠くない。故に吾々はよくその内容を了解し其の精神のあるところを十分發揮するやう力めねばならぬ。

地域制は土地の利用能率を增進するために住居地域、商業地域、工業地域の三地域が指定せられたのであるが、法適用區域内に於ては三地域が指定されたときその何れにも指定されぬ處の法の間接に用途の制限を受ける所謂未指定地と稱せられたものと都合4種類に依つて用途を制限して都市構成に基本秩序を與へやうとする目的に出で居るのである。

地域の指定、變更又は廢止は市街地建築物法に依つて行はれるのが原則であるが都市計畫區域内に於ては都市計畫法第10條第1項の規定に依つて都市計畫の施設として之を行ふことになつて居る。即ち主務大臣之を決定し内閣の認可を經て告示されるのである。

2・地 域 指 定

大阪都市計畫區域内に於ける市街地建築物法に依る地域指定の件は、大正7年6月大阪市に對し東京市區改正條令を準用せられた時より以來基本的調査を行ひ、之に基き府市當局に於て數10回に亘り調査研究を作成し大正10年12月27日都市計畫大阪地方委員會の決議に依り之を會長の指名した特別委員に附託し、特別委員は前後7回の審議を重ね實地調査を經て大正13年9月29日の會議を最終とし成案を得たので、大正14年1月30日大阪府知事より内申せられたのである。内務大臣は之を審査の上大正14年3月20日都市計畫大阪地方委員會の

審議に付した。委員會は本案に付愼重な審議を經て同年3月23日最後の委員會に於て結局一部修正して之を議決し、直ちに內務大臣に答申せられたので大正14年3月27日內閣の認可を經て同年4月6日內務省告示第66號を以て同年5月1日より施行の旨公布せられたのである。

3・第1回變更

其後3回の變更を見たのであるが第1回の變更は昭和5年4月19日內閣の認可を受け昭和5年7月1日より施行せられた。之れが變更の理由とする所は地域指定後東成郡及西成郡に屬する44ヶ町村が市域に編入せられたため、區界、町名町界の變更あり、同15年6月郊外との連絡を圖るために大阪府知事の執行に係る都市計畫街路事業の決定、昭和2年2月には高速度軌道の計畫等の決定を見、更に昭和3年5月新市域に對する都市計畫の施設として街路運河、下水道、公園、墓地等の計畫確定する等幾多の土地開發に則する方策の實現を見たので、是等の施設計畫に順應すべく、既定地域の一部に變更を加へる必要が生じたのである。

4・第2回變更

第2回の變更は昭和6年10月3日內閣の認可を受け昭和6年11月1日より施行せられた。その變更の理由は土地の現狀と將來發展の趨勢よりして更に一部を變更するの必要を生じたのである。

5・第3回變更

第3回の變更は昭和7年7月20日內閣の認可を受け昭和7年8月10日より施行せられ埋立地の市域編入に伴つて之を工業地域に指定すると共に西市岡町附近の發展の狀勢に鑑み現在住居地域の一部を商業地域に變更し、併せて都市計畫街路の一部變更の結果と土地區劃整理の完成に關聯し地域の變更を必要とするに至つたのである。

6・今回の追加變更

今回の追加變更案は昭和11年3月20日都市計畫大阪地方委員會に附議せられ3月25日特別委員會に附託せられた。特別委員會は實地視察を遂げ愼重審議の結果下記の希望を付し原案を適當と認めたのである。

希望事項は、1. 昭和11年3月20日內務省阪都第25號付議に係る大阪都市計畫街路追加變更の件中1等大路第3類第58號線(足代線)の兩側を路線的商業地域となすこと。2. 昭和11年4月1日大阪市の區域に編入せられた港區新福崎町二丁目及南海岸通三丁目地先並此花區櫻島町地先公有水面埋立地を工業地域となすことである。

4月25日本委員會に報告し本委員會は特別委員會の報告通り原案を議決して直ちに會長より內務大臣に答申せられたので下記の如く告示せられたのである。

大阪都市計畫地域追加變更の件

大阪都市計畫地域畫



内務省告示第325號

大正14年4月6日内務省告示第65號大阪都市計畫地域追加變更ノ件昭和11年5月18日内閣ノ認可ヲ受ケ昭和11年6月10日ヨリ之ヲ施行ス其ノ地域ヲ表示シタル圖面ハ大阪府廳及大阪市役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

昭和11年5月21日

内務大臣　潮　惠之輔

これを表示した地域の略圖は次の通りである。

今回の變更は前記の如く既に指定以來3回に亘り局部的變更を加へて來たが、都市的施設の充實せる現狀と施行の實績に鑑みて實情に適應せざる憾があるので、之を變更して大大阪の圓滑な發達を期せんとするものである。

即ち今回の變更に對する理由とするところは　大正14年4月決定した大阪の地域を、指定後滿11年間實施して來た經驗と其の間の都市的事情の變遷、地域に關する法令の改正等に基き全面的の變更をなしたのである。

今回變更內容を大別すれば大體四つとなる、第1は指定當時より發展の傾向著しく變化したのに備へやうとするもの、第2は大阪の工業都市たる性質より再檢討して將來の工業發展に供へむとするもの、第3は地方的商業中心地の創設であつて之れに依つて日常生活の利便と慰樂に備へむとするものである。

第4は境界整理のための變更で指定當時地域の境界が水路小徑等のものが、其後區劃整理等に依つて地物の消滅、或は街路計畫の決定等に依り境界を明確にする必要を認め、局部的に變更を加へられたものである。

其の外路線的商業地域に就ては、工業地域又は未指定地內の路線的商業地域は工業の發展に便ならしめるために、之れを削除したのである。又住居地域に於ては必要に應じて數線を追加した。

而して路線的商業地域の奥行に就ては現行の地域に於てはその指定の方法が建築線に接する建築物の敷地となつてゐるために奥行が一定して居らぬので、それがために地域の運用上圓滑を缺く嫌あるために、今回の變更に於ては一定の奥行を定め、住居地域及未指定地に在るものは道路敷地の境界線と之より22米後退せる線との間にある敷地を商業地域とし、これが工業地域に在るものは15米と定められたのである。

其の結果建築物の敷地が2種以上の地域に跨る場合は、建築物の地域的制限及容地の制限に就ては市街地建築物法第16條ノ2の規定に依り制限の最嚴なるものに依るのであるが特別の事由ある場合は行政官廳の許可を受ければ之れに依らざることが出來るのである。

又今回の變更に於ても尙ほ所謂未指定地と稱せられるものが、相當存在してあるが、これは矢張り一種の確定した地域と考へられるもので一種の輕工業地域と見られるもので、名稱は法令の關係上依然未指定地と申し不確定であるやうに見えるが內務省に於ても一種

の地域として取扱ひ適當の時期に名稱の變更を行はんとする意向のやうである。

今回の追加變更に於て特に注意すべきは大阪府知事の市街地建築物法上の取扱に於て未指定地内の工業適地に對しては、市街地建築物法施行令第3條但書、同令第3條の2第1項第4號但書を活用して或る條件を具備する工場に對しては原動機馬力數を緩和する方針のやうである。その詳細は近く大阪府令を以て公布を見ることであらう。かくして指定と運用兩々相待つて土地利用上の完全を期せんとするものである。

次に今回追加變更せられた位置に就てその概略を述べれば未指定地に屬する北部の吹田町、豐津村、小曾根村の一部は千里山々麓に位し土地の現狀住居の用に供せられるものが多く、又東部守口、今市、野江、橋寺、豐里の一帶は住宅地として發展の傾向顯著であるから何れも之を住居地域に變更し、中央卸賣市場を中心とする下福島の一團地及大阪驛附近は既に商業地として發展しつつあるので之を商業地域に變更、大道町及吹田町の一部は神崎川流域の工業地域に接續して其の地勢工業に適し、中本町、大今里町、深江、中濱、天王田町一帶には現に各種工場が集中の傾向にあるばかりでなく將來都市計畫運河の完成を見るに於ては南部元今宮町から玉出、粉濱、櫻井町に至る十三間堀川一帶とともに好個の工業地たることが豫想せられるので之を工業地域に變更し、又本庄、中津、大仁町を含む一帶は大阪驛及中津運河に近く木津川運河、安治川、六軒家川に圍まれる西九條の一團地と共に既に諸工場密集してあるから之を工業地域に變更せられたのである。

住居地域に屬する北部濱崎、鶴野、茶屋、芝田、小深、道本の各町を含む一團地は大阪驛に近接し又中江、龜甲、川上町の一團地は交通の便に富むので商業地として發展の傾向が著しい谷町附近一帶及歡樂地として繁榮しつつある南部山王町の一部とともに何れも之を商業地域に變更せられたのであある。

工業地域及所謂未指定地に屬する路線的商業地域（大正區、新阪堺電鐵沿線、中本、西九條傳法方面）は之を削除して工業的發展に便ならしめ、一方住居地域に於ては必要に應して之を數線追加し、更に地方的集團商業地域を吹田、大和田、森小路、都島、大今里、田邊、玉出、四貫島の八箇所に設けて日常生活の利便と慰樂に備へられた。其の外數箇所に於て地域の境界を明確にするために局部的に些少の變更を加へられた。

尙昭和七年以來大阪市に編入あつた住吉區柴谷町釜口町及此花區櫻島町島屋町地先公有水面現定地を工業地域に追加指定し、境界の整理に因つて中河内部布施町より大阪市及巽村に編入があつた區域は之を所謂未指定とせられたのである。かくして追加變更せられた各種地域の變更前との關係割面を揭げれば次の通りである、地域は又面積の配分宜しを得る必要がある。

地域種別	變更後面積（ヘクタール）	全面積對百分比	變更前面積（ヘクタール）	全面積對百分比	百分比增減
住宅地域	6,726	31.0	6,592	30.5	增 0.5

商業地域	3,345	15.4	3,054	14.1	〃 1.3
工業地域	9,177	42.2	8,116	37.6	〃 4.6
未指定地	2,470	11.4	3,832	17.8	減 6.4
計	21,717	100.0	21,594	100.0	

備考，變更後に於ける總面積の增加は市域に編入せられた公有水面埋立地の面積(123ヘクタール）である。

以上の追加變更に依つて大阪都市計畫地域も愈確定したのであるが、之れが決定に至るまでは大阪都市計畫委員會は種々重要な調査を遂げてある。

この調査は內務大臣の指示もあり又地域實施の都市的事情の推移に對し再吟味をなすの必要上鋭意調査を進めたのである。本調査を進めるに當つて前大阪府都市計畫課長（現群馬縣學務部長）川崎勇氏の深き理解の元に追加豫算を得て其の實行をなすに至つたのである。之等の基本的調査を列記すれば次の通りである。

大阪都市計畫地域指定後の推移調査

第 1. 土地及人口に關する調査

1. 土地面積人口關係
2. 水質調査
3. 人口密度圖

第 2. 工場に關する調査

1. 工場調書

イ、大正11年6月現在工場法適用工場調書(地域指定前)　ロ、昭和8年11月現在工場法適用工場調書　ハ、昭和8年11月現在署主管工場調書

2. 工場分布圖

イ、大正11年6月現在工場分布圖(地域指定前)　ロ、昭和8年11月現在工場分布圖

3. 工場煙突調書

イ、大正10年6月現在煙突調書　ロ、昭和8年11月現在煙突調書

4. 工場煙突分布圖

イ、大正10年6月現在煙突分布圖(地域指定前)　ロ、昭和8年11月現在煙突分布圖

5. 工場關係調書內容

イ、工場數及密度　ロ、指定地域前ニ於ル工場數　ハ、許容地域前ニ於ル工場數　ニ、業態前ニ依ル工場數　ホ、許容地域前ニ依ル業態前工場敷地及工場數

6. 工場生產額調書

イ、工業生產額累年統計　ロ、工業生產額(昭和7年度)明細前

7. 工場累年統計表

8. 地域ニ對スル不適格工場調書

◎ 第3 建物ニ關スル調書

1. 建築物用途前現況圖

イ、大正9年12月現在建物用途中現況圖(地域指定前)　ロ、昭和9年5月現在建物用途別現況圖

2. 建物機造別現況圖

3. 特殊商業建築物調査內容

イ、百貨店、中央卸賣市場　ロ、重要商店　ハ、銀行　ニ、會社

4. 特種商業建築物分布圖

5. 特殊建築物調書內容

イ、百貨店卸賣市場　ロ、劇場活動寫眞館演藝場觀物場活動寫眞ノ撮影場　ハ、室面積ノ合計50平方米ヲ超過スル自動車庫　ニ、塵芥處理場　ホ、汚物處理場　ヘ、火葬場　ト、產業物處理場　チ、屠場處理場　リ、禽畜飼養場

6. 特殊建築物分布圖（防火地區ト併用）

◎ 第4 住居ニ關スル調查

1. 勤勞者住宅分布調查（使用人員百人以上ノ代表的ノモノ）

內　容

イ、官公衞ノ勤勞者住宅分布調查　ロ、銀行ノ勤勞者住宅分布調查　ハ、會社ノ勤勞者住宅分布調查　ニ、新聞社ノ勤勞者住宅分布調查　ホ、商店ノ勤勞者住宅分布調查　ヘ、百貨店ノ勤勞者住宅分布調查　ト、ビルデイング勤勞者住宅分布調查　チ、車庫

2. 勤勞者住宅分布圖

3. 工場附屬住宅經營地調書(大阪府下)

4. 不良住宅調查

5. 一不良住宅地分布圖

◎ 第5 其ノ他ノ重要調查

1. 電氣事業(電燈、電力、電熱)調查書

2. 電力供給範圍圖

3. 水道供給範圍圖

4. 大阪市ニ於ケル社會施設分布圖

次に參考のため今回の指定變更と六大都市の地域表を掲ける。

六大都市地域

都市名	地域種別	面積「ヘクタール」	全面積ニ對スル百分比	施行年月日	摘要
東京	住居地域	22,016.01	54.2	大正14.2.15	大正15.8.17變更 〃 15.9.14變更 昭和 4.5. 5變更
	商業地域	4,793.40	11.8	大正14.2.15	〃 6.8.15變更
	工業地域	13,057.89	32.2	大正14.2.15	〃 8.1.24變更
	未指定地	727.27	1.8	大正14.2.15	〃 10.8. 7變更
	合計	40,925.75			
京都	住居地域	6,300.83	47.6	大正13.4. 1	昭和7. 4 1變更
	商業地域	1,520.66	11.5	大正13.4. 1	〃 8.7.16變更
	工業地域	4,056.20	30.6	大正13.4. 1	
	未指定地	1,361.98	10.3	大正13.4. 1	
	合計	13,239.67			
大阪	住居地域	6,726.00	31.0	大正14.5. 1	昭和 5. 7.1變更
	商業地域	3,345.00	15.4	大正14.5. 1	〃 6.11.1變更
	工業地域	9,177.00	42.2	大正14.5. 1	〃 7. 8.1變更
	未指定地	2,470.00	11.4	大正14.5. 1	〃 11.4.25變更
	合計	21,717.00			
横濱	住居地域	8,896.20	65.8	大正14.9. 1	昭和 4.5.15變更
	商業地域	1,566.61	11.6	大正14.9. 1	〃 8.5.15變更
	工業地域	2,065.45	15.2	大正14.9. 1	
	未指定地	3,985.12	7.5	大正14.9. 1	
	合計	13,538.18			
神戸	住居地域	3,596.70	61.5	大正13.11.1	
	商業地域	740.49	12.6	大正13.11.1	
	工業地域	1,108.44	18.9	大正13,11.1	
	未指定地	406.61	7.0	大正13.11.1	
	合計	5,851.25			
名古屋	住居地域	8,024.63	48.2	大正13.11.15	昭和 8.12.4變更
	商業地域	2,229.09	13.4	大正13.11.15	〃 10. 4.5變更
	工業地域	5,986.11	36.0	大正13.11.15	
	未指定地	391.07	2.4	大正13.11.15	
	合計	16,631.40			

（昭和11、5、25日稿）

會報

法制委員會（第3回）

時　4月28日午後6時—6時20分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　池田
　　幹事　松井

1. 本夕は出席者少數につき松井幹事提案に係る研究問題に付協議し次回を5月5日に開會のことに決定の上散會す。

住宅委員會（第5回）

時　4月28日午後6時30分—8時
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　石川
　　幹事　伊藤、矢田
　　委員　荒木、玉置

協議事項

借家住宅の研究に着手各委員の研究題目を協議下記の通り決定

イ、現在借家の調査……荒木
ロ、現在借家の經營狀態……宮脇
ハ、現在アパートの調査……貴賓院
ニ、不良住宅の調査……玉置
ホ、住宅組合法の研究……矢田
ヘ、新しい集合住宅の研究……新名

法制委員會（第4回）

時　5月5日午後6時—9時30分
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　池田
　　幹事　松井
　　委員　津田、本田

協議事項

1. 都市美委員會設置に關する建議案作製の件
2. 防火地區完成、促進に關する建議案作製の件

イ、防火地區內建築物に對し稅金の輕減を爲し得る規程制定に關する建議
ロ、防火地區內建築物に對し補助金規程制定に關する建議

教化委員會（第1回）

時　5月5日午後6時—8時20分
所　建築材料陳列場
出席者　委員長　永澤
　　幹事　篠原
　　委員　伊東、高木、堀口

協議事項

1. 建築に關する映畫目錄完成及試寫の件
2. 建築講座開設に關する件

材料委員會（第5回）

時　5月7日午後7時—9時20分
所　朝日ビル倶樂部
出席者　委員長　高橋
　　幹事　松久保
　　委員　楠瀨、作間、高岡、道田

1. 本夕は防水劑の技術家小田正夫氏を招聘防水劑に關する質疑應答を重ね研究す

都市計畫委員會（第3回）

時　5月8日午後6時30分 -9時
所　協會倶樂部室
出席者　委員長　鳥井
　　幹事　福知
　　委員　龜井、村井、元吉

協議事項

1. 都市問題會議第2議題「建築敷地並住宅に關する事項」に付討議す

常務會（第9回）

時　5月11日午後6時—7時30分
所　協會倶樂部室
出席者　理事　片岡會長、安井副會長
　　常務　北垣主記、阪口主記、中澤主記、内藤主記、加田主計、清水主計、島田編輯

議事

1. 5月例會に關する件
2. 材料委員會の傍聽許可願に對する回答案の件
3. 日本ポルトランドセメント同業會より小住宅設計圖案懸賞募集依頼に關する件
4. 法制委員會委員長より要求に係る經費支出の件
5. 陳列場看視人增員の件
6. 名古屋汎太平洋平和博覽會より出品方依頼に關する件
7. 細則一部（第6條）變更に關する件
8. 會員詮衡

報告

1. 編輯幹事會規程の件

住宅委員會（第6回）

時　5月15日午後6時30分－9時30分

所　協會倶樂部室

出席者　幹事　矢田
委員　荒木、岡田、貫賓院、新名、宮脇

協議事項

1. 僧家住宅に關する研究發表並住宅一般に付討議をなす

災害强度委員會（第2回）

時　5月19日午後6時30分—8時30分

所　協會倶樂部室

出席者　委員　山田、渡部、篠原、中島、矢田

協議事項

1. 地盤沈下に關する研究に付討議す

都市計畫委員會（第4回）

時　5月22日午後6時40分—9時30分

所　建築材料陳列場

出席者　委員長　鳥井
委員　龜井、村井、元吉

協議事項

1. 全國都市問題會議提出問題に付研究討議す

會員動靜

入會者

會員

井上　利男君　普通賛助員より轉格
糸井直太郎君　同
小川　光一君　同
大塚　錦三君　同
海妻　郁夫君　同
笠井新十郎君　同
川合　安平君　同
川西梅次郎君　同
木村正太郎君　同
北野　勇君　同
國枝　幸男君　同
小山助太郎君　同
佐竹　信次君　同
佐々木義夫君　同
嶋　昇次郎君　同
高橋　茂君　同
高橋　眞君　普通賛員より轉格
戸川屋進一君　同
友淵　義延君　同
中川　了文君　同
中島　八郎君　同
中村　利正君　同
中村　英夫君　同
夏秋留次郎君　同
西田　偉三君　同
林田瀧次郎君　同
服部　正巳君　同
平山　琴治君　同
水野長三郎君　同
宮崎　巖君　同
村田　繁規君　同
森本　治一君　同
安家　正明君　同
山田　軍三君　同
山本宗一郎君　同
山本　正重君　同
吉田　東君　同
和田猪三郎君　同
伊藤　爲吉君　東區釣鐘町2ノ19（設計監督）
石田　慶一君　神戸市兵庫區和田岬3丁目大林組出張所（株式會社大林組）
石橋三四二君　府下豐中町櫻塚1129（日本生命保險株式會社營繕課）
藤原　弘三君　尼崎市難波南通2ノ65坂本寛司方（長谷部竹腰建築事務所）
松村　弘之君　北區東野田町1ノ90櫻宮アパート（大阪府建築課）
眞壁　博君　北區善源寺町10ノ36吉田太德方
森島　輝夫君　旭君森小路町649古谷倉義方（田中正義建築事務所）

地方會員

田中龜太郎君　普通賛助員より轉格
福野　政夫君　同
本田明三二君　同
惠美　保藏君　金澤市川上新町3ノ34（石川縣土木課營繕係）

特別賛助員

眞宮　義輔君　住吉區北田邊町91ノ3（日本金具株式會社）
來山　源藏君　住吉區千躰町10（株式會社新潟鐵

工所大阪出張所）

普通賛助員

大久保治能君　神戸市林田區宮川町８ノ55松本建築事務所（松本建築事務所）

黒河　申三君　香川縣善通寺町第11師團經理部工務科（第11師團經理部工務科）

松本　幸夫君　西淀川區姫島町1739川楠組内（川楠組）

石田　全男君　神戸市神戸區加納町２ノ58松浦工務店内（松浦工務店）

退　會　者

會　員

岩井　鐘雄君

特別賛助員

岡崎　福松君　鎌田禎次郎君

普通賛助員

大久保喜彦君　嘉村春五郎君　木下助三郎君

佐野　公夫君　南舘　次直君　廣戸　昌三君

轉　居　轉　勤

會　員

榎　利夫君　兵庫縣川邊郡立花村塚口上慶長

菅澤　英夫君　西淀川區大仁本町３ノ42電氣工士養成所大倉組作業所

大森五四男君　北區中野町2ノ30

廉野　俊定君　天王寺區石ヶ辻町92中島謙藏方

伏見　孝悌君　東淀川區三國本町151

加藤　新君　北區曾根崎上4ノ21（加藤商店洋家具部）

加藤　誠二君　福岡市社家町清水組九州支店

中澤　吉郎君　東淀川區三國本町57美富莊内（電三國329）

根岸　垣君　住吉區北田邊町852

尾辻　正巳君　尼崎市杭瀬堂後19（尼崎市役所營繕課）

岡野　金作君　府下三島郡千里村片山351

小林　清君　府下三島郡富田町7

勾坂　弘美君　住吉區阿倍野筋4ノ51木全方

村田　繁規君　京都市右京區嵯峨深谷町愛宕念佛寺國寶建造物修理事務所

田中　直君　山口縣防府町鐘紡防府工場建築事務所

地方會員

黒木源次郎君　福岡市西新町庄字潟24

平野　彌助君　川崎市榎町9

前田　宗安君　福岡市地行東町5番丁198ノ3

吉田　正一君　前橋市岩神町前橋工業學校内

田口　正夫君　朝鮮釜山府富平町3ノ49

太宰　二郎君　德島市伊賀町2丁目上田方

遠藤　司君　天王寺區生玉前町94

椎原　克巳君　吳市吉浦町南松葉6ノ4

永田　茂君　名古屋市東區大久手町1ノ47

深澤　勝久君　熊本市新屋敷町460

水原　大造君　滋賀縣彦根町平田26（滋賀縣立彦根工業學校）

綿谷　宏一君　濵速區鹽草町1.135

前田　耕二君　和歌山市小松原通1ノ2（前田建築事務所）

森脇　圭三君　旭區中宮町480

終身賛助員

欅田　藤郎君　堺市南三國丘町1丁目

普通賛助員

今津　三郎君　西宮市本町44

池田　本吉君　神戸市神戸區明石町41大林組大丸出張所

後藤　光一君　東京市赤坂區新坂町第１師團經理部工務科

中村　利正君　兵庫縣武庫郡本庄村西青木146

狹間　清一君　港區八幡屋龜町1ノ232賀集兵吉方

竹中幾太郎君　西淀川區海老江中1ノ2加藤喜美子方

今村清之助君　廣島市大手町8ノ25

前内　健次君　松江市殿町43日本銀行建築場清水組作業所

吉澤　千吉君　東京市城東區龜戸町６ノ44入江直久方

洞井　勝市君　米子市富士見町

井奥　進君　兵庫縣小野町淨谷日本無線株式會社小野受信所建築場竹中工務店出張所

桝谷健次郎君　滿洲國々務院營繕需品局營繕處

改　姓　名

會　員

野々村五四男君　（舊姓大森）

中尾　隆亮君　（舊名保）

死　亡

特別賛助員

池田榮三郎君　昭和11年5月6日逝去（謹んで哀悼の意を表す）



編輯後記

◆大朝に「雜誌と編輯後記」といふ見出しで杉山平助氏の論評が出て居た。その中に、編輯後記が雜誌の內容にも勝つて讀者に興味を持たれる所以を述べ、先づ何よりも編輯後記を讀む人々が多數あることを指摘して居るが、技術雜誌であり、會の機關である本誌に於ても、その傾向はやはり同樣であるらしい。編輯後記も迂濶には書けないと思ふ。

◆それよりも以前、本號に揭載した大須賀巖氏の「廣田內閣と建築、住居、住宅問題」の原稿を通じて、編輯後記まで目を通す讀者のあることを知つて、雜誌編輯の責任の重さに駭然とした次第であつたが。

◆本號より、新しく竣工した建物の設計及工事に關する詳しい報告を關係當事者に執筆を乞ふことゝした。本號の富士岡重一氏の大阪市美術館に關する記事はそれである。よき對象がある限り毎月續けて行き度いと思つて居る。

◆井上新二氏の躍進名古屋の記事、鳥井信氏の「防火地區擴張に就き雜感」、共に感想ではあるが、都市計畫關係者の言葉として興味ある報告である。

◆上野伊三郎氏はブルノ・タウト氏を顧問に持つ群馬縣工藝指導所の所長であるが、本號の記事は日本の工藝の指導されるべき方向に就いて同氏の抱負の一端を窺ふに足るものであらう。ありし日のウエルクシュテツテの華かさが日本の一角に出現せんことを期待するものである。

◆「水都景觀」の筆者元良勳氏は常に言ふ。一「橋を見るなら大阪へ來い」橋を抜きにして水都大阪を語ることは出來ない。元良氏は大阪市に於て十餘年を橋梁の意匠計畫に從事せる人、大阪に關心を有する人々に本稿をすゝめる所以である。

◆本號より新建築欄及都市計畫欄の擔當拔萃者又は抄譯者の氏名を省略することゝした。「氏名を出す程のこともなかろう」といふ意見からである。御諒承を乞ふ。

◆本誌及本協會發行の雜誌「建築學研究」に揭載する爲に御投稿を期待する。研究調査の報告又は論說、感想等、都市、建築に關する限、何れも歡迎する。但、兩誌の何れに載せるかは編輯に御一任を乞ふ。

◆都合にて「建築學研究」第80號の發行が非常に遲れて居たが會員の手許へは本誌より先に既に到着したことゝ思ふ。81號は續いて發行せられる豫定である。(新名種夫)

建築と社會

第19輯第6號

毎月1回1日發行　定價　1册 .50圓(郵稅2錢)　12册6.00圓(同 24 錢)

昭和11年5月25日印刷　昭和11年6月1日發行

發行・編輯　印刷人　小板常男

大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　大石堂印刷所

大阪市北區玉江町1丁目11番地

發行所　社團法人　日本建築協會

大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル

電話長ノ濱(23)4051番(9)

振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店

大阪市西區京町堀羽子板橋西

電話土佐堀2440番

振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の復製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	1/2頁	1回	8.00
普通(裏附箋1頁)	1頁	1回	45.00
普通(裏附箋2頁)	1頁	1回	40.00
普通(後附箋1及最終頁)	1頁	1回	25.00
アート(中挿)	1/2頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
(建築關係業者案內)	1欄	1回	5.00

廣告揭載御申込は本會直接願ひます。

本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築と社會第19輯第6號　廣告索引

ア　有田製陶所……46
　　旭硝子株式會社……28
　　朝日建材株式會社……表紙 2…前附 1
　　淺野スレート株式會社……21
　　淺海商會……36
イ　岩元工業株式會社……36
　　伊藤元商店……29
エ　榮進社……27
　　英進商會……39
　　荏原製作所……8
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　　大阪伊丹商店……14
　　大阪組立コンクリート製作所……48
　　大野製作所……前附 4
　　奥村重兵衛商店……38
カ　關城化學工業株式會社……表紙 4
　　金岡養樹園……中挿
キ　木下謹三商店……37
　　桐田商會……33
　　協和製作所……47
ク　黒川化學工業所……45
　　久保商店……47
　　篠島プレス工業所……41
　　邦光化學工業所……12
コ　後藤商店……14
　　工英社……53
サ　佐渡島西店……20
　　佐久間パプコ工業株式會社……50
　　坂本商會大阪支店……39
　　坂田ベンチレーター製作所……32
ス　須賀商會……51
セ　政正合資會社……31
　　清光社……32
タ　田島應用化學工業所大阪支店……7
　　大洋組建材部……29
　　タカラ商會……25
　　ダンロップ護謨株式會社……中挿
チ　チヨーホー商會……34
ト　東洋リノリユーム株式會社……30
　　巴風呂商會……54
　　東京電氣株式會社……23
ナ　內外土木建築材料合資會社……11
　　南滿鑛業株式會社……26
　　中井商店大阪支店……52
　　中野石材販賣店……34
ニ　日本建築紙工株式會社……31
　　日本金具株式會社……中挿
　　日本機械工業株式會社……13
　　日本エレベーター株式會社……10
　　日本洋瓦株式會社……15
　　日本パイプ製造株式會社……42
　　日本セメント防水劑製造所……9
　　日本ドアーチエック製作所……44
　　日本窒素肥料株式會社……表紙 3
　　西原衛生工業所……16
　　西孫商店建築金物部……25
ノ　野澤幸三郎商店……22
ハ　汎建製作所……46
ヒ　日立製作所……19
フ　福原商店大阪支店……45
マ　マルエス工業株式會社……49
　　松井商店……48
ミ　三井物產株式會社……24
ヤ　矢橋大理石商店……43
　　大和護謨製作所……40
ヨ　横河橋梁製作所……35
　　吉田鹿之助本店……18
　　米本榮商店……43
ラ　ライトラバー工業合資會社……17
リ　理化學興業株式會社……前附 3
レ　玲光社(木內眞太郎)……26